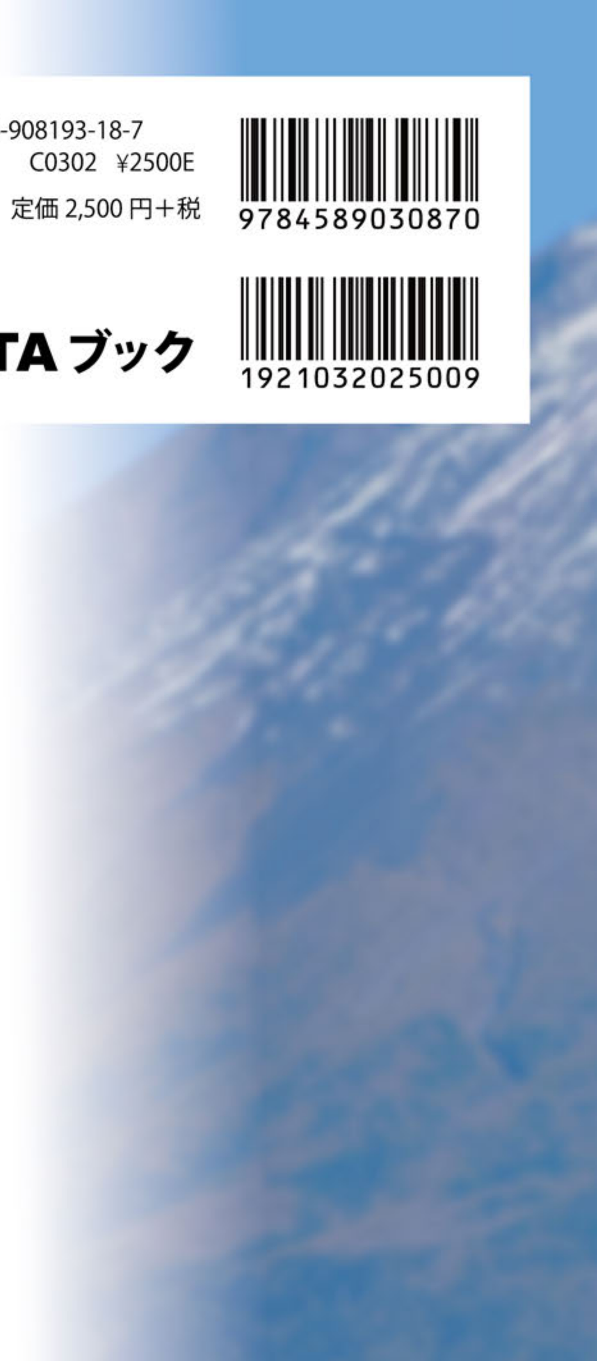
Taike Tomekichi

part.2

UTA BOOK



ISBN 978-4-908193-18-7
C0302 ¥2500E
定価 2,500 円＋税
9784589030870
1921032025009

UTA BOOK UTA ブック

Taike Tomekichi

part.2 エルランティの光セミナー

1990 年 10 月～ 2002 年 7 月

Taike Tomekichi　part.2 / table of contents

序章　次元移行の足音　1

第1章　富士でのお別れ　16
エルランティの光セミナーを終えて　久保明子　17
株式会社 EL 主催の卒業旅行での体験　久保徹夫　18
田池先生との思い出・エピソード　　岡田有弘　20
富士の山に思いを向けてみました　塩川香世　23

第２章　全国で開かれたセミナー　25
全国 24 都道府県で開催されたエルランティの光セミナー　25
エルランティの光セミナー 12 年の歩み　41
ここで「死」ということに触れてみましょう　52

第３章　心のタイムカプセル　53
キーワード 1. 死ぬということ　53
あなたの心がストレートに出る相手は…　69
キーワード ２. お母さん　70
他力信仰の反省　85
キーワード ３. 他力信仰　86
心を見ていけば苦しんでいるあなたに出会います　109
キーワード 4. 闇出し現象　110
波動の世界だけが真実の世界です　126
キーワード 5. 波動と異語　127
グループフォト　134
閑話休題／いろいろな出会い　142
天変地異は喜びのエネルギーです　158
キーワード 6. 天変地異　159
あなたの人生の目的は何ですか　172
キーワード 7. 本当の幸せと人生の目的　173

第４章　エルランティの光セミナーが伝えたこと　184
この学びの三つの柱　185
５・３・２について　188
3 つの実践　189
2 つの確認　190
４つの問いかけ　191
エルランティの光セミナーについて　192

終 章　エルランティの光セミナー と 塩川香世さん　193
1. 死と私について　194
2. 私が選んだ人生について　197
3. 人生と喜びについて　201
4. 本当のこと……　202
5. 父の遺文　203

おわりにかえて（塩川香世）　206

※ この出版物は、会員限定出版物です。個人情報が含まれておりますので、取り扱いには、格段のご配慮をお願いいたします。

序 章　「次元移行」の足音

The flow of consciousness is undeniable. We are in the phase of transformation from the physical to the consciousness. The process of this transformation is a path we will walk over the next 250 to 300 years, along with unprecedented natural cataclysms of a cosmic scale. Our present time is the stage of preparation and practice for those events 250 years from now. The energy of joy flowing from consciousnesses that have awoken to the truth will start its work. After completing these processes, we will meet again, 250 years from now, in different physical identities. It will take another 50 years to further transform our consciousness - in other words, transcend dimensions. Earth, where we live now, is based on three dimensions: length, height, and width. We each created a physical form to conform to this three-dimensional environment. Humankind has repeated countless reincarnations and has continuously sought the truth. This cycle will reach its completion by transcending dimensions where we will have no physical body. Everything will happen through the flow of consciousness.

　意識の流れは厳然（げんぜん）としてあり、今、まさに肉から意識へ転回期にあ　　　　　　　　れはすでにお伝えしている通り、これから 250 年、300 年をかけて宇宙的規模の天変地異とともに、私達が歩んでいく道筋なのです。そして、今世は 250 年後におけるところの準備段階、予行演習の時間です。真実に目覚めた意識達から流れる喜びのエネルギーは、これから仕事をしてまいります。そんな中で 250 年後、再び肉を持って私達は出会っていくのです。それから約 50 年かけて、私達はさらに意識の転回を果たしてまいります。すなわち、次元移行です。今、この地球上は縦、横、高さの 3 次元の世界です。3 次元の世界の中で、私達は地球という星に適合する肉という形を持ってきました。人類は、長い歴史の中で数え切れないほどの転生を繰（く）り返し、真実を探し求め続けてきました。そして、この 3 次元での修行を一応終え、全く肉を持たない、いわゆる次元の違う世界へ移行していくのです。これが私達がお伝えしている意識の流れなのです。

田池留吉

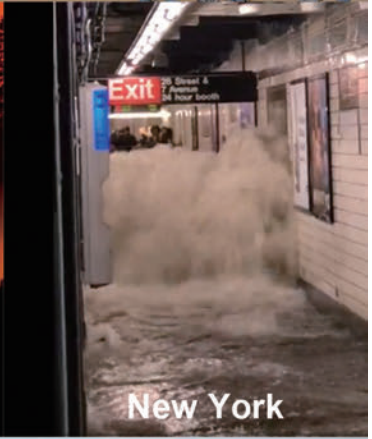
2021.9.1 New York

2021.7.15 Belgium

2018.7.7 岡山倉敷市

河南省鄭州市

2021.8.31 アメリカ西海岸


Exit
New York

2016.4 熊本地震

2018.2.8 台湾地震

2015.5.9 ネパール大地震

この『Taike Tomekich』の Part.2 を編集している、今、この時期、世間では「コロナ禍」の第 5 波が落ち着きを見せ、年末から来春にかけ第 6 波の流行が予想されており、この本も、その狭間を縫って出版されることになりそうです。

ところで、コロナ禍の陰に隠れておりますが、大きな異変がカウントダウンに入ったことも、また見逃すことはできません。その異変とは、富士山の大噴火です。2011 年 3 月 11 日におこった東北大震災直後、富士山では震度 6 強の直下型地震が発生しました。これ以降、研究者や防災関係者の間では、富士山の火山活動がスタンバイ状態に入ったと考え、2025 年以降、2050 年までには、富士山は 300 年たまりにたまったマグマだまりを大噴出させ、富士山の山体崩壊もありうると言われております。

田池先生の言う「総崩壊」がスタートし、富士山を皮切りに日本の総崩壊も現実的なものになっていくのでしょうか。

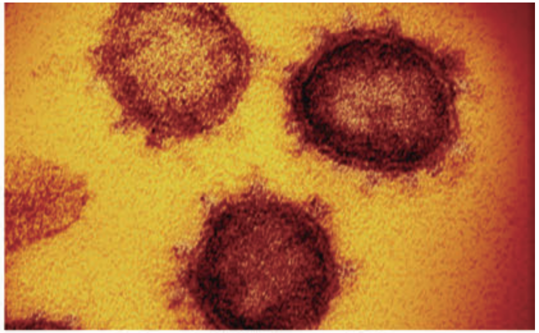
2002 年、株式会社エルが解散し、新しい学びの体制がスタートしました。そのエル解散の記念旅行として、田池先生と関係者が出かけたのが、この富士山周辺でした。折からの台風接近で、到着した日は、山体は雲に隠されていましたが、翌日からは抜けるような青空のもと、富士の姿を堪能させていただきました。旅行を終え、「新富士」の駅で、田池先生が手を振って別れを告げている写真が残っています。ちょっとピンボケですが、何か象徴的でもあり、強く印象に残っております。

では、この本の「序章」としまして、2010 年以降、世界で起きた天変地異および富士山が大噴火した場合のシミュレーションを、簡単に掲げることとします。

皆さんを脅かすつもりはありませんが、「そろそろ時間ですよ」という、青信号が点滅している程度にお受け取りいただき、心の準備をお願いする次第です。

インド／コロナ死者1日4000人を超える
2021.5.8

ダイアモンドプリンセス号　2020.1月〜2月



中国武漢／2020.1月

◆中国で原因不明肺炎

【北京＝比嘉清太】中国国営中央テレビ（電子版）などによると、湖北省武漢市当局は30日、市内の医療機関で原因不明の肺炎患者が相次いで確認されたと発表した。当局は27件の発症が確認され、このうち7件が「厳しい病状」だとしている。中国政府は専門家チームを現地に派遣し、状況の把握に乗り出した。当局は「新型肺炎（重症急性呼吸器症候群＝SARS）とは断定できない」としている。

ブラジル新コロナ　死者の埋葬
2021.1月

2021年9月

67万本の白い旗でコロナ死者を悼む

2020.4.12

2010年	地域	天災の種類
2010年1月12日	ハイチ（ポート・オー・プリンス）	ハイチ地震　M7.3 死者316,000
2010年2月27日	チリ（ビオビオ州沖）	地震M8.5 死者521以上、
2010年3月～5月	インド	熱波
2010年3月～5月	ケニア	大雨洪水
2010年3月～2011年3月	タイ	干ばつ
2010年4月～2011年3月	コロンビア	洪水地滑り
2010年4月6日	インドネシア・スマトラ	地震M7.9 死者0
2010年4月13日	青海	地震M7.0 死者2,220以上
2010年5月～８月	中国南部	大雨
2010年6月	日本全国	酷暑・大雨
2010年6月～8月	ロシア西部	熱波・森林火災
2010年7月	中国長江流域	豪雨・土石流
2010年7月1日～7月6日	日本全国	大雨、強風、落雷
2010年7月10日～7月16日	日本　九州～東北	大雨、強風、落雷
2010年9月	メキシコ	洪水
2010年10月25日	インドネシア・南スマトラ	地震M7.3 死者445以上
2010/10/29~11月上旬	インドネシア・ジャワ島、ムラピ山の噴火	火砕流などにより、乳児を含む少なくとも25人が死亡した。
2010年12月～2011年2月	オーストラリア東部	洪水
2010年12月～2011年5月	中国中部	干ばつ

世界で起こった天変地異
2010 年～ 2021 年

火山噴火・地震	気象災害	人為的な事故	コロナ禍

2011年	地域	天災の種類
2011年1月～2月	南アフリカ	洪水
2011年1月27日	日本・鹿児島県霧島市	新燃岳の噴火
2011年1月～3月及び6月・12月	フィリピン	洪水
2011年1月・2月	スリランカ	大雨洪水
2011年2月21日	フィリピン	ルソン島南端部のブルサン火山の噴火。
2011年3月11日	日本　三陸沖（東北地方太平洋沖地震）	地震M9.0 死者不明22,000以上　最大震度6強～7 放出されたエネルギーは阪神淡路の1400倍　地盤のゆがみがもどるのに何十年もかかる。
2011年3月12日	日本　長野・新潟県境：東北地方	太平洋地震の遠方誘発地震　M6.7　最大震度6弱～６強
2011年3月15日	富士山の地下で直下型地震	M6.4の、最大震度６強　富士宮市で２万世帯が停電
2011年1月～11月	アメリカ南部、メキシコ北部	干ばつ
2011年1月～12月	東アフリカ、西アフリカ北部	干ばつ
2011年3月～10月	ツバル（オセアニア）	干ばつ
2011年4月7日	日本　福島県浜通り	太平洋沖地震震源域内地震　M7.0　最大震度6弱～6強
2011年4月11日	日本　福島県浜通り	太平洋沖地震震周辺誘発地震　M7.0　最大震度6弱
2011年4月～5月	アメリカ東南部、中部	竜巻
2011年4月～7月、9月～12月	コロンビア	大雨洪水
2011年5月22日	アイスランド	グリムスボトン火山
2011年6月	中国中部	大雨
2011年6月5日～6月中旬	チリ南部	プジェウエ火山の大噴火(半世紀ぶり）。3500人が避難した。噴煙は上空10キロに達し、灰は隣国アルゼンチンにも飛散
2011年6月30日	日本　長野県中部牛伏寺断層の近傍で発生	太平洋地震の遠方誘発地震　M5.4　最大震度5強
2011年7月	メキシコ	洪水
2011年7月～9月	中国各地	洪水
2011年8月～10月	パキスタン、インド	大雨
2011年8月30日～9月5日	四国～北海道	台風12号
2011年9月～10月	中米諸国	洪水
2011年9月15日～9月22日	日本全国	台風15号
2011年12月～2012年5月	ペルー	大雨洪水
2011年12月	フィリピン	台風・ワシ、死者 1,400人
2011年12月4日	エクアドル	首都キト南東135キロにあるトゥングラウア火山（標高5023m）の噴火。

2012年	地域	天災の種類
2012年1月	パラグアイ	干ばつ
2012年1月～2月	ロシア、ヨーロッパ東部	寒波
2012年1月～11月	スリランカ	干ばつ
2012年1月～12月	スーダン、東アフリカ、西アフリカ	干ばつ
2012年2月～4月	ペルー	干ばつ
2012年2月14日	ホンジュラス、コマヤグア	刑務所火災、死者 360人
2012年3月14日	日本　千葉県東方沖	太平洋地震の周辺誘発地震　M6.1　最大震度5強
2012年4月～5月	ケニア	洪水
2012年4月2日	メキシコ	ポポカテペトル山の噴火
2012年4月11日	インドネシア・スマトラ沖	地震M8.6死者10以上
2012年4月11日	インドネシア・スマトラ沖	上記最大余震M8.2
2012年5月	ブラジル	干ばつ
2012年4月～7月	ウクライナ	干ばつ
2012年4月～8月	中国各地	大雨洪水
2012年4月～12月	北朝鮮	干ばつ
2012年5月	ジョージア（旧グルジア）	洪水
2012年6月	ペルー	寒波
2012年6月～7月、9月	バングラデシュ	洪水
2012年6月～9月	アメリカ東部～中部	熱波、干ばつ
2012年後半	チャド、マウライ、アンゴラ	干ばつ
2012年7月	ロシア南西部	大雨
2012年7月11日～7月14日	日本　九州	九州北部豪雨
2012年7月～9月	スーダン、ニジェール	洪水
2012年7月～10月	ナイジェリア	大雨
2012年7月12日	ナイジェリア、リバース州	タンクローリー横転炎上事故、死者100名以上
2012年8月～9月	フィリピン	洪水
2012年8月～10月	パキスタン	大雨
2012年9月	パプアニューギニア	洪水
2012年9月11日	パキスタン、カラチ市	カラチ市縫製工場火災、死者 295人
2012年10月	南アフリカ	洪水
2012年10月28日	カナダ	地震M7.8太平洋で小津波
2012年11月24日	バングラデシュ、ダッカ市	ダッカ縫製工場火災、死者 112人
2012年12月～2013年２月	インド、バングラデシュ	寒波
2012年12月7日	日本　三陸沖	太平洋地震の周辺誘発地震　M7.3　最大震度5弱
2012年12月	フィリピン	台風・ボーファ、死者 1,900人
2012年12月22日	アルゼンチン	カビアウエで、コパウエ火山の噴火

東北大震災　気仙沼市（東京消防庁提供）

2013年	地域	天災の種類
2013年1月	モザンビーク	大雨
2013年1月	ブラジル	洪水
2013年1月	パプアニューギニア	洪水
2013年1月27日	ブラジル、サンタマリア市	サンタマリアナイトクラブ火災、死者 239人
2013年1月～2月	ペルー	洪水
2013年1月、4月	インドネシア	大雨洪水
2013年1月～7月	中国中部、西部	干ばつ
2013年1月、8月～10月	フィリピン	大雨洪水
2013年1月～12月	チャド、マウライ、ジンバブエ	干ばつ
2013年2月6日	サンタ・クルーズ島（カリフォルニア沖）	地震M8.0死者10
2013年3月～4月	ケニア	大雨
2013年4月	アルゼンチン	洪水
2013年4月13日	淡路島付近	逆断層型地殻内地震　M6.3　最大震度6弱
2013年4月～6月	インド	熱波
2013年5月～9月	中国	大雨洪水
2013年5月7日	フィリピン・ルソン島	マヨン火山の噴火。噴火による落石などでドイツ人登山客４人、フィリピン人ガイド１人が死亡、複数の負傷者が出た
2013年5月14日～15日	メキシコ	ポポカテペトル火山の噴火。当局によると、灰は約４キロ上空まで舞い上がった。灰は周辺の三つの町に到達し、溶岩が山の斜面を流れ落ちた。
2013年5月24日	オホーツク海	地震M8.3　深さ600km
2013年6月	チェコ	洪水
2013年6月	カナダ	洪水
2013年6月	中国、吉林市	吉林徳恵鶏肉加工工場火災、死者 121人以上
2013年6月～7月	インド	大雨洪水
2013年7月	北朝鮮	大雨洪水
2013年7月	イギリス	熱波
2013年7月22日～8月1日	日本　九州～北海道	大雨
2013年7月～8月	ニジェール	大雨
2013年8月	パキスタン	大雨洪水
2013年8月9日～8月10日	日本　東北	大雨
2013年8月～10月	スーダン、南スーダン	大雨
2013年9月15日～9月16日	日本全国	台風18号
2013年9月17日	インドネシア北スマトラ州	シナブン火山の噴火　11月まで噴火を繰り返す。
2013年10月3日	地中海	ランペドゥーザ島難民船火災沈没事故、死者360人以上
2013年10月～2014年2月	ボリビア	洪水
2013年10月14日～10月16日	日本　関東	台風26号
2013年11月	フィリピン	台風・ハイヤン、最大瞬間風速105m、死者 6,200人
2013年11月16日～17日	イタリア南部シチリア島	エトナ山の噴火
2013年11月18日	インドネシア	スマトラ島のシナブン山、ジャワ島のムラピ山が同時噴火。スマトラ島のシナブン山は９月以来、噴火を繰り返しており、18日の噴煙は上空約8000mに。ジャワ島のムラピ山の噴煙も上空約2000mに達した。
2013年12月14日～16日	イタリア南部シチリア島	エトナ山の噴火。12月14日から活動を活発化させ、噴火が続く。
2013年12月～	小笠原諸島・西之島	噴火による新島誕生。西之島のそばで、活発な火山活動を続ける。

2014年	以外の地域	天災の種類
2014年1月	インドネシア	洪水
2014年1月	オーストラリア	熱波
2014年1月～8月	スリランカ	干ばつ
2014年1月～8月	ケニア	干ばつ
2014年1月～12月	アメリカ南西部	干ばつ
2014年2月1日	インドネシアの北スマトラ州	シナブン山（2460m）で２月１日、ここ数日間で最大規模の噴火があり、14人が死亡した。
2014年2月2日～3日	南米エクアドル中部	トゥングラウア火山（標高約5029m）が噴火を繰り返している。
2014年3月	マレーシア	干ばつ
2014年4月	ソロモン諸島	大雨洪水
2014年4月4日～8月	南米エクアドル中部	トゥングラウア火山が活動を活発化させ、噴煙は４月４日、上空10キロに達した。空へ向かって灰色の柱がそそり立ち、住民からは大規模な噴火を恐れる声が上がり始めた。トゥングラウア火山は、首都のキト南方130キロに位置する。２月に一時噴火を繰り返し、降灰はキトにも到達した。
2014年4月～6月	アフガニスタン	大雨、洪水、地滑り
2014年4月～9月	ペルー	寒波
2014年5月	ヨーロッパ南東部	洪水
2014年5月～9月	中国中部～南部	洪水
2014年5月～12月	ブルキナファソ	干ばつ
2014年6月	イラン	大雨、洪水、地滑り
2014年6月	スリランカ	大雨、洪水、地滑り
2014年6月	ブラジル南部	洪水
2014年6月～7月	パプアニューギニア	大雨洪水
2014年6月～8月	ニジェール	洪水
2014年6月～10月	中国北部～北東部	干ばつ
2014年7月	カンボジア	洪水
2014年7月	小笠原諸島・西之島	海上保安庁は７月24日、小笠原諸島・西之島（東京都小笠原村）の北東部
2014年7月30日～8月26日	日本全国	平成26年8月豪雨
2014年7月～9月	スーダン	洪水
2014年8月～9月	ネパール	大雨、洪水、地滑り
2014年8月～12月	グアテマラ	干ばつ
2014年9月	バングラデシュ	大雨、洪水、地滑り
2014年9月	パキスタン	大雨、洪水、地滑り
2014年9月14日	アイスランド	バルダルブンガ火山の噴火
2014年9月27日	日本　御嶽山噴火（長野県・岐阜）	御嶽山（3076m）で午前11時53分ごろ、噴火が起きた。63名の犠牲者　戦
2014年10月	スリランカ	大雨、洪水、地滑り
2014年10月～2015年2月	ブラジル南部	洪水
2014年11月	モロッコ	洪水
2014年11月22日	日本　長野県北部	逆断層型地震　M6.7　最大震度6弱
2014年11月25日～27日	日本　熊本県	阿蘇山中岳（標高1560m）の噴火
2014年12月	マレーシア	洪水
2014年12月		

火山噴火・地震	気象災害	人為的な事故	コロナ禍

噴火するメキシコのポポカテペトル火山　2013年5月14日夜

南米エクアドルのトゥングラウア火山　2014年4月

2015年	地域	天災の種類
2015年通年	ベトナム	干ばつ
2015年通年	タイ	干ばつ
2015年通年	アフリカ南部	干ばつ
2015年通年	アメリカ・カリフォルニア	干ばつ
2015年通年	ブラジル、ボリビア、ペルー	干ばつ
2015年1月	インドネシア	洪水
2015年1月	スリランカ	大雨、洪水
2015年1月	モザンビーク（アフリカ）	大雨、洪水
2015年1月	エチオピア（アフリカ）	大雨、洪水
2015年1月16日	南太平洋トンガ王国	首都ヌクアロファの沖約65キロの海上に、海底火山の噴火に伴い新しい島が出現した。
2015年1月、2月	マラウイ（アフリカ）	大雨、洪水
2015年2月	ヨーロッパ南部	洪水
2015年2月～3月	エチオピア（アフリカ）	干ばつ
2015年2月～4月	アフガニスタン	雪崩、洪水、地滑り
2015年3月	ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ	大雨、洪水
2015年3月	パプアニューギニア	大雨、洪水
2015年3月	バヌアツ	サイクロン
2015年3月3日	チリ	ビジャリカ火山が噴火。周辺の村々に住む約3000人が避難した。
2015年4月	オーストラリア	大雨、洪水
2015年4月25日	ネパール	ネパール地震　M7.8、死者 9,000人
2015年4月22日～	チリ	カルブコ火山が噴火。航空便の欠航が相次ぐ。
2015年4月～12月	パプアニューギニア	干ばつ
2015年5月	中国南部	洪水
2015年5月	インド	熱波
2015年5月25日	南米エクアドル・ガラパゴス諸島	イサベラ島のウォルフ火山が噴火
2015年5月29日	鹿児島県・口永良部島	新岳が同日午前９時59分に爆発的噴火。
2015年5月、6月	北朝鮮	干ばつ
2015年6月	パキスタン	熱波
2015年6月～8月	ミャンマー	洪水
2015年6月～8月	バングラデシュ	大雨、洪水
2015年6月～8月	ソマリア	干ばつ
2015年6月～9月	エチオピア（アフリカ）	干ばつ
2015年6月～9月	インド	大雨、洪水、地滑り
2015年6月16日～	インドネシアの北スマトラ州	シナブン山（2460m）が噴火
2015年7月	中国南部	洪水
2015年7月	フランス	熱波
2015年7月	ベルギー	熱波
2015年7月～9月	パキスタン	大雨、洪水、地滑り地滑り
2015年8月	中国南部	洪水
2015年8月	ミャンマー	サイクロン
2015年8月	インド	サイクロン
2015年8月	エジプト	熱波
2015年8月14日～	エクアドル	コトパクシ山（5897m）の火山活動が活発化
2015年8月15日	中国、天津	天津浜海新地区倉庫爆発事故、死者 165人
2015年8月、9月	インドネシア	干ばつ
2015年9月、10月	ナイジェリア	大雨、洪水
2015年9月7日～9月11日	日本　四国～東北	関東東北豪雨、台風18号
2015年10月	フランス	洪水
2015年10月	グアテマラ	地滑り
2015年10月、11月	インドネシア	森林火災
2015年10月、11月	ソマリア	大雨、洪水
2015年11月10日	グアテマラ	南部の活火山フエゴ山（3763m）の噴火
2015年11月、12月	インド	大雨、洪水、地滑り
2015年12月	ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ	大雨、洪水

2016年	地域	天災の種類
2016年通年	マダガスカル、モザンビーク	干ばつ
2016年通年	ハイチ、アメリカ・カリフォルニア	干ばつ
2016年1月	中国、韓国	寒波
2016年1月	アメリカ東部	大雪
2016年1月～5月	東南アジア各地	干ばつ
2016年2月～11月	南スーダン	干ばつ
2016年2月～12月	レオト、スワジランド（アフリカ）	干ばつ
2016年3月	中国南部	洪水
2016年3月～4月	アフガニスタン、パキスタン	大雨
2016年3月～5月	インド	熱波
2016年４月14日・16日	日本　熊本県熊本地方	熊本地震　M6.5　M7.3　最大震度7
2016年4月～7月	中国各地	大雨、洪水
2016年4月～7月	インド	大雨、洪水
2016年5月	スリランカ	大雨、洪水
2016年5月	エチオピア	大雨、洪水
2016年5月20日	中米コスタリカ	トゥリアルバ火山が噴火
2016年6月	中国東部	竜巻
2016年6月6日～7月15日	日本全国	大雨
2016年6月10日	フィリピン・ルソン島	南端部のブルサン火山が噴火
2016年6月～8月	中国北部～北東部	干ばつ
2016年6月～8月	ミャンマー	洪水
2016年6月～8月	スーダン	大雨、洪水
2016年6月～10月	ニジェール	洪水
2016年6月～12月	ケニア	干ばつ
2016年7月～8月	ネパール	大雨
2016年7月～8月	バングラデシュ	洪水
2016年8月	フィリピン	洪水
2016年8月16日～8月31日	日本全国	台風7、9、10、11号
2016年8月～9月	韓国	大雨、洪水
2016年9月17日～9月20日	日本全国	台風16号
2016年10月	ハイチ、アメリカ南部	ハリケーン
2016年10月	ホンジュラス	洪水
2016年10月21日	鳥取県中部	左横ずれ断層型地殻内地震　M6.6　最大震度6弱
2016年10月～12月	タイ	大雨、洪水
2016年10月～12月	ベトナム	洪水
2016年10月～12月	モザンビーク	洪水
2016年11月	ドミニカ共和国	洪水
2016年11月～12月	インドネシア	洪水

熊本地震
2016 年 4 月 14 日

2017年	地域	天災の種類
2017年1月	タイ	洪水
2017年1月～2月	フィリピン	洪水
2017年1月～3月	ペルー	大雨
2017年2月	ジンバブエ	サイクロン
2017年2月～4月	コロンビア	大雨
2017年3月～5月	チャド	干ばつ
2017年4月～6月	中国北東部	干ばつ
2017年4月～6月	インド	熱波
2017年4月～7月	ガーナ	洪水
2017年4月～8月	モーリタニア	干ばつ
2017年5月	スリランカ	大雨
2017年5月～6月	ニジェール	干ばつ
2017年5月～6月	ブラジル	洪水
2017年6月	インドネシア	洪水
2017年6月7日～7月27日	日本全国	九州北部豪雨、梅雨前線、台風3号
2017年6月～8月	中国南部	大雨、台風
2017年6月～9月	南アジア、アフガニスタン	大雨
2017年7月～8月	タイ	洪水
2017年8月	シエラレオネ、コンゴ民主共和国	地滑り
2017年8月～9月	ニジェール	洪水
2017年8月～9月	アメリカ南東部～カリブ海諸国	ハリケーン
2017年9月～11月	ベトナム	大雨、台風
2017年9月～12月	タイ	洪水
2017年9月13日～9月19日	日本全国	前線、台風18号
2017年10月20日～10月23日	日本全国	前線、台風21号
2017年11月～12月	インド南部、スリランカ	サイクロン
2017年12月	フィリピン	台風

2018年	地域	天災の種類
2018年1月	フィリピン	洪水
2018年1月22日～1月27日	日本　関東～東北	大雪、防雪
2018年1月～3月	アルゼンチン北部	干ばつ
2018年1月～9月	オーストラリア南東部	干ばつ
2018年2月	インドネシア	洪水
2018年2月１日～	中米グアテマラ	首都グアテマラ市近郊で活火山フエゴ山（3763m）が噴火
2018年2月3日～2月8日	日本　北陸、東北日本海側	大雪、防雪
2018年3月～5月	東アフリカ北部～中部	大雨、洪水
2018年4月～12月	マダガスカル	干ばつ
2018年4月～2019年7月	アフガニスタン	干ばつ
2018年5月	パキスタン	熱波
2018年5月	インド北部	砂じん嵐、雷雨
2018年5月	スリランカ	洪水
2018年6月	インド	大雨、洪水
2018年6月4日	中米グアテマラ	活火山フエゴ山（3763m）が2月に引き続き再噴火。2000人以上が避難。25人が死亡。
2018年6月18日	日本　大阪府北部地震	M6.1　最大震度6弱
2018年6月28日～7月8日	日本全国、特に西日本	平成30年7月豪雨、台風7号、前線
2018年6月～2019年3月	中米南部	干ばつ
2018年7月～8月	ミャンマー	大雨
2018年7月～8月	ニジェール	大雨、洪水
2018年7月～9月	ナイジェリア	大雨、洪水
2018年8月～9月	北朝鮮	洪水
2018年9月	ガーナ	洪水
2018年9月3日～9月5日	日本　関東～東北	台風21号
2018年9月28日～10月1日	日本全国	台風24号
2018年9月～2019年6月	インド南西部	干ばつ
2018年10月	コスタリカ、トリニダード・トバコ	洪水
2018年11月	アメリカ西部	森林火災
2018年11月19日	中米グアテマラ	活火山フエゴ山（3763m）が2月、6月に引き続き再々噴火。3925人が避難。200人近い住民の死亡が確認。
2018年12月	ベトナム	洪水
2018年12月～2019年2月	ハンガリー	寒波

2019年	地域	天災の種類
2019年1月	メキシコ	パイプライン爆発事故、死者137人
2019年1月～2月	北朝鮮	干ばつ
2019年1月～2月	パキスタン	干ばつ
2019年1月～9月	ケニア	干ばつ
2019年2月～4月	ボリビア	大雨、洪水
2019年2月～10月	ソマリア	干ばつ
2019年2月～12月	ジンバブエ	干ばつ
2019年3月	インドネシア	大雨、洪水
2019年3月	中国、四川省最南部	涼山の山火事、消防隊員27人が焼死
2019年3月～4月	中東北部～インド	大雨、洪水
2019年3月～4月	東アフリカ南部	サイクロン
2019年4月	フランス、パリ	ノートルダム大聖堂の火災　屋根の大部分が消失
2019年4月～5月	パラグアイ	大雨、洪水
2019年6月	南スーダン	大雨、洪水
2019年6月～7月	中国東部～南部	大雨、洪水
2019年6月～7月	ヨーロッパ北部～中部	熱波
2019年7月～9月	パキスタン	大雨、洪水
2019年7月～9月	スーダン	大雨、洪水
2019年7月～10月	インド	大雨、洪水
2019年7月3日	イタリア南部	ストロンボリ島で噴火
2019年8月26日～８月29日	日本　九州北部	大雨（前線）
2019年8月	アマゾン熱帯雨林	アマゾン川流域の広大な熱帯雨林での火災の拡大
2019年9月	アメリカ東部～バハマ	ハリケーン
2019年9月	ラオス、タイ、カンボジア	大雨、洪水
2019年9月	ニジェール	大雨、洪水
2019年9月	スペイン	洪水
2019年9月8日～9月9日	日本　関東	令和元年房総半島台風（15号）
2019年9月～12月	スリランカ	大雨、洪水
2019年9月～2020年2月	オーストラリア	森林火災
2019年10月～12月	東アフリカ北部、西部	大雨、洪水
2019年10月11日～10月13日	東日本	令和元年東日本台風（19号）
2019年10月	日本、沖縄	首里城消失　正殿、北殿、南殿が全焼
2019年10月	アメリカ、カリフォルニア州	サンフランシスコ北部で大規模な森林火災が発生（キンケード火災）
2019年10月	パキスタン中部	列車火災
2019年11月	コンゴ共和国	大雨、洪水
2019年11月	中国湖北省武漢市から感染が始まる	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行
2019年12月	オーストラリア南部	大規模山火事発生
2019年12月	インドネシア	大雨、洪水

2020年	地域	天災の種類
2020年1月1日	ジャカルタ	記録的降水量の洪水
2020年1月11日	オーストラリア	山火事
2020年1月21日	台湾	コロナウイルス、台湾初の感染確認
2020年1月23日	中国武漢	武漢　感染拡大防止のため封鎖
2020年1月24日	トルコ・エラズー県	M6.7の地震
2020年1月30日	WHO	コロナ禍　国際的緊急事態宣言
2020年2月3日	日本　横浜	乗客の感染が確認されたクルーズ船が横浜港に入港
2020年2月11日	ＷＨＯ	新型コロナウイルスを「ＣＯＶＩＤ−19」と名付ける
2020年2月13日	インドネシア・ジャワ島	ムラピ山の噴火
2020年2月23日	イランとトルコの国境付近	M5.8の地震
2020年3月3日	アメリカ、テネシー州	竜巻
2020年3月10日	イタリア全土	コロナ対策のためイタリア全土で移動制限はじまる
2020年3月13日	日本　石川県能登地方	M5.5　輪島市で最大震度5強
2020年3月21日	オーストラリア	洪水
2020年3月22日	クロアチア　ザグレブ	ザグレブ地震　M5.5
2020年3月24日	台湾	56年ぶりの干ばつ
2020年3月29日	首都圏近郊	寒波　季節外れの雪
2021年4月19日	スフリエール火山（セントビンセント及びグレナディーン諸島）	セントビンセント島の大部分は生活できない状態となり、住民は新型コロナウイルスのワクチン接種を条件に近隣の島に避難しています。
2020年4月11日～13日	アメリカ、ミシシッピー州他複数の都市で	竜巻
2020年4月12日	アメリカ	アメリカのコロナ死者 2万人超 イタリアを上回り世界最多に
2020年4月16日	日本	コロナ「緊急事態宣言」全国に拡大 13都道府県は「特定警戒都道府県」に
2020年4月22日～23日	アメリカ	オクラホマ州、テキサス州、ルイジアナ州ジョージア州で竜巻発生
2020年4月23日～5月8日	長野県中部	M5.5　同震源で5月8日現在80回を超える群発地震
2020年4月26日	世界	コロナによる世界全体の死者 20万人を超える
2020年5月15日	世界	コロナによる世界全体の死者 30万人を超える
2020/年5月17日～19日	米国ミシガン州中央部のトライシティーズ	大雨、2日後にはミッドランド郡で大規模洪水が発生、壊滅的なダムの損壊
2020年5月20日	インド東部、バングラデシュ	スーパーサイクロン「アンファン」
2020年5月28日	アメリカ	コロナによるアメリカの死者 10万人を超える
2020年6月1日	エルサルバドル	熱帯防風アマンダ
2020年6月8日	世界	コロナによる世界全体の死者 40万人を超える
2020年6月21日	インドネシア・ジャワ島	2月に引き続きムラピ山の再噴火
2020年6月23日	メキシコ南部	M7.4の地震
2020年6月25日	千葉県東方沖	M6.1　旭市で最大震度5弱
2020年6月29日	世界	コロナによる世界全体の死者 50万人を超える
2020年6月～9月	中国	季節性の洪水　経済的損失　350億米ドル
2020年6月～9月	インド	季節性の洪水　2000人近い死亡者
2020年7月3日～15日	九州地方および中部地方を中心に被害大	令和2年7月豪雨　洪水と土砂災害
2020年7月11日	シベリア	巨大山火事
2020年7月18日	世界	コロナによる世界全体の死者 60万人を超える
2020年8月4日	韓国	致命的洪水　54日間に及ぶ激しい雨
2020年8月4日	レバノンの首都ベイルート	記録的最大規模爆発事故　死者190人、負傷者6500人、被害者30万人以上
2020年8月5日	世界	コロナによる世界全体の死者 70万人を超える
2020年8月8日～12日	アメリカ中西部、東部	対流性ストーム、デレチョ現象（弓状強雨域の移動による暴風）
2020年8月12日	中国　長江中・下流域	豪雨
2020年8月17日	静岡県浜松市	熱波　41.1℃の気温を記録
2020年8月19日	ブラジル（アマゾン湿地とパンタナール湿地）	記録的回数の火災
2020年8月22日	世界	コロナによる世界全体の死者 80万人を超える
2020年8月28日	九州地方	台風9号
2020年8月～10月	アメリカ、カリブカリフォルニア州	ギガファイアー発生。観測史上最高の山火事。焼失面積10万エーカー
2020年9月4日	福井県嶺北	M5.0　坂井市で最大震度5弱
2020年9月7日	メキシコ・カリブ海	巨大ハリケーン
2020年9月10日	アメリカ西海岸	記録的熱波と山火事（カリフォルニア州知事による非常事態宣言）
2020年9月10日	世界	コロナによる世界全体の死者90万人を超える
2020年9月14日～18日	アメリカ	ハリケーン「サリー」
2020年9月29日	世界	コロナによる世界全体の死者100万人を超える
2020年10月25日	フィリピン・ベトナム	台風18号
2020年10月30日	トルコ・イズミル県のエーゲ海	エーゲ海地震　M7.0
2020年11月2日	フィリピン	台風ゴニ　歴史上、最も威力のある台風とされる。100万人が避難
2020年11月2日～13日	アメリカ、カリブ	ハリケーン「エタ」
2020年11月12日	フィリピン、ルソン島	台風22号
2020年11月22日	ソマリア	サイクロン・ガチ、2日間で2年分の降水量

2021年	地域	天災の種類
2021年1月16日	世界	コロナによる世界全体の死者 200万人を超える
2021年1月29日	世界	コロナ 世界の感染者1億109万人 死者218万人（29日午前3時）
2021年2月13日	日本　福島県沖地震	M7.3　最大震度は福島県、宮城県で最大震度6強。2011年3月の東日本大震災の余震
2021年2月26日	世界	新型コロナ世界の感染者 1億1273万人 死者250万人(26日3:00)
2021年3月10日	世界	新型コロナ 世界の感染者1億1740万人 死者260万人（10日7時）
2021年3月5日	ケルマデック諸島の地震活動	M7.6 の地震が発生
2021年3月15日	和歌山県北部の地震活動	M4.6　最大震度５弱
2021年3月20日	日本　宮城県沖地震	M6.9、最大震度5強。
2021年3月19日～20日	アイスランド	首都レイキャビク近郊の火山が噴火。首都の南西約30キロに位置するレイキャネス半島では、過去４週間で４万回以上の地震が起きていた。
2021年４月9日～10日	カリブ海の島国セントビンセント・グレナディーン	９日に始まった火山の噴火により、巨大な灰の雲が東へ１７５キロ離れた隣国バルバドスに向かっている。
2021年4月26日	国内	新型コロナ 国内の死者1万人超える 約80％は去年12月以降死亡
2021年5月1日	日本　宮城県沖地震	M6.8、最大震度5強。
2021年６月7日発表	アメリカ南西部	異常な少雨「50年に1回以下」の極端な乾燥
2021年６月１1日～6月中旬	アメリカ南西部	6月17日にアリゾナ州フェニックスでは最高気温約47.8℃を観測
2021年６月中旬～7月	中国　長江中・下流域	大雨、洪水
2021年7月1日～2日	フィリピン	マニラの南方約50キロに位置するタール火山が活動を活発化させ、有毒ガスを含んだ噴煙が首都上空を覆う。住民2000人以上が避難を強いられた。
2021年7月1日～3日	日本　静岡県や神奈川県を中心に大雨	令和3年7月集中豪雨
2021年7月21日	ヨーロッパ中部	洪水
2021年7月下旬～8月	ヨーロッパ南部を中心とした地中海周辺地域	異常な高温、シチリア島のカターニアでは8月11日に最高気温44.4℃を観測
2021年8月11日～16日	日本　九州、北陸、中国地方をはじめ各地	令和3年8月集中豪雨
2021年9月19日	カナリア諸島	ラパルマ島のクンブレビエハ火山が噴火。5000人が避難。
2021年9月23日	中米グアテマラ	活火山フエゴ山の噴火。200人以上が死亡。
2021年9月30日	ハワイ州ハワイ島	キラウエア火山の噴火がはじまる。
2021年11月1日	世界	新型コロナウイルスの死者 世界全体で500万人超える

2020 年～ 2021 年　キラウェア火山の活動が活発化

天変地異の足音

私は人類が真実に目覚めるために絶対欠かせないものは、想像を絶する規模の天変地異であることを再度伝えます。これからの私達にとって、天変地異というのは、大きなキーワードになっていきます。何もかも根こそぎ崩れ、信じてきたものも全部失って、そこからがようやく人類の出発です。そんな時が、もう間近にやってきます。そんなに遠くない未来に人類が遭遇していく天変地異は、ものの見事にその価値基準を覆していくことでしょう。

何度も何度も繰り返し起こってくる天変地異、もはや人類の講じる術は何も残されていません。成す術もなく、ただ天変地異を受け入れていくしかありません。それでいいのです。人類には何の力もなかったということを思い知るほどの天変地異、それは想像を絶するものです。

それが意識の流れであり、この流れこそが、唯一絶対のものです。この流れは曲げることも変えることもできないのに、流れに逆らって逆らって存在してきたのが私達人類でした。それを自らが知っていくことも、また私達が愛の中に生かされているからこそなのです。

あなたは、その心の中に数限りないあなた自身を抱えています。みんな真実を知らなかったために苦しんで苦しんできた意識です。今もなお、あなたの心の中に生き続けている意識達の存在を、心を見るという作業を通してあなた自身が知っていく時間が、これからの 250 年です。

その間に、あなたは一体何度転生の機会を持たれるでしょうか。生まれてすぐに天変地異に遭われて、その命を捨てる時もあるでしょう。肉が生き永らえることにより、苦難の道を歩まれることもあるでしょう。そういうことを経て、あなた自身が真実に出会うための計らいを自分自身に与えていきます。例えば、この本を手にする、本を開く、読み進めるという行為も、その一端です。

（『意識の流れ』より抜粋）

Footsteps of Natural Cataclysms

Natural cataclysms of an unimaginable scale will be essential for humankind to awaken to the truth. Cataclysm will be a major keyword for us. Our world will be uprooted, crumbled, and lose everything we had believed. Then finally, the starting point of humanity will come. Such time is approaching. Natural cataclysms humanity will face in the near future will completely overturn our values.

As cataclysms repeatedly occur without end, humanity will be at a loss. There will be no solution but to accept the cataclysms occurring. It's ok to do so. Unimaginable cataclysms will teach humanity never held any power.

This is the flow of consciousness, and this flow is absolute. The flow could not be changed, yet humanity sought only to go against it. To be able to know this truth for ourselves is because we are within love.

You are holding an infinite number of yourselves in your heart. Consciousnesses within you have continued to suffer without knowing the truth. The following 250 years are set for you to understand these consciousnesses existing within you through the reflection of your heart.

How many opportunities will you reincarnate during this time? You may encounter a cataclysm immediately after birth and perish. Or you may live a long life, facing paths of hardships. Through these, you are giving yourself opportunities to encounter the truth. As you pick up this book and read through it, this chance is also part of the opportunity.

(Excerpt from "Flow of Consciousness")

南海トラフ巨大地震と富士山の大噴火

ここでは南海トラフと富士山噴火のかかわりについて触れるほか、内閣府や富士山火山防災対策協議会および鎌田浩毅さん（京都大学名誉教授）の描く富士噴火のシミュレーションを簡単に紹介させていただきます。

南海トラフと、それに沿って３つの震源域

南海トラフ巨大地震とは？

南海トラフ巨大地震は、約 100 年に１回の頻度で起きています。「トラフ」とは、海底に舟底のような平たい凹地形ができる場所を言い、南海トラフは静岡県沖から宮崎県沖まで続く水深 4000 メートルの海底にあります。

その南海トラフに沿って３つの「地震の巣」（震源域）があります。それぞれ東海地震・東南海地震・南海地震を起こした場所で、一部は陸地にもさしかかっています。古文書を解読して地震が起きた歴史を繙（ひもと）いた結果、南海トラフ沿いで地震と津波が約 100 年おきに発生していたことが分かったと言われています。

そして、その中で３回に１回は東海・東南海・南海の３つの震源域が同時に活動する「連動型地震」でした。そして、次は、この連動型地震が起きる番に当たっており、首都圏から九州までの広い地域に甚大な被害を与えることが懸念されています。

内閣府の想定では、地震の規模は最大でM 9.1 で、九州から関東までの広範囲にわたって震度６弱に見舞われます。津波は最大で 34 メートル。犠牲者は最大で約 32 万人、そのうち７割が津波によるものと予測されています。しかも南海トラフは西日本の海岸に近いので、巨大津波は一番早いところでは２～３分後に襲ってきます。

全壊する建物は 239 万棟、経済的損失は 220 兆円という数字が挙げられており、全人口の半数近い 6000 万人が被災し、その結果、東日本大震災よりも災害規模が一桁も大きい『西日本大震災』となる恐れがあると言うのです。

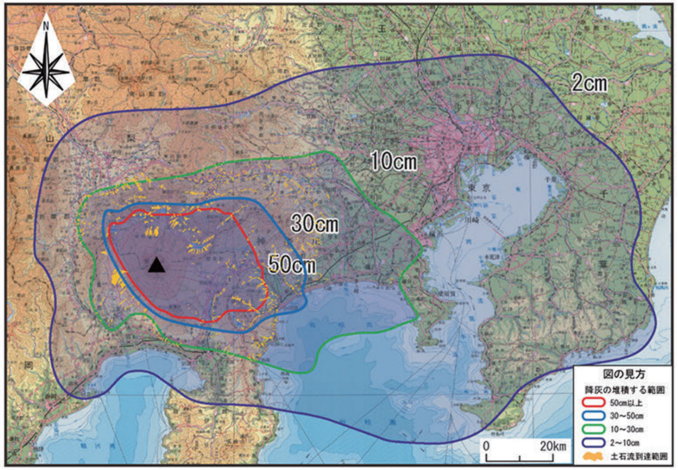
富士山の大噴火へ

この南海トラフ巨大地震は、富士山噴火の引き金になる可能性があります。1707 年、宝永地震の 49 日後に富士山は大噴火（宝永噴火）を起こしており、以来 300 年以上もマグマが溜まり続けています。そこへ 2011 年の東北大震災で、日本の地盤が大きくひずみ、そこへ南海トラフ巨大地震の強い揺れが加われば、マグマだまりの天井のひび割れにより、泡立ったマグマが勢いよく噴出して大噴火に至る恐れがあるというのです。

中央防災会議のシミュレーションによ

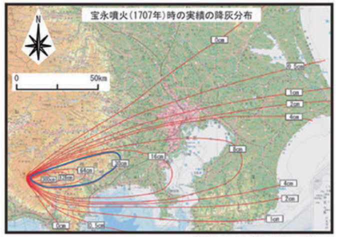
火山灰や軽石を出す大規模な噴火の場合、広い地域に火山灰が降ります

季節によって風向きが変わるため、火山灰の到達範囲は変わります。この図はすべての季節を重ねて描いているため、実際の降灰範囲は異なる場合があります。



降灰があったら...

- 灰を吸わないようにするためマスクやゴーグルを着用しましょう。
- 富士山の近くでは火山灰だけでなく小石が降ってくることがあるので、やむを得ず外に出るときはヘルメットや防災ずきんをかぶりましょう。
- 家は窓を閉めて建物を密閉します。木造家屋では屋根に30cm以上の火山灰が積もると、屋根が抜けたり建物が壊れたりすることがあります。特に雨が降ると火山灰が重くなるので注意しましょう。
- 車で走ると、灰を巻き上げて視界が悪くなったりスリップしやすくなります。また、雨が降っているとワイパーが使えず危険です。高速道路は、通行不能となる可能性があります。ＪＲなど鉄道は、少量の降灰でも運行が困難になる可能性があります。



冬に噴火した場合の降灰分布の例

れば、大規模な噴火の発生後２～３時間ほどで首都機能がマヒする恐れがあります。火山灰が神奈川県から東京都心、千葉県、埼玉県まで降り積もり、鉄道の運行と車の通行が難しくなり広い範囲で交通機関がマヒします。火山灰はパソコンやコンピューターなどの精密機器に入り込み、ホストコンピューターが都心部に集中しているため、インターネット網がストップ。また雨が降った場合には電気設備に火山灰が付着して大規模な停電が起きるほか、上下水道が使えなくなる恐れもあります。火山灰は、言わばガラスのかけらですので、呼吸器系の疾患や角膜の損傷など人体への影響も無視できません。

富士山火山防災対策協議会によれば、溶岩は神奈川県まで流れ、東海道新幹線や東名・新東名高速をのみ込む可能性が指摘されています。

内閣府が発表した災害予測によると、富士山噴火による被害額は２兆 5000 億円と試算されています。

火山灰への対応

地震対策に比べると、大都市に火山灰が大量に降り積もる経験は日本人にありません。そのため噴火対策グッズを用意している人はほとんどいないのが現状です。そこで最低限必要なのは、火山灰から目や呼吸器を守るためのゴーグルとマスク、レインコートと帽子です。

降灰している時は外出を控え、火山灰が屋内に入らないよう窓ガラスの縁や換気口を目張りします。一般の災害対策と同様、飲料水や非常用食料の備蓄、懐中電灯、リアルタイムの情報を得るための電池式ラジオなども必須です。

どこでどのような災害が起きるかは、内閣府や自治体が公表しているハザードマップを事前に見ておくとよいのですが、国や自治体を頼りにするだけでなく、自分の身は自分で守るべく、日ごろから家庭で備えておくことが大切なことは、言うまでもないことです。

Taike Tomekichi

part.2 エルランティの光セミナー

1990年10月～2002年7月

第1章　富士でのお別れ

エルランティの光セミナーを終えて　久保明子

富士の麓　田貫湖の休暇村で

35 年前、田池先生から法人設立のお話を頂き、その代表を「あんたがなってな……」と、こうして出来たのが株式会社ＥＬ（エルランティ光出版）でした。

その頃、桐生さんから『光のなかへ』の出版費を出してくれる方がいる、ということで原稿も既に出来上がっていて出版することになりました。その後は一年の間にエルランティ光出版名で本が次々出版されていきました。

セミナー（エルランティの光セミナー）は 100 人も満たない人数の参加者から始まって 7 年間は苦しい経営の連続でした。でも、田池先生のおっしゃる通り、だんだん参加者も増え、本も出なくなり経営難が解消されていきました。

やっと会社も軌道に乗ってきた頃、岐阜の水明館で田池先生から「5 年後､会社を閉じるように」と伝えられました。私は正直ほっとしました。ただ従業員さんの行先の心配から、スキルアップの為、希望者には研修に行ってもらいながら会社を閉じる準備をさせてもらいました。そうこうして 5 年が経ちました。

とうとうその時がやって来た時、田池先生が「最後のお別れ会」を、ということで富士の麓の田貫湖（たぬきこ）の休暇村で以前に退社した人も集まり、楽しい時間を準備していただきました。

丁度、その日の天候は荒れ模様で新幹線が止まるのではないかと心配しながらお迎えに行きました。富士駅のホームに田池先生ご夫妻の姿が見えた時は、とても嬉しかったのを覚えています。

そして天候は一変し快晴に変わり、湖畔を散歩したり、蛍の大群に出会ったり、ヤギと楽しい意識の体験や実験、野外で勉強会さながらの 2 日間でした。その後は従業員さん全員の 6 名が主人の経営する永進テクノ株式会社に入社することになり、一応安心して私は株式会社ＥＬを閉じました。それから 20 年後の月日が経った今、伊勢志摩で、この原稿を打ちながら 41 歳で若かった自分と、35 年経過する今の自分を思う時、月日の経つ早さに驚きを感じながら、原稿の苦手な私が、今回、初めて感謝する自分に出会わせていただきました。こんなことってあるのですね。

ありがとう、ありがとう、ありがとう、ありがとうございます。

この思いが止まりません。初めての経験です。これを機に、これからは自分を大切に、残された時間学んでいきます。

桐生さん、このような機会、本当にありがとうございました。

株式会社 EL 主催の卒業旅行での体験　久保徹夫

富士ミルクランドで

株式会社ＥＬ代表取締役、幹事長久保明子さんの計画の下で、2003年7月に休暇村富士（田貫湖（たぬきこ））で宿泊し、富士五湖周辺に中村さんが行く場所を計画し、みんなで最後の卒業記念として田池先生ご夫妻と、職員全員と運営の協力者岡田有弘さん、桐生敏明さん、私と参加させて頂きました。

初日は天候が荒れ大雨が降り、新幹線が止まり、田池先生ご夫妻が新富士駅に到着したのが夜9時過ぎていました。

車で迎えに行き、宿に帰る途中で食事をし、無事に宿泊場所に帰りました。

休憩も少しの時間で、早速、男皆でお風呂に入り、早速、指差しが始まり、湯船の中で全員がドタバタし大きな声を上げていました。

初日から闇出し現象が始まり、波動の勉強をさせて頂きました。

翌日、田池先生と仲間と富士山が前方に綺麗に見える田貫湖湖畔でのホタルの見学でした。

ホタル狩りで……

その時「久保さん、ほたるこいを歌えば、ほたるが寄ってくるからな」言われたので、音痴で歌うのが大嫌いな私でしたが、歌いました。

本当に田池留吉の波動の中でホタルが集まって来るのではないか、ビックリでした。

田池留吉の波動が私を通して流れた時でした。愛のエネルギーを体験させていただきました。

富士ミルクランドに車で皆と共に行った時の体験は、牧場に居る子牛を見ている時、「久保さん、子牛の鼻の中に人差し指を入れて御覧と言われ、とんでもない子牛が嫌がるし、仲間以外の人も見ている中で行うかと思いました。

「大丈夫、喜ぶからやってみなさい」と言われ、恐る恐る、鼻の中に人差し指を入れました。本当に子牛は嫌がることなく委ねてくれていました。

そして喜んでいました。

「これからな、子牛が可愛くて、牛肉が食べられないな」とお話をしていただきました。

次の日は皆で車に乗り、山中湖の温泉、紅富士の湯に行き、田池先生が人のいない湯船を選び、「久保さん、体を前に伏せて、足

富士山「白糸庵」で昼食をとった後、全員で記念撮影

を伸ばし、お尻に愛のエネルギーを注入するから、ロケットの用に前に飛び出すよ」と言われ、今まで体験したことのない実験でした。どうだったかと聞かれ、「前に飛び出ていく感じが有りました」と答えました。

愛のエネルギーの凄さの体験ばかり体験させて頂きました。

株式会社 EL 主催の卒業旅行から 18 年が経ち、NPO 法人 UTA の輪の運営を若い人へ世代交代させていただき、伊勢志摩の大自然のゆったりとした環境の中で、仕事で走り続けていた私たちはやっとすべての仕事から解放され、二人の生活が始まり、すべて整った環境の中で暮らせることがとても嬉しく思っています。

田池先生に感謝しています。ありがとうございます。

田池先生の亡き後、塩川香世さんが田池留吉の真実の波動を流し続けている中で、波動を学ぶことができ、大変幸せを感じています。本当にありがとうございます。

このような原稿を書く機会を頂きありがとうございます。

２０２１年11月30日

田池先生との思い出・エピソード　岡田有弘

今から 20 年ほどまえに、久保ご夫妻の肝いりで、田池先生ご夫妻とエルランティの光出版で仕事をしていた方々と富士休暇村に小旅行しました。雄大な富士山が見える、田貫湖のほとりにある施設に泊りました。翌日だったと思いますが、近くの観光牧場に牛が放牧されていて、田池先生達とブラブラ歩いていると、一頭の牛が先生に近づいてきました。すると、傍にいた桐生さんに「牛に乗れるぜ、乗ってみ！」と先生が急に言われました。先生がどうしてこんなことを言われるのか不思議で、不思議でたまりませんでした。今思えば、牛・自然に意識を向けて自然から学びなさいと、伝えられていたと思います。

その後、田池先生と男性陣が露天風呂のある日帰り温泉に入りました。きれいな景色を見ながらお湯につかっていた時、田池先生がいきなり「指差し」をされました。指差しされて、顔をお湯に突っ込む現象を体験しました。お風呂の中の「指差し現象」は、セミナーが開かれた琵琶湖グランドホテルでも何度も、何度も体験させて頂きました。今も、顔から湯船に突っ込み、湯船にある自分を思いますと、「うれしい、うれしい……」思いが湧き上がってきます。また、琵琶湖グランドホテルのお風呂で、「先生が愛を入れた風呂桶の湯舟の湯」を飲んだ時がありました。飲むのは嫌だなあと思いながら飲むと、匂いもなく、なんの味も感じなく、飲みました。「愛の湯」は無色、無臭なんだと思いました。どこのホテルかは忘れましたが、ホテルでの食事中に「先生が愛を入れたお醤油」を舐めたことがありました。普通のお醤油の味と全く違って「なーんと、まあ、あまーい、」と感じました。「愛を入れられる」こととはこういうことかと感じいりました。

2013 年の琵琶湖グランドホテルのセミナーの休憩時間だった思いますが、「神奈川の瞑想会」をお願いした時に、先生のお答えを通して「これまでに感じたことのなかった、とろけるようなやさしい、

やさしい、波動」を感じました。
「ふるさとの歌の替え歌」の一節にある「たった一つ真実、やあっと、やあっと出会った……」のあの真実の波動を感じさせていただきました。

最後に、この原稿を締めくくるにあたって、先生にお礼を言いたいです。
「田池先生、真実を伝えて頂いて、ほんとうにありがとうございます、ほんとうにありがとうございます」。

いきなりvol.2は終了点からのスタートになりましたが、今の時点に立ってみて、「エルランティの光セミナー」の締めくくりのイベントが、富士を巡るコースだったことに驚きを覚えます。

この時期の後半から言われだした「総崩壊」の現象。それは今までの狂いに狂った闇の自分を「大噴出」し、肉の自分を根底からひっくり返してしまう「総崩壊」――それを自分の体で感じる現象の学びでした。そのたとえで、田池先生が良く持ち出されたのが「富士山の大噴出、総崩壊」というお話でした。

それが、たとえ話でなく、今、目前に迫っています。

これを書いている今も、2021年12月3日、午前6時37分、富士五湖を震源地とする、最大震度5弱の地震が発生しました。その3時間後、紀伊水道でも、やはり震度5弱の地震が起こっています。専門家の間では、これを南海トラフの前兆と捉える見方が強いようです。

日本列島自体が、大きく揺れだす、そんな時代が、もう始まっているように感じます。

そんな象徴とも感じられる「エルランティの光セミナー」の終了でした――。

では、これから「エルランティの光セミナー時代」の大まかな流れを、振り返ってみたいと思います。

富士の山に思いを向けてみました　塩川香世

　思えば、私が富士の山をはっきりとしっかりと見たのは、宿泊を伴うセミナーの初参加の時でした。熱海の地に向かう私は、一人新幹線に乗り、その車窓から眺めた富士の山に感激しました。

　当時はまだまだ認識不足でしたが、セミナー会場の一番前の座席に陣取り、田池留吉という意識の世界に宣戦布告をしたということでした。富士の山を背負って、アマテラスの意識を背負って、これから我々の闘いが始まるぞということだったのでしょう。

　懐かしいです。そして何と愚かだったのか。けれど、田池留吉の意識の世界はただただ、ただただ喜びで私達を迎えてくれました。ああ、日本の国、アマテラスよ、今はただただありがとう、ありがとう、よくぞ出会わせてくださいましたという思いが心に広がっていきます。

　田池留吉の肉とともに学ぶこと 20 年余り。そして、文字通り今は、田池留吉の意識の世界のみで学ぶという段階です。それぞれに自己確立の道を勤しんでおられると思います。ともに学びましょう。そして、ともに生きていきましょう。

　私も富士の山に思いを向けてみました。

　私は富士の山です。皆さんがすごい、すごいと崇める山です。あなた方の目に映る私はどのような思いをなしているか分かりますでしょうか。

　私の中には愛があります。愛を伝えているんです。けれど、あなた方の私を見るその心の中はどのような思いの世界でしょうか。私を崇めないでください。

　私は確かに愛を発進しています。しかし、あなた方が思う愛とは違うんです。あなた方が愛だと思うその愛の向け先が違っているんです。そのことを私は自分のこの姿を崩すことによって、あなた方に伝えたいと思います。愛を取り違えてきました。あなた方人類すべて、肉を本物とする思いがあなた方の見る方向を間違えてきたのです。あなた方自身を間違えてきたんです。どうぞ、私の崩れていく姿からあなた方の心に何が沸き起こってくるか、しっかりとその心で受け取ってください。

「私は愛です。あなたも愛です。私達はひとつです。」その思いをしっかりと受け取ってください。私は崩れ去ってまいります。しかしそれは喜びです。喜びで崩れ去っていくんです。あなたの中に映る私の崩れ去る姿をどのようにとらえるでしょうか。

　あなたの中が愛だとあなた自身信じられますか。それをあなたが自分の心で確かめる、そういう時期がもうやってきています。どうぞ、気高くそびえ立つ私の姿を見て、そして私が崩れていくことを通して、あなたの心に上がってくる思いをしっかりと見つめていってください。

（ホームページ「UTA の輪の中でともに学ぼう」2021 年 12 月 9 日）

I turned my thoughts to the mountain of Fuji. Kayo Shiokawa

I recall seeing the mountain of Fuji clearly and vividly for the first time when I attended my first multiple-day seminar. The sight of Mt. Fuji from the window of the Shinkansen train as I rode alone to Atami moved me.

I was not yet fully aware of it at the time, but this moment signified taking a first-row seat of the seminar to declare war on the world of consciousness of Taike Tomekichi. Carrying the mountain of Fuji and the consciousness of Amaterasu on my shoulders, I was preparing for our battle that was about to begin.

I remember this moment. And I think to myself how foolish I was. The world of Taike Tomekichi's consciousness welcomed us with pure joy anyway. Thank you, the land of Japan and Amaterasu. All I now feel is thankfulness. Thank you for letting us meet you. This feeling fills my heart.

I studied alongside the physical form of Taike Tomekichi for 20 years. And now, literally, we are in the stage of studying alongside only the consciousness of Taike Tomekichi. I hope each of you is working on your path of self-establishment. Let's continue and live through this path together.

Let me direct my heart towards Mt. Fuji.

I am the mountain of Fuji. I am the mountain which you worship. Can you feel the energy you emit as you gaze towards me?

There is love within me. I am vibrating love. But the energy you emit through your gaze, what is it? Please don't worship me.

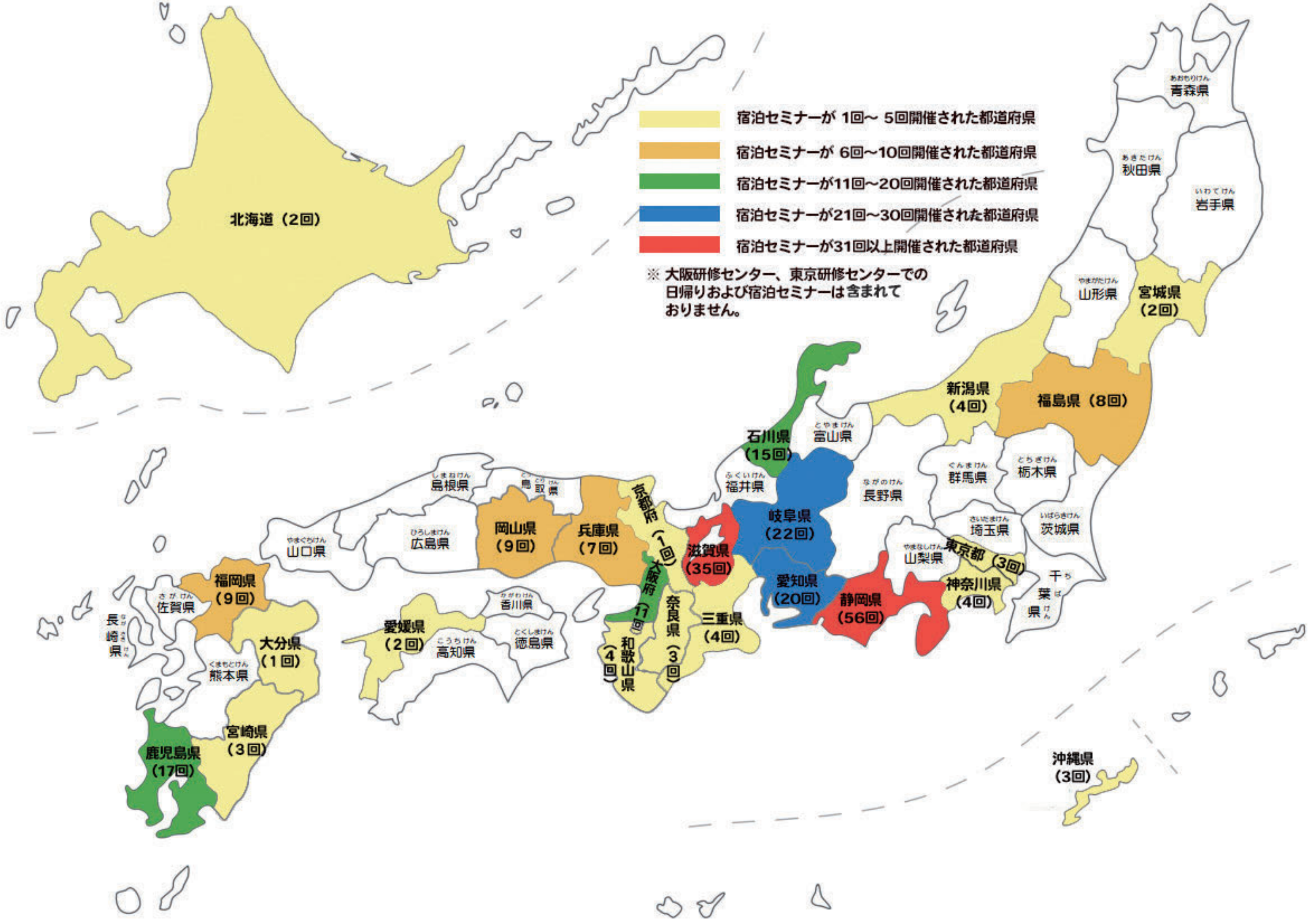
I am indeed emitting love. But it's not the love you think of. The love you know is pointed in the wrong direction. I would like to prove this to you by demolishing the appearance you see. You have mistaken love. All human beings and all that sought the physical form as truth have been looking in the wrong direction. You have mistaken who you were. As my physical form crumbles, please accept the emergence of what flows from your heart.

"I am love. You are love. We are one." Please accept this with your heart. I will crumble away. But it is all joy. I will demolish with joy. How will you accept through your heart as you witness my destruction? Will you be able to accept that you are love inside? The time is near for you to confirm this with your heart. My awe-inspiring dominance will be demolished. Please witness and face the energy that flows from your heart.

Let's learn together in the circle of UTA (December 9, 021)

全国 24 都道府県で開催されたエルランティの光セミナー

（1990 年 10 月 21 日～ 2002 年 6 月）



第2章　全国で開かれたセミナー

（北海道・東北）

01. 北海道

鹿の湯ホテル
1994 年 7 月 10 日～ 12 日／第 82 回セミナー
1995 年 5 月 14 日～ 16 日／第 93 回セミナー

北海道定山渓温泉　ホテル鹿の湯

02. 宮城県

仙台市勤労者保養所茂庭荘
1991 年 4 月 22 日～ 23 日／第 13 回セミナー
1991 年 9 月 8 日～ 9 日／第 22 回セミナー

仙台市勤労者保養所　茂庭荘

03. 福島県

福島・飯坂温泉ホテル聚楽
1992 年 5 月 31 日～ 6 月 2 日／第 39 回セミナー

磐梯グランドホテル
1996 年 9 月 8 日～ 10 日／第 112 回セミナー

丸蜂観光ホテル
1997 年 7 月 21 日～ 23 日／第 130 回セミナー
1998 年 5 月 10 日～ 12 日／第 148 回セミナー

ホテル華の湯
1998 年 9 月 6 日～ 8 日／第 156 回セミナー
1999 年 5 月 9 日～ 11 日／第 172 回セミナー
1999 年 10 月 11 日～ 13 日／第 182 回セミナー
2000 年 8 月 27 日～ 29 日／第 199 回セミナー

磐梯熱海温泉　ホテル華の湯

（中部・北陸）

04. 新潟県

湯沢東映ホテル
1992 年 9 月 13 日～ 15 日／第 48 回セミナー
1994 年 9 月 1 5日～ 18 日／第 85 回セミナー
（新潟ミニセミナー併催）
1995 年 9 月 10 日～ 12 日／第 98 回セミナー

国立妙高少年自然の家
1993 年 9 月 15 日～ 20 日／第 69 回セミナー

国立妙高少年自然の家

05. 石川県

粟津温泉 ホテル湯ノ上
1992 年 12 月 6 日～7 日／北陸心の研修会

加賀市ほくりく荘
1993 年 7 月 31 日～ 8 月 1 日／北陸心の研修会

加賀 第一観光ホテル
1994 年 10 月 2 日～ 4 日 片山津温泉勉強会
1995 年 4 月 9 日～11 日 北陸･滋賀合同セミナー
1996 年 4 月 21 日～ 23 日 北陸セミナー

ホテルながやま（10 回使用）
1997 年 4 月 6 日～ 8 日／第 124 回セミナー
1998 年 3 月 22 日～ 24 日／第 145 回セミナー
1999 年 4 月 18 日～ 20 日／第 171 回セミナー
1999 年 10 月 24 日～26 日／第 183 回セミナー
2000 年 4 月 2 日～ 4 日／第 192 回セミナー
2000 年 10 月 9 日～ 11 日／第 201 回セミナー
2001 年 4 月 1 日～ 3 日／第 210 回セミナー
2001 年 10 月 8 日～ 10 日／第 219 回セミナー
2002 年 3 月 10 日～ 12 日／第 228 回セミナー
2002 年 5 月 26 日～ 28 日／第 233 回セミナー

石川ホテルながやま

北陸山中温泉翠明
1998 年 10 月 11 日～ 13 日／第 158 回セミナー

06. 岐阜県

大垣 菊水旅館
1992 年 2 月 1 日～ 2 日／第 8 回大垣心の勉強会

エル・ピー・ジー会館 + ホテル長良館
1993 年 3 月 6 日～ 8 日／第 59 回セミナー

下呂水明館（20 回使用）
1993 年 5 月 30 日～ 6 月 1 日／第 64 回セミナー
1993 年 12 月 23 日～ 25 日／第 75 回セミナー
1994 年 6 月 26 日～ 28 日／第 81 回セミナー
1994 年 8 月 14 日／第 5 回一日反省会
1994 年 12 月 22 日～ 24 日／第 88 回セミナー
1995 年 6 月 18 日～ 20 日／第 94 回セミナー
1995 年 12 月 24 日～26 日／第 102 回セミナー
1996 年 6 月 23 日～ 25 日／第 109 回セミナー
1996 年 12 月 23 日～25 日／第 117 回セミナー
1997 年 6 月 22 日～ 24 日／第 129 回セミナー
1997 年 12 月 23 日～25 日／第 139 回セミナー
1998 年 6 月 21 日～ 23 日／第 151 回セミナー
1998 年 12 月 23 日～25 日／第 163 回セミナー
1999 年 6 月 20 日～ 22 日／第 175 回セミナー
1999 年 12 月 19 日～ 21 日／第 187 回セミナー
2000 年 6 月 25 日～ 27 日／第 196 回セミナー
2000 年 12 月 24 日～26 日／第 205 回セミナー
2001 年 6 月 24 日～ 26 日／第 214 回セミナー
2001 年 12 月 24 日～26 日／第 223 回セミナー
2002 年 6 月 23 日～ 25 日／第 235 回セミナー
（エルランティの光セミナー最後のセミナー）

下呂温泉　水明館

（関東）

07. 東京都

カレッジタウン八王子
1994 年 5 月 4 日～ 9 日／第 80 回セミナー

八王子大学セミナーハウス
1994 年 6 月 13 日～ 14 日／第 3 回反省実習
1994 年 11 月 19 日～ 20 日／第 5 回反省実習

八王子　大学セミナーハウス

08. 神奈川県

箱根小涌園（2018 年 1 月 10 日閉館）
1992 年 2 月 23 日～ 25 日／第 33 回セミナー
1992 年 4 月 26 日～ 28 日／第 37 回セミナー
1993 年 10 月 24 日～ 26 日／第 71 回セミナー

お世話になった箱根小涌園も閉館

箱根･湯本富士屋ホテル（新宿京王プラザホテル）
1993 年 1 月 10 日～ 11 日／第 55 回セミナー

下呂温泉　水明館

歓
出逢いさまざま飛騨路
下呂温泉
迎

（東海）

09. 静岡県

熱海南明ホテル（10 回使用）

1990 年 11 月 4 日～ 5 日／第 4 回セミナー
1991 年3月 10 日～ 11 日／第 12 回セミナー
1991 年 8 月 31 日～ 9 月 1 日／第 21 回セミナー
1992 年8月 1 日～ 2 日／第 44 回セミナー
1993 年 2 月 21 日～ 23 日／第 58 回セミナー
1993 年 7 月 18 日～ 20 日／第 66 回セミナー
1993 年 11 月 14 日～ 15 日／第 72 回セミナー
1994 年1月 8 日～ 10 日／第 76 回セミナー
（1 日目は東京勤労福祉会館で）
1994 年 8 月 21 日～ 23 日／第 84 回セミナー
1995 年 2 月 12 日～ 13 日／第 6 回反省実習

熱海南明ホテル（今は大江戸温泉物語）

熱海富士屋ホテル

1994 年 12 月 5 日～ 7 日／第1回目黒、鎌倉合同ミニセミナー
1995 年 8 月 27 日～ 29 日 東京ミニセミナー
1996 年 2 月 4 日～ 6 日 東京ミニセミナー

熱海岡本ホテル

1995 年 1 月 8 日～ 10 日／第 89 回セミナー
1995 年 4 月 23 日～ 25 日／第 92 回セミナー
1995 年 7 月 16 日～ 18 日／第 95 回セミナー
1995 年 10 月 15 日～ 17 日／第 99 回セミナー

熱海ニューフジヤホテル（10 回使用）

1996 年 4 月 7 日～ 9 日／第 107 回セミナー
1996 年 7 月 7 日～ 9 日／第 110 回セミナー
1996 年 12 月 8 日～ 20 日／第 116 回セミナー
1997 年 2 月 23 日～ 25 日／第 121 回セミナー
1997 年 8 月 17 日～ 19 日／第 132 回セミナー
1998 年 2 月 22 日～ 24 日／第 143 回セミナー
1998 年 4 月 5 日～7 日／第 146 回セミナー
1998 年 8 月 2 日～4日／第 154 回セミナー
1998 年 9 月 23 日～ 25 日／第 157 回セミナー
1999 年 4 月 4 日～ 6 日／第 170 回セミナー

熱海つるやホテル（13 回使用）

1997 年 5 月 25 日～ 27 日／第 127 回セミナー
1998 年 6 月 7 日～ 9 日／第 150 回セミナー
1998 年 11 月 8 日～ 10 日／第 160 回セミナー
1999 年 6 月 6 日～ 8 日／第 174 回セミナー
1999 年 8 月 1 日～ 3 日／第 178 回セミナー
1999 年 11 月 7 日～ 9 日／第 184 回セミナー
2000 年 3 月 12 日～ 14 日／第 191 回セミナー
2000 年 6 月 4 日～ 6 日／第 195 回セミナー
2000 年10 月29 日～31 日／第 202 回セミナー
2001 年 3 月 11 日～ 13 日／第 209 回セミナー
2001 年 6 月 3 日～ 5 日／第 213 回セミナー
2001 年 8 月 26 日～ 28 日／第 217 回セミナー
2001 年10 月28 日～30 日／第 220 回セミナー

熱海後楽園ホテル

1997 年 11 月 24 日～ 26 日／第 137 回セミナー

富士青少年センター

1994 年 2 月 26 日～ 27 日／第 1 回反省実習

熱海つるやホテル（2001 年 11 月 1 日閉館）

熱海 南明ホテル

熱海人力鉄道（人が客車を押す）の駅跡に南明ホテルは建っていた。

熱海 つるやホテル

つるやホテルの前には、道路を隔ててサンビーチが広がり、そこには田池先生の話にもよく出てきた「金色夜叉」の主人公「貫一・お宮」の像や、お宮の松がある。

遠鉄ホテルエンパイヤ（14 回使用）
1995 年 7 月 30 日～ 8 月 2 日／第 96 回セミナー
1996 年 1 月 7 日～ 9 日／第 103 回セミナー
1996 年 10 月 6 日～ 8 日／第 113 回セミナー
1997 年 1 月 12 日～ 14 日／第 118 回セミナー
1997 年 4 月 20 日～ 22 日／第 125 回セミナー
1998 年 4 月 19 日～ 21 日／第 147 回セミナー
1998 年 10 月 25 日～ 27 日／第 159 回セミナー
1999 年 3 月 22 日～ 24 日／第 169 回セミナー
1999 年 7 月 4 日～ 6 日／第 176 回セミナー
2000 年 1 月 9 日～ 11 日／第 188 回セミナー
2000 年 9 月 24 日～ 26 日／第 200 回セミナー
2001 年 1 月 8 日～ 10 日／第 206 回セミナー
2001 年 9 月 16 日～ 18 日／第 218 回セミナー
2002 年 1 月 6 日～ 8 日／第 224 回セミナー

館山寺温泉　遠鉄ホテルエンパイア

（写真は 218 回エルランティの光セミナーで撮られたものです）

10. 愛知県

愛知県産業貿易館
1992 年 3 月 1 日／第 34 回セミナー
1992 年 7 月 5 日／第 42 回セミナー
1992 年 10 月 10 日～ 11 日／第 50 回セミナー

旭高原少年自然の家
1995 年 10 月 7 日～ 13 日／第 8 回反省実習
1996 年 7 月 17 日～ 22 日／第 9 回反省実習
1996 年 12 月 20 日～23 日 旭高原瞑想ミニセミナー
1997 年 7 月 3 日～ 8 日／第 10 回反省実習
1997 年 9 月 20 日～ 25 日／第 11 回反省実習

三ヶ根温泉「グリーンホテル三ヶ根」
1996 年 3 月 17 日～19 日 愛知こころのセミナー

ホテル明山荘（11 回使用）
1997 年 10 月 24 日～ 26 日／第 135 回セミナー
1998 年 1 月 11 日～ 13 日／第 140 回セミナー
1998 年 5 月 24 日～ 26 日／第 149 回セミナー
1998 年 8 月 18 日～ 20 日／第 155 回セミナー
1999 年 1 月 10 日～ 12 日／第 164 回セミナー
1999 年 5 月 23 日～ 25 日／第 173 回セミナー
1999 年 9 月 5 日～7 日／第 180 回セミナー
2000 年 7 月 16 日～ 18 日／第 197 回セミナー
2001 年 7 月 15 日～ 17 日／第 215 回セミナー
2002 年 2 月 24 日～ 26 日／第 227 回セミナー
2002 年 4 月 7 日～ 9 日／第 230 回セミナー

11. 三重県

湯の山ロッジ
1991 年 5 月 26 日～ 28 日／第 16 回セミナー

長島温泉ガーデンホテル・オリーブ
1992 年 9 月 23 日～ 25 日／第 49 回セミナー
1993 年 4 月 11 日～ 13 日／第 61 回セミナー
1993 年 10 月 11 日～ 13 日／第 70 回セミナー

旭高原少年自然の家

三谷温泉　ホテル明山荘

（近畿）

12. 滋賀県

滋賀県立長浜ドーム宿泊研修館
1992 年 11 月 21 日～ 22 日／滋賀「心を学ぶ」セミナー

いこいの村びわ湖、大津ユースホステルセンター
1993 年1月 16 日～ 17 日／滋賀「心を学ぶ」セミナー

長浜「臨湖」、宿泊は「豊公荘」
1993 年 7 月 10 日～ 11 日／滋賀「心の学び」セミナー

近江舞子ホテル
1993 年 10 月 2 日～ 3 日／滋賀「心の学び」セミナー

ひこねステーションホテル
1994 年1月 22 日～ 23 日／滋賀「心の学び」セミナー

琵琶湖グランドホテル（22 回使用）
1995 年 2 月 20 日～ 22 日／第 90 回セミナー
1995 年 8 月 20 日～ 22 日／第 97 回セミナー
1995 年 11 月 26 日～ 28 日／第 101 回セミナー
1996 年 1 月 22 日～ 24 日／第 104 回セミナー
1996 年 5 月 12 日～ 14 日／第 108 回セミナー
1996 年 8 月 4 日～ 6 日／第 111 回セミナー
1997 年 1 月 26 日～ 28 日／第 119 回セミナー
1997 年 5 月 11 日～ 13 日／第 126 回セミナー
1998 年 7 月 19 日～ 21 日／第 153 回セミナー
1999 年 1 月 24 日～ 26 日／第 165 回セミナー
1999 年 3 月 7 日～ 9 日／第 168 回セミナー
1999 年 9 月 19 日～ 21 日／第 181 回セミナー
2000 年 5 月 14 日～ 16 日／第 194 回セミナー
2000 年 8 月 6 日～ 8 日／第 198 回セミナー
2000 年 12 月 10 日～ 12 日／第 204 回セミナー
2001 年 5 月 13 日～ 15 日／第 212 回セミナー
2001 年 8 月 5 日～ 7 日／第 216 回セミナー
2001 年 12 月 9 日～ 11 日／第 222 回セミナー
2002 年 2 月 11 日～ 13 日／第 226 回セミナー
2002 年 3 月 24 日～ 26 日／第 229 回セミナー
2002 年 4 月 21 日～ 23 日／第 231 回セミナー
2002 年 6 月 9 日～ 11 日／第 234 回セミナー

ホテルレークビワ（5 回使用）
1996 年 11 月 18 日～ 20 日／第 115 回セミナー
1997 年 3 月 9 日～ 11 日／第 122 回セミナー
1997 年 8 月 3 日～ 5 日／第 131 回セミナー
1997 年 10 月 12 日～ 14 日／第 134 回セミナー
1998 年 1 月 25 日～ 27 日／第 141 回セミナー

雄琴温泉ロイヤルホテル雄山荘
1995 年 10 月 1 日～ 3 日 滋賀ミニセミナー

近江八幡国民休暇村
2000 年 3 月 20 日～ 23 日／第 12 回反省実習
2000 年 9 月 10 日～ 13 日／第 13 回反省実習

おごと温泉 琵琶湖グランドホテル

おごと温泉 琵琶湖グランドホテル

13. 京都府

勤労者研修センター「コミュニティ嵯峨野」
1993 年 9 月 25 日〜 26 日 心の相談員講習会

14. 大阪府

池田・伏尾温泉不死王閣
1993 年 2 月 7 日〜 8 日／第 57 回セミナー
1993 年 5 月 16 日〜 17 日／第 63 回セミナー
1993 年 7 月 4 日〜 5 日／第 65 回セミナー

富田林簡保センター
1994 年1月 21 日〜 22 日／かんぽミニセミナー

大阪府立総合青少年センター
1994 年 4 月 28 日〜 29 日／第 2 回反省実習

能勢簡易保険保養センター
1994 年 9 月 24 日〜 26 日／第 4 回反省実習
1995 年 6 月 3 日〜 4 日／第 7 回反省実習

サンヒル柏原
1996年5月30日〜31日 532実践ミニセミナー

箕面観光ホテル
1996 年 10 月 20 日〜 22 日 大阪研修センターのミニセミナー

15. 兵庫県

宝塚グランドホテル（7 回使用）
1993 年 12 月 12 日〜 13 日／第 74 回セミナー
1997 年 12 月 7 日〜 9 日／第 138 回セミナー
1998 年 12 月 6 日〜 8 日／第 162 回セミナー
1999 年 7 月 20 日〜 22 日／第 177 回セミナー
1999 年 11 月 23 日〜 25 日／第 185 回セミナー
2000 年 2 月 20 日〜 22 日／第 190 回セミナー
2001 年 2 月 18 日〜 20 日／第 208 回セミナー

有馬兵衛向陽閣
1995 年 9 月 18 日〜 20 日 大阪研修センターミニセミナー

当時の宝塚グランドホテルとゆりかもめの群れ。同ホテルは 2003 年に廃業し、跡地はマンションになっていると聞きました。

16. 和歌山県

白浜チサンホテル
1992 年 2 月 16 日〜 17 日／第 32 回セミナー

新和歌の浦「萬波」
1994 年 8 月 9 日〜 10 日／和歌山ミニセミナー
1995年1月23日〜25日／チャネリング講習会(和歌山)

紀州南部ロイヤルホテル
2001 年 3 月 26 日〜 27 日 田池先生を囲んで

「和歌の浦温泉 萬波」（1994 年 8 月に撮影）
下の写真は「萬波」でのチャネリングの模様。

17. 奈良県

紀州南部ロイヤルホテル

あやめ池桃山荘
1994 年 8 月 1 日～ 3 日／第 83 回セミナー
1995 年 5 月 5 日～7 日／チャネリング講習会 奈良

信貴山観光ホテル
1992 年 8 月 9 日～ 11 日／第 45 回セミナー
1992 年 11 月 29 日 ~30 日／第 53 回セミナー

国民宿者・信貴山荘
1994 年 5 月 15 日～ 17 日／チャネリング講習会

（山陽・山陰・四国）

18. 岡山県

山陽ハイツ
1992年10月31日～11月2日／第51回セミナー

鷲羽グランドホテル（6 回使用）
1993 年 3 月 21 日～ 23 日／第 60 回セミナー
1993 年 11 月 28 日～ 30 日／第 73 回セミナー
1994 年 2 月 4 日～ 6 日／第 77 回セミナー
1996 年 2 月 18 日～ 20 日／第 105 回セミナー

鷲羽グランドホテル

1997 年 2 月 11 日～ 13 日／第 120 回セミナー
1997 年 6 月 8 日～ 10 日／第 128 回セミナー

国立吉備少年自然の家
1994 年 10 月 22 日～ 24 日／第 86 回セミナー

瀬戸内国際マリンホテル
1998 年 2 月 8 日～ 10 日／第 142 回セミナー

19. 愛媛県

松山・道後プリンスホテル
1991 年 2 月 24 日～ 26 日／第 10 回セミナー
1992 年1月 26 日～ 28 日／第 31 回セミナー

（九州）

20. 福岡県

リコホテル博多
1992 年 7 月 17 日～ 19 日／第 43 回セミナー

二日市温泉 大丸別荘
1995 年 7 月2日～4日 福岡ミニセミナー
1996 年 8 月 25 日～ 27 日 福岡ミニセミナー

玄海ロイヤルホテル（6 回使用）
1997 年 9 月 7 日～ 9 日／第 133 回セミナー
1998 年 7 月 5 日～7 日／第 152 回セミナー
1999 年 8 月 22 日～ 24 日／第 179 回セミナー
2000 年 4 月 23 日～ 25 日／第 193 回セミナー
2001 年 4 月 22 日～ 24 日／第 211 回セミナー
2002 年 5 月 12 日～ 14 日／第 232 回セミナー

玄海ロイヤルホテル（現 ロイヤルホテル宗像）

21. 大分県

別府温泉亀の井ホテル
1993 年 8 月 29 日～ 31 日／第 68 回セミナー

22. 宮崎県

国民宿屋青島
1991 年1月 18 日～ 20 日／第 8 回セミナー

国民年金福祉施設あおしま太陽閣
1991 年 12 月 13 日～ 15 日／第 27 回セミナー

青島グランドホテル
1992 年3月 5 日～ 17 日／第 35 回セミナー

23. 鹿児島県

ホテル霧島キャッスル
1990 年 10 月 23 日～ 25 日／第 1 回セミナー

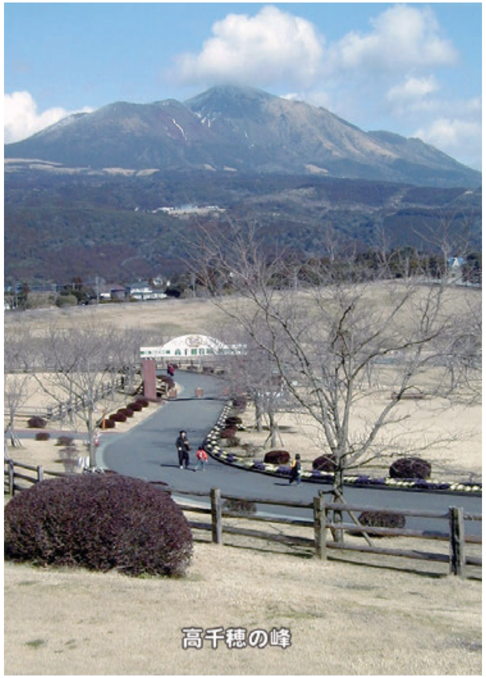
ホテル林田温泉
1993 年1月 24 日～ 26 日／第 56 回セミナー

霧島国際ホテル（10 回使用）
1994 年 4 月 3 日～ 5 日／第 79 回セミナー
1996 年 3 月 3 日～ 5 日／第 106 回セミナー
1996 年 11 月 3 日～ 5 日／第 114 回セミナー
1997 年 3 月 23 日～ 25 日／第 123 回セミナー
1997 年 11 月 9 日～ 11 日／第 136 回セミナー
1998 年 3 月 8 日～ 10 日／第 144 回セミナー
1998 年 11 月 23 日～ 25 日／第 161 回セミナー
1999 年 2 月 7 日～ 9 日／第 166 回セミナー
1999 年 12 月 5 日～7 日／第 186 回セミナー
2000 年 11 月 19 日～ 21 日／第 203 回セミナー

指宿いわさきホテル
1995 年 3 月 5 日～7 日／第 91 回セミナー

霧島ロイヤルホテル
2000 年1月30日～2月1日／第189回セミナー
2001 年 1 月 28 日～ 30 日／第 207 回セミナー
2001 年 11 月 18 日～ 20 日／第 221 回セミナー
2002 年 1 月 20 日～ 22 日／第 225 回セミナー

霧島ロイヤルホテル


高千穂の峰

24. 沖縄県

ホテルニュー那覇
1990 年 10 月 21 日～ 22 日／第 1 回セミナー

沖縄厚生年金休暇センター
1994 年 11 月 4 日～ 6 日／第 87 回セミナー
1995 年 11 月 12 日～ 14 日／第 100 回セミナー

左の写真は、「沖縄厚生年金休暇センター」です。2009 年 1 月に廃業し、その後は、「ウェルネスリゾート沖縄休暇センター」として現在も営業されています。

下の写真は、第 1 回エルランティの光セミナーに、田池先生ご夫妻をはじめ、関西から参加された一行です。ちなみに会場となったホテルニュー那覇は、現在はありません。

エルランティの光セミナー

1990（平成 2）年 10 月～2002（平成 14）年 7 月

12 年の歩み

雲仙普賢岳の噴火（島原市広報誌 2021 年 6 月号より転載）

1990 年（平成 2 年）

10 月 21 日～22 日《第 1 回エルランティの光セミナー》ホテルニュー那覇
10 月 23 日～25 日《第 1 回エルランティの光セミナー》霧島キャッスル
10 月 25 日　冊子『地球は病んでいる』発行　A 5 判　26 ページ
10 月 28 日《第 2 回エルランティの光セミナー》大阪センター
11 月 1 日　月刊エルニュース『エルランティの光』発行開始
11 月 1 日　『イエスの真実』（合田秀行著）出版
11 月 3 日《第 3 回エルランティの光セミナー》東京センター
11 月 4 日～ 5 日《第 4 回エルランティの光セミナー》熱海南明ホテル
11 月 14 日～ 12 月 12 日《第 3 回 NY セミナー NY、NJ ／久保邸》
12 月 24 日～26 日《第 5 回エルランティの光セミナー》下呂水明館
12 月 29 日～30 日《第 6 回エルランティの光セミナー》大阪センター

1991 年（平成 3 年）

1月『戦争はまだ終わっていない―真の平和への道』（近藤明子著）出版
1月 6 日～7 日《第 7 回エルランティの光セミナー》東京センター
1月 18 日～20 日《第 8 回エルランティの光セミナー》国民宿舎青島
2 月 3 日～ 4 日《第 9 回エルランティの光セミナー》大阪センター
2 月 16 日～17 日《臨時セミナー》東京センター
2 月 24 日～26 日《第 10 回エルランティの光セミナー》道後プリンスホテル
2 月『エルランティの光』朗読田池留吉カセットテープ 6 本組発行
3月 2 日～ 3 日《臨時エルランティの光セミナー》大阪センター
3月 9 日《第 11 回エルランティの光セミナー》東京センター
3月 10 日～ 11 日《第 12 回エルランティの光セミナー》熱海南明ホテル
3月 27 日～ 4 月 14 日《第 4 回 EL RANTE SEMINAR ニューヨーク》
　3 月 27 日～ 4 月 3 日　フォートリー・ホリデイイン
　4 月 6 日　NY ヒルトンホテル
　7 日　NY ショーマンズ・カフェ、ハーレムシルビアレストラン
　12 日　NY 24 フィフス・アベニュー
4 月 21 日～ 23 日《第 13 回エルランティの光セミナー》
　4 月 21 日　エル・パーク仙台
　4 月 22 日～ 23 日　仙台市勤労者保養所・茂庭荘
4 月 28 日～ 29 日《第 14 回エルランティの光セミナー》大阪センター
5 月 11 日～ 12 日《第 15 回エルランティの光セミナー》東京センター
5 月 26 日～ 28 日《第 16 回エルランティの光セミナー》湯の山ロッジ
6 月 3 日～ 9 月 15 日　雲仙普賢岳の噴火　43 人が死亡、9人が負傷。
火砕流により 425 棟が焼失。
6 月 3 日～ 7 月 2 日《第 5 回 EL RANTE SEMINAR ニューヨーク》
　6 月 3 日　田池先生、大阪より LA へ出発。
　6 月 10 日　田池先生、LA より NY へ。
　6 月 11 日～ 12 日は休日。
　6 月 13 日～ 6 月 30 日までセミナー。

7月1日（月）NY から日本へ NY ワーウィック・ホテル、シルビア
レストラン、ソーホートミーズハウス※帰国後、田池先生入院
6月30日『エルランティ田池の心』Ａ４判クロス上製発行
7月『夫婦の縁』（黒田ミチル著）出版
7月7日～8日《大垣学習会》岐阜県大垣市　田池先生欠席
7月10日　冊子『私の肉は石ころでした』発行
7月10日　冊子『現代の諸問題　第一巻「生と死」』発行
7月14日～16日《第17回エルランティの光セミナー》下呂温泉
田池先生欠席
7月27日～28日《第18回エルランティの光セミナー》東京センター
27日は子供セミナー　田池先生欠席
8月3日～5日《第19回エルランティの光セミナー》愛媛県松山市
田池先生欠席
8月10日　冊子『現代の諸問題　第二巻「社会問題」』発行
8月11日～12日《大垣学習会》岐阜県大垣市　田池先生欠席
8月17日～18日《第20回エルランティの光セミナー》大阪センター
8月31日～9月1日《第21回エルランティの光セミナー》熱海南明ホテル
8月30日　冊子『霊導者がとらえた田池先生の肉の意識』発行
9月8日～10日《第22回エルランティの光セミナー》
8日～9日　仙台市勤労者保養所・茂庭荘
10日　エルパーク仙台

9月19日(木)から10月10日（木）
この期間に、ニューヨークセミナーが実施されるようになったと、9月1日発行のエルニュースに告知される。団体ツアーの企画はなく、各自、交通・宿泊を手配して参加するようにとの案内はあるが、詳細は不明。
9月28日～29日《第23回エルランティの光セミナー》東京センター
10月26日～27日《第24回エルランティの光セミナー》大阪センター
11月9日～10日《第25回エルランティの光セミナー》東京センター
11月22日～24日《第26回エルランティの光セミナー》吉野山辰巳屋
12月13日～15日《第27回エルランティの光セミナー》
宮崎国民年金福祉施設あおしま太陽閣
12月23日～25日《第28回エルランティの光セミナー》下呂水明館
12月25日　冊子『田池先生のいないセミナー』発行
12月25日　冊子『心をまなぶためにQ&A』新書版発行
12月20日　冊子『現代の諸問題《第三巻「平和への道」』発行
12月29日～30日《第29回エルランティの光セミナー》大阪センター

1992年（平成4年）

1月5日～6日《第30回エルランティの光セミナー》
5日　株式会社中島建設
6日　神奈川県相模原教育会館

1月 26 日～ 28 日《第 31 回エルランティの光セミナー》道後プリンスホテル
1 月 31 日　冊子『現代人の姿と現代社会の本質』発行
2 月 1 日～ 2 日《第 8 回大垣心の勉強会》大垣菊水旅館
2 月 16 日～ 17 日《第 32 回エルランティの光セミナー》白浜チサンホテル
2 月 20 日　冊子『Into the Light』（翻訳 Ritsuko&PeterCorless）発行
2 月 29 日 冊子『心と健康』発行
2 月 23 日～ 25 日《第 33 回エルランティの光セミナー》箱根小涌園
3 月 1 日《第 34 回エルランティの光セミナー》名古屋愛知県産業貿易館
3月 5 日～ 7 日《第 35 回エルランティの光セミナー》青島グランドホテル
3 月 20 日　『綾女、ありがとう』（園部恵著）出版
3 月 20 日　冊子『田池留吉の意識が語る経営者の条件』発行
3月 26 日～ 4 月 7 日　NewYork,NewJersey セミナー
　　フォートリー・ホリデイイン（11 泊 13 日）
3 月 31 日　冊子『心をまなぶためにQ＆Ａ英語版』新書版発行
3 月 31 日　冊子『現代の諸問題　第四巻「子供の問題」』発行
4 月 18 日～ 19 日《第 36 回エルランティの光セミナー》大阪センター
4 月 26 日～ 28 日《第 37 回エルランティの光セミナー》箱根小涌園
5 月 10 日～ 12 日《第 38 回エルランティの光セミナー》南明ホテル
5 月 22 日　伊丹十三氏襲撃事件
　　『綾女、ありがとう』が 3 月 20 日に出版され、伊丹十三さんに贈呈すべく 5 月 22 日、日中に伊丹プロダクションを訪問。その夜に伊丹十三さんの襲撃事件が発生。
5 月 30 日　冊子『救いと祈り』発行
5 月 31 日～ 6 月 2 日《第 39 回エルランティの光セミナー》飯坂温泉ホテル聚楽
6 月 6 日《第 40 回エルランティの光セミナー》東京全社連会館
6 月 7 日《第 40 回エルランティの光セミナー》東京春明会館
6 月 10 日　冊子『老いと死』発行
6 月 20 日　冊子『神と人間と…』発行
6 月　ビデオ『他力の反省他力信仰の間違い』
　　『教祖と信者』『パワーを求める心』3 巻発売各 2 時間 20 分
6 月　ビデオ『こころを学ぶために part2』発売 2 時間 12 分
6 月 28 日～ 30 日《第 41 回エルランティの光セミナー》下呂水明館
7 月 5 日《第 42 回エルランティの光セミナー》愛知県産業貿易館
7 月 17 日～ 19 日《第 43 回エルランティの光セミナー》リコホテル博多
7 月 31 日　冊子『夫婦』発行
8 月 1 日～ 2 日《第 44 回エルランティの光セミナー》熱海南明ホテル
8 月 9 日～ 11 日《第 45 回エルランティの光セミナー》信貴山観光ホテル
8 月 16 日《第 46 回エルランティの光セミナー》大阪センター
8 月 20 日～ 9 月 1 日 NewYork,NewJersey セミナー
　　フォートリー・ホリデイイン（11 泊 13 日）
8 月 23 日～ 25 日《第 47 回エルランティの光セミナー》熱海南明ホテル
9 月 1 日　株式会社ＥＬ　東京都町田市から
　　神奈川県相模原市橋本　東京センターへ移転
9 月 13 日～ 15 日《第 48 回エルランティの光セミナー》湯沢東映ホテル
9 月 20 日『宇宙からのメッセージ』（杉村和子著）出版
9 月 23 日～ 25 日《第 49 回エルランティの光セミナー》長島温泉
9 月 30 日　冊子『田池留吉の意識が語る宗教の諸問題』発行
10 月 10 日～ 11 日《第 50 回エルランティの光セミナー》愛知県産業貿易館
10 月 20 日　冊子『クドーラと共に』発行
10 月 31 日～ 11 月 2 日《第 51 回エルランティの光セミナー》山陽ハイツ
11 月 14 日《第 52 回エルランティの光セミナー》お茶の水ホテル聚楽
11 月 15 日～ 16 日《第 52 回エルランティの光セミナー》鎌倉ホテル花月園
11 月 21 日～ 22 日《第 1 回滋賀「心を学ぶ」セミナー》滋賀県立長浜ドーム
11 月 22 日《エル・サークルミニセミナー》新宿スポーツセンター
11 月 28 日～ 30 日《第 53 回エルランティの光セミナー》
　　28 日　大阪センター／ 29 日～ 30 日　信貴山観光ホテル
12 月 6 日～ 7 日《第 1 回北陸心の研修会光セミナー》粟津温泉ホテル湯ノ上
12 月 16 日《東京ミニセミナー》新宿スポーツセンター

1993 年 1 月　釧路沖地震

12 月 20 日　冊子『エルランティの光』上下　新書版発行
12 月 20 日～ 22 日《第 54 回エルランティの光セミナー》下呂水明館
12 月 28 日～ 29 日《臨時チャネリング講習会》大阪センター
12 月 30 日　冊子『田池留吉の意識が語る現代の諸問題「生と死」』発行

1993 年（平成 5 年）

1 月 9 日《第 55 回エルランティの光セミナー》新宿京王プラザホテル
1 月 10 日～ 11 日《第 55 回エルランティの光セミナー》箱根湯本富士屋ホテル
1 月 15 日　釧路沖地震　死者 1、負傷 932、3518 戸破損（日本被害地震総覧）
1 月 15 日《東京ミニセミナー》新宿新宿スポーツセンター
1 月 16 日～ 17 日《第 2 回滋賀「心の学び」セミナー》いこいの村びわ湖
1 月 24 日～ 26 日《第 56 回エルランティの光セミナー》ホテル林田温泉
1 月 30 日　冊子『エルランティ田池の心』追補版発行
2 月 6 日～ 8 日《第 57 回エルランティの光セミナー》
　6 日　大阪センター／ 7 日～ 8 日　池田伏尾温泉不死王閣
2 月 13 日～ 15 日　《大垣心の勉強会宿泊ミニセミナー》名柄川温泉ホテル長良館
2 月 21 日～ 23 日《第 58 回エルランティの光セミナー》熱海南明ホテル
3 月 6 日《第 59 回エルランティの光セミナー》エル・ピー・ジー会館
3 月 7 日～ 8 日《第 59 回エルランティの光セミナー》ホテル長良館
21 日～ 23 日《第 60 回エルランティの光セミナー》鷲羽グランドホテル
4 月 11 日～ 13 日《第 61 回エルランティの光セミナー》長島温泉
4 月 24 日～ 26 日《第 62 回エルランティの光セミナー》

1993 年 7 月　北海道南西沖地震

　24 日　池袋メトロポリタンプラザ／ 25 日～ 26 日　南明ホテル
5 月 15 日～ 17 日《第 63 回エルランティの光セミナー》
　15 日　大阪センター／ 16 日～ 17 日　池田伏尾温泉不死王閣
5 月　エル・ブックス『男女の意味・差別』出版
5 月 30 日～ 6 月 1 日《第 64 回エルランティの光セミナー》下呂水明館
6 月 10 日～ 20 日　NY アメリカセミナー
　10 日～ 14 日　NY ／ 15 日～ 16 日シカゴ RadissonHotel
　17 日～ 20 日　ロサンゼルス
7 月 3 日～ 5 日《第 65 回エルランティの光セミナー》
　3 日　大阪センター／ 4 日～ 5 日　池田伏尾温泉不死王閣
7 月 10 日～ 11 日《第 5 回滋賀「心の学び」セミナー》
　セミナー会場は長浜「臨湖」、宿泊は「豊公荘」
7 月 12 日　北海道南西沖地震 M 7.8。死者 202、不明 29、負傷 323。
　7690 戸以上破損、1514 隻以上被害（日本被害地震総覧）
7 月 18 日～ 20 日《第 66 回エルランティの光セミナー》熱海南明ホテル

7 月 31 日～ 8 月 1 日《第 2 回北陸心の研修会》加賀市ほくりく荘
8 月 14 日～ 15 日《第 67 回エルランティの光セミナー》東京都勤労福祉会館
8 月　エル・ブックス『アトランティスの浮上』出版
8 月 21 日～ 22 日《第 17 回大垣心の勉強会》文化会館、旅館菊水
8 月 29 日～ 31 日《第 68 回エルランティの光セミナー》別府温泉亀の井ホテル
9 月 15 日　冊子『母の反省』発行
9 月 15 日～ 20 日《第 69 回エルランティの光セミナー》国立妙高少年自然の家
9 月 25 日～ 26 日《心の相談員講習会》京都府勤労者研修センター
10 月 2 日～ 3 日《第 6 回滋賀「心の学び」セミナー》近江舞子ホテル
10 月 11 日～ 13 日《第 70 回エルランティの光セミナー》長島温泉
10 月 24 日～ 26 日《第 71 回エルランティの光セミナー》箱根小浦園
11 月 7 日～ 8 日《第 1 回奈良エルランティの光セミナー》あやめ池桃山荘
11 月 13 日～ 15 日《第 72 回エルランティの光セミナー》
　13 日　中央区立日本橋公会堂／ 14 日～ 15 日　熱海南明ホテル
11 月　エル・ブックス『エルランティの愛―心からのメッセージ』出版
11 月 28 日～ 30 日《第 73 回エルランティの光セミナー》鷲羽グランドホテル
12 月 11 日～ 13 日《第 74 回エルランティの光セミナー》
　11 日　大阪センター／ 12 日～ 13 日　宝塚グランドホテル
12 月 23 日～ 25 日《第 75 回エルランティの光セミナー》下呂水明館

1994 年（平成 6 年）

1 月 8 日～ 10 日《第 76 回エルランティの光セミナー》
　8 日　東京勤労福祉会館／ 9 日～ 10 日　熱海南明ホテル
1 月 21 日～ 22 日《かんぽセンターミニセミナー》富田林簡保センター
1 月 22 日～ 23 日《第 7 回滋賀「心の学び」セミナー》ひこねステーションホテル
2 月 4 日～ 6 日《第 77 回エルランティの光セミナー》鷲羽グランドホテル
2 月 26 日～ 27 日《第 1 回反省実習セミナー》富士青少年センター
3 月 5 日《第 78 回エルランティの光セミナー》大阪センター
3 月 6 日《第 78 回エルランティの光セミナー》神戸市生田文化会館
3 月 7 日《第 78 回エルランティの光セミナー》大阪千里協栄生命ホール
4 月 3 日～ 5 日《第 79 回エルランティの光セミナー》霧島国際ホテル
4 月 16 日～ 17 日《アメリカミニセミナー》開始
　LA 板倉さん、NY 久保さん、毎月 1 回開催され、約 2 年間続く
4 月 17 日《第 1 回一日反省会》神奈川県立県民ホール
4 月 28 日～ 29 日《第 2 回反省実習セミナー》大阪府立総合青少年センター
4 月　ビデオ『母親の反省～母親という天変地異～』発売 2 時間 20 分
5 月 4 日～ 9 日《第 80 回エルランティの光セミナー》東京カレッジタウン八王子
5 月 15 日～ 17 日《第 1 回チャネリング講習会》国民宿舎信貴山荘
5 月 21 日《第 2 回一日反省会》大宮ソニックシティ
5 月 27 日～ 6 月 6 日《アメリカセミナー》
　27 日～ 31 日　Marriott at GLENPOINTE
　（塩川香世さん、アメリカセミナー初参加）
　6 月 1 日～ 6 日　ロサンゼルス・ホリデーイン・トーランス
6 月 11 日《第 3 回一日反省会》千葉経営者会館
6 月 13 日～ 14 日《第 3 回反省実習セミナー》八王子大学セミナーハウス
6 月 26 日～ 28 日《第 81 回エルランティの光セミナー》下呂水明館
6 月 27 日オウム真理教松本サリン事件
7 月 10 日～ 12 日《第 82 回エルランティの光セミナー》鹿の湯ホテル
7 月 23 日《第 4 回一日反省会》すみだ産業会館
7 月 31 日～ 8 月 3 日《第 83 回エルランティの光セミナー》
　31 日　大阪センター／ 8 月 1 日～ 3 日　あやめ池桃山荘
8 月 9 日～ 10 日《和歌山ミニセミナー》新和歌の浦「萬波」
8 月 14 日《第 5 回一日反省会》下呂水明館
8 月 21 日～ 23 日《第 84 回エルランティの光セミナー》熱海南明ホテル
9 月 3 日～ 5 日《第 2 回奈良ミニセミナー》あやめ池桃山荘
9 月 1 5日～ 17 日《第 85 回エルランティの光セミナー》湯沢東映ホテル
9 月 17 日～ 18 日《新潟ミニセミナー》湯沢東映ホテル
9 月 24 日《第 6 回 1 日反省会》北とぴあ北区産業文化会館

1995 年１月　阪神淡路大震災

1995 年3月　オウム真理教地下鉄サリン事件

9 月 24 日〜 26 日《第 4 回反省実習セミナー》能勢簡易保険保養センター
10 月２日〜４日《石川ミニセミナー》片山津温泉　第一観光ホテル
10 月４日　北海道東方沖地震Ｍ 8.1。負傷 436。北方４島大津波
（日本被害地震総覧）
10 月 15 日《第 7 回1日反省会》すみだ産業会館
10 月 22 日〜 24 日《第 86 回エルランティの光セミナー》国立吉備少年自然の家
10 月 28 日　三陸はるか沖地震Ｍ 7.2。死者２、負傷 29、78 戸被害
（日本被害地震総覧）
11 月 4 日〜 6 日《第 87 回エルランティの光セミナー》沖縄厚生年金休暇センター
11 月　エル・ブックス『エルランティの心〈1〉』出版
この出版を最後に、出版は休眠状態に。
11 月 19 日〜 20 日《第 5 回反省実習セミナー》八王子大学セミナーハウス
12 月　月刊・意識資料集『エルメッセージ』発行開始
12 月５日〜７日《第1回目黒、鎌倉合同ミニセミナー》
５日〜６日　熱海富士屋ホテル／７日　中目黒スクエア
12 月 22 日〜 24 日《第 88 回エルランティの光セミナー》下呂水明館

1995 年（平成 7 年）

１月８日〜 10 日《第 89 回エルランティの光セミナー》熱海岡本ホテル
１月 15 日《エルランティ瞑想会》大阪センター
１月 17 日　阪神淡路大震災　震度は最大７。死者 6,308 人、負傷 41,527 人、不明２人。34 万人が避難。
１月 23 日〜 25 日《第５回チャネリング講習会》和歌山ホテル萬波
２月 12 日〜 13 日《第６回反省実習セミナー》熱海南明ホテル
２月 20 日〜 22 日《第 90 回エルランティの光セミナー》
滋賀琵琶湖グランドホテル。第 90 回は変更に次ぐ変更。
開催地は岡山から滋賀に。
３月５日〜７日《第 91 回エルランティの光セミナー》指宿いわさきホテル
３月 11 日《第８回1日反省会》東京北とぴあ北区産業文化会館
３月 20 日　オウム真理教地下鉄サリン事件
東京都営団地下鉄日比谷線・千代田線・丸の内線
３月 19 日〜 21 日　《三河三谷ミニセミナー》グリーンホテル三ヶ根
４月９日〜 11 日《北陸・滋賀合同セミナー》片山津温泉　第一観光ホテル
４月 23 日〜 25 日《第 92 回エルランティの光セミナー》熱海岡本ホテル
５月３日《第９回1日反省会》すみだ産業会館
５月５日〜７日《第６回チャネリング講習会》奈良あやめ池桃山荘
５月 14 日〜 16 日《第 93 回エルランティの光セミナー》ホテル鹿の湯
５月 26 日〜６月８日《アメリカセミナー》
26 日〜 31 日　久保邸／６月１日〜８日　LA ホリデイイン
６月３日〜４日《第７回反省実習セミナー》能勢簡易保険保養センター
６月 18 日〜 20 日《第 94 回エルランティの光セミナー》下呂水明館
７月2日〜4日《福岡ミニセミナー》二日市温泉大丸別荘

7月16日～18日《第95回エルランティの光セミナー》熱海岡本ホテル
7月17日《第9回反省実習セミナー》旭高原少年自然の家
7月30日～8月2日《第96回エルランティの光セミナー》静岡遠鉄ホテルエンパイヤ
8月20日～22日《第97回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
8月27日～29日《東京ミニセミナー》熱海富士屋ホテル
9月10日～12日《第98回エルランティの光セミナー》湯沢東映ホテル
9月16日《第10回1日反省会》パルテノン多摩
9月18日～20日《大阪研修センターミニセミナー》有馬兵衛向陽閣
10月1日～3日《滋賀ミニセミナー》滋賀雄琴温泉　ロイヤルホテル雄山荘
10月7日～13日《第8回反省実習セミナー》愛知県旭高原少年自然の家
　　一週間を通し「5・3・2」の実践
10月15日～17日《第99回エルランティの光セミナー》熱海岡本ホテル
11月2日《第1回5・3・2反省実習セミナー》大阪センター
11月12日～14日《第100回エルランティの光セミナー》沖縄厚生年金休暇センター
11月26日～28日《第101回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
12月24日～26日《第102回エルランティの光セミナー》下呂水明館

1996年（平成8年）

1月7日～9日《第103回エルランティの光セミナー》遠鉄ホテルエンパイヤ
1月22日～24日《第104回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
2月4日～6日東京ミニセミナー》熱海富士屋ホテル
2月10日～11日《アメリカミニセミナー》NY終了
2月17日《アメリカミニセミナー》LA終了
2月18日～20日《第105回エルランティの光セミナー》鷲羽グランドホテル
3月3日～5日《第106回エルランティの光セミナー》霧島国際ホテル
3月17日～19日愛知こころのセミナー》三ヶ根温泉グリーンホテル三ヶ根
4月7日～9日《第107回エルランティの光セミナー》熱海ニューフジヤホテル
4月21日～23日《北陸セミナー》片山津温泉　第一観光ホテル
5月12日～14日《第108回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
5月30日～31日《5・3・2実践ミニセミナー》大阪サンヒル柏原
5月30日英訳『El Rante's Heart』(Joann Dickson、高橋謙一郎訳）発行
6月1日～8日《アメリカセミナー》ロサンゼルス　ホリデイイン
6月23日～25日《第109回エルランティの光セミナー》下呂水明館
7月7日～9日《第110回エルランティの光セミナー》熱海ニューフジヤホテル
7月17日～22日《第9回反省実習セミナー》旭高原少年自然の家
8月4日～6日《第111回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
8月25日～27日《福岡ミニセミナー》二日市温泉　大丸別荘
9月8日～10日《第112回エルランティの光セミナー》磐梯グランドホテル
9月22日～24日《京滋「心の学び」ミニセミナー》雄琴温泉ロイヤルホテル雄山荘
10月6日～8日《第113回エルランティの光セミナー》遠鉄ホテルエンパイヤ
10月20日～22日《大阪センターミニセミナー》箕面観光ホテル
11月3日～5日《第114回エルランティの光セミナー》霧島国際ホテル
11月18日～20日《第115回エルランティの光セミナー》滋賀ホテルレークビワ
12月8日～20日《第116回エルランティの光セミナー》熱海ニューフジヤホテル
12月20日～23日《旭高原瞑想ミニセミナー》旭高原少年自然の家
12月23日　AM9:30 参加者全員で下呂水明館へ移動
12月23日～25日《第117回エルランティの光セミナー》下呂水明館

1997年（平成9年）

1月　エルメッセージ資料版発行
1月12日～14日《第118回エルランティの光セミナー》遠鉄ホテルエンパイヤ
　　去年は、自分が狂っていることを確認してきました。
　　今年は愛とは何かを理解していく年です。
1月26日～28日《第119回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
2月11日～13日《第120回エルランティの光セミナー》岡山鷲羽グランドホテル
　　今年は「愛とは何ですか」がテーマです。
2月23日～25日《第121回エルランティの光セミナー》熱海ニューフジヤホテル
3月1日　冊子『エルランティの心II』発行

3月　冊子+カセット『エルランティの心II』発行
3月9日～11日《第122回エルランティの光セミナー》ホテルレークビワ
3月23日～25日《第123回エルランティの光セミナー》霧島国際ホテル
4月6日～8日《第124回エルランティの光セミナー》ホテルナーながやま
4月20日～22日《第125回エルランティの光セミナー》遠鉄ホテルエンパイヤ
5月11日～13日《第126回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
5月25日～27日《第127回エルランティの光セミナー》熱海つるやホテル
6月8日～10日《第128回エルランティの光セミナー》鷲羽グランドホテル
6月22日～24日《第129回エルランティの光セミナー》下呂水明館
7月3日～8日《第10回反省実習セミナー》旭高原少年自然の家
7月21日～23日《第130回エルランティの光セミナー》丸蜂観光ホテル
8月3日～5日《第131回エルランティの光セミナー》ホテルレークビワ
8月15日　冊子『平和への伝言板』発行
8月17日～19日《第132回エルランティの光セミナー》熱海ニューフジヤホテル
9月7日～9日《第133回エルランティの光セミナー》玄海ロイヤルホテル
9月20日～25日《第11回反省実習セミナー》旭高原少年自然の家
10月12日～14日《第134回エルランティの光セミナー》ホテルレークビワ
10月24日～26日《第135回エルランティの光セミナー》愛知ホテル明山荘
11月9日～11日《第136回エルランティの光セミナー》霧島国際ホテル
11月24日～26日《第137回エルランティの光セミナー》熱海後楽園ホテル
12月7日～9日《第138回エルランティの光セミナー》宝塚グランドホテル
12月23日～25日《第139回エルランティの光セミナー》下呂水明館

1998年（平成10年）

1月11日～13日《第140回エルランティの光セミナー》ホテル明山荘
1月25日～27日《第141回エルランティの光セミナー》ホテルレークビワ
2月8日～10日《第142回エルランティの光セミナー》瀬戸内国際マリンホテル
2月22日～24日《第143回エルランティの光セミナー》熱海ニューフジヤホテル
3月8日～10日《第144回エルランティの光セミナー》霧島国際ホテル
3月22日～24日《第145回エルランティの光セミナー》石川ホテルながやま
4月5日～7日《第146回エルランティの光セミナー》熱海ニューフジヤホテル
4月19日～21日《第147回エルランティの光セミナー》遠鉄ホテルエンパイヤ
5月10日～12日《第148回エルランティの光セミナー》丸蜂観光ホテル
5月24日～26日《第149回エルランティの光セミナー》ホテル明山荘
6月7日　冊子『子供たちは今…』発行
6月7日～9日《第150回エルランティの光セミナー》熱海つるやホテル
6月21日～23日《第151回エルランティの光セミナー》下呂水明館
日本で三つのことが形を変えていきます。
7月5日～7日《第152回エルランティの光セミナー》玄海ロイヤルホテル
7月19日～21日《第153回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
久しぶりの琵琶湖会場で550名が参加。
8月2日～4日《第154回エルランティの光セミナー》熱海ニューフジヤホテル
8月18日～20日《第155回エルランティの光セミナー》ホテル明山荘
8月28日～30日　全国で大雨、茨城県等で河川が氾濫。２日間で死者13人、行方不明3人、家屋全半壊48、家屋23棟と19橋が流失。
9月6日～8日《第156回エルランティの光セミナー》ホテル華の湯
9月23日　冊子『よみがえれ地球！！』発行
9月23日～25日《第157回エルランティの光セミナー》熱海ニューフジヤホテル
この会より、座席が抽選方式となる
10月11日～13日《第158回エルランティの光セミナー》北陸山中温泉翠明

10月25日～27日《第159回エルランティの光セミナー》遠鉄ホテルエンパイヤ
11月　冊子『心がとらえた医学の進歩』発行
11月8日～10日《第160回エルランティの光セミナー》熱海つるやホテル
　チャネラーの誓約書
11月23日～25日《第161回エルランティの光セミナー》霧島国際ホテル
　U・T・Tを明かしていくチャネラーの仕事（UFO、天変地異、田池留吉）
12月6日～8日《第162回エルランティの光セミナー》宝塚グランドホテル
12月23日～25日《第163回エルランティの光セミナー》下呂水明館

1999年（平成11年）

1月10日～12日《第164回エルランティの光セミナー》ホテル明山荘
　参加者にインフルエンザ感染者が多くでる。
1月24日～26日《第165回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
2月7日～9日《第166回エルランティの光セミナー》霧島国際ホテル
2月19日　カセット＋冊子『エルランティの心III』発行
2月21日～23日《第167回エルランティの光セミナー》ニューフジヤホテル
3月7日～9日《第168回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
3月22日24日《第169回エルランティの光セミナー》遠鉄ホテルエンパイヤ
4月4日～6日《第170回エルランティの光セミナー》熱海ニューフジヤホテル
4月18日～20日《第171回エルランティの光セミナー》ホテルながやま
5月9日～11日《第172回エルランティの光セミナー》ホテル華の湯
5月23日～25日《第173回エルランティの光セミナー》ホテル明山荘
6月6日～8日《第174回エルランティの光セミナー》熱海つるやホテル
　波動の分かるチャネラーの出現を期待します
6月20日～22日《第175回エルランティの光セミナー》下呂水明館
7月4日～6日《第176回エルランティの光セミナー》遠鉄ホテルエンパイヤ
7月20日～22日《第177回エルランティの光セミナー》宝塚グランドホテル
8月1日～3日《第178回エルランティの光セミナー》熱海つるやホテル
8月17日　トルコ西部大地震　日本からも救援隊が向かう。死者15000人以上。
8月22日～24日《第179回エルランティの光セミナー》玄海ロイヤルホテル
9月　エルメッセージ・資料版は32号をもって廃刊。
　エルメッセージは引き続き発行。
9月5日～7日《第180回エルランティの光セミナー》ホテル明山荘
9月19日～21日《第181回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
9月21日　台湾中央で大地震死者・行方不明4800人（10月22日にも）。
10月11日～13日《第182回エルランティの光セミナー》ホテル華の湯
10月24日～26日《第183回エルランティの光セミナー》ホテルながやま
10月28日　岩手県軽米町の豪雨住家被害で全壊25棟、半壊5棟、床上浸水446棟。被害総額は260億1734万円と町予算の約4年分に匹敵。
11月7日～9日《第184回エルランティの光セミナー》熱海つるやホテル
11月23日～25日《第185回エルランティの光セミナー》宝塚グランドホテル
11月23日　冊子『生と死1』発行
　（臨終間近の上田篤孝さんの意識を本人了解のもとに）
12月5日　『メッセージ集1』の発行
　（174回～178回セミナーの巻頭メッセージを掲載）
12月5日～7日《第186回エルランティの光セミナー》霧島国際ホテル
12月19日～21日《第187回エルランティの光セミナー》下呂水明館

2000年（平成12年）

1月9日～11日《第188回エルランティの光セミナー》遠鉄ホテルエンパイア
1月30日～2月1日《第189回エルランティの光セミナー》霧島ロイヤルホテル
2月20日　『メッセージ集2』の発行
　（179回～181回セミナーの巻頭メッセージを掲載）
2月20日～22日《第190回エルランティの光セミナー》宝塚グランドホテル
3月12日～14日《第191回エルランティの光セミナー》熱海つるやホテル
3月20日～23日《第12回反省実習セミナー》近江八幡国民休暇村
3月31日　有珠山が噴火。噴火予報が出されていたため、住民は既に避難済みで人災は無し

2001年9月11日　アメリカ同時多発テロ

4月　株式会社エルのホームページ開設
4月2日～4日《第192回エルランティの光セミナー》ホテルながやま
4月23日～25日《第193回エルランティの光セミナー》玄海ロイヤルホテル
5月14日　『メッセージ集3』の発行
（182回～185回セミナーの巻頭メッセージを掲載）
5月14日～16日《第194回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
6月　パンフレット『エルランティの光セミナー』新版発行
6月～　田池先生のホームページ「反省と瞑想の時間ですよ」スタート
6月4日～6日《第195回エルランティの光セミナー》熱海つるやホテル
6月25日～27日《第196回エルランティの光セミナー》下呂水明館
7月16日～18日《第197回エルランティの光セミナー》ホテル明山荘
8月5日『講話集1』発行　ハードカバー
8月6日～8日《第198回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
8月27日～29日《第199回エルランティの光セミナー》ホテル華の湯
9月10日～13日《第13回反省実習セミナー》近江八幡国民休暇村
9月11日　全国で大雨東海地方で河川が氾濫し6万軒以上が浸水。
走行中の多数の新幹線が立ち往生し数万人が閉じこめられる。
9月24日～26日《第200回エルランティの光セミナー》遠鉄ホテルエンパイア
10月6日　鳥取県西部地震 M7.3。震度6。
10月9日～11日《第201回エルランティの光セミナー》ホテルながやま
10月29日～31日《第202回エルランティの光セミナー》熱海つるやホテル
11月19日～21日《第203回エルランティの光セミナー》霧島国際ホテル
12月10日～12日《第204回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
12月24日～26日《第205回エルランティの光セミナー》下呂水明館

2001年（平成13年）

1月8日～10日《第206回エルランティの光セミナー》遠鉄ホテルエンパイア
1月26日　インド西部で大地震死者行方不明者は2万人以上。
1月28日～30日《第207回エルランティの光セミナー》霧島ロイヤルホテル
四次元への移行の準備を始めてください

2月18日　『講話集2』発行　ハードカバー
2月18日～20日《第208回エルランティの光セミナー》宝塚グランドホテル
3月11日～13日《第209回エルランティの光セミナー》熱海つるやホテル
3月24日　芸予地震M6.4．最大震度6。死者2名、負傷120名以上。
3月26日～27日　田池先生を囲んで　和歌山南部へ紀州南部ロイヤルホテル
4月1日～3日《第210回エルランティの光セミナー》石川　ホテルながやま
4月20日　『反省と瞑想の時間ですよ』No. 1　発行
4月22日～24日《第211回エルランティの光セミナー》玄海ロイヤルホテル
4月22日～24日　自費出版『心の軌跡』（キョウコサエグサ著）発行
5月13日～15日《第212回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
5月23日　『反省と瞑想の時間ですよ』No.2　発行
6月3日～5日《第213回エルランティの光セミナー》熱海つるやホテル
6月22日　『反省と瞑想の時間ですよ』No.3　発行
6月24日　『講話集3』発行　ハードカバー
6月24日～26日《第214回エルランティの光セミナー》下呂水明館
7月15日～17日《第215回エルランティの光セミナー》ホテル明山荘
7月23日　『反省と瞑想の時間ですよ』No.4　発行
8月5日～7日《第216回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
8月26日～28日《第217回エルランティの光セミナー》熱海つるやホテル
9月11日　アメリカ同時多発テロ
9月16日～18日《第218回エルランティの光セミナー》遠鉄ホテルエンパイア
10月8日～10日《第219回エルランティの光セミナー》ホテルナーながやま
10月23日　『反省と瞑想の時間ですよ』No.5　発行
10月28日～30日《第220回エルランティの光セミナー》熱海つるやホテル
11月18日～20日《第221回エルランティの光セミナー》霧島ロイヤルホテル
12月9日～11日《第222回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
12月24日～26日《第223回エルランティの光セミナー》下呂水明館

2002年（平成14年）

1月6日～8日《第224回エルランティの光セミナー》遠鉄ホテルエンパイア
1月20日～22日《第225回エルランティの光セミナー》霧島ロイヤルホテル
1月28日　『反省と瞑想の時間ですよ』No.6　発行
2月11日～13日《第226回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
2月24日～26日《第227回エルランティの光セミナー》ホテル明山荘
2月25日　茨城県波崎町（現神栖市）でカズハゴンドウイルカ約85頭が砂浜に打ち上げられる。2年後の「有馬ありがとう会」で田池先生が話題に。
3月10日～12日《第228回エルランティの光セミナー》ホテルながやま
3月24日～26日《第229回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
4月　SARSウィルスの流行全世界のSARSの感染者が5,000人を突破し、死者も300人を突破する。
4月7日～9日《第230回エルランティの光セミナー》ホテル明山荘
4月21日～23日《第231回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
4月24日　『反省と瞑想の時間ですよ』No.7　発行
5月12日～14日《第232回エルランティの光セミナー》福岡玄海ロイヤルホテル
「エルランティ」は死語となると田池先生が発言。
5月26日～28日《第233回エルランティの光セミナー》ホテルながやま
6月09日～11日《第234回エルランティの光セミナー》琵琶湖グランドホテル
6月23日　『講話集4』発行　ハードカバー
6月23日～25日《第235回エルランティの光セミナー》下呂水明館
株式会社エル主催、最後のセミナー
6月末　大阪研修センター、東京研修センター、心の相談室を終了
7月1日　冊子『UTA会セミナー資料1』発行
7月1日　冊子『UTA会セミナー資料2』発行
7月1日　冊子『UTA会セミナー資料3』発行
7月10日～12日　株式会社エル解散　富士慰安旅行
7月22日　『反省と瞑想の時間ですよ』No.8　発行
7月26日　宮城県を中心に、一日で3度も震度6級の地震。重軽傷約650人。

ここで「死」ということに触れてみましょう

Let's touch upon "death"

あなたは自分の死をどのように受け止めておられますか。真っ直ぐに真正面から死と向き合えますか。死というものを忌み嫌い、自分の死を見つめていけない心があるのではないでしょうか。まだ若いからそんなこと考えたことがないと言われる方も、死は突然にやってくるということが考えられませんか。また、若いから死にたくないのではなく、年齢を重ねていてもその肉にしがみついている方はたくさんおられます。そして、健やかに長寿であれば幸せだと思っています。死ぬまで元気で、死ぬ時はコロリと逝きたいと、みんな願っています。

みんな、その肉だけが自分だと思って生きてこられた結果、その肉を離すことに恐怖の思いをしっかりと持っています。過去に何度も味わってきた恐怖が、あなたの心に記憶されているからです。だから、若いうちはもちろんのこと、年齢を重ねても死と真向かいになれないのです。

ありがとう、心からその思いで自分の肉体細胞を思い、慈しみながら、その肉を離していく人は一体どれくらい、いらっしゃるでしょうか。ただ単に、命を永らえるために薬漬けの日々を送っている人も多くいます。しかし、不老長寿の薬などありません。いつかは必ずやってくる死です。心に不安と恐怖の思いを抱え、最後に縋るのは神、仏でしょうか。そんなことは空しい、哀れなことだと思いませんか。それよりも、しっかりと自分の歩いてきた人生を振り返る時間の中で、真実を知っていかれ、本当にありがとうございましたと、その肉を離していくことができたなら、どれほど幸せなことかと思われませんか。

あなたが生まれてきたのは偶然でもなく、必要があったからその今の肉をもらってきたのです。あなた自身が望んだ環境、その他すべてを選んで今のあなたがそこにいるのです。真実を知らずに、また、あなたは今世もその肉を閉じていくのでしょうか。(『意識の流れ』より抜粋)

How do you perceive your own death? Can you face death honestly and straightforwardly? Is there a part of you that despises and avoids thinking about it? Even if you may still be young, death can creep up without notice. The fear of death is indiscriminate towards age. There are elderly clinging on to the physical form wishing for longevity. If death does come, they want it to be swift and painless.

For those who believe the physical form as truth, the fear of letting go is definite. The past memories of death are embedded into our hearts through fear. This is why neither the young nor elderly cannot face death honestly.

How many can let go of their physical form, truly being thankful and loving towards their physical body and cells? Many only become reliant on medication to prolong their lives. However, elixirs for immortality do not exist. Death comes inevitably. With anxiety and fear in our hearts, is it God or Buddha that we cling to in the end? Does this not seem empty and pitiful? What if we could reflect on our lives, know the truth, and let go of our physical form, truly saying thank you. Would this not be amazing?

You were not given birth out of coincidence rather necessity. Everything, including the environment around you, is what you have chosen and the reason you exist. This lifetime, will you decide to end your physical form again while not knowing the truth?

(Excerpt from "Flow of Consciousness")

第3章 心のタイムカプセル

※ここでは､「エルニュース」「エルメッセージ」「母を思う､神を思う」等々の冊子類をもとに、学ばれている皆様方の当時の思いを、当時に書かれたままに紹介します。

キーワード 1. 死ぬということ

死後の世界を体験して（大阪府）／1997 年 11 月 22 日

昨日、会社の帰りに息ができなくなってしまいました。肺炎を起こしかけていたのがその原因の一つですが、息ができず、咳が止まらず、家にたどり着くこともできずに、途中で倒れてしまいました。その２日前、主人の祖母と大喧嘩をしてしまい、ものすごい波動を出しました。「返ってきたなあ」と思いつつ、どんどん意識が遠くなってしまいました。

気が付いたのは、それから３時間後ぐらいでした。その間、私は自分の肉体がなくなってしまいました。誰を呼んでも返事がなく、また誰の声も聞こえませんでした。自分という感覚はそこにあるのに、肉体がありませんでした。そして、次第に自分は死んだんだと思いました。「今世も失敗やった。今世も失敗やった」と後悔しました。後悔しても、後悔しても、もう元には戻れないんだと思いました。私がいたあの世界は、暗い暗い世界でした。どこを見渡しても誰もいませんでした。ただ苦しさだけがそこにありました。先生から「死んだらわかります」と、よく講話の中で聞いていたけど、私はやっぱり死んだら終わりだと思ってました。だけど、そうではないことを体験しました。

私が死にかけている間、チューブを鼻からさしたり、点滴をさしたり、痛みとかまったく感じませんでした。「私」という感覚はあるのに、私の肉体はありませんでした。意識が本当の私であるということが初めてわかりました。先生の言ったことが、本当に本当のことだと思いました。今まで頭でわかっていたけど、心から信じていませんでした。先生の言うことは本当でした。私がどんな世界で生きているのかわかりました。

そして同時に「死んだら一人や」と思いました。母も父も、夫も友達も、そんなん誰もいない世界に行くのだと思いました。誰を呼んでも誰も来てなんかもくれない。真剣にこの学びをしようと思いました。命懸け、その意味がほんの少しだけわかったような気がします。私が生きているこの世界がつくりもので、本当に私のいる世界は､あそこなんですね。どんな宗教をしても､どんなお祓い､戒名をもらっても救われないと思いました。イエスもブッダも、もし呼んだとしても救ってなんかくれないと思いました。坊さんのお経なんか届くはずもないと思いました。自分が今生きている心の世界に自分が行くんだと思いました。そして、肉がなければ心は見られないと思いました。心を見るために、今生きている世界が存在するのだと思いました。

先生の言っていることは、すべて本当でした。「今まで信じていなくて、ごめんなさい」と泣けてきました。私はまだ何もしていない。母の反省も､そして､何より田池留吉に心を向けていない。「ご

めんなさい。ごめんなさい」と泣いていたら、急に腕の痛みが襲ってきて、私は肉体に戻りました。夫が泣きそうな顔をしていました。お医者さんが５人ほどいて、絶えず私の肺音を聞いていました。

後で看護婦さんと先生から「何を失敗したの？　謝って泣いていたけど、仕事で失敗でもしたの？」と言われ、「そうじゃない」とも言えず、笑いました。

私を運んでくれた方が、私をよく知ってくださっている方で、10年間通っている大学病院の心療内科に運ぶように救急隊員の方に言ってくださり、私は他の病院で身体にメスを入れられなくて済みました。「ああ、うまくなっているのだ」と、何か知らない力が働いたようにも思いました。主治医からも、「他の病院に運ばれなくてよかった」と言われ、つくづく何かわからない力を感じました。

これが愛なんですね、先生。肉が本物と信じている私に、田池留吉が教えてくれたんですね。あれだけ憎くて、殺してやりたかったおばあちゃんが、いちばん大きな愛だったんですね。心の底で、今、少し思えます。

今回のことを、もっと掘り下げて見ていこうと思います。そして、いつか本当に心の底から「ありがとうございました」と言いたいです。もう一度、一から始めます。

叔母の自殺から（神奈川県）／1998年9月7日

福島セミナーに参加しようと家を出ようとした朝、同じ団地の1階に住む一人暮らしの男性が、部屋から死体で発見された。どうも自殺らしい。妻に逃げられ、子供たちも家を出てしまい、さびしい一人暮らしに絶望してのことだろう。出かける時、団地前の広場には、普段、彼と付き合っていた男連中が、重い顔を寄せ合っていた。そんな男連中に「行ってらっしゃい」と送られるような形でセミナーへと向かうこととなった。

この少し前も、この男性の１軒右隣に住む老人が死んだ。やはり一人暮らしの男性だ。身寄りもなく、近所の人が部屋の中を整理すると、「赤旗」に掲載する原稿が山のように出てきたという。人知れず原稿を書き続けていたのだろう。昔は大手企業の組合活動の委員長だったという。付き合いもあまりなく、これも孤独な「死」ではあった。そう言えば、隣の棟で、酔って暴力を振るう夫を、妻がバットで殴り殺した事件も、まだ耳に新しい。自分のすぐ近くで、急にいろんな形で「死」が形を表してくる。まるで「死」に追いかけられているような感じだ。本当に人ごとではない。

１ヶ月前のことだ。母親から職場に電話が入り、叔母が自殺したという。鉄火肌の人で、私が小さかった頃は、木場で働く渡世人と同棲していた。この男性とは結婚こそしていなかったが、私には本当の叔父以上に身近に感じられた人だった。随分、かわいがってもらった。何度かの水害の時、叔父の背中に負ぶされて水の中

を避難していった記憶が、今もありありと甦ってくる。その叔父とも早くに死に別れ、叔母はその後、兵庫県の川西に移り住み、最近は、ある男性と暮らしていた。しかし、その男性は妻子ある人で、妻や子を捨てて叔母と暮らしていたのだという。

その男性も、やがて元の家族のもとに帰った。叔母はまた一人になった。親戚からも疎んじられ、母だけが唯一の話し相手だ。母は、この叔母が、他のどの姉妹よりも好きだ。この私にも「さびしくしているから連絡してやってくれ」と、何度か頼んでいた。しかし、父はこの叔母が嫌いだ。

母は父の目を盗むようにして、私に電話をしてくる。

「おばちゃんに電話したって……」って。

私に代わって妻が、子供の写真や手紙を送ってくれていたが、私自身は、忙しさにかまけて、電話一本するわけでもなく、放りっぱなしという状態だった。その叔母が自殺したという。車で生まれ故郷の萩 (山口県萩市) へ帰り、そこで死んだと言う。

母は、電話口で、「葬式はしてへん。骨は四天王寺さんへ納めてもろたから……」と話しながらも、「おばちゃんのこと供養したげてな。おまえ、いつも言うてるやろ。心の勉強してんねんやろ。おばちゃんに心を向けたげてなあ……」、何かそう言われてるようで、私自身も、何とかおばちゃんに心を向けていきたいなあ、そう思いながらも、ただ日にちだけが過ぎていった。

そんな矢先の団地の自殺事件だった。それも、福島セミナーへ向かう日の朝に……。

福島セミナーのテーマが「死」についてであり、「供養」についてである。橋本駅に向かうバスの中で、そんなことを漠然と思っていると、いろんな「死」が心に浮かび上がってきた。最初は、中学、高校の頃、親しかった叔父や叔母が次々と死んだこと、次いで一緒に暮らしていた動物たちの死が、人間の時以上に、鮮明に、つい昨日のことのように思い出されてくる。

小学 5 年の時、犬のシロが死んだ。シロがまだ子供の頃、みんなが「シロ、シロ」とシロばかり可愛がり、私はシロに嫉妬し、「シロなんか死んでしまえ」と思ったこともあった。そのシロが死んだ。学校から帰ってくると、母が「シロが死んでしもた」と言う。驚いて小屋へ走ると、小屋の中にシロがぐったりと横たわっていた。そっと頭を撫でてやると、それを待っていたかのようにシロの口から血が流れ出した。母がボソっと「待ってたんやなあ」と言った。

神奈川へ引っ越してから一緒に暮らすようになった犬のチップ……。そのチップは、私の目の前で車にはねられた。チップの死体を抱いて家へ帰る一歩一歩の足どり。その自分の頭の上に真っ青な夏の空があった。夜を待って、息子と 2 人して裏庭に穴を掘ったこと、とめどなく異語と涙が溢れてきたこと、まるで昨日のようによみがえってくる。

小さな空き瓶の中で飼っていた蟹の姿まで浮かんできた。その蟹は、餌をやるのを忘れて狭い瓶の中で死んでしまった。川へ放

してやろうとしていた矢先だった。忘れたというより、わずらわしくなったのではないだろうか。拾うだけ拾ってきて面倒を見ない子供たちに怒っていたのかも知れない。その結果、蟹はあの狭い瓶の中で死んだ。瓶に白い腹を見せる蟹の姿が本当に生々しくよみがえってくる。自分が嫌でたまらなくなる。

私がアメリカセミナーに行ってる間に、さびしくて餌を食べなくなった文鳥のプー。その朝、ニュージャージーのホテルの広場で、小鳥たちのさえずりを聞きながらプーのことを考えていた。「帰ったら、また遊ぼう」と話しかけていた。

でも、その日、プーは死んだという。

何か自分を取りまく親しい友人たちが、次々と自分の目の前で死んでいったような感じだ。本当に過去世でこんなことがあったんだと思う。私の目の前で、たくさんの仲間が、たくさんの大切な友人が、ある時は私の責任で、ある時は事故で、ある時は戦いの中で、みんな死んでいった。私の前から消えていった、そんな記憶が、ぼんやりと形を成してくる。

福島セミナーの現象の中で、「死」を憤り、「死」を悲しみ、「死」に恐怖しながら、「死んでたまるか!」と、「死」そのものに怒りをぶつけている自分があった。

福島セミナーの会場となった「ホテル華の湯」。ホテルに着いた時、まず目に付いたのが、下弦の三日月模様。ホテルの中の飲み屋の暖簾に、またロビーの飾りやモビールに、そんな三日月模様

福島セミナーの会場となった「ホテル華の湯」

を見つけてゾクゾクッと寒けを感じた。

「まるで回教徒の半月旗だ」、そう言葉にした時、体中に鳥肌が立った。闇出し現象に出た時、そんなことが思い出され、まず心を向けたのが、「アッラー」であり、セルジュクトルコの「半月旗」だった。最初の内は、アッラーへの敵愾心(てきがいしん)がムクムク湧き起こり、戦いのエネルギーの中で、「負けてたまるかーッ」と狂っている自分を感じていた。それが闇出し現象が続く中で、田池留吉の存在を感じ出した頃から、様子が一変した。

自分が恐れ、戦っていたのは、回教徒でもなく、アッラーでもなかった。自分は、いつしか「死」そのものに戦いを挑んでいた。

自分の敵は回教徒でも、アッラーでもなく、「死」そのものだった。死に打ち勝つために敵を殺した。敵を殺すことで「死」から逃れられ、「死」に打ち勝つことができた。「死んでたまるか」「死にたくない」「俺は死なない」「あいつらのように死にたくはない」……と、「死」そのものにわめきたて、剣を振り上げていった。

今、目の前を、私の目の前で死んでいった友たちの顔が過ぎる。その顔がハッキリ形をなしそうで、形とならず、白いもやの中で、ただぼんやりと存在だけが感じられた。

「死」が追いかけてくる。「死」がのしかかってくる。「死なんか怖くない」「いつでも死んでやる」、そう叫びながら、「死」を受け入れられない自分が浮き彫りになってきた。

私のガンに対する思い（大阪府）／1997年5月30日

私の家庭は父、母、姉と３人がガンで亡くなっています。私はその悲惨な経過と最期の姿を見てきました。

医者にガンだと診断されたら、本人も、家族の者もびっくりして、医者の方針に頼ってしまいます。それは世間一般、当たり前のことだと思います。医者はガンの治療法がいまだにわからないのです。ただ悪いところを切り取って、後は抗ガン剤と放射線治療でいかにガンが繁殖しないか、それを見ているだけのように思います。ガンをあわててモグラ叩きみたいに叩きつぶしているだけです。

本当は医者自身が一番、ガンに恐怖しているみたいです。

患者も医者の一言一句に恐怖し、強い薬に振り回されます。手術の前日までは元気でいつもと何ら変わらずに過ごしていた人が、手術をしてしまったら、まるっきり人が変わったように弱ってしまって、薬の副作用で食事は全く受け付けない、ゲーゲー嘔吐する、髪の毛は抜けてしまう、全く哀れな姿になって、病院の人になってしまうのです。

そんな厳しい試練に打ち克って、たとえ元気になったとしても、切った体は元に戻らず、再発の恐怖と戦って生きていくのです。そして、やがて死ぬときは、手術した人が楽に死ねるのでもない、誰もが同じガンの症状が出て、死んでいくのです。

私は３人のその姿を見て、「ガンになっても医者のお世話にはなりたくない」と思いました。なぜなら医者も治す方法がわからないのです。医者自身が「ガンの患者」になったら、ただ恐怖しているだけなのです。そんな医者に自分の体を任せることは私は出来ないと思いました。でも母のように直腸ガンになって出血する、便が出なくなる、このまま放っておいたら、尿毒症になって命が危ないと言われたら、医者に頼らざるをえなくなってしまう。私もガンにならないとは言えない、そんなガンにだけはなりたくないな……と思っていました。

その私が乳ガンと診断されました。

自分でもそうだろうと思いましたが、さすがにガンと宣告された

時は、「やっぱり！」とショックを受けました。でも今は何の自覚症状もない。私が案じていたような、出血が止まらないようなガンではないので、むしろ、ああよかったと思いました。私は医者の実験材料にされることから逃れられたのがうれしかったのかもしれません。これからどんな症状が出てくるか、それはわかりません。症状がひどくなってきて、痛みが出てきたときは、それはもう死が間近だと判断して、痛みだけは医者にお願いして止めてもらって、死を迎えられたらと思っています。

ガンは医者が治せるものではないと思っています。ガンは、私の心が、私の使ってきたエネルギーで、私の肉体が病んだのだと思います。それなら、マイナスエネルギーを止めて、治すプラスエネルギーをこの体に流せば良いと思いました。それにはまず、ガンをつくったエネルギー、それを反省すれば治ると思っていました。

「治す」……その心は肉に向く心でした。全く他力でした。他力信仰そのままの心でした。私の心は全く肉にしがみついていました。神なんて何も信じてはいませんでした。ガンは医者は治せない、神を信じて反省して、夫に手を当ててもらったら治ると思っていました。治すならこの方法しかないと思いました。やはり治すことを考えました。間違っていました。

ガンを宣告されて１カ月が経ちました。この１カ月は私にとって多くの気付きを頂きました。神に向いてると思っている心のピントずれ。うわべだけの反省。私は出来てるという思い上がり。一つひとつが、１カ月を振り返ればその通りでした。死を間近にしていつまでも肉に執着する私に、少しでも間違いに気付いて、真剣に神を信じる信を培って、死を迎えられる、そんな機会を与えてもらえた神の愛だったと感謝しています。

本当にありがたいガン宣告でした。

今はもうガンにとらわれてはいません。それは今、何も痛みがないからだと言われればそうかも知れません。先のことは何もわかりません。でも、今こうして元気で夫とセミナーに参加出来て、共に学び、間違いに気付かせてもらえることが何よりもうれしいです。

第126回大阪セミナーで３日間、生き方、死に方について、懇切丁寧にお話しされました。あのテープを何回も聞き直して、自分の心を裏切らないように、神を信じていきたいと思います。

朽ち果てていく父の姿（京都府）／1995年２月12日

先日、父を送りだしたことを報告させていただいてから、私の

心の中の田池先生の虚像が崩れていく感覚がありました。先生の肉の姿を崇めている私の心があると分かっていても、なかなかに崩すことができませんでした。祭り上げ崇拝する、この自分の心が分かってはいましたが、決して、この肉の私が力んでもできないことでした。

日に日に、朽ち果てゆく父の姿に、私は、何に気付いていかなければならないのか、そう思っても、この肉の私はぼんくらで何も分かりません。しかし、その中で、いつも私が使い続ける思い、私ほど親思いはないとばかりに、親を送るまでには、たとえ、ほんのわずかであっても、なぜ、人間は生まれてくるのか、どうして苦しみが生じるのか、その真実を知りたいと、長い間思い続けてまいりました。

そして、この学びに出会いました。しかし、この私にはなかなか分からない学びでした。知りたい、分かりたいと思っている間は、何も分かりませんでした。

でも、父を送るにあたり、多くの気付きが与えられました。この愚かな肉の私が頑張って生きているとばかり思っておりました。もう、そのことはとっくに分かっているつもりでしたが、この心には何も分かりませんでした。

すべてがこの学びへと繋げるための計らいがなされておりました。そのことを感じたとき、私の心には、ただ、ありがとうという思いがいっぱいでした。私は、これほど許されてきたのだと思えてなりませんでした。

こんなうれしい感謝の思いを感じるなんて、これまでの私には、とても想像もつきません。とにかく、この母といられることが、これほどうれしいことだとはこの歳になるまで、この心でうれしいと思えるなんて夢のようです。うれしいんです。

そして、父のお葬式に、お坊さんも、お経も要らない、それは、自分の心でなぜ必要でないのか、はっきりと確信を得たもの、マイナスになることが分かったことだけは、親戚、兄弟などの反対が出ることを覚悟のうえで母に話してみました。

そのうえで、お互いに譲歩できる範囲で形を整えることができました。

それから母が、何がどうなったのか分かりませんが、「私は、その学びに集うことはできないが、あんたは、その学びを喜んでしなさい」と、一番の理解者に変わってしまいました。

これこそが、真実、自分自身を救う学びであることを、はっきりと自覚するときを頂きました。これから、新たなる出発へと心を見続けてまいります。ありがとうございます。

叔母の亡骸と対面して（東京都）／1996年2月19日

今回、目黒・鎌倉合同ミニセミナーの前々日に父の妹が亡くなったと連絡が入り、私の心は大きく揺れました。叔母はくも膜下出

血で49歳の若さでした。叔母が金曜日に亡くなり、次の日２月３日が節分と友引が重なったため、お通夜とお葬式が１日延びました。当然セミナーには不参加となり、その旨を主催者である加藤さんにお電話したところ、とても暖かな思いで受け止めてくださいました。奥様がご自分の体験と共に「セミナーだけが学びの場ではなく、以前葬儀に参列したとき自己供養を学びました」と、励ましてくださり、とてもうれしく心強く思いました。

　どこまで自分の心を見つめられるかわからないけど、心を見るために私に与えられた教材として、今回の出来事を受け止めてみようと思いました。しかし、実際葬儀の間はあわただしく、じっくりと心を見つめることは難しく、断片的にしか心の苦しみと向かい合うことができませんでした。１週間経って、やっとそのとき出した思いを振り返ってみようと思いました。

　神奈川の叔母の家に着いたとき、むせ返るほどの線香の匂いに包まれた。私はいつもと違う雰囲気に多少戸惑いましたが、神、エルランティ田池に心を向けることだけは、忘れないようにしようと思いました。しかし、はっきり言って心は不安と緊張でいっぱいでした。不思議なことに今まで葬儀とは縁が薄く、過去において一度しかお通夜の席に参加したことがありませんでした。だから、今回初めて親族の死を目の当たりにしたのです。祭壇のある部屋に行き、お参りをし、その後に従姉妹がレース飾りの付いたハンカチを取って、叔母の顔を見せてくれました。叔母はきれいにお化粧され、ただ眠っているように見え、今にも起き上がりそうな感じでした。皆は口々に叔母の死に顔を褒(ほ)めました。何の苦しみもなく死んだから、安らかな顔だと言いました。でも、私は違うと思いました。叔母に意識を向けると、ただただ真っ暗闇の中で苦しみ喘ぎ、「死にたくない、死にたくない」と連発していました。(それは私の心の叫びであることに、後から気付きました。)

　しかし、私は叔母の叫びを聞きながら、もっと冷たい心を出していました。私は叔母の亡骸(なきがら)を見た瞬間、心の底から恐怖の絶叫を上げていました。言葉にならない恐怖の叫びを上げていました。その心がどこから来るのかはっきりと確認することもせず、ただひたすら脅えていました。神、エルランティ田池に心を向けようと思っても、それどころじゃありませんでした。自分の身を守るのに必死でした。

　私が次に出した心、それは叔母に祟(たた)られてはいけないという思いでした。死者を目の前にして、私が出したのは、そんな心だったのです。ショックでした。その思いに気付いたとき、私はショックでした。私は一体何を学んできたのかと思いました。ここに来る前は、嫌う思いもあるけれど、「叔母さんも、私も神の子ですよ、共に光に帰りましょう」と語りかけるつもりでいたのに、何一つとして語ることができませんでした。

　そのとき私は思いました。神、エルランティ田池って、本当に

心の底から信じていないと呼べないのかなって……。そう思う一方で、叔母が私の過去からつくり上げたすさまじい恐怖心を、今死した肉体を通して見せてくれているような気もしました。だけど、いったん出た恐怖心は止まるところを知りません。そのピークは死に水を勧められたときでした。私の心からは怖いという思いしか出てきません。肉では平静を装っていましたが、心は気が狂いそうでした。母と従姉妹の目がなければ、その場から逃げ出していたでしょう。

この瞬間に、私の様々な思いが凝縮されていました。私はここまで、自分が生や肉体に対して、ものすごい執着を持っているとは思いませんでした。気付けませんでした。

この学びに出会う前は、簡単に死ぬことを望んでいたのに……。叔母に対して出した心、それはすべて私でした。すべて私が過去から引きずってきた思いでした。

昨日に引き続き、形にこだわる私でした。私は叔母の家で、いろいろなものを観察していました。叔母の枕元に白い着物と数珠と藁草履が置かれ、胸には短刀が置かれていました。母になぜ短刀が置かれているのかと尋ねたら、それは魔除けだと言われました。私は一体何を払うのか疑問でした。

私はこの学びを通して、死後の世界を知識なりとも学んだので、形にこだわる葬儀の形式に反発と疑問を感じました。様々な儀式に自分が組み込まれる中で、本当の供養とは何か漠然と考えていました。

立派な祭壇を目の前にして、本当に死者はこれで喜んでいるのだろうか。また参列している人々は本当にそう信じているのだろうかと、様々な疑問が私の心に浮かんでは消えていきました。

叔母の遺体に触れることを極度に恐れている私に、また機会が与えられました。今度は納棺する前に、手と足を拭き清めてあげるとのこと。少し黄色味を帯びた手と紫色の斑点が出た足を見たとき、一体肉体って何だろうと思いました。何の機能も果たさなくなった肉体を見て、何か不思議な感じがしました。私がいろんな意味において、執着していた肉体の成れの果てを見せられたような気がしました。

やはり田池先生がおっしゃった通り、肉体 (肉の世界) は影なのかなと思いました。そして永遠に消えないもの、それは人の心 (目に見えない世界) ではないかと、改めて感じさせられました。

叔母の肉体は、私に様々な疑問を投げかけ、そして答えを与えてくれたような気がします。さらに親族が嘆き悲しむ姿を見て、人間はこんなに嘆き悲しまれるために生まれてくるのだろうかと思いました。お母さんはそのために、私たちを生んだのだろうかという思いが出て、今何を一番やらなくてはいけないのかを、この心で思い返しました。

最終日。お坊さんが最後のお経を上げました。それを聞いていると、胸がとても苦しくなるのです。お経に意識を向けると、とても冷たいものが感じられました。死者を弔うというよりは、成仏しろ！ とか、生きている我々に災いをもたらせないように、念で封じ込めてやる！ という思いしか伝わってきませんでした。

私たちは死者に対して、こんな冷たい思いしか向けられないのかと思いました。少しさびしい感じがしました。しかし、これは確実に私が使った心でした。過去に僧侶をやっていたら、きっとこんな思いで経を読んでいたと思います。さもありがたそうに経を読み、心の中は死者を牛耳ろうとするエネルギーでいっぱいでした。

思いを巡らせているうちに、滞りなく式は終わり、柩を見送りました。心が少しホッとしたとき、赤ちゃんを抱いてくれるように頼まれました。まだ、生まれて３ヵ月の男の子。暖かな日差しの中で、すべてを委ねきって安らいだ顔で眠っていました。赤ちゃんの波動はとてもやさしくて穏やかでした。何のとらわれもこだわりもない心……。

私の心に変化が起きました。生命って何だろう、生と死って何だろうと、一瞬のうちにいろんな思いが出て、再び赤ちゃんの顔を見たら、叔母さんの顔とダブりました。その瞬間、同じだったと思いました。赤ちゃんの委ねきった顔と、叔母さんの死した顔は一緒だった。叔母さんは神のもと（意識の世界）に帰ったことが直感的にわかりました。

そのとき、うれしくなりました。ああ、私たちはやっぱり神の子だったと思いました。そのことを赤ちゃんが教えてくれました。寝顔を通して教えてくれました。私自身、正直言ってビックリしました。私の心からそんな思いが飛び出してくるとは、思いがけないことでした。姿•形にこだわり、あんなに叔母さんを忌み嫌い、責め裁き、呪いの思いで見つめていた私です。叔母さんと赤ちゃんに感謝の思いでいっぱいになりました。

葬式が消えました（神奈川県）／2000年1月27日

１月８日、静岡セミナー前日の晩、岡山の母の実家で、「伯母が亡くなった」と母から連絡が入りました。もう何年も寝たきりで、肉での意思疎通もままならない状態だったため、いつ亡くなってもおかしくないと言われていた。自分としては、一度、しっかり最後の挨拶をして、それから意識の世界での供養をしていこう、それしかないのだと言い聞かせていた。葬式には出ないと決めていました。

そこで、母に、葬式には行かない旨を言いました。母から何と言われるか予想していましたが、いざとなると、もう絶対行かないという思いだけが先行して、当然のごとく「俺は絶対に正しい、葬式は間違っている」、それと「こんな時期に葬式なんか行っていたら、もうおしまいや、落伍者もええとこや」と、こんな思いでした。

「死んでも行かないぞ」と、母親を説得にかかり、母は怒りと嘆き悲しむ状態で、もう二進も三進もいかない、両者ともどうしたらいいんだという感じで、「わかってくれよ、どうしてわかってくれねえんだ、こんなに説明してんのに、くそったれ！ そんでも説明はしなきゃならねえし、前から言ってるじゃねえか。どう言ったらいいんだ」と、とにかく、もう悔しさやら、情けないやら、怒りやら、何とも言えない思いが、どんどん噴き出してきます。
「今までのツケだな、こりゃ」と思いましたが、とにかく何が間違っているのか、自分の思いをどう変えれば、事態が好転するのか、親に、どう説明して切り抜ければいいのか、その思惑だけが渦巻いていました。親戚と二度と会えなくなる恐怖、さびしさも、もたげてきます。自分にとって、故郷のような場所ですので、そのこともつらくて、今思うと、本当に見当はずれなことを振り回して、苦しみのたうっていました。

セミナー初日の晩、父親から電話があり、覚悟はしていたが、父はもう怒り心頭に発しており、「来ないなら、二度とお前とは会わない」という思いが伝わってきました。
「おしまいかよ、これで。こんなにまでして、葬式に行かないと突っ張ることが愛なのか、わかんねえよ」と情けなくなってきました。「何やってんだ、俺は」と、もう情けなくて泣いていました。「俺って、つくづくどうしようもねえな」と思いました。どうしたいのか、自分でも迷いだして、「何とか打開策は」と思いながら、肉の都合ばかりが頭に浮かびました。

結局、「明日、12 日の葬式に行くかどうか返事します」と、電話を置きました。

出てくる思いを反省？ したり、瞑想したり、メッセージを受けてみたり、結局は、この苦しい事態を何とかしたいという思いで、いろいろやっていました。心で、これと納得できる答が出ない。出るわけなかった。全部、肉の都合だった。他力でした。

2 日目。先生のコメントの中で、葬式について、「自分の状態もわからないで、葬式が間違っているとか言って、全部、他力信仰の思いですよ。葬式に行く行かないは自由ですが、行って、その場にいられますか」と、ズバリ話されていた。「そうか、そうだ。まさにそのとおりです」と思いながら、「まったくだ、でも、とりあえず、どうしたらいいんだ」と、また思っている。「今までの積み重ねがないから切り抜けられないな、今回はよ。めんどくせえな、くそったれ。しかし、苦しいぜ。何もかも叩き壊したいぜ、まったくよー」。

まさに己の状態をわきまえず、さらに己偉く、その己にまた気付けない状態でした。敵視して、「間違っている」と言い立てる己の間違いに気付けない、また葬式の間違いが、未だ本当には心でわかっていない自分もありました。

周りの人から励ましていただいたり、妙な発破をかけられて、少

し楽になったり、勇気も出てきましたが、つくづく何も伝えられない自分を感じていました。「まいったぜ」と、まだグダグダしていました。ところが、午後の部の現象が始まると、いつの間にか葬式のことなど、どこかへ行ってしまい、何もかも忘れ去って、終わる頃には、ただ、しっかりやっていこうと思わせてもらっていました。

現象の時間が終了して、少し虚脱状態になっていた時、そこで久しぶりに、「そういえば」と、葬式のことが、ふっと浮かびました。その瞬間、「何もない！」と思いました。自分の中から葬式という思いがないという感じです。何か自分とは関係ない、はるか彼方の出来事と化していて、どうでもよくなっているのです。「何だ、これは！」もうただ軽くて、楽しくて、うれしいだけです。

一方で、親に対して出してきた思いの凄まじさに驚愕していました。散々呪いの思い、怒りを叩きつけていた自分。ただ申し訳ないという思いで、地べたに平伏している感じでした。とにかく、まず素直に謝ろうと思いました。「何だかわからないけど、もうひたすら謝るしかない。葬式に行く行かないは、どうでもよい。自分が全部、間違っていた。何でもいいから謝りたい」と思いました。

とにかく軽くて軽くて、飛んでいきそうな感じで、岡山の親戚宅へ電話を入れました。現場の人に、父か母に代わってもらうよう伝えました。2人に代わったとたん、「間違っておりました」と、その思いで、素直に謝っている自分がいました。言うことも、いつもと全然違っているので、「なるほど、こういうふうになるわけか」

静岡セミナー２日目（2000 年１月 10 日）の田池先生のコメント

と納得しながら、「とにかく、一度そちらに行きます」と言っていました。「いつ来るのだ」「12 日です」「じゃあ、もう葬式は終わっているな。まあ、いいから挨拶に来い」それを聞いて、単に日程を聞き違えていたのかと思ったのですが、「そうじゃない、自分の中から葬式が消えたから葬式がなくなった」と、そんなふうに感じました。本当に消えてなくなった感じでした。元々、そんなもの何もなかったんじゃないのかというくらい、呆気なく、勝手に向こうで消えてくれて、跡形もなくなっていました。何もかも、一瞬にひっくり返った感じでした。

親戚宅に行ってみると、祭壇やら、線香やら、言われましたが、やはり闇出し現象のような状態となり、セミナーのように暴れ回り

ませんが、苦しくて、その場にいられませんでした。これには、両親もただ唖然となっていました。おかげで、話もしやすくなりました。
もう慌てることはない。ゆっくり時間をかけて、わかってもらえるようになろうと、そんな思いで、父や母と、腹を割って話し合えました。先生が言われていた「初歩の初歩の初歩の勉強」を、これからしていこうと思えました。
今回の一連の現象のタイミングを思い起こしてみると、すべてお膳立てされていて、この超ボンクラの岩塊のような自分に、「わかったか」と、それでも本当にやさしく、意識の世界の存在を教えていただいた感じでした。「そうだったのか」と、肉の強固な自分に、少しですが、今までより、わからせることができた気がします。

死への恐怖を見つめて（大阪府）／1998年12月1日

子供の頃、寝る前に「死んだらどうなるのかな」と、考えたことが何度かありました。その頃は、死ぬと肉体が全部消えてなくなり、永久に母とも会えなくなるかと思い、気が狂いそうになるほどの不安と恐怖に襲われ、泣きながら寝たものです。すると必ず無限に広い真っ暗闇の中へ吸い込まれ、落ちていく夢を見るのです。それ以来、二度と死ぬことは考えまいと心に決めたのです。そして、肉どっぷりの生活に浸って、すべての怖いこと、イヤなことを避けて、楽しいことで心を紛らわせて生きてきました。

第172回エルランティの光セミナー（1999年5月）
「本当のやさしさ」がテーマのセミナーでした。

でも、この学びに出会って、永遠の意識を知った時、なぜか心が救われたように、ホッとして気持ちが楽になりました。そして、本当のことがもっと知りたくて長年学んできましたが、未だに知識ばかり、口ばかりで、少しも心でわかっていません。これからは、今まで避けてきた死への恐怖心をしっかり見つめて、神、エルランティへの信を少しでも強くしていきたいと思っています。今後も夫婦揃って喜んで学んでいきたいと思います。

病院で…（兵庫県）／1996 年3月5日（日）

人生の大先輩であり、この学びでも大先輩の方が、平成８年（1996 年）、お亡くなりになりました。この方は、戦争で何度も死を目前にし、戦後も蜂に刺されアレルギーで生死の境を彷徨（さまよ）われたことがあります。九死に一生を得て息を吹き返してから人生観ががらっと変わったと言われています。

人生の本当の目的とは一体何であるか。

人間はなぜ生まれてきたのか。

本当の生とは一体何なのか。

いかに人生を送るのが真の道なのか。

死んだら一体どうなるのか。死んだらしまいか。

来世があるのか。

世間に妥協して生きていくべきか。

孤独に耐えて生き抜くべきか。

この世とは何か。あの世はあるのか、それはどうなっているのか。心とはどんなものか。

霊魂というものは本当に存在するのであろうか。宇宙に端があるのか、極大と極微の世界はどうなっているのか。

神とはどんなものか。

どうして人間は現われてきたのか。

時間はいつから始まったのか。そして、どこまで続くのか。

次々と疑問は雲のごとく湧き起こってまいります。

本当の人生を生きてみたい！

これは私の念願になってきたのです。

この後、この学びに出会われ、10 年近くを共に学ばれたうえで、平成８年（1986 年）にお亡くなりになりました。以下の文章は、入院中、この方が書き綴った反省ノートの一部を写したものです。

まだまだ恐怖の心は消えない。

日々、刻々を明るく過ごそうと肝を決めたつもりであったが、よくよく自分の心の中を見ると、やっぱり、この苦しい環境から逃げたい心が湧いてくる。

苦しみは神の愛だということを知っているつもりであり、そう思うことにより、恐怖の心も薄らぎ、もう己の中の神にすべてをゆだねようとする気も起こってくる。

ここ数年で学んだこと、田池先生に聞いたこと、すべてすべて真実であり、信じようとする思いが強く湧いてくる。

肉は影だ。肉は我がカルマの修正、修行のために私が望んで与えられたもの。

肉は影だ。人間の一生なんて終末から振り返るとあっという間に過ぎぬ。なんともいらぬ。

みんなみんな形あるものは消え去っていく。でも、今まで私は

なんと形ばかりにしがみつき、形ばかりを整えようと努力、努力を積み重ねてきたんだろう。空しい努力、間違った努力、向上であった。

私は神と約束したことをすっかり忘れておりました。なんと大バカタレの私であったことか。

神、神、エルランティ田池、お許しください。申し訳ない、申し訳ないことです。でも、私は最後に残されたこの一瞬の時間を、最後のエネルギーをふりしぼり、我が心を見てゆきたい。今、どんな心を出しているか、どんな心を使っているか。

神と自分、神と自分だけである。

最後の最後、土壇場の最後になってみれば、ただ神と自分だけである。

肉がなくなれば愛しい家内もない、子供や孫もない、家もない、すべてない、ただ意識の世界だけ。その意識が明るいか暗いかだけである。果たして喜んで感謝して死ねるか。最後の土壇場でどんな思いが出るか。

たった一度の、しかもたった一回限りのもの、死んでから私は果たして今の反省が続けられるのか、わからんことばかり多い……。

でも、私はどうしても神を信じたい。己の中の神、エルランティ田池を信じ、信じ、信じ切っていきたい。

永遠に生かされている……。私は神の愛に包まれて、永遠に生かされていることを絶対に信じ、信じ、信じ切りたい。

人はどうでも私はそうしたい。もう一つだけ、これは欲の心だが、私は家内が愛おしい。今になって、今のこの瞬間、土壇場になって私は家内に心からありがとうと言いたい。切ない思い、愛おしいという肉の思いが噴き出てくる。こんなこと言ったら、家内は余計苦しむだけだ。過ぎし日のセミナー、このエルランティの学びを夫婦でさせてもらってありがとう。

よーく、最後まで私の無理を聞いてくれた。ありがとう、和子よ。また、来世に夫婦になりたい。アメリカで転生すると聞いているのも信じ切っていく。ニューヨーク、ニューヨーク、ロス、ロス、ニューヨークに行けなんだが、ごめんね。田池先生に私は篠山で入浴だとジョークを言った。もっと真剣に学んだらよかったと思っている。でも今、この苦しみはいっぱい、神の愛を受けているんだ。私は幸福だ、うれしい。

田池先生にたった一度だけ電話したいと思っていた。しかし、かける電話もない。あるんだが、病院からではどうかと思い我慢していた。他力の心じゃないかとも思い我慢していた。そのとき、先生から家内に電話がかかってきたことを聞いた。そのときのうれしさ、私は先生の意識に神の波動をしっかりと感じた。

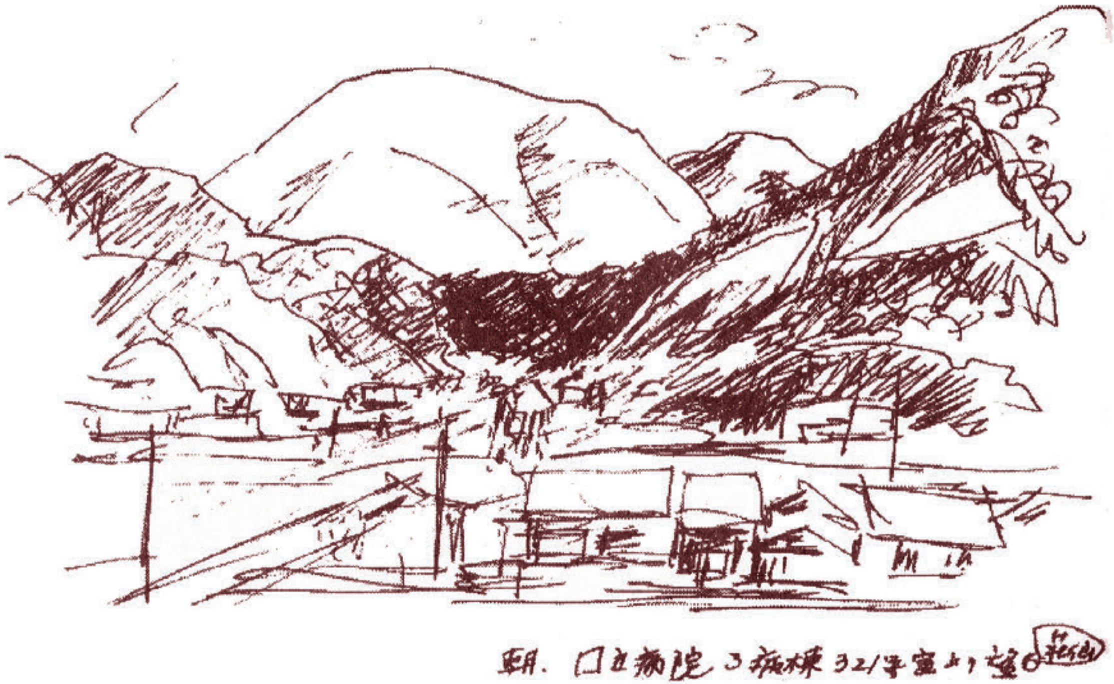
75 年間、いや三億六千年も付けてきたカルマの垢(あか)が噴き上がってきた。

私の心の天変地異だ。何から手をつけたらよいかわからんくらい間違いだらけの人生であった。肉で形でアレコレ考え、やって

きたこと、すべてすべて心を見るためのものだけであった。

今の今まで、この学びを５年もやっていて、しかも、実は何もわかっていなかった。心は何もわかっていなかった。ただバカタレ、大バカタレ、バカ、バカな私であったことに気付いた。それがうれしい。

これだけ、これだけ、なんと私は間違った人生を、今世だけでなく何億年も、いや、それ以上も歩き、神に背き続けていたんだということがわかった。ありがとうございます。原点からです。一から、原点からやります。



あなたの心がストレートに出る相手は…
The one person your heart directs honestly

（前文略）
　こうして日々、日常生活の中で動く心を見つめていくことも大切ですが、あなたの心がストレートに出る相手は、何と言ってもあなたを生んでくれた母親なのです。あなたを生んでくれたお母さんには、あなたの思いがストレートに出てきます。あなたはあなたを生んでくれたお母さんを、今現在どう思われていますか。「お母さん」とあなたが心の中で呼んだとき、あなたの心に上がってくる思いはどんな思いでしょうか。それを正直に、ありのままにノートに書き綴る作業から、まず始めてみてください。自分を偽ることなく、飾ることなく思いを綴っていくことが大切です。
　生まれて育ててもらった過程の中でお母さんに使ってきた心、長じて一社会人、あるいは、一家庭人となって母親に接したときに出てくる心、年老いていく母親に対して使っていく心、どんな時もあなたのお母さんはその肉を通し、あなたの心にある怒り、恨み、呪い妬み、恐怖、寂しさ、悔しさ等々、様々な思いを引き出してくれているのです。それがお母さんという存在です。それは、あなたを生み育ててくれたお母さんという存在を遥かに超えたもの、本当のお母さん、意識のお母さんという存在です。そして、その作業を重ねることによって、あなたを生んでくれた母親の思いというものに、あなたは触れていきます。（「意識の流れ」より抜粋）

(Previously omitted)
　It is essential to reflect on your heart through your daily lives. However, nothing can surpass the direct, honest energy you emit toward the mother who gave birth to you. What thoughts come to you when you think of your mother? When you call out "mother" from your heart, what kind of emotions arise? Start by writing your sincere thoughts on a notepad. Write your thoughts without embellishment, don't pretend to be something you are not.

　Recall the thoughts you had as your mother raised you, as you became older and started a family, or as your mother became elderly, spending the remaining years of her life. At any moment, your mother and her physical form brought out the anger, resentment, curses, envy, fear, loneliness, regret, and many other feelings in your heart. That is the existence of your mother. It is something far beyond the physical mother who gave birth to you - it is the true mother, the consciousness of mother. As you continue this process, you will come to understand the heart of the mother who gave birth to you.
(Excerpt from "Flow of Consciousness")

キーワード **2. お母さん**

お母さんへの手紙（三重県）／1999 年 5 月 5 日

お母さん、いよいよ今日ですね。何をお土産に持っていこうかとまたまた苦しい心を使っています。何がいいんだろう、何が一番喜んでくれるのだろう。年寄り２人っきりのところに何を持っていってあげるのが一番良いのだろう？　帰りには反対に山ほど何やかやと持たされて帰るのは目に見えているのに、持っていかないほうがいいのかな？　……こんなふうにいつだって心を苦しめているんです。

お母さん、やっぱり何にも言えなかったですね。でもお母さんもお父さんも思ったより元気そうで安心しました。この学びのこと、なかなか理解してもらえないのは残念だけれど、それはしようのない事だとあきらめています。でも、親が死んでも葬式には来んのやろう？　と仕方なくでも認めてもらってるみたいなのでほっとしました。お母さん、すみません、ありがとう。

お母さん、これだけは確かに言えます。私は今本当に幸せなんです。これほど幸せな人生になろうとは夢にも思いませんでした。素晴らしい人生でした。田池先生に出会え、真実を教えていただき、こうして心を見るために生かされている今が、本当に幸せだと思えるのです。お母さんに生んでいただいたから、無事に育ててもらったから、そして、気短な私が、自棄を起こして死なないように許し

176 回エルランティの光セミナー（1999 年 7 月）遠鉄ホテルエンパイア

続けてくれたから、今があります。本当にありがとうございます。

お母さん、いつだったかお母さんに教えてもらいましたね。「おまえは負けん気が強い子やった、それと、誰が一番好きかと聞いて、おまえが一番好きやと言うてやるまで満足せん子やった」と。今でもそうなんですよお母さん、ほとんど変わっておりません。でもそんな心が苦しいということがわかってきたから、そろそろ卒業していこうと思っています。もう誰に負けても良いと思います。誰に好かれなくても良いと思います。意識の世界、本当の世界で、お母さんにいつでも愛されていることを知りましたから。ただ、すぐに忘れてしまう癖があるので、忘れないように、また思い出すように毎日努力しています。それが今、私が学んでいる心の学びなん

ビデオ「母親の反省」1990 年

冊子「母の反省」1993 年 9 月

ビデオ「母親の反省」1993 年

月刊「母を思う神を思う」
1995 年 1 月～ 2000 年 12 月

です。宗教ではありません、神さん信仰ではありません。もう幸せなんです。そのことに気付いて、そして忘れないように毎日反省、瞑想するだけなんです。安心してください。誰にも迷惑をかけるようなものではありませんから。

母の存在を否定してきました（大阪府）／1994 年 9 月 25 日

私はずっと、母を恨み、母を見下げてきました。煙たかったのです。母の存在をも否定してきました。しかし、この学びに触れ、母の反省を少しずつやっていくと、憎らしかった母への思いが、少しずつ、少しずつ変わってまいりました。ふと日常生活をしている中で、母を思うと、涙が止めどなくあふれてくるのです。「お母さん、ごめんなさい」「お母さん、ごめんなさい」「お母さん……」と、そのような思いが涙となって噴き出してくるのです。

そのときに思う「母」というのは、「神」という感じがしました。そして、このような醜い心の私を、今まで許して生かしてくださって、心から、「お母さん、神、ありがとうございます」という思いが出てきました。最近、「母の反省」「他力の反省」をし続けてきた、アメリカのジェニー・ワンさんの体験をビデオで見たときに、体が打ち震えて、涙が止めどなく出てきて、ジェニーさんの喜びの波動がすごく伝わってきたんだと思いました。これが真実だと思いました。

第４回反省実習セミナー（能勢簡易保険保養センター）で

答えを母に求めていました（和歌山）／1995 年 6 月 3 日

「お母さん、お母さん」と、いつも心の中で母の姿を求め続けてきました。

心細かったんです。不安だったんです。何をするにも自分の行動が正しいのかどうか知りたくて、どうすればいいのか知りたくて、私は、母を、求めて求めて、答えを母に求めていました。

「お母さん、どうしたらいい。お母さん、どうしたらいい。」

そんな心を母に向けてきました。それがいつしか、家の仏壇に対してになり、他の神仏になり、しっかりと他力をしてきました。

自分を信じられなかったから、自分を神だと信じられなかったから、ずっと外に何かを求め、外にこそ神はいると思い、頼ってきました。自分の心の中に問いかけることなど必要はない。その中に答えなどあるはずがないと思っていました。

それが、この学びを知り、本を読み、心を見ていく中で、間違

いであったと知りました。私は今まで、一生懸命に肩を張って生活をしていくことが素晴らしいことだと信じてきたのです。

苦しかったよー。お母さん、苦しかったよ。でも、もうその苦しみをつくりだす必要はない。もう一生懸命、肉を守る必要はない。

そう思ったら、うれしくって、うれしくって、心が軽くなって。これが喜びですか、これが……。

今回、こうして反省実習セミナーに泊りで来れたということは、本当に喜びです。主人に、子供たちに、周りの方々に、「ありがとう」と言いたいです。ありがとうございました。

第７回反省実習セミナー（能勢簡易保険保養センター）で

親孝行は母の反省（兵庫県）／1997 年 10 月 20 日

今日は、母の手術日。手術前、母は元気そうにしていた。終わっても、あの調子で出てくると思ったが、顔は真っ青で意識がない様子、一瞬死の恐怖を感じた。しばらくして、かすかな意識の中で、意識が朦朧（もうろう）とした中で、こっちの反応にうなずいていた。

「あんたら、もう帰りよ、何も心配しなくていいから」って、こんな意識の中でも、僕らのことを気遣ってくれる、改めて「母親ってすごいなあ」って思った。

「長生きして」って思った。「親孝行したい」って思った。間違っていると思うけど、素直に「親孝行せなあかん」って思った。あの姿を見て、ほんまに悪かったって思いました。

「親孝行って、母の反省やなあ」って出てきました。「神に心を向けるだけやなあ」って出てきました。「この機会に両親の反省をしなさい」って、田池留吉の意識からメッセージをもらった意味を噛みしめています。

父が母にしゃべりかけている姿がやさしかった。「ああ、やっぱり夫婦なんやなあ、あれだけいがみ合っていても、こんな時はやさしい思いが出てくるんやなあ」って思いました。苦しみは神の愛、その言葉が心に響いてきます。

あなたがお母さんに使った心を見つめていくのです。どんどん見つめていくのです。お母さんはあなたに、ただ愛を流しているのです。命懸けであなたの心を磨いてくださっているのです。しっかりと心を見ていきなさい。あなたは神の子、お母さんも神の子、皆、神の愛の中での出来事なのです。しっかりと心を見つめていきなさい。そして、しっかりと私、田池留吉に心を合わせてください。

私が悪いんじゃない（兵庫県）／1997 年 9 月 23 日

今年の２月の熱海のセミナーの時から、私とお母さんとの闇出し現象が始まりました。それ以前からもあったとは思うのですが、その時からが私は始まりだと思っています。それから約８ヶ月経ちました。今の思いを言えば、自分の思いが随分変わってきたと思

います。母に対する思いが特に変わってきました。

私もこの10回ほどのセミナーの間に、いろいろな思いが出ました。そのほとんどが悲しく、苦しい思いでした。体験発表でも言いましたが、現象の時に前に出た時、他の人とはお母さんの温もりを感じることができるのに、本当のお母さんとは何で感じないのかわからないと、お母さんを責めたことがありました。お母さんがそれを聞いて、きっとすごくショックだったに違いないのに、それでも私は自分が正しいから、「それを感じないのはお母さんのせいだ、私が悪いんじゃない」って、またお母さんを責めまくりました。自分の中にその暖かさがなかっただけでした。本当はあるのに、求める方向が違っていたから、私の中で感じない、お母さんの温もりを感じないって思ってしまったのです。自分の中にある温もりなのに、私はお母さんから流れてくるものだと信じていました。その思いがとても他力の思いだったと思います。

今、お母さんのことを思うと、何だかとてもうれしくて、暖かくて、肉のお母さんに対する思いも強いのですが、とにかく「ああ、私はお母さんのこと好きだなあ」って、そんな感じです。相手を責めている間は何も変わらない、そう思いました。イギリスに行って、友達とうまくいかなかったのも、私が相手が絶対に悪いって思っていたからです。自分の思い、心が一体どんな波動を流し、思いを出しているかなんて考えもしませんでした。本当に自分は間違っていたと思います。もしもその時の思いのままで生きていったら、結婚しても、子供ができても、友達ができても、きっと最後はメチャクチャで真っ暗な私がいたと思います。

お母さんとも、その友達とも本気で喧嘩しました。憎み合って、罵り合って、今までにはないほどの思いと行動をその二人にしました。でも、今はその二人が心からの私の大切な人であり、わかり合える人だと思っています。今まで私は仮面をかぶって人と接してきました。それでいいと思ってきました。自分は人間関係においては何の苦しみもないと思っていました。そんなわけないのに、今はそう思っていた自分が恥ずかしいです。でも、それ以上にうれしい思いでいっぱいです。このセミナーでその思いを出す場所と機会がなかったら、私はそんなふうには思えなかったと思います。だから本当にこの勉強は愛だと思います。心からそう思えます。「本当の幸せは、今まで私が思っていた幸せとは違うんだなあ」って思えます。自分と神、そこで真剣に心を見ていったら、それでよかったんですね。自分のほうに思いを向けずに、外ばっかりに目を、心を向けていました。まだまだこれからが私の始まりです。8回になって、やっとですが、これからがスタートだと思っています。どんどんと自分の闇を出していって、本当の自分に出会っていきたいと思います。

今も母の子宮の中だった（大阪府）／1997年11月8日

　お風呂の中で母の反省をしていたら、急に心地よくて眠くなってきた。首を右に傾けて腰をズズッと、お湯の中に沈めた。顔が湯舟から立ちこめる暖かなもので、さらにホンワカとしてきた。つい先ほどまで「お母さんなんか私にはいない。だから、お母さんという醜い存在を認めない。くそババアは早く死にさらせ」と、怒りの思いを書きつづっていたのに、そんなことは遠い昔の思いのように、関係なく眠くなってきた。39度のお湯加減も丁度よし、ウトウトと眠気のままに目を閉じた。

「お母さん、しんどい」、そう私が言うと、母はそっと、私の頭を膝の上に乗せてくれた。すでに家を離れ、兵庫県の神戸に出ていた私は、毎夜襲ってくる激痛と一人で戦っていた。手術時間5時間、背中に癒着し、破裂寸前の盲腸だったらしいが、私は、病院というところにはどうしてか信頼が置けず、常に「何をされるか」と不安なので、その時は行こうともしなかった。

「きっといつか治る。我慢すれば、きっと、きっと楽になる。そう簡単には音をあげたりはしないぞ、お前なんかに負けてたまるか。死んでもこの痛みに耐えてやる。お前の言うなりになれば、私をあざ笑い、破滅を楽しもうと謀っているのだろうが、絶対にそうはならない。なってはならない。痛みで私を試すなあ、そんなもんで私に戦いを挑んでも、ますます私が強くなるだけだ。どれだけ我慢したら私の勝ちになる？　ウオーッ、修行じゃ、修行じゃ。土の中に埋もれ、声一つ発てず、無言の境地を心につくり出す。痛みは見えない敵と同じ、ひとたび声に出したならば悟りは閉ざされ、あるのは恐怖。己の邪念を呼び起こすなかれ。無になること、そこに己をかばう思いあらば、即刻我を捨て去れ。すべては邪道の世界、心頭滅却すれば火もまた涼しっ」。

　過去の重い足どりが、今の私の心に鮮明によみがえってくる。痛みというものをせっせと生産して、自分に与え続けている過去世の自分自身に出会う。まったく今の私そのものだ。

「お母さん、しんどい、もうやめたい」、そう母に言っていたのは、もう肉の自分がつらくなったと、やめたいと言っていたのだった。心の痛みに気付いていた。自分がつくり続けた心の痛みだと少し気付いていた。けれど、今までずっと痛みを我慢しながら笑い、息をしてきたから、肉をすばらしく誇り、努力すれば、我慢すれば、それはきっと自分に都合の良い結果につながるのだと信じてきたから、歯を食いしばって、「自分の欲しいものは奪い取るまでは決して誰にも負けるもんか、負けるようなことがあれば、いつでも死んでやる」と、やってきたから、まさか「息ができないんです」などと言えなかった。それが今までの私の過去世だった。財産だと信じて頑張ってきた莫大な苦しみと、その心の表れ、病。生まれ変わり、今世に至るまで、心に残ったものはそれだけだったと確認できた。今もすぐに戦うエネルギーがこの心にタップリあることがわかる時、まず出てくる思いは「負けるもんかあ」と叫ぶ。時々

それが悲しくなってくることがある。けれど、そんなに自分のことを嫌わずに見つめていこうと思う。それが私にできる、たった一つの供養になるのだと思った。母はそんな私でも、ただ受け入れてくれた。受け入れることだけを教えてくれていた。

　自分の体を頭ごと母の膝に預けた。手術後、静養のため、田舎に帰る列車の中だった。体を起こしているのがつらくて、自然に思いが出た。勝手に都会に飛び出して、自分の居心地の良いところを見つけようと頑張ったけれど、殺伐とした環境や人の中には、私の期待するものは何もなかった。自分の心を見つめることを知らない者は、どんな上等の状況や環境が与えられても、結局、自分は不幸なのだとしか思わないということを実感した。痛みに耐えることで私は強くなっているのだと錯覚してきた。まさしく不幸という病気をせっせと製造していたに過ぎなかった。それもかなりの重症だ。心というものが本当の世界だと教えてもらうまで、どうしてこんなに自分が不幸なのかわからなかった。いつも勝ち負けの、肉を競わせる小さな世界の中に自分を追い込んできたから、当然不幸だった。

　けれど、母の膝には「勝ち負け」がなかった。のどかで平和そのものだった。ここでは上手に息ができた。列車の振動と同じだけ、母と私が揺れた。母の心臓の鼓動が聞こえてきます。細胞のすべてが母と私を結んでいます。ドックン、ドックン、聞き覚えのある意識の源です。その波動に合わせて私が呼吸をしはじめています。最初は小さく、そして徐々にいっぱい広がってきました。戦う思いやねたむ思い、ましてや「己」という思い、そんなはずれた思いはみじんもありません。心の障害がまったくない世界です。すべてを愛と感じて喜んでいる私がただ存在しています。母と私？　そんなものもありません。ただ一つという感じがします。それが、同じように休むことなく、まるで呼吸と同じような感じで流れています。子宮の中でゆだねて、ただゆだねきって、それがまた喜びで、そんな中にしかあり得ない暖かなもの、それが私でした。

　お母さんに言いたい。今も子宮の中に置いていてくれて「ありがとう」って、あの時のように素直に、そう甘えたい。

「母」という文字を見ただけで（神奈川県）／1995年6月10日

　この学びに出会ったとき２冊の本とテープを頂きました。「母親の反省」と書かれてありました。その文字を見たとたん、

「イヤなものがきた。それ以外のことなら何でも喜んでやろう。でも、こと母親に関することは何がなんでも避けて通りたい」……そう思いました。

　その「母」という文字を見ただけで拒否感が出てくるのでした。反省をしても恨みつらみ、見下げる思い、お前なんかを母親と認めるものか、そんな思いばかりが出てきます。何年間も、そんな思いばかりを書き続けました。田池先生の『私の肉は石ころでした』

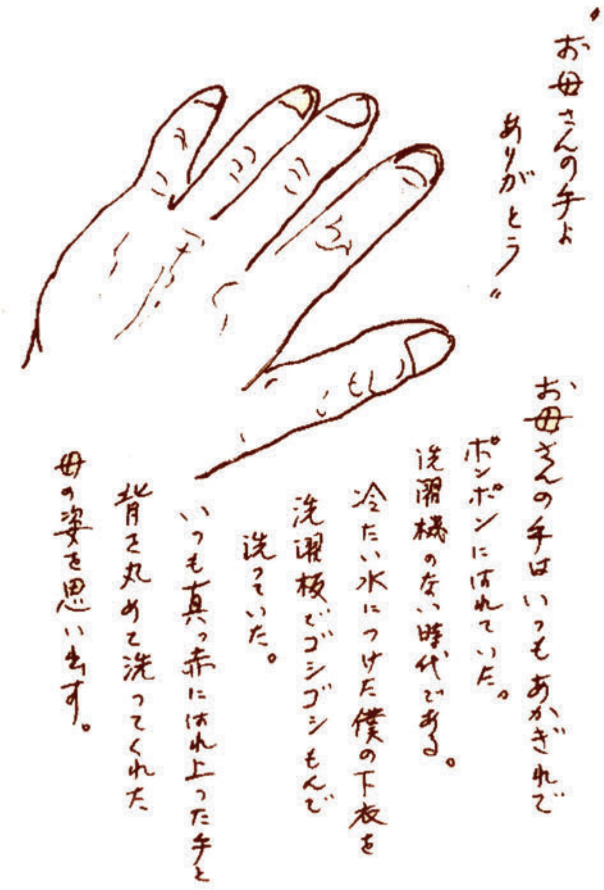
を何度読み返しても、途中までいくと分からなくなるのです。

　私は家に帰り、古いアルバムの中から自分が赤ちゃんだった頃の写真を見つけました。その写真をよく見ると、母に抱っこされた足が、冷えないようにふところに半分隠れています。今まで産みっぱなしで何もしてくれなかったと思っていたのが、私が都合よく忘れていたと思えました。

　母にしてもらったことがたくさんありました。ほんの少しだけ、心が軽くなりました。

　途中、何度も母親の反省なんかしたくない、どんなにこんなことを続けたところで、あの母に対する思いが変わるはずがないとあきらめかけたこともあります。

　５月に家に帰り、母と一緒に田んぼのあぜ道を散歩しながら、とりとめもないことを話しました。こんなことをしたのは何十年ぶりです。本人を前にしてはまだ「かあさん」とは呼べません。こっそり、一人、部屋のなかで「かあさん」と呼んでみました。涙が出てきました。母に対する思いを一つひとつしっかりと見ていこうと思います。



母の反省（大阪府）／1997 年 10 月 1 日

　母の反省とは「母のやさしい心、それが神の子と知ること」だと知りました。やさしい心こそが神の子であることを知ることでした。「すみません。間違っていました。許してください」。ただ上辺だけの母の反省でした。母は私の間違いをはじめから知っており、許していたのです。許してくれていたのに、私は反省して、「母に使っ

た心は間違っていた。許してください」と、しつこく言っていただけでした。自分の心を見ていけば、もうとっくに「母は神の子だった」とわかっていたはずでした。私は、今回の旭高原での連日２時間の反省で、ようやく母のやさしさを知ることが本当の母の反省だと知りました。

それは今から60年前になります。私が小学校５、６年生の頃でした。今でもハッキリと覚えております。付近の７、８校の代表選手が集まっての相撲大会があり、私も主将として選ばれたのです。代表戦や個人戦、５人抜き戦などありました。私の学校は優勝しました。私は個人戦や５人抜きなど何回も土壌に上がったのです。母は仕事も忙しいのに、いつの間にか応援に来ていました。私が土俵際に座っている時でした。母は群衆の中から頭越しにバナナをくれたのです。当時はバナナと言えば、それこそ欲しくても、とうてい手の届くものではない貴重品でした。その貴重品を買ってきて私を応援してくれました。たくさんの賞品を手に帰った私に対して、「よく頑張った」と笑顔でほめてくれました。

その時、母が私に言った言葉を今もハッキリと覚えております。母が私に言った言葉は「もう少しやさしい顔で相撲を取りなさい」という言葉でした。「勝ち負けの勝負であっても、あんな鬼のような顔をしてはいけない。勝ち負けの厳しい勝負であればなおさら、もっとやさしい顔、やさしい思いでしなさい」という意味でした。私の顔は一生思命のあまり、目も口も鬼のようになっていたのでしょう。私はちょっと不服でした。

母のこの時の言葉は今も鮮明に覚えております。しかし、母の反省をしていると、いつも思い出していましたが、私は何とも思っていなかったのです。それが今回の反省中、また出てきたのです。よーくこの言葉を考えました。今、この学びをしている中で、母親のこの言葉こそ、神の子の真突を故えてくれていたと、ふと気が付いたのです。人にやさしくすることはいとも簡単なことです。しかし、投げ飛ばされて負けるより、顔はどんな敵でも勝ったらそれでよいのに、母は私に何回もこの言葉を言ったのです。私に「いくら勝負でも、もっとやさしい顔でやりなさい」と。その後60年経った今回の旭高原で、反省時間にノートに書いていると、この思いが強烈に出てきたのです。

私はここで初めて、母はこの時から「神の子はやさしい心だよ」と私にしっかりと教えていたことに気付きました。自分にやさしい心がなければ人には言えません。母は一生懸命に頑張って優勝して帰った私にキッパリと言ったのです。母は子宮の中に十月十日、私を子宮に抱いている時から、「神の子はやさしい心だよ」と、ずっと教えていたことに、私はやっと気付いたのです。勝負とは言え、私が鬼の顔をして取り組んでいる姿を見て、たまらず私に「もっとやさしい顔で相撲も何事もやりなさい」、「神の子とはやさしさだよ」と教えてくれていたのです。あれだけ母をバカにし、学も常識も風采もない母親と見下げた母こそ、今私が求めても求めてもわから

ない真実を、この時から教えてくれていたのです。母が言ったとおり、神の子とはやさしい心でした。「認めて、許して、受け入れる広い心が神」とは、もちろんわかっています。しかし、根本はやさしい心がなければ、認めることも、許すことも、受け入れることもできません。私は、遙か 60 年も前に母が言ったこの言葉は不思議にも心の中にありながら、これが神の子とは、神、エルランティ田池とは思っておりませんでした。母の反省とは、ただ「悪かった、ありがとう、お母さんと呼べた」ではありません。お母さんのやさしさを知ることでした。そして、自分もやさしさいっぱいの神の子だと確認し、自覚を持つことだったのです。

そのやさしさこそが、神の子、神、エルランティ田池だと知ることでした。まったく上辺だけの反省をして、自分は母の反省はできたと思っていたごう慢な私でした。その母親をバカにし、見下げてきた私こそ大バカ者でした。見下げても見下げても、ずっとやさしい神の子の心がわかるまで、今まで待ってくれたのが母親であったのです。

第 11 回反省実習セミナー（愛知県旭高原少年自然の家）で

旭高原にて（アラバマ）／1995 年 10 月 7 日〜 13 日

来てよかった。はじめに、出だしがまたいつもと違って、京都から若い人たちと共に車で連れてきてもらったのがよかった。少しも違和感がなくてうれしかった。やはり意識だなって思えた。また、お部屋を同じくした人たちが抜群によかった。大教祖様ばかしの集まりで、私の拡大鏡が、四方八方から、どの角度からも見なさいと言わんばかりのメンバーでした。だから、すごくさわやかでよかった。この学びをしていなければ、決して、そうは思えなかったと思うが、やはり、この学びをしている仲間だからこそ、共にお互いの心を見るためのお互いだと取れるから、うれしい。反省の時間をたっぷり頂いている中での付き合いだから、さわやかに過ごせるのだと思える。1 週間というまとまった時間だからよかった。1 ヶ月ぐらいしても、いいなと思う。体験発表が、また更に、それだけの効果があり素晴らしい。

あんなにグダグダ言って、「できない」「わからない」と言っていたＹさんが、「お母さん」と、大声で呼べて、泣けたと、うれしそうに語ったのがうれしかった。彼の過去世の、ヒマラヤの修行僧、チャンドラの意識も受けて、すごくうれしかった。Ｎさんのお母さんに対する思いを聞き、私の息子の意識と同じだったので、心にビンビンとひびいてきてよかった。本音で語ることが、こんなに聞いている者をも、言われているほうでもうれしいという、初めての体験だった。私は、本音で今まで語っていなかったと、気付かせてもらえてうれしかった。これから本音でいきたいとつくづく思った。5 日目の晩の、最後の体験発表の間、ずっと、あたたかい波動に包まれていて、普段、話すのが苦手な人も、すっと気楽に話せたと喜んでいた。

恥も外聞もなく、皆、さらけ出せていたようだ。リラックスして、気持ちがよかった。皆、1週間が、アッと云う間に終ると言って、またチャンスがあれば来たいと、異口同音……。何人かの人たちが、この間に、特に明るく変わったのを目の前で見て、この学びは本当にすごいと思う。これしかないと、改めて確認した。

私も、やっと今朝初めて、大きな声で、山に向かって「お母さん」と呼べた。何度も呼べた。その思いは、さびしかった、あまえたかった、こわかった、呪ってた、見下してた、切り捨てていた。でも、間違ってた、悪かった、ごめんなさい、ありがとうという思いが、どんどんとほとばしり出た。

そして、神、エルランティ田池、ごめんなさい、ありがとうと、数回、大声で叫べた。とても、うれしかった。心が軽くさわやかになった。うれしさがフツフツと湧いている。

今迄、キヨちゃんは、私を見ても目をそらしていたのに、かくれんぼしようって、私のそばに寄って来てくれた。子供から近づいてきてくれて遊んだのは久し振りだった。ありがとう。

旭高原少年自然の家（上は1996年7月、下の写真は1995年10月）

心の向きを変えた自分（茨城県）／1997 年 12 月 16 日

何で生まれてきて、肉が本当の自分だって思い込まなくてはならないんだろう。何で神は、肉を本当の自分だって思い込む愚を繰(く)り返さざるを得ない環境を人間に与えるんだろう。この学びが、何でお母さんの反省が原点だって言われるのだろうかと、常日頃思っていた。反省した時、お母さんの反省も、他力の反省も、日々の反省も、やって行き着くところが、肉を本当の自分、唯一無二の今世限りの肉が本当の自分だって思い込んだところで止まってしまっていた。お母さんの子宮の中の自分は、確かにすべてを託し切り、信じていた。それが、あの物心ついて、この肉が本当の自分だって思ったところで止まる。大きくなってから、幼かった時、今世の記憶にある、お母さんにしてもらった事々を思い出して、使った心を反省しても、この肉が自分だって思い込んだところで止まってしまう。壁でした。頭でわかっていても、どうしても越えられない厚い壁でした。

神の子の意識から。人間の性(さが)、この肉を本当の自分って思い込む愚を繰り返さざるを得ない環境を、何で神は与えるのか。これがわからなかった。いつも「わからない、わからない」と疑心暗鬼で、お母さんの反省をやっていた。わからないから、2 行書いては瞑想、1 行書いては瞑想を繰り返していたら、お母さんも神も意識は一つ、許しなんだって。10 年勉強してきて、いつも聞いて読んで、ごく当たり前に思っていたことが浮かんできました。お母さんは許し、温もりで包んで、産んで育んでくれただけ。裏切られることも、捨てられることも百も承知で、それでも産んで育んでくれた。十月十日の間、自分の子宮の中で、神の子とはどういうものかって教えてくれていた。そして、今も未来も教えてくれているんだって。お母さんって、僕のお母さんだけじゃなかった。慈しむ心で子供を産んでくれる、すべてのお母さんの意識は一つだったって思えてきました。

子宮の中で、温もりで包み、育んでくれる中で、神の子の心を教えてくれていた。「今に世に出て、頭を使うようになって、頭を回したら託せなくなるよ。肉を見たら許せなくなるよ。神を捨てざるを得なくなるよ」って、教えてくれていた。そして、神は我々が肉を自分と思い込んで、闇のほうを向かざるを得ない環境をつくられ。闇の思いがいかに苦しいものであるか、今までいかに闇の心を使ってきたか、自分自身で気付くことを信じて、試練の場を与えられ、あえて裏切ることも、捨てることも許されて、生かしてくださっていたんだ。そして今世、確かに肉を本当の自分だって思い込んで、苦しみや闇から抜け出ようと肉で頑張ってきました。この学びにつながって、やっと神を、母を捨てた愚かな自分に気付けました。

お母さんの意識、産み育む心って温もりだった。宇宙を創造する神と同じ愛の意識だった。愛でなかったら、育んだり、産んだりする、創造するってことはできないんだ。その反対、対極にいるのが、肉が本当の自分と信じ、肉を基準にしている僕だった。肉を基準にすれば闇になった。他力信仰の闇ばかりが破壊殺戮

じゃなかった。闇に向けたらすべて破壊殺戮のエネルギーになるんだ。許し温もりなんて考えるまでもなく、冷酷非情、「己だけは」って思いになるんだ。

今、やっと、お母さんの温もりが自分の中にあるような気がしてきました。お母さんの反省で、子供から赤ん坊へ、子宮の中から赤ん坊へ。神の子から肉へと変わることは、ただ自分が心の向きを変えてしまっただけのことなんだ。一瞬のことなんだ。愛と破壊。意識と肉。皆存在してよかったんだ。すべて自分だった。分けることなかった。ただ、どっちを向いているか、自分の心が今この瞬間どっちを見ているか。その確認だけだったような気がします。そして、今この瞬間を喜んで信じていけばいいって思えます。難しい、難行苦行です。田池留吉をいつも見ていくって、難行苦行です。でも見ていくしかありません。「5、4、3、2、1」をやっていくしか道はないと思います。ありがとうございました。

忘れていた何かを（兵庫県）／1994 年 11 月 19 日

八王子の反省セミナーは自然の中で行われました。「母を思い、神を思い」、私は自分の心を見てきたと言えるだろうかと思われる1泊2日でした。決してすばらしい私だから、神は私を愛していたのではないと、母の反省を通し、何度もこの心に教えていただきました。

大自然の中、小さな声で「お母さん」と呼んでみました。犬の名前を呼んでみました。ちょっとテレながら、神、エルランティ田池と呼んでみようかと思いました。懐かしい響きに涙が流れました。素直に声に出せたことを喜んだら、体中があたたかくなりました。あったかい、あったかいお母さんの子宮の中でした。私は自分という思いを捨てていました。お母さんの懐で、おっぱいを無心に吸っていました。

お母さん、いい響きですね。忘れていた何かを思い出しました。自分の頭ではなく、心が覚えていた響きです。

母が私を生んでくれました（東京都）／1994 年 11 月 19 日

母が私を生んでくれました。感謝です。感謝です。こんな真っ黒な私を、すべて引き受けてくれました。「ありがとう」の他に何も言葉はありません。過去三億六千年の間、私は一体どれだけ多くの人を殺し、自分自身をも滅ぼしてきたことでしょう。その心を見るための今世でした。神に出会うための今世でした。ようやく目覚め始めております。やっと気付き始めております。お母さん、生み育ててくださって、本当にありがとうございました。

母を恨みに恨んでまいりました。自分のエネルギーのありったけをこめて、「おまえなんか、死ね！」と、母を呪い続けてきました。今世、やっとそのことに気付き始めました。苦しい、苦しい心です。

この心、このどうしようもなく苦しい心。
……ああ、すみません、お母さん、ごめんなさい。申し訳ありませんでした。苦しい心を見ていきます。神を呪う心を見ていきます。こんな私が許され、生かされていたなんて……なんて言ったらいいか分かりません。

私の中の母への思い（神奈川県）／1998年9月3日

大嫌い。あんな人大嫌い。もう母だなんて言いたくない。思いたくもない。あんな奴は大嫌い。この世の中にあの輩がゴロゴロしている。人にあれこれ指図して、それを全部怒りに変える奴。近くにいる人間を全部潰していく奴。人の言葉を逆手にとって、恨みに変えていく。そして自分の思い通りにならない人間を全部メッタ突きにしていく。私はあんな奴を母とは言いたくない。
お母さんっていうのは、もっとやさしいのんと違うか。何で、そんなにいつもいつも私を痛めつけるんや。私は嫌い。そんなお母ちゃんは嫌いや。もう逃げたい。お母ちゃんから、逃げて逃げて逃げ切りたい。いつも怒りをためこみ、ここぞとばかりに人を攻撃して、いつも父に言いまくっていたように、人を攻撃し続ける母を抹殺したい。自分の母親とは思いたくない。できるだけ遠くから眺めていたい。あんなお母ちゃんなんか大嫌い。大嫌い。大嫌い。大嫌い。
お母ちゃんは私に見せてくれていると思う。この学びをしていない私の姿を見せてくれている。母は自分だから、飛び込んでいけない。母は自分の姿。一番見たくないし、受け入れたくない自分の姿だから大嫌い。世界で一番嫌い。そんな自分だから、母を無視して、抹殺したいと思う。
母に対して、私の心は怒りそのものでした。私も母に対して、同じ心で接しています。表面には出さず、奥底静かに押さえ込み、被害者面しているから自分でも今まで気付かなかった。意識を出してみて、私が母をこんなに嫌って、呪って、恨んで、責めていることに気付いた。まさに宗教戦争そのもの。
父に対しての母の態度を嫌い、親戚ともめる母を嫌い、自分は不幸とまくしたてる母を嫌い、私を見れば「お前のおかげで、墓にも仏壇にも誰も手を合せてくれない」と、怒りまくる母が嫌い。母がとにかく嫌いなんです。
利用する時だけしっかりと利用して、利用できないとわかるとポイと捨ててしまう自分がある。その冷たさを母はあんな態度で私に教えてくれている。「お母ちゃん」と、本当に幼い頃のように、母の懐に飛び込んでいけたら……と思う。私のこの冷たい心を一番よく知っている母。私を育てながら、どれだけ私の心を思い知ったかしれない。それでも、何も言わず、いつも言いなりになって、お金を出し続け、与え続けてくれた母。
母さえいればうれしかった日がたしかにあった。攻撃も、責めも、超一級やけど、やさしさも面白さも超一級の母があった。その母

を責め続け、恨み続け、怒り続けている自分の心があるかぎり、母は、電話口でも、会っても、私に罵声を浴びせてくれるのだと思う。

お母ちゃんのことが好きなのに、何で嫌いになったんやろ。あの日以来、あの日以来、思い出したくない、あの日以来、争いが何より嫌だった亡くなった兄のそばで、母が私を大声で責めたあの日以来、私は母を一生許さないと思った。私は母が大嫌いになった。逃げたい。嫌な人、嫌なものから逃げたい。そんな自分の心癖がもろに出てしまった。大嫌い。いつも私の心が母に向かって、そう叫んでいる。

母の口から出る、私を責める言葉の一つひとつを絶対に拒否する自分。絶対に受け入れたくない自分がある。

でも、今、本当に苦しんで、さびしくて、悲しいのは母かもしれない。その母の気持ちになれないのは私がとことん冷たいから……。許せないから、母の言葉にグサグサ傷ついて流れる血をどうすることも自分でできないし、聞き流せない。

１言われても、３くらいグッサリくる自分がある。言葉もなく、泣きたいのをこらえて「わかった……」そう言って受話器を置く時、私の心は逃げの一手。自分の心から血を流さないためには、母を抹殺している。

そんなことに明け暮れた、この１年８ケ月です。

自分は冷たい心を抱(かか)え、母を抹殺しながら、遠まきに母を見て、たまに電話をして、変わっていないか、以前のようにやさしい言葉もかけてくれる母に戻っていないかを、ただ待っている。自分が変わらず、ただ母が少しでも変わっていないか、それだけを待っているのです。母が恐怖。あの母の怒り、破滅度のすごさが恐怖です。

でも瞑想の時間になって、瞑想をしたら小さい時の自分が出てきて「私はお母ちゃんが好き」という思いが出てきました。私はなぜ母を受け入れられないのですか。

お母さんを信じていないのです。お母さんの心を神の子と思っていないのです。母は駄目だと、決めつけているのです。この人は駄目だと決めつけているのです。見下げ切っているから受け入れられないのです。

なぜ、私は母を見下げ切っているのですか？

お母さんを肉で見ているのです。お母さんをその姿、形で見て、意識を見ていないのです。お母さんの本当の心を見ようとしていないのです。そしてあなたは自分自身を受け入れていないのです。自分を嫌っているのです。形を見て判断するあなたの心が邪魔をしています。あなたの心を小さく閉ざしているのはその心なのです。

どうしても受け入れられないと決めつけているあなたがあります。どうしても肉を見て、神の子だと信じ切れないあなたがあります。

神よりも肉を信じ、神よりも肉の自分を信じ、心を見ていない

のです。あなたの目に映るものは全部影です。あなたの目に映るものは、全部あなたの心を映しているのです。その心を見ずに真実は見えません。

あなたの思いをしっかりと見て、それがご自分の心を映しているものだということをその心で感じてください。怒りのお母さんは、あなた自身の心を見せてくれているだけなのです。

お母さんの心

もう木枯が吹くという、つめたい大地に、たった一つ
ボロボロのアミだけのカゴのようになった
ホホヅキの殻が落ちていた。中に朱色の
ホホヅキの実がすけて見えている。
私はスケッチしようと手にとってみた。
そのとき私は母の心をみた。
この中の赤い実は、赤ン坊の私
であった。私の母はもう死んで
しまっている。だのに、私の母は
このホホヅキのようにボロボロになっても
まだじっと、私を抱いてくれている。
七十も越した私をまだ赤ン坊と思い、守っていてくれて
いる。あっお母さーん、私はもう涙々で、
これ以上書けない。あっお母さーん……

第 215 回セミナー（愛知・明山荘）「来世につなぐ人生」がテーマ

他力信仰の反省　Vol.1 他力信仰の間違い

1992 年 6 月にエルランティの光出版から「他力信仰の反省」と題したビデオ、Vol.1、Vol.2、Vol.3 が発行されました。その Vol.1 には、田池先生が講話の中で「他力信仰の反省」について真正面から話された内容が詰まっています。UTA ブックの HP でも公開していますが、ここでは、その要約を掲げさせていただきます。

1．自力と他力

　この学びと他力の学び・宗教との違いは波動です。どんなに美しい言葉を並べようとも、波動だけはごまかせません。自分を肉と思っているか、神の子と思っているかです。自分を肉と思う心、すべてが他力です。自力は自分を神の子と信じていく道です。真剣に他力の反省をしていかなかったならば、どんなにこの学びに集っても神に向いていくことはできません。肉に向いているからです。自力の道は本当の幸せの道です。それが真なるあなたです。他力の道は真なる神への道とまったく反対です。まさに神に対する反逆行為です。サタン街道です。地球を滅ぼす行為です。

　人類の間違いの根本は、肉体を自分だと思ったことです。ですから、このセミナーに皆さんは肉の幸せを求めてくるのです。私は人間の本質は意識であり、肉の世界は影の世界だと言っています。従って、私と皆さんの間にズレが生じます。欲と神は合わないんです。肉の幸せの向上を図る学びではないのです。肉の幸せを求めていくらこの学びに来ても合いません。

　他力信仰をやってきた人は、自分の心の中に他力の心、思いをつくり上げてしまっています。他力の教祖の意識を自分の中につくってしまっていますから、完全に教祖に支配されています。ですから真なる神の方向に心は向いていきません。宗教の看板が変わっただけで心は変わっていないのです。

2．反省の仕方

　一番大切なのは、どんな思いで他力信仰に心を向けたかです。どんな心を使ったかということです。なぜ、そんな心を使ったのかと深く深く自分の心を見ていくのです。そうすると、その心が教祖の心と通じていたことが分かるのです。自分の中に一つの偶像ができあがっていたことが分かります。そして、そのできた偶像によって自分自身を縛りつけているということにだんだんと気付いていくのです。そういうことに気付いていくと、自分は無知で本当のことを知らなかった、自分中心であったと分かってきます。そして、最後は自分は神を知っていたと思ったけれども、私の知った神は神ではなかった、サタンだったのだな、どうして自分はそれを神と思ったのかというところまでいくわけです。

3．他力の心

　他力の心とは自分勝手な気ままな心、エゴ、利己主義です。本心はエゴです。自分さえ良ければいいのです。そして、己を表したいのです。皆さんは闇を嫌うでしょう。それを嫌う心はエゴです。なぜか、あなたは他力の心いっぱいだからです。他力の心の正体をしっかりと見てください。そうしないと、他力の心から自分の魂を解放することはできません。

キーワード 3. 他力信仰

救いたい心、救われたい心（岩手県）／2000 年2月3日

人を指導して支配しようとする教祖の思いが、自分の心の中に根強く存在する。「間違っていない」という思いで自分を守り、相手の闇を暴いている。そんな自分の強い心癖に、闇出し現象で対面できた。「自分は正しい」と信じて譲らない思いを崩すきっかけを与えられた。

闇出し現象で天照に心を向けた。叫び声が心の中から湧き上がってくる。支配したい思いが出てくる。自分のエネルギーで、すべてを思い通りに動かしたいという思いが出てくる。力こそがすべてであり、周りのものをすべてぶち壊して、殺してやりたい思いが出てくる。思いが出し切れていないと思っていた時、T さんが出てきてくれた。「それでも男か、しっかり出さんか」と促してくれた。Dさんも出てきて、「自分が闇を出し切れていないのが苦しい」と、出てきてくれた。Dさんは、「私の母親だったことを思い出せ」と叫んでいた。その時はよくわからなかったが、Dさんに対して、過去でもの凄い支配の思いを向けていたということを後で感じた。教祖の思いで支配してきたと思った。Tさんの働きかけに対して、「僕は苦しくない、絶対に間違っていない」と反発した。「天照を信じて何が悪いのだ、この俺様は大教祖で何が悪いのだ」という思いが出てきた。「自分はできあがっている、すばらしい」という思いも出てきた。教祖である自分を、少しも悪いと思わなかった。むしろ、そんな自分を正当化して、開き直っていた。

教祖である自分を誇り、あらゆる人を自分の都合のいいように動かそうとしてきた。従えてきた。いつも自分が中心でありたかった。注目の的でありたかった。相手と比較して、自分のほうが優れていると思っているから、人を指導しようとしてきた。それは、誰よりも母に出していた心だった。自分のこの苦しい心をどうにもできなかったから、人の心を支配しようとした。母を支配することによって、自分の心を何とかしたかった。自分を救うことができなかったから、他人に救いの手を差しのべた。一番身近な母に、その思いを使ってきた。人のことを自分の思う通りに動かせたなら、苦しみを感じなくてすむと思っていた。苦しみさえ何とかできたなら、肉の幸せを手に入れることができると思ってきた。自分にとって目に見える肉の世界がすべてだった。支配の思いから肉の幸せを求めるのは、自分の本質を肉体と信じているところからくる思いだと思った。

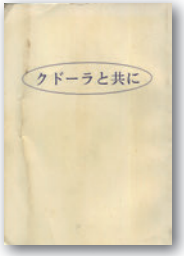
闇出し現象で、「自分は間違っていない」と言い張る教祖の心がこんなにストレートに出てきたのは、初めての体験だった。心の奥底に溜め込んできた思いだった。今世、生まれる前から使い続けてきた思いだった。自分は教祖だった。すべてを自分の思う通りに動かしたかった。自分の正当性を説き伏せたかった。いかに自分が優れているかということを知らしめたかった。本当は教祖

である自分自身を、一番救ってほしかった。苦しくて仕方がなかった。苦しみは目の前の現象が原因だと思った。その現象さえ整えることができれば、苦しみを解消できると思った。パワーさえあれば、現象を変えることができると思った。人の心を変えることもできると思った。自分にとってパワーで築きあげた現象が崩れることが、一番の恐怖だった。だから、更なるパワーを求め祈った。祈りはパワーだった。病気で苦しみたくないから、死にたくないから、パワーを求めた。相手にうち勝つためにパワーを求めた。自分が勝負の世界で使ってきた心は、過去に戦争で使ってきた思いだった。恐怖の心がパワーを求める根底にあった。その恐怖は肉を自分だと思う心からきていた。この肉体を失うのが恐怖だから、パワーを求めた。パワーを求める思いは祈りの心に通じていた。死の恐怖から自分を救うために祈った。念仏を唱えた。死ぬことがとてつもない恐怖だった。死にたくなかった。死んだら終わりだと思った。天変地異で何度も肉を失ってきた。恐怖の中で念仏を唱えながら死んでいった。自分の祈りを受け入れてくれなかった神を呪って死んでいった。

先生の指差しで下腹に苦しみを感じて、円陣の中で転げ回った。救いの思いとすべてを牛耳りたい思いが出てきた。その後、父の方へ向かっていき、円陣の中へ引っ張り出した。父と競い合い戦ってきた思いが爆発した。「お前なんかに負けてたまるか。倒せるものなら倒してみろ」という思いを出して叫んでいた。自分が父親を引っ

救いと祈り 1992 年 5 月

宗教の諸問題 1992 年 9 月



クドーラと共に 1992 年 10 月

ビデオ「他力の反省」
Vol.1 他力信仰の間違い
Vol.2 教祖と信者 1994

張ったのは、父を何とかしたいという教祖の思いからくるものであった。自分の中の受け入れられない心を父が見せてくれていた。人を変えようと思うのは、そのほうが自分にとって都合がいいからであった。自分が救われたかったから、身近な父を救おうとした。自分のほうが父よりも上だと思う傲慢な思いであった。父と円陣で取っ組み合ったあの姿は、2 人で戦ってきた思いが現象化したものであり、母に対して出していた教祖の思いとつながっていた。

指差しの反応で、下腹にとてつもない苦しみが広がった。そんな、苦しくてどうしようもない時は、救いの思いしか出てこない。異国の地の病院で激痛で苦しんでいた時、苦しみを母に訴え続けていた。母にその思いを伝えることで救いを求めていてた。母に祈りの心を出していた。母を祈り殺してきたという思いが、現象を通して出てきた。現象を通して、その思いを確認できた。母に救いを求める思いは、田池留吉にすがる思いと同じであった。

救いを求める奥底には、とてつもなくさびしい思いが存在している。母の温もりを心からうち消した心は、孤独と恐怖でいっぱいだった。それでも自分は「正しい、間違っていない」と言い張っ

ていた。心はとてつもない苦しみであるのに、間違っていないと言い張っている自分こそが、肥溜めにはまっている状態だと思った。苦しいのに苦しいと言えない。いつも本心と正反対の行動をして、強がってきた自分の姿が思い出されてきた。

正面から闇と真向かいになることができなかった。絶対に自分の非を認められなかった。この自分を守るために相手の闇を暴き出した。自分を誇り正当化する思いが、自分の闇と対話することを妨げている。人から批判された時出てくるのは、「お前が間違っている」という思い。自分は正しく、すばらしいという教祖の思いでガッチリと固まっていた。

自分の中に存在する受け入れられない思いが、嫌いな人を作り出していた。そのことを認められなかった。「自分が正しくて、お前が間違っている」と、譲れない自分の思いが大きく影響していた。祈りを捧げる人を心の中で見下して切り捨てていた。でもそれは、自分の心の中にある祈りの心を切り捨てていることであった。自分の心は救いを続けている。その心に蓋をして、自分の祈りの心を切り捨ててきた。自分は間違っていない、すばらしいと信じる思いが、そんな自分の闇と対面することを拒否していた。

すべてに不平不満の心をぶつけて生きてきた。与えられた肉体、育てられた環境に対しても、不平不満の心を使ってきた。自分の中には、外へ強く求める心があった。「もっと、もっと」と求めている思いが、喜び、感謝の気持ちに蓋をする。すべて自分が望むように動いてくれないと満足できない、文句を言う。それこそが、母に対して出し続けてきた思いだ。

常に人に求める思いを出してきた。その心が満たされない時、拒絶された時に怒りの思いが湧き上がった。人はその自分が求める思いを引き出すだけなのに、その相手に怒りの矢先を向ける。自分が心の中で人に求める心を膨らましていることには目もくれない。人を通してそのことを気付かせてもらっていたのに、自分を正当化する心が自分を見つめることを妨げる。

いつも人に頼る心を出し続けてきた。自分でするべきことも人にしてもらっていた。窮地に陥っても、助けを求めれば何とかなると思っていた。その思いが死に直面した時に、念仏を唱える心につながっていた。他力の神を求める思いでした。求めている神は、自分を救ってくれる神だった。自分の望みを叶えてくれる神だった。その思いが、闇出し現象を通してハッキリと出てきた。それが、今の自分の心の現実だった。頭で知識としてあることと、心で握っているのとは、かなりの開きがある。心の中の一つひとつの気付きの大切さが身にしみた。

他力信仰の反省（大阪府）／1999年5月18日〜20日

喉に痰が溜まる。喉が痛くて夜中何度も目を覚ましました。から咳が出る。目を閉じると目の奥が異常に痛い、頭が締め付けら

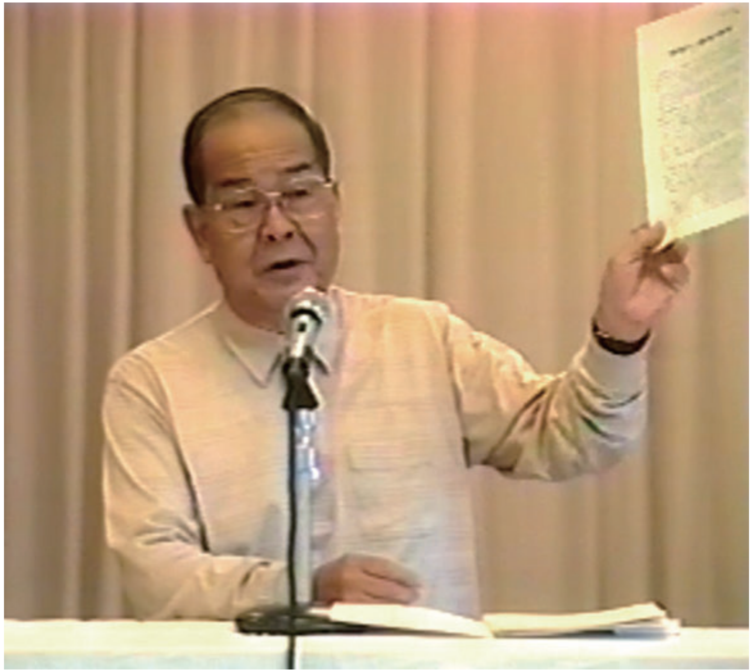
れるように痛い。

私は生長の家の講師として話をしている時、説得していました。目で文字を追い文章をしっかり頭に記憶してきました。憶えたものを口で人に説明していただけでした。谷口雅春さんを仰ぎ見て、私はわからないから雅春さんの真理の書物を読んで、わかっていかなくては……、覚えなくては……と忙しく次から次と読みました。

大切だと思うところは線を引き、ノートに写し出し、私の大切な真理の虎の巻ノートを作成し続け、それが何よりの手掛かりとして、人を説得するための大切なノートとしていつも持ち歩き、私の手元から離せない物として愛用しておりました。

私は説得し続けました。私は人に会えば生長の家の話をしました。積極的に駅前で何時間も道行く人たちに白鳩誌 (生長の家の婦人用月刊冊子) を笑顔で手渡して伝導し続けることも何回もやりました。すばらしい事をしている私だから、恥ずかしさはほとんどありませんでした。1 軒、1 軒家を訪問して、真理の話をして、冊子を手渡しして歩き回った事も何度もありました。良い事をしているという誇りがありました。人を救いたい、人を幸せに導きたいと、世界の平和、宇宙の平和と私の夢は大きく明るく広がっていきました。

本当の事を真理を教えてあげたい、生長の家を伝えたい……と。とても熱心に伝導し続けました。人がうなずいて私の話に耳を傾けて聞いてくれる時、2 時間、3 時間、4 時間くらいアッという間



「神は愛なり」と「他力の神」の違いについて話される
田池先生（1999 年 9 月 19 日　琵琶湖グランドホテル）

に気分良く過ぎていきます。朝から夜遅くまで、生長の家の事を話す機会をどんどんつくっていきました。話す事がうれしかった。真理がわかってくる事がうれしかった。人が私を仰ぎ見てくれる事が私の喜びでした。人に伝えたい、話を聞いてほしい、本当の事を教えてあげたい、この思いがどんどん私を熱心に生長の家へ、入り込ませていきました。寝ても覚めても生長の家でした。頭の

中も生活も生長の家で埋め尽されていきました。何かあったら生長の家でした。水を得た魚のように生き生きしていきました。頭を丸めてもいい、出家をして信仰の道一筋でもいいと思うくらい生長の家が好きでした。

神に仕えている私、神を伝える私、いつもいつも神と一緒、私は神に愛されている、神はいつも私を見てくださっている……と、神を仰ぎ見て外に神を求め、神に愛されてさえいれば怖いものなんてない、神より偉いものはない、神が私の味方をしてくれたら、これ以上幸せはないと思う私でした。私は世界中で一番の宝物を手に入れられたような気分で、いつもニコニコとうれしそうにしていました。N 先生と言われ、人が集まってくれる事で心が落ち着き和みました。私が愛深い人だから、私がやさしいから、私が素晴らしいから人が集まってきてくれると、自分にうぬぼれてそびえ立つ思いでした。「何でも質問してください、私が答えてあげましょう」と偉一い立派な私とどんどん思い込んでいきました。でもその様な心がばれないよう、ニコニコ親切に、やさしく楽しく振る舞ってきました。

いつの頃からか、生長の家の書物だけでは私の心が納得せず、人に話をするにも言葉が片寄って線香臭く古い感じで、もっと説得力のあるわかりやすい真理の表現はないものかと、書店に行っては精神世界の棚から次々買い求めては読み続けました。生長の家以外の色々な世界で、精神世界を求める人たちに出会ってきました。彼方此方（あちこち）の教祖的な存在の人たちと出会えば肩を並べる立場でしたから、紹介されたり、私自身も積極的に色々な会に参加させてもらい、愛や、神や、心や、光や……と話し込みました。

私は一生この関係の人たちと一緒に協力し合って世界平和を唱え、精神世界を説いて愛を伝えていくんだと思い込んでいました。

1 日 24 時間、精神世界、生長の家の事が頭から離れません、精神世界から離れては生活できない私でした。

アメリカ人の考えた自己開発のセミナーのためのトレーナーにならないかという話が来ました。日本ではまだ始まっていない新しい形で、自分自身と向き合うトレーニングです。トレーナーになるためにセミナーを受け、学びました。後は資格をもらうだけ……という時、このエルランティの光の学びを伝えてもらいました。

私の中にはどうしても後少しのところで答えが見つからず、納得できないままで学び続けた疑問がありました。愛とは、神とは、というところに来ると一番私の知りたい、私の求めているところが、どの書物にも、そこは飛ばしてあるのです。たくさんの本を読みましたが、私が一番知りたいと思うところは空白なんです。精神世界のリーダーたちや、生長の家の偉い先生たちに質問しても、そこのところははっきり答えてくれませんでした。

私はその答えが見つからなくて困り果てていました。はっきりしないままでトレーナーになっていいんだろうか、ごまかしたままで生長の家の講師を続けていていいんだろうか、私の中で何かはっ

きりしないままで、次に進んでいるという感じの時でした。4年前八尾のセミナーで田池先生にお目にかかりました。私がこれまで出会ってきた精神世界のリーダーとは全然違いました。教祖の匂いがない、普通の人と変わらない、全然偉そうにしておられない、そしてチャネラーの人たちも同じ普通のおばちゃんたち、ここには上下がない、偉い人も新しい人もない、皆横一列、何か見ていて気分がいい、他では見られない爽やかな感じがする、会則も会費も何もない不思議なグループだった。何かうれしかった。新鮮な、清々しいものを感じたのを覚えている。そして何よりチャネラーの多い事に驚いた。私の知らない世界だ。このような会は他にはないだろう。チャネリングにはもともと興味があり、あの特殊な能力が欲しいと思っていた。精神世界を理解するのに確実にわかりやすい、私は人にどれだけ説明しても、説明し切れない部分の悔しさを味わってきた。チャネリングによって伝えられる事って、精神世界を理解するための大切なヒントになってくるはずだ。こんなにいっぱいのチャネラーが生まれてくるってなんていう所だろう……、私もチャネリングができるように水晶を持ったり、丹田呼吸をしたり、線香の火を真っ暗な部屋で見つめ続けたり、色々修業してきたが、とても難しく、集中力がないとできない事がわかった。私は才能がないのか……と思った。

　でもこの学びの人たちは修行しなくても自然に敏感になって、自然体でチャネラーになってしまうような感じがした。そしてチャネラーになっても普通の人と変わらない生活をし、会話している。こっちのほうがいい、私はこっちのほうが好き、今まで出会ってきたチャネラーや教祖は、お前たちとは違う！という雰囲気で偉そうに一般の人たちを見下げている、あれは私もやってきたが嫌だ。「よし、決めた」と思った。「こっちに決めた、エルランティの光の学びの仲間に入れてもらおう」と思った。今まで培ってきた精神世界も生長の家も全部処分しようと決心した。今までの仲間たちとも付き合う事もないだろうと、すべてを捨ててこちらを選んだという気持だった。私の欲しかった答えがここにはあるような気がした。勇気のいる事だった。全部何もかも今まで大切に集め続けたものを捨てて、カラッポの私が一から皆さんと学ばせてもらうことは、裸のような気分で少しの不安はありました。でも、もう引き返せません。後戻りできない思いで、平成7年6月の下呂セミナーが私の初参加でした。

　ここ2～3日の体調の悪さは他力信仰の反省をしなさいと促されている気がしました。苦しいです。(自分で自分を怒っています。自分を許せない心が見えます。)

　真理を求め書物を読み続け、文字を見続け、文字を書き続け、私は私の目を酷使してきました。やさしい思いを向けた事ありませんでした。私は目が良く見える事を自慢してきました。

　真理を覚えようと頭にたたき込みました。もっともっとと頭にいっぱい詰め込んでいきました。誰よりもわかりたいとぎゅうぎゅ

う詰め込みました。
　喉はどれだけ話しても潰れなくて、もっと、もっと話し続け、美しい整った言葉を並べたて、人をウットリさせるほど上手に楽しく真理を伝え続けました、喋り続けて人を説得してきました。
　体が私に伝えてくれています「頭も、目も、喉も、疲れた、疲れた、痛い、痛い、ガタガタのボロボロだよ、メチャクチャ無理し続けてきたよ、そろそろ気付いてください、自分の間違いに気付いてくださいよ……」

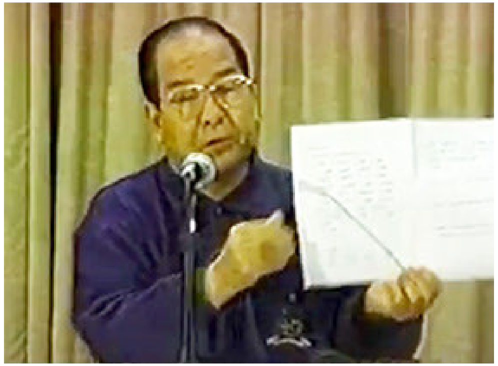
仏壇＝父親でした（沖縄県）／1999年6月2日

　皆さんお元気ですか？　いつもお世話になります。他力の反省をいつも何度やっても途中で投げ出していました。昨日、他力の反省をしたいけどあまりにも漠然として何をしようかなあーと思っていたところ、同じ沖縄のOさんから教材を頂き(肉で言えば偶然のように)やっぱり「仏壇」のことでした。思いの出るまま書きましたので、あっち飛び、こっち飛びしているようにも見えますが、うれしい思いでやっと他力の反省ができたので送ります。
　私にとって仏壇というものは父親そのものでした。私は、男の子が4人続いた後に生まれたので、父が喜んでくれたそうです。兄にいじめられた時も、母はかばってはくれなかったけれど、父は私の味方になってくれました。父が私を守ってくれるものだと思っていました。
　その父が突然死にました。それも自殺でした。病院から帰ってきた父は、全身が包帯でグルグル巻きにされて、まるでミイラでした。父の周りには真っ黒い洋服を着た人たちが取りすがって泣き叫んでいました。私を見て「こんな小さい子を残して……」と嘆いていました。火葬場に行って、煙突からユラユラと煙が上がっていました。誰かが言いました。「父ちゃんは煙になって天に昇っていったんだよ」。
　それから家に仏壇というものが置かれ、父ちゃんは見えないけれど神様になってみんなを見守っていると教えられました。私にとって仏壇＝父親以外の何ものでもありませんでした。私は父がいつも見守ってくれていると信じていました。母が仏壇（父）に向かって、「神になって子供たちを見守ってください」と手を合わせている。事故、病気、人間関係のトラブルがあればユタを訪ねては、先祖の供養が足りなくて父が苦しんでいるから拝みをしなければいけないと言われる。そうして母は仕事が休みになるとビンシーという酒、米の入った箱と線香と白紙をいっぱい持って出かけていった。
　先祖の祟りのようなものの内容は、だいたいチャッチウシクミという長男(跡継ぎ)を間違えて墓に入れてあったり、仏壇を継ぐべき人が間違っているとか……(継承者争い？)そんなものだった気がします。

幼い時、私はどうして仏壇を持つのは長男という決まりがあって、そんなに大問題なんだろうと思っていました。だけど、今こうして考えてみたら、仏壇を継ぐということは財産を継ぐということであったんだと、だからみんなが目の色変えて継ぐだの継がないだのって、もめているんだなって思いました。

財産がくっついてくる仏壇は欲しい。しかし大した財産もないものは厄介者。そんなものなど誰も持ちたがらない。実際私も、仏壇というものは持ちたくないと思いました。仏壇を持てばそれなりの祭事をしなければなりません。

その時にどれだけ人と衝突し、アーじゃない、コーじゃないって皆が皆ブツブツと不平不満を持ちながら、表向き、親族という一つの仲間意識を固めたかのようによそ者は入れない。入りたければ、ここのしきたりに従えと強要してくる。それができない奴は村八分。私は幼い頃からそんな場面を何度も何度も見てきたんだなって、そして形を信じていたほうが、この世的に利口な生き方なんだと思ってしまったのかも……。そのためにはそれだけの見返り(要は金)がなかったら、お前らの思っていることを言いふらしてやると脅したのかもしれない。(私は金の力で自分の心を封じ込めてしまったのですね)それが意識をつかまえて、利用するってことなん



他力信仰の反省の仕方について話す田池先生
1992年5月11日「他力信仰の反省」南明ホテル

だと初めて思いました。

父は今、仏壇に納められて幸せだろうか？ 父は皆に奉られ、手を合わせられ、拝まれて幸せだろうか。私はこの仏壇というものをぶっ壊してやりたかった。ここから父を引きずり出して聞きたかった。なぜ逃げた？ なぜ自殺した？　そんなところに一人のうのうと座っていられると思っているのか。何が神様だ、何がみんなを見守っているだ。ただの卑怯者じゃないか。ただの臆病者じゃないか。いつまでもその中でウジウジしていろ！　なんの力もないくせにいざとなれば俺だって？　笑わせるな、イザとなれば真っ先に逃げるくせに、何もしてやれないと言え！　俺は神様なんかじゃないと言え！　俺だって苦しくてたまらなかったって言え！　俺だって怖くて怖くてたまらなかったんだって言えよ！

だけどなんにも言ってこない父にとうとう嫌気がさして、もういい、目をつぶるから金だけ持ってこいって、取り引きしたような気がする。お前には金儲けするしか能がないんだ。稼ぐだけ稼いでさっさとくたばっちまえ！(これって夫に使っています)私はKが生まれた時、父を恨みました。守ってくれなかったと、お前なんかもう信じない！って思いました。よその家に嫁いだ子は、救ってもくれないのかって思いました。何で私に限ってこんなことが起こる

の?って思いました。何もかもが信じられなくなりました。(それがギブ&テイクの信だとは思っていませんでした。いやテイクだけの信でした。自分にとって都合の良い信でした)

今まで私は、守られているとドッカリあぐらをかいていたのに、すべてのものをバサッと剥ぎ取られてしまったようで、心は冷たく、固く閉ざしていきました。バリアを張って、少しでも忍び込んでこようとするものは、バッサバッサと撃ち殺していきました。守り、そして攻撃、ただただこの戦いだけで生きてきました。自分で自分を守るしかない、と心底思いました。パニックでした。武器を探しました。すべてを破壊するだけの、決して失敗は許されない完璧なものを探していました。苦しかった。出口のないトンネルに吸い込まれていくのがわかりました。そんな時、この学びに出会いました。「苦しんでいるあなたが、一番間違っている」その瞬間、全身から力が抜けていくのがわかりました。

父は今でも、グルグル巻きになって、身動きがとれないでいる。何もしゃべれずに、苦しいと言えないでいる。そんな父に私たちを守れるはずもなく、守ってと言えるはずもなく……。私はそんな父を切り捨てていました。こんな父にいったい何ができるというのだって、見捨てていただけです。自分のことで精一杯の奴に守ってなどと言うほうがおかしい。捨てておけ！　かまっている暇などない！　勝手にのたうち回っていればいいんだ。知るか！

大人になった私の眼中には、父の存在などないに等しいものでした。情けなく、見るも哀れでかわいそうな存在。役目を終えた無用の長物。粗大ゴミと一緒でした。私は利用するだけ利用して、いらなくなったら後はポイっと捨ててしまったんです。利用されて踏み台にされて、どんどん蹴落とされていくのに、それさえ気付かないで、同じところでウロウロしている鈍感な父をバカにしていました。

私はずっとより強いものを探し続けていました。私は常に何かに守ってもらいたかった。私の託せる相手は男でした。より強い男、世界最強の男をつかまえたかったのです。あまりにも欲が深いからこそ、絶対満足しないわけで、肉では幸せになれませんということはこのことなんだと納得です。

父を神様に仕立てて、役に立たないとなれば切り捨てていたのは私でした。同じ心を、夫や周りの男の人に使ってきました。強いものを手に入れたかった。パワーが欲しかった。自分を守りたかった。「自分」が怖かった。何をしでかすかわからない、そんな自分の存在そのものが怖かった。あなたは神の子ですよ、と心から信じてくれている人はいなかったから……。

私はこうして自分の思いを見ながら、「こうして認めたからといって、じゃこれから先いったいどうしたらいいの??」と思います。書いていくうちに、何も今、初めて知ったわけではない思いもあります。ずっとずっと自分の中に潜んでいただけで、十分知っていながら放置というか、寄生虫がいついているような暗黙の了解で強制している、そんなものです。それに言葉にできるものは、まだましだなっ

て思います。

書いて処分してしまったものもいっぱいあります。意味不明、つじつまが合わない、文章と呼べない、全然「終わり」が来ない、そんなものもいっぱいあります。ELに送ったからって……何になるのと思います。そしたらELの方たちの顔が浮かんできて……ごめんなさい。グシャグシャなんです。どこから手をつけていいのかわからないほどグシャグシャなんです。お母さんに抱きついて思い切り泣きたい、そんな心境です。

心を見ていることが、お母さんの温もりそのものなのかなあと思います。私はいっぱい愛されていた。こんなに遠く遠く神から離れても、愛されていた。そう思えて、そのことを忘れずに、あせらずに見ていけたらと思っています。

指導する心・教祖の心（宮城県）／1997年11月15日

学校の先生をやっていて「もうやめたい。ここから抜け出して自由になりたい」という思いが湧いてくる。最近はもう、この思いの塊だ。生徒がイヤなんじゃない。職員がイヤなんじゃない。学校、学校という組織。組織の中にいる自分。そしてそこで使う思い。過去世を感じる。過去世とダブる。あの時使った思いを今の今世、まったく同じ状態で使っている。生徒も神の子とわかっていながら、私はあの時と同じ心を使っている。生徒も好きだし、先生方だっていい人ばかりだし、仕事だって、考えてみたらそんなに大変ではない。だけど、「もう辞めたい」という思いが止まらない。

何をやめたいのか。それは自分の使っている思い。自分の使っている思いの世界。思い出す過去世。過去世ではない。もう現在、肉は変われど使っている思いは今世の思いとまったく同じ。その思いとは指導する心。

最近、教師をやっていて指導する心は本当に冷たいと感じる。冷たい、冷たい、愛がない。どんなに「あなたのことを思って言っているのよ」って言ったって神じゃない。神じゃない。今まで自分が愛だって思っていたものが、そうではなかったと、また気付かされた。どんなにやさしく対応しようが、どんなにきちんと責任を果たそうが、意識の世界で気付かされることは「愛じゃなかった」ということだけだ。だけど、私は「そんなこと言ったって、この思いを使わなければ、生徒はまとめられない」と言い張る。その中で

湧いてくる過去世は、イスラエルの民を指導してきたということ。「あの時は本当につろうございました。とにかく人を動かさなくては。とにかく人を動かさなくてはいけません。指導しながら移動をする。指導しながら神を求めさまよい行く。指導する心は苦しい心。人々を動かさなくてはならない。そのためには信じさせなくてはならない。

あの時代も私は霊道者だった。神の声を、神の方針を、我が身を使い、我が口を使い、語り、人々へ伝えた。『神はこう言っている。神はこのように伝えて来た』。神、神。エホバ、ヤハウェイ。言わずと知れた他力の神だ。私の中にいる神。今「指導する」という思いと共にあるのは、エルランティ田池じゃない。だけど、私はそれをずっと神だと思ってきた。『あなたの声を、お聞かせください。あなたの持つ方向性を私共にお示しください』。お告げ、お告げ、お告げ、お告げを求めてきた。お告げを求めて生きてきていた。神からのメッセージは次に移す行動の指示。迷った時、いつも答えを求めた。「どうすればいいんですか？　どうすればいいんでしょうか?」

間違った神に向いていたと気付いただけで、こんなにも素直に心癖を認められるんでしょうか。「この思いを反省していかなきゃなあ、反省していきたいなあ」と思っていたら、自然と次の項目が出てきました。

◆神に向けた思い

◆神を語った思い

◆人々に向けた思い

◆神を語る者として自分自身に向けた思い

過去世を通して、今世、学校で使っている思いと一緒に自分の思いを見ていきたいと思います。文はメチャメチャでもいいから、一つでも気付けた思いを大切にさらけ出していきたいです。

他力信仰の遍歴（大阪）／1999年10月21日

私は、肉の幸せを求めて、他力信仰のはしごをやってきました。小さい時に父を戦死で亡くした関係で、母の言われるままに何の疑いもなく仏壇に向かって、阿弥陀如来とご先祖（父）に対して、朝、晩に、姉妹そろって念仏を唱えさせられました。小さかったので、嫌々、お母さんにしかられるのが怖くて、自分の願いを込めて拝んできました。お母さんも4人の子供を取り残され、何かにすがりたかったのだと思います。それは先祖が念仏によって供養され、私たち家族を守ってくれると教えられ、信じて手を合わせて、拝んで拝んできました。

そしていつもその頃より、私の頭の中に念仏がありました。どんなことに出会っても、大難より小難で済みますようにとか、自分の思うように叶えてもらうといったことを、いつも心の中で祈っていたように思います。毎日仏壇に手を合わせて拝むことに疑問を感じていた時に、主人の勤務先の上司の親戚の方より、私は早起き会

を勧められた。私は戸惑っていたが、主人の勤め先で断ることによって、イヤな思いをさせられたらと思ったり、また、内容が私の性格に合った、道徳と倫理で形作るすばらしい会だとも思った。

今まで、ただ仏壇に手を合わせるのにくらべ、早朝より集会があったり、規則正しく気持ちもいいし、本を１軒１軒配布して、いいことを伝導していくことが自力の道だと思った。でも、一回相談するごとにお金を要求され、本も１ヶ月30冊、50冊、100百冊と持たされ、それに講演あるごとに得積（えせき）しなさいと、出せる範囲で強要された。

その当時、私の悩みは、主人が季節の変わり目に鬱病（うつびょう）になり、困っていたので、その原因結果を知りたいというのが、入会の動機でした。私はいつも正しい、間違っていないのに、主人の心が悪いからだと責め裁き、私はこれだけ妻として一生懸命あなたにできる限り尽くしているのに、と思いながらの生活でした。言われた通りに得積していけば、きっと病気もよくなるだろうと、ギブアンドテイクの心で早起き会をやってまいりました。

また、同志で得積したいが、お金は入るが期限に間に合わないので、それまで貸してあげてほしいと頼まれ、返済日にはきちんと返しには来てくれましたが、「人に貸すお金であれば、今あなたに必要のないお金でしょう。これも得積することによって家族も救われる」と言われ、それに従いました。そうこうしているうちに本の配布も滞り、その上に支部長に呼ばれ、主人のボーナスを得積するように頼まれ、その当時、金金、で追いまくられていました。本は毎月200冊来ていたし、お金もだいぶ使っていた。家の片隅には、本が積み上げてあるし、一生懸命に働いてくれていた主人のお金を持っていく気もなく、これ以上ついていけないとこの機会に脱会しました。

少し経って、息子が学校の屋上で友達とボール遊びに夢中になって壁に額をぶつけて怪我をした時には、私の心の中に「やっぱり脱会したために、罰が与えられたのでは」といった不安と恐怖の心が頭の中をよぎったのもたしかです。それから１冊の本にめぐり会い、ＧＬＡに入会しました。今までに聞き慣れないことで新鮮味を感じ、また、高橋信次さんの朗読や、講演に心がひかれたのもたしかです。

本を読みました。知識もいっぱい入れました。でも反省といったら、五感で感じる、見る、聞く、話す、こうしたとかこうされたとか肉肉で、心は全く見ていませんでした。私の心はやはり、地位、名誉、財産、そして健康であることが幸せにしてくれると信じていました。その中で、主人の病気は悪霊が付いていると私は主人の体をさすり、悪霊を追い出すというか、霊飛ばしを念じて、祈願文を唱えて「主人の病気が治りますように、そして気分がよくなりますように」と、主人の苦しい心を思いやるより、私が、こんな主人の姿を見るのがイヤで私が助かりたい、自分が一番の被害者だと自分のために祈ってきました。冷たい、冷たい私でした。

ある時には、いっぱい知識を振りまいて、自分の苦しい苦しい心を隠して、相談に乗ったり法を説いて相手の心を少しでも軽くしたい、助けてあげたいといった教祖の心もいっぱい使ってきました。納得されたらそれで、自分はすばらしいと己を表し、認めさす心も使ってきました。この時にも会館が建つことになり、喜捨してほしい、またお手伝いしてくるように言われた。その時に使った心も、人に負けないようにできるだけ多く出そう、そしていい格好したい、反面どれだけの見返りを求めてきたか、今思い出すと、愚かで自分がバカというか、おそろしい人一倍の欲たれでした。

そうこうしているうちに、主人の体も、もう一つ思わしくなく、毎月の月刊紙も理解できなくなって、自然に足が遠のいていきました。そして 10 数年前に、 Sさんに、神の子の道の学びに誘っていただき、現在に至っています。

本当に、今振り返れば、のらりくらりの申し訳ない日々を送ってきました。主人は、長い病の繰り返しだったので、この家は私がしっかりしなければダメになると、自分中心、自分本位で家族を支配してきました。怒りもいっぱい詰め込んできました。

いっぱい、いっぱい出してきた闇が、神の法のもとに現象化し、私は胃潰瘍で、大出血して死とも向かい合わせになるほどの病気になり、やっと自分は間違ってきたと思いました。私が頑張らなくても家の中は主人、子供が仲良く、何も心配しなくていいと、病院を訪れ慰めてくれ、やっと私は肉で頑張って自分をがんじがらめに縛っていたことに気付かせていただきました。私には、ここまでならなければ、自分の出している闇に気付けなかったのでした。本当に周りに心配をかけました。

「苦しいあなたが間違っている」と言われていたことが、身に染みてわからせていただいた。そして不思議なことに、ある日、主人は私の目の前で、たくさん持っていた薬 (精神安定剤) を処分して、「この病気は自分自身で治さなければ」と言って、それ以後どうなったのか、見違えるように元気になりました。それから、娘の主人の突然の死、日頃学びのことは伝えていたつもりが、肉が幸せで思うようにいっていたのか、なかなか心を向けてくれなかったが、大きな神の愛のもとに、今は私が伝えた以上に子供に引っ張っていってもらっている私です。

ある時に先生に、主人の鬱病が治ったことを言ったら、「あなたが変わったからです」と言われました。また、子供をつかまえて、「この子は頼りないのです」と言ったら、「頼りないのはお母さんの方ですよ」、と言われたことがやっとわからせてもらいました。そして主人の大腸ガン、いろいろと出してきたものが返ってきました。でもそのことで、少しはあわてましたが、先生に教えていただいたことが「あなたの目の前に表れる現象は全部自分が出したものです。自分が自分に課しているのです。乗り越えられないものはないのです」と、そして「自分の心は自分でしか救えない、誰も救ってはくれないのです、敵は初めからないのです。自分がつくってい

るのです。人間は初めから幸せです、喜びだけです」と、私の心の中より聞けるように言ってきてくれます。

振り返れば、いろいろの他力信仰のはしご、私の心癖を見て間違いに気付くために全部必要だったのだと思います。

今セミナーで、こんな間違った人生を歩んできた私にも、真実の道に出会わせていただき、そして一つひとつ光の中で自分のつくってきた他力の神々のすごいエネルギーを、心と体で体験させていただいている幸せ者です。

看板だけ変えている私ですが、この道を残された人生、暖かい波動の中で歩んでいけることが何よりの喜びです。

現在、1時間瞑想、反省、心を見ることが生活の一部としてやっていけるようになりました。「私は意識、神の子、神です」を信じていきます。ありがとうございました。うれしいです。

田池留吉に向ける他力の思い（神奈川県）／2000年7月19日

第197回の愛知のセミナーで、肉の田池留吉に思いを向ける瞑想がありました。一歩間違えば宗教か、宗教以下になりますよ。でもそれを乗り越えていかなければ、250年後につなげられません。ちゃんとやっていれば、このことも意味がわかります」というようなことでした。

田池先生の肉に思いを向けました。この勉強に出会った時のことを思い出しました。まだ俺は中学生でした。見た目は普通のおじいちゃんなのに、不思議な感じでした。そして、田池先生の肉を追いかけました。田池先生の肉が大好きでした。田池先生と話をするのが大好きでした。先生は俺に何も言わない。ああしろ、こうしろも言わない。ただ先生の側にいると暖かかった。安心できました。その頃の俺は学校にも行っていませんでした。いわゆる登校拒否です。でも、この勉強という場を見つけて、いつも親にくっついてセミナーに参加しながら、何となくですが、先生の講話を聞いたりしていました。

その頃の俺は、いつも「苦しい苦しい」って言っていました。いつも「苦しい」って言っていました。でも、先生がいれば安心でした。先生が側にいれば、苦しくなっても、体の調子が悪くなっても、大丈夫だって思っていました。苦しくなっても安心だって思っていました。

そしてある時、僕はすごく苦しくて気が変になりそうになりました。気が狂うかと思いました。普通に話したり、食べたりすることができなくなりました。Aさんが横にいて「大丈夫だよ」って、ずっと側にいてくれました。でも俺は「先生助けてください」でした。「先生がいなきゃダメなんです」でした。そしてその時、あるチャネラーの人が俺の意識を出してくれました。そして俺への田池留吉のメッセージは「私は肉じゃないでしょう。いつまで私の肉を見ているのですか?」というような内容でした。そして、そのような体験をそ

の後も何度もしてきました。何度苦しくなっても、俺はいつも「先生！」だったんです。先生は俺にほとんど話しかけたりしませんでした。セミナーなどで隣を通り過ぎても無言でした。俺の心は「先生の一言が欲しい」と思っていました。「暖かい言葉を挨拶でもいいから一言ください」でした。でも先生は俺のそんな他力で先生を求めている心を知っているかのように、いつも無言でした。今になって、その中に暖かさがあると知りました。俺の心はまったく他力の心そのままで、何も現在も変わっていません。あの勉強を始めた10年前から、俺の心は何も変わっていなかったんです。

一体何を勉強してきたのだろう。いつしか田池留吉という偶像を心の中に作って、それにすがって頼ってきました。いつも「助けてください。救ってください」が俺の心でした。そしてそれはいつしか「なぜ助けてくれない。救ってくれない」に変わっていきました。「先生は俺を助けてくれるはずじゃなかったのか。救ってくれるはずじゃ

なかったのか……」そしてそれは恨みへと変わっていきました。田池なんか死んでしまえ！　というエネルギーになっていました。少しずつ大人になるにつれ、汚い心をどんどんとふくらませていきました。苦しい心をどんどんとふくらませていきました。そう、思いっきり他力信仰をしていました。俺は、今世はまったく宗教などやってこなかったと自分では思っていました。他力の反省も疎かでした。他力というのがどういう心か、どんなエネルギーかということがまったくわかっていませんでした。軽く考えていました。でも、先生に使った心は他力の心そのものだったんです。他力他力の塊でした。先生を偶像化して、先生に救いを求めて、この学びに救いを求めて、苦しければ、周りも先生も、この学びも恨んできたのが俺でした。間違いでした。今、その思いの苦しさ、間違いに気付きました。それは、今回のセミナーでの田池留吉の肉に向けた瞑想の時でした。間違っていました。俺の瞑想は「タイケトメキチ

救ってください」の瞑想だったんです。瞑想の根本が間違っていたんです。そしてその心は、今までチャネラーの人たちにも使ってきたことを思い出しました。だから苦しみでした。教祖と信者という関係を、俺の心の中でつくりあげていました。

　でも、どんな時でも田池留吉から流れてくる思いはやさしさだけでした。そのやさしさが恐怖でした。何も言わずに、でも俺のすべてを見透かされてるようなあの指差しの時の眼差しが、闇の俺にとっては恐怖でたまりませんでした。でも、そのやさしさを心では求めていました。本当はただその温もりに帰りたいと心は叫んでいました。ただやさしさだけでした。そして、同時に「肉じゃないですよ。意識ですよ」という思いが伝わってきました。そのやさしさは間違いなく、俺の心の中から湧き上がってきていました。溢れ出てきていました。いつも外にばかり求めてきました。人へ、やさしさや温もりを求めていました。それで心は満たされると思いました。いつも外に救いを求めてきました。田池先生のやさしさを知りました。そのやさしさはどこまでも広がるやさしさでした。本当に暖かい思いでした。そのやさしい思いが自分の中にあることを知りました。自分自身の本質がタイケトメキチであることを、少しかもしれませんが、確認できました。それをうれしく感じます。自分の中に温もりを感じていけることがうれしいです。

　田池留吉という道標をないがしろにしてきた自分です。道標に唾をはきかけ、蹴飛ばしてきた俺でした。でも「それでもいいんですよ。今からやっていきましょう」といつも両手を広げて待ってくれている。いつでもどんなに迷っても、道標とは反対の方向に俺が歩いていても、その道標は俺に道を指し示してくれてました。道標は、気付けばいつも目の前にあるんです。あとは、自分がそれに気付いて、ただ淡々と、しかし、真剣に真実の道を歩いていくだけなんです。もう迷いたくないと思いました。迷い道に入り込んでいくのはやめようと思いました。肉の俺は、道標を蹴飛ばし続けます。でも、自分の中の思いは道標を信じて、タイケトメキチを信じて歩んでいきたいです。その思いが本当のやさしさなんですね。その暖かさを田池先生から感じました。タイケトメキチを信じていくことの幸せを感じました。他力の瞑想をやめていきたいと思いました。この勉強に出会えたことが幸せです。他力ドップリの、他力の塊の自分を少しずつ崩していきたいです。

このままでは私は幽霊だ（熊本県）／1996年9月10日

　さっき福島セミナーから帰ってきて、洗濯してるときフッと気が付いた。私は浮遊霊予備軍だ。そこらへんにいる無縁仏の予備軍だ。

　他力でセミナーへ行っている。助けてください、救ってくださいと田池先生に求めている。助かりたい、なんとか楽になりたいとセミナーへ通っている。この気持ちって、私の中の闇の意識と同じ。「あなたの中に助けてほしい救ってほしい闇がたくさんうごめいて

います」と、『エルランティの心』にもあるじゃない。それって他力の心のことよね。つまり私がこのまま死んだら、この闇たちの仲間入りをするってことよね。その中の一人になって、来世の私の中で「助けて助けて」と叫び続けるのね。

それってすごいイヤ。怖いことよね。恐ろしいことよね。だって私が忌み嫌ってきたそこいらの浮遊霊になるなんて、そんなの信じられない。私はそんな奴らとは違うと思ってた。全然別ものだと思ってた。まさか、まさかこの私がそいつらの仲間入りをするなんて絶対許せないことだわ！

先生があれほど「他力の反省をしなさい」とおっしゃるのはそういうことだったんだ。「命懸け」ってそういうことだったんだ。まだ私はことの重大さがわかっていない。けど、この肉あるうちしか供養ができないって、そういうことだったんだ。今世肉をもらい、田池先生に出会えた千載一遇のチャンスを生かさなければ、私は永遠に浮遊霊だ。

それってつまり、私は今、幽霊になる道を歩んでるってこと！他力信仰することイコール幽霊になること！　きゃーきゃーきゃー怖い怖い怖い、イヤだイヤだイヤだ！　私はまさか自分が幽霊になるなんて思ってなかった。頭でわかっているつもりでも受け入れられなかった。この怖い思い、イヤだという思いは、幽霊だったときの自分がいるからわかるんだ。私は自分が霊だということさえも十分わかってなかった。肉を離れることが怖くてたまらなかった。

幽霊になりたくない思いは死を恐れる思い、だから先生はおっしゃるんだ。「他力信仰の反省を命懸けでしなさい。このままだと幽霊になりますよ」って。「過去世が何であろうとこだわらずに」ということは、今の私の人生も過去世の一つだからなんだ。何万人もの過去世の中の一人。来世の私がチャネリングしてもらったとき、「私は、これこれこういう名の、この者の過去世です」って出てくるんだわ。そのとき「私は、折角肉を持たれたエルランティ田池と出会うことができたのに、何もわかっていませんでした。その掛け替えのないチャンスを逃してしまいました」と語ることがないように（ああ、でも言いそう）、今しっかりと学んでいかなければいけないんだわ。

ありがとう。気付かせてくれてありがとう。まだよくわかんないけど、まだまだ頭の反省だけど、とにかく自分が今とんでもない事態にいるってことがわかった．肉の生活、のほほんとやってるときじゃないんだ。もっと真剣にやらないといけないんだ。今日はこのメッセージを心で受け止めよう。私は幽霊だった。今もそうだ。しっかりと供養していこう。もっと真剣にやろうと思います。ありがとうございました。

次ページの文章は、ある方が、他力のことで、田池先生に電話で相談された、そのやり取りの記録です。少々長くなりますが、そのまま、掲載させていただきます。

他力の波動と田池先生の波動（神奈川）／2000 年 8 月 14 日

キリスト教、カトリック、教会、神父、シスターに思いを向けました。最初は、人類の輝かしい遺産、文学、美術、音楽、歴史を誇っていましたが、苦しくてたまりません。

大変な頭痛です。頭の中に何かがうごめいて、締め上げて、ひしめいているのです。心を感じる余裕はありません。

次いで、キリスト、聖母マリアに向けました。寒気で、冷え冷えとして、凍って固まっています。人類を救ってきたというのに、一体どうなっているのだ、苦しい！

電話の向こうの田池先生に意識を向けました。

涙が流れて、田池先生すみません……と思いが出ました。うれしくて、静かに広がっていました。

波動はわからない、という思いと一緒に、他力の反省をしていきます。ありがとうございました。

田池留吉「２分ほど、宗教遍歴を語りなさい。」

私が生まれた家は、神棚と仏壇がありました。子どもの頃から、神社にお祭りやお正月のお参りに行きました。幼稚園は仏教の幼稚園でした。少ししか通いませんでしたが、幼稚園の生活で先生にやさしくしてもらった想い出があります。中学校はカトリックの学校に入りました。自分が望んで母がかなえてくれました。女らしくなりたいという思いでした。カトリックの学校に入ると、外人の美しいシスターにあこがれました。のぼせ上がりました。そして外人の先生に好かれるために、一生懸命カトリックの勉強をしました。「洗礼を受けたらどうですか」と言われた時には、とてもうれしかったです。

「シスターになったのはどうしてですか？」と聞きました。「心の中で神が呼びました」とシスターに言われた時に、「神が心の中で呼ぶ」とはどういうことかと、初めは思いましたが、自分もいつかは心の中で神が呼ぶかもわからないという思いがありました。そして、洗礼を勧められて洗礼を受けましたが、父は反対もせず、許してくれました。しかしその時、自然に反してシスターのような生活をしていることはおかしいことだということも言いましたし、まずは自分の心が幸せにならないと、人のために、教会のために働くというようなことはできないということも言ってくれましたが、私はもうシスターにのぼせ上がっていたので、洗礼を受けました。洗礼を受けて、いろんな友達に洗礼を受けるように、勧めました。そして、私が声をかけた人たちが洗礼を受けるのがとてもうれしかったです。家族に反対されても、洗礼を受けるということが本当によいことだと私は思っていました。でも、全部間違っていたことがやっとわかりました。

大学時代になると、寮生活に入ってカトリックの厳しい規則だらけの生活でイヤになりましたが、今度はティヤードシャルダンという考古学の専門家の神父の理論に興味を覚えました。それは、形がだんだんと進化をしているように、心も進化をしていって、いつの間にか、自然に神の域に達するというようなことを唱えていると私は理解しました。何もしなくても人間の歴史が進化をしていったように、心の歴史もいつか自然に進化をして神に達するのだという、楽観的な思いに共鳴しました。それが正しい理解だったかどうかはわかりませんが、ともかく、何もしなくても神に達するんだという思いがあったと思います。自分ではカトリックを捨てたつもりでしたが、いろんな時に、自分の思いの中からカトリックが主張していることが、だんだんわかるようになってきました。

これまでは私はもうカトリツクを捨てた、と頭の中で思っていましたが、大間違いでした。いろんなところでカトリックが祈ったり、呪ったり、ねたんだり、苦しい思いを訴えてきていたことがわかりました。でも、まだまだ頭の方が強くて、私はもう田池先生の教えに従って生きているという思いになりがちです。私は一生懸命カトリックを捨てて、田池先生の勉強をしているという思いになりがちです。今は、夫や周りの社会が、いろんな宗教の法事とか葬式にとらわれていることに、批判する思いが多いのですが、それが自分の思いであると認めていきたいとは思っています。でも、やはり責める思いは強く、心の中はいつも戦いで相手を叩きのめす思いが出ています。でも今は、自分の心に帰っていきたいです。本当の自分の心と向き合っていきたいです。

田池留吉「カトリックのほうに思いを向けてください。」

人間がつくり上げた歴史はすばらしいんです。振り返ってみてください。芸術といい、文学といい、人間がつくり上げた歴史はすばらしいではないですか。何が苦しいというのですか。どこが間違っているというのですか。私たちがキリストから心を離しただけ、苦しい闇に落ちただけです。キリストから心を離せば離すほど、人間は狂っていったんです。聖母マリアから心を離せば離すほどに、苦しい歴史をたどってきたのです。キリストから心を離さないで、聖母マリアから心を離さないでと、それを証明している歴史ではないですか。どんなにすばらしい文学と芸術と音楽と教育と政治と……あー苦しい!

殺戮（さつりく）の歴史でした。すべてを破壊し、どんなに、どんなにすばらしい歴史を築き上げたと誇ろうとも、私たちの心の中には、人を叩きのめし、戦いの連続でした。人を人とも思わず、自分の身がすばらしく、どんなに言葉で飾ろうとも、苦しい心が、苦しい思いが、人をなぎ倒してきました。すべてをなぎ倒してきました。苦しかったです。自らを孤独の果てに追いやってきました。自（みずか）らが悲しみと苦しみのどん底に走りこんでいきました。どんなにさみし

かったか。どんなにつらかったか。それでも、それでもやはり言葉に、言葉に引きずられて、心に向けることはできなかったんです。苦しいとわかっていながら、儀式と典礼と美しい賛美歌と言葉の羅列の中に、自分の身を酔わせていきました。どんどんどんどん苦しい心にはまり込んでいると、気付くことさえできなかったんです。すばらしい私は、何か世の中のために、教会のために、自分の心も身も捧げていくことが、犠牲を捧げていくことが、私の生き方と思ってきました。しかし、苦しかったんです。苦しい心を見せることはできませんでした。自分一人になった時に、その苦しい心と向き合うことは、地獄でした。そして、人の前に出れば、すばらしい自分を演じていきました。神に身を捧げ、神の僕(しもべ)として、自分を演じ続けることはどんなに苦しかったことか、厚い厚い仮面をかぶり、厚い鎧をかぶって、自分の苦しみを隠して生きてきたつもりでした。隠すことはできませんでした。隠せなかったんです。自分の心が知っていました。どんなに苦しいか、どんなにさみしいか、自分の身さえ守ることはできませんでした。どうして教会のタメに人のタメに自分の身を捧げられたでしょうか。そんなことあり得ません。苦しかったんです。自分を見失って、苦しくて苦しくて狂っていることさえ気付けなかったほど苦しかったんです。自分を偽って、装って、大ウソをついて生きてきました。もうそれは狂気への道でした。自分を狂わせる道でした。自分の心をつぶして、自分の心をつぶして生きてきました。でもそれが人生を全うすることはありえませんでした。苦しかったです。間違いを認めていきます。自分の心をつぶすことは片時もできないということを認めていきます。苦しい自分を受け入れていきます。さみしい自分を受け入れていきます。大ウソつきの、装いだらけの自分を受け入れていきます。苦しかったんです。

田池留吉「どんなふうに苦しかったのですか?」

　頭が、締め付けられるのか、何と言うのか、中でぐりぐり回されるというか、わかりません。頭がちょっと苦しいです。

田池留吉「大変な状態ですよね。今度はキリスト教の一番のご本尊、キリストですね。聖母マリア、そっちに意識を向けてください。」

　あー寒い、寒いです。凍りつくような、こんなわけがありません。凍りつくような寒気が、どんどん私に押し寄せてきます。寒い。こんなに私に冷たい思いが押し寄せてくるとは、私がしてきたことは何だったんですか。みんなから感謝されていいはずなのに、私には周りから冷たい思いがどんどん押し寄せてきます。氷のように私のすべてを包んでいきます。凍らしていきます。私のしたこと、みんなに通じていないんですか。冷たい思いが私を固まらせていきます。私の中から、私の中からこの冷たい思いが涌き出ているというのですか。周りからではなく、周りからも、私の中からも、

この氷のような、私はどこでどうなっているのですか。わかりません。自分が今どうなっているのかさえわかりません。冷たく冷たく私は凍りついていきます。固まっていきます。自分が何なのかもわからない状況です。何をしてきたのかもわからない状況です。助けてほしいです。誰か教えてください。人を救ってきたつもりでした。何をしてきたというのですか。私がしてきたことは何だったというのですか。私はみんなを救ってきたはずでした。そうではなかったのですか。何をしてきたというのですか。私は一体、神の御一人子（おんひとりご）として、何をしてきたというのですか。こんなに苦しいのが私だと言うのですか。そんなはずはありませんでした。誰も救うことができなかった人類を、私は神の御一人子として、救ってきたつもりでした。苦しいです。わかりません。私にわかることは、この冷たい、冷たい、氷のような私が、どうしてこうなってしまったのか、それさえわかりません。

田池留吉「どうでしたか。」

　しびれたような感じです。

田池留吉「あなたがイエスとか、聖母とかあるいは教会とかカトリックとか、あるいは神父とかシスターとか、いろいろね、そういうものに意識を向けてきたわけでしょ。どんなんかというと、そんなんですよ。自分では気が付かなかったけど、その心、同通した心があなたの中に、だんだんと、まあ言えば培ってきたわけだね。その心をずっと握りながら、あなたのご主人だとか、子供さんとか、お母さんとか、いろんな人と生活してきたわけだね。それであなた自身が幸せになるということは考えられないでしょ。そんな心で。肉は賢くて立派にやっても、なかなか難しいわな。我慢できるのは限界があるからな。なんぼ賢くてもね。そこんとこがね、わかってこんといかんな。

　というて、さてこの電話してる私ね、わかりますね、電話してる私ね、普通の平凡な日本の男性ですわな、私のほうに意識をちょっと向けてください。……はい、どうですか。」

　すいません。私は心があることさえ知りませんでした。自分の肉を表したいから、心があっては邪魔でした。心があることを知らないで、長い間存在してきました。やっと、心が死んだまま生きてきたことを、死んだまま存在してきたことを、やっと気付きました。ありがとうございます。心をつぶすことに、肉を認めてもらうことに精一杯で生きてきたことがわかりました。自分の心に向いていきます。

田池留吉「いろんなことを気付かれて、よかったなと思っています。波動ということね、たとえば、苦しいとか悲しいとかさみしいとか

ね、重いとか軽いとか、大きいとか広いとか、冷たいとか暖かいとか、温もりとかね、何か拒否されているとか、あるいは包まれているとか、許されているとか、何かあるでしょ。どんなものを感じました？」

　波動がわかっているかどうか自信がないんです。

田池留吉「感じたまま言えばいいんです。」

　私は波動を信じていないのに、「波動、あなたは波動ですよ」と、信じてもらっている気持ちがします。「波動のほうに向いていきましょう」と待ってもらっている気がします。「波動が感じられないはずはないんですよ」と励ましてもらっている気がします。「波動がわからないと拒否しているのは、頭の思いですよ」と待ってもらっている気がします。「波動を信じていきなさい」と励ましてもらっている気がします。

田池留吉「そうするとね、今、私の方に心を向けて感じた、穏やかさとか、うれしいとか、静かだとか、そう感じた、それが波動ですわね。その他にも、こんなん、あんなんがあったと言葉で表現したらと思うけどね。まとめて言うと、その波動はいいでしょ。「○」ですね。

　キリスト教、カトリック、聖母マリアね、神父さん、シスター、いろいろ向けたね。この波動は？　どうでしたか？」

　苦しかったです。

田池留吉「では、あなたはどっちというと「○」を選びますね。頭は未練があるから「×」を選ぶかも知らんけどね、あなたの心は素直に「○」を選びますね。「○」で、このような心でご主人と一緒に生活したり、お母さんと一緒に生活したり、また学びの友と一緒に学んでいくと、まあなんか、いいな。いいようになっていくなという思いは出てきますね。そうですね。前のような「×」でやると、自分は一生懸命にね、人を救っていこうとかね。教会のために、自己犠牲をと言ってね。いろいろまあ、頑張ってもですね、しょせんはうまくいかないというような気がするでしょ。

　ところが、前の「×」のほうは、もちろん自分が過去世からつくってきた心だけれども、今世またその心が教会とかいろいろと同通してですね、まあさらに、しっかりとしっかりと握るようになったわけですね。で、あなたはいいものだ、いいことだと思ってしっかり握ってやってきたけども、まあ、いろいろ、いろいろ肉の生活、健康状態、いろいろあったわけだね。それはどういうことかというと自分なりの基準があって、その基準で解釈して、自分なりに解決する努力をしてきたわけだね。その結果どうであったかというこ

とは評価があると思うね。

　後のほうの「○」に向けた、これもあなたの心。これもあなたの心ね。これが本当のあなたの心ですね。ただ、まだ波動を信じてないとか、あるいは、前の「×」のところをしっかり握ってきたからね。本当の心のほうが、もっと自分の心に伝わってこないだけのことであって、これがあなたの本当の心なんですよ、ね。だから本当の自分の心にこれから出会っていく、学びとか、生活、人生を、これから送っていかなければいけない、それがハッキリしたわけだね。「○」と「×」。これを、この経験というかな、心の勉強をしっかりと理解するようにして、これから「○」を、「○」をどんどんどんどん膨らませるというか、復活させるというか、この「○」は私なんだと、その信をね、持続させるような勉強をされていったら、あなたは健康で、もっと健康にならなくちゃ、とかもっと美しくならなくちゃ、と言わなくても、健康で美しくて、夫婦も円満というか、仲良くなって、家族もなって、幸せやな！ と、何もなくても幸せやな、というような気持ちでね、もちろん、波風があります。そんなにいっぺんに全部が 100 点満点になるわけじゃないですから、今まで出してきた想念というか、思いが現象化しますから、これからは風も吹くでしょうし、波も高くなるだろうしね、いろいろあるでしょうけども。今度はそれを自分なりにクリアーしていけると思うのね。その思いというのが、そのエネルギーというのがこの「○」のエネルギーね。前の「×」のエネルギーでは、頑張っても頑張っても、結果はあまり……ということになってきたと思いますよ。

　これから頑張ってください。これからや。待ってますよ。」

　ありがとうございました。

心を見ていけば苦しんでいるあなたに出会います

You will meet your suffering selves if you continue to reflect on your heart.

　最初はみんな苦しみの自分と出会うことを拒否します。自分の中に苦しみがいっぱいあるにもかかわらず、それが自分自身であるということをなかなか認めることができません。

　自分自身であることが認められなかったなら、自分が間違ってきたと思えないのは当然です。苦しんでいるあなたが間違っていると言われても、受け入れられないのは当たり前でしょう。まず、そこからです。

　また、頭では自分は間違ってきました、たくさんの苦しみを抱えていますと理解できても、心の中は依然反発、拒否している場合も往々にしてあります。それは自分は正しい、間違っていない、素晴らしいという思いを心にまだまだ抱えている状態です。頭で理解することと心で分かることとは、全く違うということを認識してください。

　私は間違ってきましたと本当に心から湧き出てくることを体験することが、自分との出会いの第一歩です。もちろん、それで分かったということではありません。そこからがスタートだということです。

　それすらもできないのはなぜか、小手先だけの反省と懺悔は、それほど己がそびえ立ってきたという証です。己がそびえ立っていては、自分を受け入れていくことは不可能です。なぜならば、そびえ立つ心には、優しさと温もりが欠けているからです。常に自分が上、そういうところから受け入れていこうとしているのです。（「意識の流れ」より抜粋）

Every person denies facing their suffering selves. Although so much suffering exists within us, it is hard to admit this is who we are. Denial means not accepting our fault. So, it's natural to reject being told this suffering self is because we are wrong. The correction has to start here.

Even if you think you understand you were wrong and hold many sufferings in your mind, your heart can still reject this preface. Your heart clings to the idea that you are always correct, never wrong, and exceptional. Please realize what you think you understand in your mind and what you do in your heart are entirely separate.

To experience that you have been wrong from the bottom of your heart is the first step towards meeting your true self. Of course, this is only the starting point.

Why are we not even at this starting point? Only superficially practicing self-reflection and self-confidence is a sign of exceptionalism. Being exceptional means you cannot accept yourself because superiority lacks kindness and warmth. It is a contradiction to attempt acceptance while placing yourself above everything.

(Excerpt from "Flow of Consciousness")

キーワード 4. 闇出し現象

① 他力の反省から闇出し現象へ

闇に心を向ける（大阪府）／1996 年 10 月

今年（1996 年）も半ばを過ぎた頃から、自分の闇に心を向け、自分の闇を自分自身で感じていくという、今まで、幾分受け身的であったセミナーが、積極的と言うか、実践的な方向へと変わってきました。自分の抱(かか)えている闇が、どんなにすごいか、自分自身の肉体で感じるのです。自分の闇を感じたとき、それこそ気違い集団と言われるような状況が起こってきます。でも、それを感じたとき、自分の闇のすさまじさに気付かされるばかりか、終わった後、何かつっかえていたものを吐き出した後のような、爽快感というか、口では表わせないような喜びや、悪かったという繊悔の思いを心の底から感じられる方が多いのです。

箕面ミニセミナーのとき、Ｔさんが前に出られ修験道に心を向けられていたのを記憶しています。そのとき確か、田池先生がＴさんに「はじめての体験ですね」と言われたように思います。それは、なかなか自分の闇が出せず、箕面のミニセミナーではじめて自分の闇を感じられたことを指しているのだと思います。その後、Ｔさんと電話で話したとき、そのことを思い出し、箕面のミニセミナーから鹿児島セミナーにかけてのことをお伺いしました。

もう力と言うんですか、エネルギーと言うんですか、それがグーッと出てきたんですけどね。その思いは出てきているんですけど、結局、抑えて抑えて出なかったんですよね。それでセミナーの行き帰りも、中の者に言い聞かせましてね、「もう出していこうよ、出していこうよ」っていうような思いで、中と語り合っていたんですね、ずーっと語り合っていて、結局、それが出てきたのかなあって感じです。

前に出たときは、声が出ていて、手が動いているのはわかっているんですけど、それがどんな格好かわからんですね。終わり頃に気が付いたら、結局、Ｎさんが後ろにすがりついてるみたいだし、Ｙさんが前で何かやっているみたいで、終わるときに、先生の合図も全然わからんかったです。目を開けたら、みんな、いないもんやから、「あっ、終わったんかな」という形でした……。

闇に出会った喜び (奈良県) ／ 1998 年 10 月 1 日

この学びが７回、８回に入っていく中で、闇に向ける瞑想によって、今まで気付かなかった「自分１、自分２、３、４、５……」、もう数え切れないほどの自分に出会いました。骨折をし、青あざ、すり傷と、身体を張っての闇との出会いでした。まるで男になってしまったような自分、もう少しおとなしくと思っても、同通すると身体が飛び出していく、どんどん出て来る闇、「これも私、これも自分」と、一つひとつ認めていく中で、心がだんだん解放されていく、「今しかない、今しかない」と飛び出し、自分をさらけ出すことで、私

の苦しい心が喜んでいる。「私は間違っていない、私は正しい、地位だ、名誉だ、世間体だ」と、がんじがらめに縛っていた私の心が、ガラガラと崩れていく。「真っ逆様な人生を歩いていたのだなあ」と、つくづく思う。今、少しずつ柔らかくなっていくのが、うれしいのです。

「あなたの中に田池留吉がいます。すべて存じあげています。その田池留吉を信じてください。それが光に帰る道です。田池留吉はゼロです」。

しっかりと、この道を信じて歩いていきます。

昨年の夏以来、旭高原でのラジオ体操を毎朝、6時半、主人と続けています。そして、その後20分の瞑想、ここから私たちの1日の始まりです。本当にこの学びに出会えたことが最高の幸せです。

己の心の怖さを知りました（大阪府）／1999年2月7日

霧島セミナーで、もう死ぬかと思った。もうこれで終りかと思った。私はもうこれで駄目なのかと思いました。闇出し現象の中のことでした。先生の指差しで、輪の中に転げ込んでいました。

ちきしょう、許すもんか許すもんか。こんなに私は一人で苦しんで、悩んできたんだ。そんなに簡単に許せるもんか、許すもんか。どんな思いで生きてきたと思ってんだ。どんな心で生きてきたと思ってんだ。お前らにわかってたまるか、わかるもんか。絶対に許さん、許さんぞ。くっそ、お前を八つ裂きにしてやる、めった切りにしてやる。そうでもしないことにはこの心が落ち着かんのじゃ！

悔しい、悔しいんだ。こんな心をして私は生きてきたんだと思うと自分が情けなくなる。いや、いや、もうやめてよ、こんなこともうやめてよ。田池、もうやめて、こんなことするのもうやめて。

なにが田池だ、なにがエルランティだ、なにがエルランティクドーラじゃ。なにが神だ、なにが神なんだ、こんなことをするのが、こんな苦しい目に神はなさるのか。こんな私の気持ちなどわかるはずがない、あんたにこの私の気持ちなどわかるはずがないんだ。私は一人で孤独と戦って生きてきたんだ。そんな私の気持ちなど、お前にわかるもんか。絶対に許さん、許すもんか。苦しくて苦しくて、そんな時も私はずっと一人で生き続けてきたんだ。そんな簡単に許せるもんか……。私はこんなに苦しい思いを詰め込んできたのかと思いました。悔しかったんです、本当に悔しかったんです。

神を思おうとしました、タイケトメキチを思おうとしました。「神、こんな私を救ってください」と、言っていました。タイケトメキチ、タイケトメキチと2、3回思いました。それでも心は暖かくなりませんでした。神、こんな私を救ってくださいと思いました。そうしたら、どんどん息が苦しくなって、胸が詰まるように、ムッとなって、呼吸をしているのやら、自分がなにをしているのか、わからなくなってしまいました。これで死ぬのかなあと思いました。

　何度も呼吸をしようと思っているのですが、自分が自分でないような、胸が押さえられていて、空気が入っていかない状態でした。自分の状態が、よく飲み込めませんでした。誰かが私を抱えにきてくれたようでしたが、体に少しの力もなく、気力もなく、動かなければとか、なにかをしなければいけないのだろうかとか、そんなこと少しも思えなくて、自分がなんなのかもよくわからない状態でした。

　先生の声が聞こえました。「大丈夫、大丈夫」と、そうしたらワッと泣けました。それで初めて自分の心の間違いに気付きました。人と戦う、争う思いの怖さを知りました。正しい方向に向いていない心の状態を思い知りました。神でない神に心を向けることの怖さを知りました。他力の神に心を向けることが、いかに危険で、怖いものか、肉体をも滅ぼすほどの怖さがあると感じました。

　私は少しはやっている、私は少しはましだろうと思っていたことがどんなに馬鹿げているか、正しい思い方を、正しい神を思えなければ、我が身を滅ぼす、どんなに大変なものであるかを、身をもって教えていただきました。

　チャネラーであるとかないとか、誰が彼がではなく、肉のことなどどうでもいい、周りのことなんかどうでもいい。私の心がいかに神に向いているか、向けていけるか、それだけだと思いました。もう後戻りはできません、ごたごた言っている暇もありません。なにがどうだとか、どうしたとか、なんて思っている時間もありません。肉に心を使っているゆとりもありません。私は、心が神に向いているか、向けられているか、それだけでした。

　簡単にとらえていました。勉強をするとか、学ばなければいけないものなんだとか、この場にいるからにはとか、義務や妥協もありました。そんなとらえ方をしていてはもうこの肉体は駄目になるかもしれないと思いました。死ぬか生きるかだけ、心が、神でない神に向けていれば肉体はなくなる、ここはそんな厳しい所なんだと感じました。心の闇の深さを思い知らされました。私は遊んでいました。

　他力の反省がいかに大切かを教えていただきました。ここに来て初めて、肉体を通してわからせていただきました。自分自身の出す思いがこれほどまでに、肉体をも苛（いじ）めていたのかと、この痛みを感じながら思わせていただきました。

　先生は「死に物狂いでやりなさい、命懸けでやりなさい」と、

毎度のように言われています。それでも私は「そんなたいそうな、そんな大袈裟なことゆうて」と、蔑んだような、そんなに必要なものでもあぶないとらえ方でした。だけど今回こうしてあぶり出していただいて、自分の苦しみをこの体で感じさせてもらって、初めて、他力の怖さ、恐ろしさを感じました。私は少しはやっている、真面目にやっている、少しは認めろ、なんて思っている思いなんて馬鹿馬鹿しくて、先生の言葉をお借りしますと、「下の下の下」でした。

日本人なら、世間一般の人なら誰でも神社仏閣ぐらいなら参拝もしているだろうし、墓参りに至っては、一種の行事だから、誰しもがやっていることで、私は今世そんなに他力に凝り固まったものはないし、神社やお寺やお墓参りぐらいの、至って簡単なもので、それ以上のことはないと、本当に簡単に考えていました。過去世で、行者や諸々の修行はしてきているだろうが、過去はいっぱいあってもいたしかたないこと、知らなかったのだからと、浅く考えていました。

そして今日、先生の親指で、そのすべての間違いを思わせていただきました。

正座をしたままピョンピョンピョンと跳ね飛ぶのです。1回や2回ではありません。円の半周ぐらいを、その状態のままで、手をグルグル回しながら。そんなこと普段の肉体生活の中では到底できるものではありません。しかしその状態を、執拗にさせられてしまいました。

いったん円の外に戻れば、背骨がバラバラで、ツーンと筋が引きつられて歩けるものではありませんでした。それでもまた親指が来ると、トントントンと進み出てしまうのです。1、2回目は自分の思いは見れませんでした。なんで――、どうなったん、ぐらいでした。しかし4回目になって、やっと心の間違いに気付かされました。

先生の、死に物狂いとか、命懸けの言葉がようやく納得できました。ここまでやっていただかなければ私はわからなかったのです。ここまでやっていただいて初めて、自分勝手なとらえ方をしていたことや、田池先生の言葉も真剣にとらえていませんでした。ここから原点に帰ってやり直したいと思いました。自分の出したものは必ず帰ってくると言われることも、今回の現象の中で思い知らされました。私が出したものが、肉体も、人をも傷付け、痛めていたのかと、心から感じさせていただきました。

夫が私に「なんにも変わってない」と言います。私は「己こそなんじゃい」と、反発の思いが出てきますが、今はこの言葉が心に染みてきます。ほんの薄っぺらな心しか知っていないのに、それで全部がわかったようにとらえていました。そして田池先生の波動が、タイケトメキチの波動がわかったつもりをしていました。田池先生が「あんたなんにもわかってへんで」って言われることが、よーよーわかるようになりました。「ここまでせんとあんたはわから

んのや」と、言葉が聞こえてきます。ここまでせんとわからん自分ですわ、ここまで来て、やっと出発ですわ。恥ずかしいのですが、反省が進んで来ていると、他力の反省はもう済んでしまっているとまで思っていました。全く手も付けずにいました。他力の反省のことは頭にありませんでした。少しの引っ掛かりも持っていませんでした。いつも人を見て批判し、評価ばかりしていました。

瞑想をした時、人ばかりが気になります。そしてその都度、私なりの判断を下していました。その心がどこに向いているか、人を評価する神、人を批判する神でした。それで1時間の瞑想を終わらせている状態でした。神を思う、母を思う瞑想ではありません。人を評価する神でした。私は神でない神に心を向けていました。やっと目が開いたような感覚です。謙虚な気持ちでやり直してみたいと思います。

私の間違った、馬鹿な物差しで正しいと判断していました。私の判断は私の判断なんです、私の物差しなのです。狂った物差しでした。神の物差しではありませんでした、神の物差しではないのです。私の狂った物差しなんです。

人を罵ったり、蹴落とそうとしたり、卑下したり、馬鹿にしたり……、その思いがいかに狂ったものであるか、私は今、身にしみて感じています。闇の神を振りかざし、神の判定だと、正しいものだと思っていました。

私は神じゃないんです。私は神だと思っていたのです。私は神だとずっと思っていたんです。私は神ではなかったんです。私の物差し、神としての物差しで生きていました。私は神でした。私は神をやっていました。私が神だったんです。ずっと神だと思って神らしく、神の心で生きなければと努力しようと努めていました。私が神だと思っていた神は自分でした、己自身でした。己が神でした。その己の上に中心を置いていました。己の神に焦点を合わせて、人を見、評価していました。これが私の神だったんです。真なる神も、私の神で評価していました。自分の闇が神でした。

② 闇出し現象から喜びの現象へ

まだ闇出し現象も舞台の椅子の上でやっていた頃のお話です。福岡・二日市温泉のミニセミナーで、舞台に出て自分の苦しい思いを吐き出される瞑想の際、私は、座られた方が転倒しないよう、椅子を後ろから押さえる役割を買って出ましたが、その際、喚いたり椅子から転げ落ちたりされる中で、この方だけは、じっとおとなしく最後まで椅子に座っておられました。
「椅子の押さえがいがない」などと馬鹿なことを思っているうちに瞑想が終わり、この方が椅子を立たれるや、その場に残されたものを見てびっくりしてしまいました。この方の座っていた前の床が、大げさでなく、涙と鼻水で池のようになっていたのです。

そのことを後に思い出し、この方に、あのとき、どんな気持ちだったのか聞いてみました。

前に出てくるように呼ばれて、心臓がドッキンコとして、どきどきで椅子に座り、ただ泣けてきて、涙が出て、こんな汚れたわしでも受け入れられているんだと思うと、泣けて、泣けて、許されているんだなあ～と思うと泣けて、鼻みずは、でるわ、でるわで……こんなわしでもエルランティの光の一員の端くれなのかなあ～と思うとうれしいなあ～の思い、ええなあ～このままず～っといたいなあ～と思ったんです。（1996 年 10 月 31 日）

転じて、エルランティの光セミナー最後、下呂セミナーに参加された方の思いです。

万人にお母さんがいるという事実（沖縄県）／2001 年7月2日

私は今世の肉の人生は「挫折人生」だと思ってきました。肥大化した男の意識世界は、この肉に「もう頑張らなくていいよ」ということが許されなかったのです。

肉と意識のギャップは、肉では一歩も踏み出せなくなるくらい身動きできなくなって、息苦しくなってきました。

こうなると、もう、お手上げでした。外に出るのも億劫になるほど、人と関われなくなってきました。対人恐怖、視線恐怖、赤面恐怖と、すべての恐怖症のオンパレードは見事というよりありませんでした。

失敗、失敗の繰（く）り返しの中で、恨む対象がお母さんに向いていたのは、心のどこかでしっかり根付いていました。

この学びの真髄の「お母さんの反省」が一番のネックになり、なかなか心が見れませんでした。一番私を叩きのめしてくれたお母さんの反省なんてとてもできないし、「絶対に心を見てやるもんか」と、最後の最後まで頑なに拒否し続けてきた私でした。

でも、この下呂のセミナーで、今までこれが「お母さんの反省」だと思っていたのが、一挙に崩れてしまう体験がありました。

それは、私がお母さんに「どうか、私が心を見やすいように私

を叩き潰してください。私はそのことによって、過去に出した闇のエネルギーが法のもとに帰ってきたことを気付いていきます」と、お母さんに約束してきたのだと初めて心から納得できた時、お母さんに「あ、り、が、と、う、ご、ざ、い、ま、し、た」と云えていました。

肉でうまく人と関われないと思った人生は、私が母に頼んでしてもらったことでした。

現象で、外に出られなくなっていた時期に向けている時、私は、あの山と海の底に埋もれてしまっているたくさんの意識たちが、ドーッと津波のように押し寄せてくるものを感じました。先生の「ハイ、ハイ」というリズムと異語がマイクを通して聞こえてくるたびに、押し潰された意識が疼(うず)いて疼いて、ドンドン苦しくなっていくのがわかりました。

これが、ずーっと私を苦しめて苦しめて、肉の生活まで脅かされていた意識だったのだと思いました。心の転回、肉から意識への心の転回が、ほんの一瞬であっても体験できた時、「こんなに苦しいエネルギーが私の出したエネルギーでした」と認められた時、心はこんなにも解放感でいっぱいになれると思いました。

私の後には、たくさんの両親を恨んでいる人たち、そして地と海の底に己のエネルギーに押し潰された人たちの意識が、共に喜んでいるのだと確信できました。

押し潰されたと思ってきたものが、実は自分の出したエネルギーに押し潰されていたのだと思えた解放感は、本当にこんな簡単なことが、どうして今まで気が付かなかったのだろうと思われるほど、「法」というものは簡単明瞭にできているものなんだと、つい感心してしまうほどでした。

お母さんに対して裏切りと思っていたものが、実は感謝すべき出来事だったのだと思えた時、やっとタイケトメキチが信じられると思いました。

この肉で受けている苦しいエネルギーは、過去に出してきた己の闇のエネルギーが、誰かの肉を通して戻ってきていることを教えてくれていたのだと、やっと思えました。

私は、その役を母にやっていただきました。そのことに気付くまで、母を一番恨んで、憎んできました。

いとしい我が子に気を狂わしてしまうほど闇のエネルギーを与え続けられるのは、お母さんでなければ引き受けられなかった「愛」だったのだと思いました。

そして、投げつけられる闇のエネルギーを「愛」に変えられるのも、お母さんにしかできないと思いました。光と闇のエネルギー

の最端を担った、お母さんが存在していました。

一番の引き受けられない役を引き受けてくれたのが、お母さんだと思いました。母と子の縁が、肉ではどんなに惨いと思えるものでも、そこには「愛」が確実に満ちあふれていることに気付かせてもらえるのが、この学びだと思いました。

この温もりがあるかぎり、私たちの誰もがすべて、神に帰っていける道は開かれているのだと思います。

その人に宿る恨みと憎しみの先をずーっと掘り続けることで、必ず「温もり」にたどり着けるのだと思えるようになりました。

万人に、生んでくれたお母さんが一人ずつ与えられているという事実は、大変なことでした。

闇を受け入れる喜びの滑走路／2001年2月21日

喜び、喜びの現象が続く中、前の霧島セミナーから思い始めたことですが、「心から素直に自分の闇を確認しよう、確認することからやってみよう」って思い、自分の闇に、素直な思いで向けてみました。すると、自分の闇が次から次へと浮かんできて、何か水溜りみたいなものに着地していくのです。次に、羽田空港の飛行機の着陸風景が浮かんできました。無数の飛行機が数珠つなぎに次から次へと滑走路に着陸していきます。飛行機は自分の闇だと思いました。今まで旋回してさまよってきた、やっと、やっと滑走路を見つけた、やっと着陸できるって本当に喜びながら着陸していく光景でした。滑走路や空港は、お母さんの子宮だと思いました。アルバートだと思いました。田池留吉だと思いました。涙が噴き出てきて、ただもう、うれしくて、うれしくてたまりませんでした。自分の闇を素直に確認することがこんなにうれしいことだなんて。とにかくうれしいです。

うれしいだけでした。みんなと手をつないで、輪になって、飛び跳ねて、抱き合って、うれしかったです。そういう現象を繰り返しながら、心の底から「素直に自分の闇に思いを向けてみよう」って思いました。「確認してみよう」って思いました。すると無数にある自分の闇に対し暖かい思いが出てきました。暖かい思いをかけている自分がいました。これが本当の愛だと思いました。本当の愛は、自分の闇にやさしい思いをかけることだと思いました。心の底から、「自分にこんな闇の思いがある」ってことを認めることだと思いました。今まで、軽々しく愛だの恋だのって口にしてきた自分が本当に恥ずかしかった。うれしくてうれしくて本当に泣けました。涙が止めどなく出てきて止まりませんでした。

午後の最後は、現象の場は喜びで騒がしかったけど、うれしさがどこまでも静かに広がっていくような感じがしました。何か会場全体がプラスのＵＦＯと一体となってるなと思えました。

以上です。これからも素直に淡々とやっていこうと思います。どうもありがとうございます。

出てこられた闇（沖縄県）／2001年9月2日

セミナー初日、最初の闇に向ける現象、「アマテラス」の言葉に苦しくなる。前に出て叫んだり、動き回る。己偉し、「俺は間違ってない、俺は正しい」という苦しい思い。そのうちに「クソッタレ！タイケ……」「クッソー、何するものぞ、俺が神じゃ」みたいな思いが出る。腹の底から激しく出てくるというのでなく、ポッと出てくる感じだが、でも、よく言われる「タイケ死ねえ！」の思いと同じだと思った。「あった」と思った。「出てくれたか」と思った。

これまでも何か都合の悪いことがあったりすると、「クソーッ」という思いが出たが、いつもどこか責任転嫁をしているところがあって、そのまま横に流してしまっていた。でも、もう逃げられないなと思う。さびしい、憎い、呪う、怒る、戦う、殺す思いが同じ一つとなって、「クッソー」と出ている。「見たくない、認めたくない」と思ってきた闇だ。受け容れていこうと思った。やっと出てきてくれた苦しい思いを、今までずっと使い続けてきた闇を受け容れて、抱き留めていこうと思えた。そう思ったら軽くなって、暖かくなってきた。

その後の「熱海」の言葉にも一段と強く反応した。金、情欲。最近は私の周りにも金にまつわる闇が目の前に突きつけられてきて、イヤでも自分の心を見せられている。セミナーでの闇出し現象は、回数は少なくなったが、それだけに一回一回が大切に思える。

その日の夜の現象。終わりのほうになって、一休みして皆が座っているところを田池先生が一回りされた。思いもよらなかったが、近くに来た時、立ち止まって私のほうを見て、ウィンクするような感じで片目をギュッと閉じられた。一瞬、鋭く射すくめられた感じになり、身体がグッと強ばってしまった。先生は、そのまま歩いていった。私は前に出ていくほど、強い反応はしなかったが、やや身体が硬くなったままで、咳き込んだりして、どうしたものか戸惑っていた。その後しばらくして、先生の合図で現象が始まり、皆が前に飛び出すまで、その状態は治まらなかった。皆が出ていくと同時に、私も突き動かされるように立って、前に歩き出していたが、４、５歩、歩いたかと思うと、一瞬雷にでも撃たれたかのように、ドーンとエネルギーに見舞われて、膝をついて座り込んでしまった。何とか立ち上がりはしたが、手を叩くどころではない。腕は垂れたまま、顔は上げられずにうつむいたまま、身体全体がまるで金縛りにあったみたいに固まって、立ち尽くしてしまった。

皆の喜ぶかけ声と拍手の音を聞きながら、会場をあっちこっちと移動していくのはわかりながら、ほとんど同じ姿勢で立ち尽くし

ていたと思う。その間、ただ重苦しくて、何にも考えられなかったように思う。
　どのくらい経ってからだろうか、皆の喜んでいる拍手の音が近くで聞こえてくるようだった。よくわからないまま、傍にいた人が田池先生の前に押し出してくれた。そのとたん、今までにないエネルギーでグルグル回転しだした。自分でコントロールできないぐらい回ってフラついてしまい、立っていられないほどだ。どうなっているかよくわからない。ただ流れにまかせて回っていた。自分の闇の波動がどんどん出てくる。地獄の底の深い闇がタイケトメキチ・アルバートの波動に出会って出てくる感じだ。ヘトヘトになるが、誰かが支えてくれた。そのうちに、前から抱きとめてくれたのが田池先生だと、かすかにわかった。暖かかった。うれしかった。声は小さかったが、「田池先生、ありがとう……、ありがとう……」という思いが口をついて出た。
　それから「（タイケトメキチ・アルバートに）帰りたかった！……（ふるさと・心のふるさと・温もりに）帰りたかった！」と声に出しながら、

うれしさが広がっていくのを感じた。その後、田池先生が手で上下に軽く振ると、身体が軽くなって飛び跳ねていた。何度も何度も飛び跳ねて、最後はさすがに足が疲れているのを感じながらも、田池先生が手を振ると、ヘトヘトになりながらも、また飛び跳ねてしまう。うれしかった。ただうれしかった。

現象が一応終わって席に戻って座り、時間が来て、その日のセミナーは終わりとなった。しばらく座っていたが、ジワーッと、うれしさが込み上げてきて、ジッとしておれずに、また前に出て何人かの仲間と踊っていた。うれしくてたまらない。意識が喜んで、身体が止まらない。とにかくうれしい。疲れているはずなのに、飛び跳ねたりして踊っていた。田池先生、みんな、ありがとう。

振り返って、あの闇出しはセミナー会場だったから、田池留吉が肉を持って、肉で出会えたから、あり得た現象（供養）だと思いました。一人では、とてもとてもできない闇出しだと思いました。地獄の底で喘いでいる多くの意識・過去世、とうてい肉（頭）では計り知れないような闇が、やっと喜びに帰っていける、そんなチャンスを今頂いていると思いました。

強情な女（東京都）／2002年6月28日

セミナー2日目の夜の部、勇気がいったが、手を挙げた。キッカケは、先生の「（自称「素直でない人」のデモの現象）あれより、もっと強情な女だという人」と、「誰でもなるんですよ」を聞いた時だった。「あれよりなら、自分のほうがすごいはず、このままでは同じ繰（く）り返しだ、こんな肉が強い私でもなるんだろうか」と、数秒間の中で考えた。

幸い、前列だったから、人のことはいつもより見なくてすんだ。もうやるしかなかった。

先生の目をそらし気味にしか見れなかったが、何かが2度ほど見えた。何だろうと思った。後はボーッとなり何をしたかは所々しか覚えていない。先生に「走れない！」と言われても、走れそうだと思ったこと、何だか首が前に前に突き出して、「そうだ、これは格好悪い状態に今なってるぞ、でも、もうここに出たからには」と、初めて任せられたような気がした。

ボクサーのように、フッフッと短い呼吸しながら、手を前に出しながら走ってるなと自分では思った。ガス抜きをしてる感じで、何ぼでも出てきそうだった。周りの人たちがどんなふうに見てるかなんて、あまり気にならなかった。笑われてるかどうかも、声も不思議にまったく届かなかった。自分のことでいっぱいで、自分の中に入っていた。

「ストップ」で、なだれ込むように停まるが、何だかボーッとする。そこへ先生の声、先生の声だけは、どんなふうになっていても、ハッキリと聞こえた。

「ご気分は？」「悪い！」と答えた気がする。

　ワンスモアで、また走り出し、途中から「手を挙げたいな」と思い、そのようにした気がする。現象では、いつも後ろのほうに陣取り、手が挙がらない状態でいると、何度先生に挙げていただいたことか、でも、すぐに疲れて下げてしまう、そんな繰り返しだった。

　２度目に感想を訊かれ、「気分は悪くはないが､良くも（ハイッ､最高ですとは……）ない」と、目先のことだけで言いました。

「やってきなさい」と言われてきたことを素直に実践してこなかった結果がありました。その夜、あれこれ頭を回して、変になりそうでした。布団に起き上がり、中に向けようと思っても、「外、外」とやってきていた私には何もない状態でした。アルバートを信じる心がまったく空欄、空白になっていることをハッキリ心で感じました。「そうだったのか」と思ったら、スーッとしました。今思うと、あそこに出て走れたことが、ものすごくよかったことでした。でも、何だか遠い日のことのような気もします。

　私を見ると、「笑わせてもらった」とか、「あれは私だった。ありがとう」とかの声をかけてもらいましたが、私のほうこそ、ありがとうです。まだまだこんなもんじゃない。エエ格好しいがあります。先生に「素直ですよ。お母さん」と言ってもらいましたが、「お母さん」というのが引っかかり、どうでもいいことに、まだまだ強情です。でも、何とか出来が悪くとも、卒業式まで来れました。ありがとうございます。

　田池先生、エルの皆さん、パソコン共々お世話になりました。これから、またＵＴＡ会で、皆さんとお会いしたいと思います。よろしくお願いします。

久しぶりの「めんめ」現象で（滋賀県）／2002年6月16日

　セミナー2日目の晩に、久しぶりの「めんめ」現象がありました。（振り返ってみると、僕はめんめ現象を通して自分の思いに心を向けること、素直に思いを出していくことなどを学んできた気がします。僕にとっては一番印象深い現象でした。）

　特に誰彼が「めんめ」されてるからというわけではなかったんだけど、みんなが先生の口ずさむ歌と共に「めんめ」されてるのを見ていたら、急に思いが込み上げてきました。先生のどこまでもやさしい思いや、みんなで一緒に学んでいるんだという思い……いろいろ混じって、胸のところから湧き出てきました。涙があふれてきて止まりませんでした。こんなふうに次から次へと思いがあふれてくることは今までなかったので、不思議な感じがしました。「本当の自分の思いはやさしいんだな」と思いました。

　３日目は「学びに来て３年以内の人」の現象に出ました。先生が「め

んめ現象をします」と言われたので、すごくうれしくなりました。僕も周りの友達も、みんな先生に「めんめ」されて、逃げ回ったり、向かっていったり……みんな自分のことを見ているようで、うれしくなりました。「走るよ」と言われて、指差しを受け、とにかく思い切り走りたくなって、友達も一緒に思い切り走りました。自分の思いをとことん出し尽くしたという感じで、走り終わった後は、すごくホッとしました。

先生のコメントで「小さくてもいいから、本当のものを信じていきましょう」という話が心に残りました。肉を信じる思いがまだまだとても強いですが、アルバートを信じる思いを、少しずつでも培っていきたいと、今回の現象を通して思いました。

ポンポンポン（大分県）／2002年4月27日

３日目の現象。先生に呼ばれて現象の場に出られた田池陽子さんを見たとたん、自分でもビックリするほどの速さで飛び出していました。

真ん中になった私の両手を先生が高く挙げて、ポンポンポンと、たたいてくれました。「ポン・ポン・ポン」と、先生の手を通して伝わってくる波動を感じながら、「間違っていました……」の思いがあふれ出て、もう立っていられなくなり、その場にうずくまってしまいました。

「己偉い私だった。欲ったれの私だった……」。田池留吉の前に、どうしても頭が上げられませんでした。間違っていました。欲ったれ、バカったれの自分に気付き、田池留吉の前に、ひれ伏さずにはいられませんでした。

暖かい田池留吉の懐の中にいる自分を感じ、何度も何度も温もりとやさしさが心に響いていました。暖かい思いの中で、ただざんげしかありませんでした。

どれくらい経ったかわかりませんが、そんな私を先生が立ち上がらせてくれたように思います。そして、また私の両手を高く挙げて、先生の手と合わせて、ポンポンポンとたたいてくれました。「気付いていくのです」と、どこまでもどこまでもやさしさを向けてくれます。これがアルバートの思いなんだとわかった時、もう、うれしくてうれしくてなりませんでした。

その後、肉の私はどうしたのかわかりませんでした。現象が終わった後、マイクを通して私だとわかった主人が、うれしそうな顔で、「うん、うん、よかったね」と、私の手をしっかり取って、受け容れてくれました。その後、現象の場で、お母さんを思って、主人と２人で手を取り合っていました。「お母さん、ありがとう。お母さん、ごめんなさい」の思いで立っていました。

気が付けば、先生が手を高く差し上げてくれていました。そして、異語で語りかけてくれました。その異語が私には、いつもの異語と違って聞こえました。異語を聞いた時、何とも言えない、とても

穏やかな静けさを感じ、厳かというのか、言葉でどう言い表せばいいのかわかりません。その異語というか、波動の中に、どんどん吸い込まれていくのでした。

中の意識に語りかけてくれていることを強く感じ、とたんに、その異語に反応するかのように、中から「間違っていました……」と、心の底からざんげの思いがあふれて、号泣しました。肉の私が泣いているのではありませんでした。止めようと思っても、止められませんでした。私は肉ではなかった。この肉は使われているだけだと思いました。

そうしているうち、「ワーワー」と、主人の泣いている声が耳に入ってきました。でも、自分の中だけに心を向けていました。ふっと気が付くと、異語はずっとずっと流れていたのでした。先生の手とつないで高く挙げた、その先生の手を通して、たくさんの意識が上へ上へとあがっていくのを感じ、うれしさが心からはじけたのでした。この世のものではないと思いました。何か、とても不思議な世界を垣間見た思いがしました。

後で思ったのですが、「あれは田池留吉であって、そしてアルバートだったんだ」と……そう思いました。改めて肉で推し量れない田池留吉の意識の世界、そのすごさを思いました。

その田池留吉に、肉の思いを向けてきた愚かさに気付かされ、田池留吉の前で、自分がどんなに傲慢だったか、やっと心から重く深くわからせてもらいました。現象を通して、「これがアルバートの心ですよ」と、そう伝えてもらったように思いました。

その後のうれしさは言うまでもありません。「アルバート一直線で進んでいきます」と、喜びのエネルギーが湧き出てきました。これがアルバートの世界、心にしっかり留め置こうと思いました。

セミナーに参加する前に気付いたことがたくさんあって、今回のセミナーは「ざんげセミナー」だと思って参加しました。喜び現象の場で、反省とざんげの場を頂きました。それだけに本当にうれしかったです。主人は家に帰って、初めて体験した思いを、静かに淡々と、あふれる喜びで語ってくれました。

闇出しが喜びに !!

◎ 円陣に座っていて、先生にテコ入れされて、転がり出た。自分はダメだと拒否していた。ずっと咳が出ていたけど、それが激しくなった。今はハッキリと記憶がないけど、先生のテコ入れの中でアルバートの思いが広がって、自分の中から喜びが噴き出しました。足は地に着いていても、身体が浮いているような状態だった。いったん終わって、また喜びが爆発して跳び回った。身体が疲れているのに、意識のままに、「私の中に、こんなうれしい思いがあるよ、お腹の底から喜べる思いがあるよ！」って、田池先生に伝えたくて、走り回っていました。

◎ 夫婦でやってもらっている人たちを見て、自分たちはまだまだかなと思っていた。テコ入れされて、うれしいという叫びが出た。この学びをしてよかった。これから、また学ばせてもらえることがうれしかった。田池留吉の本当の喜びにつながっていくのかなと思いました。初めて、現象でマンツーマンのテコ入れを受けました。先生の手が自分の手をパンパンとするたびに、自分の中の喜びがふくらんでいく。自分の中に、こんな喜びがあったのかと、つくづく思いました。「田池留吉に心を合わせることが、こんなに喜びなのかと思いました」と、この一文だけは先生に送ろうかなと思っています。

◎ 何かわからないけど、うれしいのです。何か異語が出てきて、今までうれしいと思っていたものとは違う、肉の喜びしか知らなかったが、全然違う。これがうれしいということなのかなと、私は本当の喜びを知らないで生きてきたと思いました。言葉では表現できませんが、うれしいです。

◎ 毎回、苦しい思いが出てくる。肉しか信じていない自分を確認させてもらっているが、身体に巻きついてくる肉のエネルギーを少しでもゆるめられたらと思うようになりました。今まで頭で反省して、断ち切ろうとしていた。頭で計算していた。自分にやさしくない、冷たい心でした。なかなか進まない自分を責めていたから、苦しかった。自分の理想の合格点を設定してやっていました。子供たちが変わってきて、私が喋らなくなった分、子供たちが喋るようになってくれて、うれしいです。育てていたつもりが、私のほうが育てられていました。

◎ テコ入れで、先生が手をパンパンと叩いた、その音を聞いた瞬間、身体が滅茶苦茶に動き回って、ものすごい恐怖だった。思い出したくない、すごい恐怖でした。光の中で、自分の出しているものがどんなにすごいか見せられていた。光が当たると、わからせてもらえる。肉を守るためにどれだけ祈り続けたか、瞬時に出る思いは祈りだった。何しろすごかったけど、まだ序の口。肉が

なくなれば、この世界だなと思う。半身浴、腹6分、早寝をして、健康を管理していないと、自分の身体が現象についていけなくなると思いました。先生の言われる通りにしていかないと、自分の闇を確認できなくなると思いました。

波動の世界だけが真実の世界です

The world of vibrations is the only truth

波動の世界は感じようと思っても感じられるものではありません。しかし、実はみんなその心で感じているのです。ただ実際にはそれが現実の世界であると知らないだけで、現実の世界は、あくまでも目に見えて耳に聞こえるこの世界だと思い込んでいるから、感じていても感じていないということでしょう。

肉にまみれた心は非常に鈍感な状態です。肉にまみれるとは、肉しか信じられない、肉の世界がすべてであると思っている、その思いが岩盤のように立ち塞がっている心の世界を指します。もちろん、それは肉を基盤とする宗教、精神世界すべてを含みます。肉にまみれた心の状態では、真実の波動の世界は絶対に分かりません。

あなたが自分の心を見るということを重ね、自分自身がエネルギーであることに心で気付き始めたなら、周りの様々な事柄を形としてとらえるのではなく、波動、エネルギーとして感じていくようになってくるでしょう。

そうすれば、自然に分かってきます。形はどんなに立派であり素晴らしく、誰もが認めているようなことであっても、真実とは遠くかけ離れている、すなわち、そこから流れる波動は重く厳しく荒いものだと心に伝わってきます。言っていること、していることと、その違いは何だろうかと感じ始めるのではないでしょうか。

波動を感じていく、感じていける自分になっていく、すなわち、自然に近づいていく、こういう状態になれば、真実の世界がはっきりと自分の心に映し出されてきます。

（『意識の流れ』より抜粋）

The world of vibrations cannot be felt only by one's will. But in fact, we are already feeling it with our hearts. It's just that we do not understand this as the truth. By assuming the true world as what we see and hear, we ignore what we can feel in our hearts.

The heart immersed in the physical world is in a numb state. Being immersed in the physical means only believing and assuming the physical world is all which exists, and your heart is clogged shut because of this conviction. Of course, this includes any religious and spiritual beliefs based on the physical world. Your heart can never comprehend the world of true vibration, being in this state.

As you begin to direct your heart and understand yourself as energy, you will come to feel actions and events occurring around you as vibrations and energy, rather than the physical.

Then, you will come to understand naturally. No matter how impressive, magnificent, and acknowledged a physical form might be, the truth is far from it. Your heart will receive the vibrations being emitted as heavy, harsh, and rough. You will start to understand the difference between what is said and what you feel in your heart.

Understanding vibrations and becoming someone who can feel means returning closer to our natural state. Once we can achieve this state, the world of truth will be projected clearly in your heart.

(Excerpt from "Flow of Consciousness")

キーワード 5. 波動と異語

田池先生講話「波動だけはごまかせません」

人は知らず知らずのうちに、嘘をついていたり、自分の思いをごまかしていたりしています。そして、平気で、「私は素直で正直、人様から後ろ指を指されるようなことは一つもしていません」と言われる方が多いようです。

「私は心が優しくて、どちらかというと困っている人を見かけると放っておけないのです。何とかして上げたいとすぐ思います。世のため、人のためにと常日頃思っています。」「我が子が何とかよくなりますように、酒癖の悪い夫が変わりますように、みんなが平和に、そして豊かに暮らせますようにと、朝夕神仏に手を合わせています。」と仰っている方々の言葉などはそのままいただけません。皆さん方はいかがでしょうか。

「自分は肉だ、意識だなんて信じられない。波動の世界が真実だと言われても分からない。やっぱり、目に見えるこの現実の世界しか信じられません。」「田池留吉を信じていますかと言われても、今一つ信じられません。○の波動と×の波動の違いはと言われても分かりません。このままセミナーに参加していていいのでしょうか。」等々、思っている方がまだたくさんいると思います。そのような方は反省と瞑想、そして○×の現象に参加して波動の世界を少しでも自分の心で分かっていくようにしていただくしかありません。とりあえずビンになって、頭ではなく心でこの学びを理解できるように心掛けてください。

自分が今までどんな心を使ってきたか、知ることが第一です。ほとんどの方は自分の心を見ていないし見ようともしていません。心を見るということが分からないようです。

反省とか、内省とか、省察とかいっても、自分の心の闇の深いところまで見ようとしてこなかったようです。皆さん方は×の波動の現象の時間で、どす黒い闇の深部を自分の心で知る機会を与えられています。どうかしっかりと学んでください。まず、×の波動から入っていきましょう。素直に、勇気を出して参加していきましょう。善人ぶったり、いい人間を演じようとしたり、みんなに認めてもらおう、みんなの上に立とうなんて思うのはもうやめにしましょう。

無駄な抵抗、反抗、拒否……はやめにしましょう。とにかく、今回は、体当たりと参りましょう。せっかくセミナーに参加したのですから、思い切って×の波動の現象に参加しましょう。何もあれやこれやと考えることは要りません。自分の心の動くままに身を任せていってください。きっと何かを感じ始めてくるでしょう。そして、反省や瞑想が、セミナーが楽しくなってくることでしょう。

第 203 回鹿児島セミナー（2000 年 11 月 19 日）

異語となって飛び出す思い（神奈川県）／2002年3月16日

異語で何をどう語っているのかわからないけど、自分がどんどんと幼い子供に帰って、アルバートに数々の宇宙時代の悪行なのか、己を誇り続けた愚かさなのか、懺悔の思いをあふれる涙と共に、めんめんと無心に訴えている思いがしました。

それは限りなく口をついて出てきます。今まで言葉で伝えようとすると、どこから手をつけて、何をどう懺悔していけばいいのかと、頭だけが回っていたのが、心のひだに隠れていたものも隠していたものも、みんな安心して出てくる感じがします。

幸せということを実感しました。初めから幸せでした。お母さんの広い広い広がりのような中にありました。もう、この故郷を忘れない。必ず帰っていこう、たくさんの声がこだまする思いでした。

先生に手を包んでもらったAちゃんから喜びの波動がパーッと広がりました。その瞬間、大粒の涙を流すAちゃんに「意識」を実感させられた思いで、亡くなった姉の供養が大きな思い違いだったと気付きました。そして、それまで思い描いていた姉との250年後の転生が肉の執着だと思え、まったくの白紙状態になりました。うれしかった。喜びがどんどん広がって、その喜びがものすごい速さの異語となって飛び出していました。

「ごめん、ありがとう、うれしい……」これを繰(く)り返して、ただ喜んでいればいい、死ぬことも生まれることも、ただこの繰り返しだと、心でうなずいていました。

波動がすべてでした（東京都）／2002年6月13日

「あなたは自由自在でした。三次元の世界で超えられないものは何もなかったのです。これが本当のあなたです……これがあなたの真の姿です……」。

自分の身体が風になったようでした。会場を縦横無尽に走りました。とにかくうれしくて、ただただうれしくて、もう自分が、どの時空を漂っているのかわかりませんでした。

この学びに飛び込んでからこの一年、本当にアルバートの道まっしぐらで進んできました。アルバートに真剣に向けば向くほど、必ず光と闇が浮き彫りになってくることを知り、無我夢中でアルバートに心を向けました。そして、光と闇が見えた瞬間、迷わず光の中へ飛び込みました。たとえそれが、火が降り、槍が降っている道に見えようが、飛び込み続けました。命懸けでした。死に物狂いでした。そして今、こんな自分を振り返ってみて、初めて気付かされることがありました。

やはりすべては波動でした。波動がすべてでした。真実の波動がどんなにすごい力を持っているか、波動の成せる業がどんなにすごいか、今驚きをもって実感しております。

田池先生、陽子さん、皆さんのやさしい波動が、この学びを信じさせてくれるには本当に十分だったことに気付かせていただきました。私は間違いなく波動に導かれて、ここまで来たと、今自信を持って言わせていただきます。ありがとうございました。ありが

とうございます。この言葉だけでは感謝の気持ちをとても言い表せない思いです。

真実に生きるということがどんなにやさしいことか……真実の波動を信じるということがどんなにすばらしいことか……光の中へ飛び込めば飛込むほど開かれていく、明かされていく世界、そこは想像を絶するユートピアです。まぎれもない本当の世界です。真実を垣間見させていただいた今、もう何の迷いもありません。これからも、ただただアルバート一直線の人生を歩み続けます。

異語の現象で感じたこと（大阪）／2002年6月22日

ただ毎日、肉の生活をキチンと整えるために過ごしてきて、お母さんの温もりを忘れてきた自分が、どれだけアルバート、田池留吉をないがしろにしてきたのかと思うと、ざんげの思いがあふれてきました。

お母さんに、今世、肉体を生んでもらったことが、肉を持てたということが、どれだけ喜びであったかを感じました。「お母さん、ありがとう」という思いが込み上げてきました。

異語を通して、隠すことのできない自分の中の本当の自分がどんどん出てきました。異語を語る機会をもらったことで、ものすごく喜んでいる自分自身を確認しました。

これからも夫婦二人向かい合って、隠して抑えてきた思いを素直に出し合い、アルバートの道を信じて進んでいきたいと思います。

親子、夫婦での現象に参加させてもらえたということは、私の中で、心に残る貴重な体験でした。本当にうれしかったです。ありがとうございました。

心の中の宇宙の波動（大阪府）／2002年4月29日

大阪セミナー初日、この季節としては珍しいほどの雨の1日で、寒いくらいでした。今回は日帰りですが、最後まで参加できて、本当にうれしい、楽しい1日でした。

「私たちは宇宙で生まれ、宇宙で生かされ、そして宇宙に帰っていくのです。永遠に存在する喜びの意識なのです」。

朗読資料の文章に、「その通りだ」と、深く感じていました。

今回は席の順番がアトランダムになり、30番だった私は幸運にも1番になり、先生の近くに家族で並んで座れました。1番の人は予定が狂って慌てていました。

ちょっとした天変地異のようだった。

先生が私に、前に来るよう手招きしてくれた。それに従って前に出ると、先生が手を差し出しながら異語を喋り始めた。私もつられて異語が出て、先生の目を見つめていると、突然目の中に宇宙の広がりを、やさしさを感じて、喜びが爆発しました。そうなると、うれしくてうれしくて走り出していました。

現象の人たちの波動に引かれて、現象の円の中をいっぱいに、大きく大きく何回も走った。コーナーで飛び出しそうになると、ワーッと叫んだような、周りの人の足を蹴飛ばしたようなこともあったかも知れない。

喜びの体験を、妻にも娘たちにも感じてほしいと引っ張り出し、一緒に走りました。まさに宇宙の波動を心の中に発見したようです。現象の場は喜びだけでした。

セミナーはいつもいつも新しい喜びがあります。

この学びは言葉では正確に伝えることはできません。文明の道具としてつくられた言語で、人の根源の意識に迫ることは限界があります。異語について、先生は「文法も何にもないデタラメ語」と言われています。そのような異語であればあるほど、宇宙の意識や人の波動が素直に感じられると思います。

２月の愛知セミナーの前泊で、50人くらい集まっていた時に、先生から家族４人、前に来るように言われて、異語の練習を受けました。

３人は話せるようですが、私は全然喋ったこともなくて、どうなるのかと思っていました。４人向かい合って始めたら、どうしたことか、異語がドンドン出てきました。何が何だかわらないのに、胸の中より湧くように出てきて、ただ先生のことをイメージしていました。先生が教えてくれたと思っています。

異語が話せると、うれしくなり、セミナーが一層楽しくなりました。

ホームページから伝わる波動（大阪府）／2001年11月9日

パソコンから流れるやさしい波動が、グッと心に響いて伝わってきました。田池留吉、アルバートのやさしい波動が伝わってきました。目を閉じて、その波動を感じました。何とも言えない（言葉で言い表せない）波動でした。暖かい、暖かい、やさしい、やさしいのです。田池留吉、アルバートの温もりの中で心の安らぎを感じました。「ずっとこのままでいたい」そう思いました。パソコンの前でしばらく涙が止められませんでした。この思いをさびしい苦しい過去世に向けていこうと思いました。

炊事の時も、お風呂の時も、トイレに入っていても、ふっと、田池留吉、お母さんのことを思っている私がありました。心が暖かくなっていくのがわかりました。何を見ても「ありがとう」と、ありがとうの思いが広がっていきました。涙が止めどもなくあふれました。

夜、床に就いてからアルバートを思うと、パソコンから伝わってきた、あの温もりとやさしさが心の中によみがえって広がりました。何にもないのです。ただただ暖かいのです。田池留吉、アルバートのこの温もりの中が一番幸せだと知っている私があるのです。その私をどこかに置き忘れていました。あせっていたのかもしれません。「自己供養をしていくのです」と言われていました。その先生のやさしい顔が浮かんできました。受け容れられている幸せを感じて、声を押し殺して泣きました。「先生、ありがとう」の思い

でいっぱいになりました。
闇に心を向けた時、受け容れていこうと思った時、やさしくなれるのでした。田池留吉、アルバートへの信が本当のやさしさへ、やさしさへと、つないでくれます。信が私自身を導いていくのだと思いました。うれしいです。先生、ありがとうございました。

異語を語れる喜び（大阪府）／2002年3月30日

異語が出てくるようになってから、自分の本質が何であるか、感じ始めております。これまで学んできた「心の学び」が如何なる内容であるか、異語から、その真髄を復習と併せて、再度学んでいるような思いが上がってきます。
学びに集った当初は、よく講話で聞きましたが、「黙っていても、寝ていても常に、心は語っていますよ」と言われたことも、その一つです。
いろいろな反省材料を始めとして、様々なざんげの思いが噴き上がってきます。懐かしさも含めて、この異語の中には、反省の思い、ざんげの心、暗く重い過去世の思いの、すべてが存在し、自分の本質である意識に包含されているように思えてきます。
「自分の心で感じることを信じていきましょう」と、「異語」という、「すべて自分」という自分が語りかけてきます。そのような思いが伝わってきます。
この泉大津市には、和泉市にまたがる弥生時代の遺跡があります。先日、その付近を通った時、自分の異語が語り始めました。
みずからの部族を取り仕切り、他部族との戦闘に明け暮れた、心の休まることのなかった苦しい思いです。この土地へ住まうようになったのも、何かしら懐かしい思いも流れてきて、その思いと共に、すべては偶然ではなかったと思いました。でも、何が出てきても受け容れていこうと思いました。そして、一切合切の思いが飛び出してきては、すべてが喜びへと変わっていくような思いがあります。
このような思いが出てくる体験をさせていただくことによって、異語による自己供養と、本当の自分、アルバートへの確信という、両輪が始動しはじめたのを感じております。

すべてが間違ってきました（大阪府）／2001年6月19日

私の過去世のすべてが間違ってきました。今世も肉を自分と思い、間違った心を使い続けてきました。うれしい思いを、喜びの思いを、この学びにありながらも肉の思いで学び、自分が意識であると気付けず、頭で学んでいました。
10余年が経って、やっとパソコンから伝わる波動、「私たちは肉ではありません、意識、永遠に存在するものです」が、心の底から「信じていこう、信じています」と変わってきたように思いま

す。時には立ち止まって、「神の存在、人間の本質、人生の目的、転生の認識を深める」を見つめ直しています。

山の木々が1本たりと同じ枝ぶりがないように、60余億の私たち人間も皆過去世が違うように、それぞれの環境を選んで生まれてきました。個々に肉の思いは違っていても、神より出でし神の子の心はすべて一つです。何らの差別区別もなく、神の子の心は神に一つなのです。だから神に帰ることができるのです。帰れなくしているのは自分であると、気付けることは自分への愛です。過去世たちは、アルバート・母の懐（子宮・故郷）へ帰りたいと、受け容れてくれるのを待っているのです。本当の自分であるアルバートも「帰っておいで」と、喜びで大きく両手を広げて待っています。

喜びが本当の自分です。その喜びがすべてを変えていきます。喜びはパワーです。アルバートは喜びのエネルギー・波動・本当の自分です。それ以外には何も存在しません。それが意識の世界です。肉の思いを離していきましょう。「四次元は肉を持たない意識の世界ですよ」と、伝えてくださっています。

喜びが本当の自分、本当の世界です。喜んでいきましょう。うれしいね！　アルバートを、母を思うと、喜びがこみ上げてきます。うれしいです、本当にうれしいです。

意識は一つ（神奈川県）／2002年3月6日

先生のホームページを読んでいても、異語系のことは自分には関係ない話だと、最初から気持ちが引いてしまい、冷めた思いで、ずっと見ていました。目は通すけど、心に入らないという感じでした。

愛知セミナーで異語の現象を目にした時、一瞬で寒気が走り、拒絶反応が出ました。みんなが喜びで飛び出していく時に、私は「やめろ」という思いでいっぱいでした。肉を本物とし、意識を拒絶し、意識を信じないという思いでした。

それが、初めて友と異語で語り合ってみたら、自分が異語を語る状況になってみたら、違ってきました。「あっ、こういうことだったのか」と、今までホームページでピンとこなかったことが、少しわかったような気がしました。

最初に友と手を取り、友の語る異語に導かれるように、自分の口からも異語が飛び出し、語り合った時は、「意識は一つ、みんな仲間、また会える、さびしくないよ」と伝わってきました。次々と友と手を取り合い、異語で語るたびに、「意識は一つ」を感じていました。異語で語ることが意識を感じることに集中させ、「意識は一つ」を信じさせたように思いました。

先生の言う、「目を見ればわかる」も今回よくわかりました。目が合うだけで思いが伝わりました。目は口ほどに物を言い、言葉にならない思いを目が語りました。異語で語り、目で語った時、「私たちは元々一つ。別れなど存在しなかった」と感じました。別れ

にこだわるのは、肉を本物とし、「肉が別なら意識も別」の思いでした。「田池死ね」も肉を本物とする思いを焦点化したものだったと、今更ながら思いました。

異語で語ると、心と心が直結したように感じました。言葉なんていらなかった、思いを、意識を感じるだけでした。異語を語ることで、自分の思い、相手の思いをハッキリ感じました。心と心が直結した、一つになった、それがとてもうれしかった。今までとは違う感じで、「意識は一つ」が心に入ってきました。初めて「意識は一つ」を信じてやっていけそうな気がしました。

異語によって、心と心が一つになる喜びを感じ、これから訪れる別れも乗り越えていけるかもしれないとさえ思いました。肉は別れても意識は一つ、「アルバート一直線」が苦しまずに、自然にできるような気さえしました。

でも、肉の思いはとても強く、すぐに「意識なんて信じられない。別れはイヤだ」が出てきます。別れの苦しみに翻弄されます。別れを喜びと思えるようになるまでの道は長く、けれど時間は短く、限られている。この卒業のシーズ

ン中に、「できてもできなくても卒業」が思い起こされます。セミナーが終わってしまうことへの不安が大きく出ます。そんな中、「意識は一つを信じてやっていける」という安心・確信を一つずつ積み重ねていくしかないんだなあと思いました。

セミナーに最近来られた男性の現象の中に、高校の同級生のお父さんがいました。お母さんが一人でもセミナーにずっとつながっていたから、お父さんが来てくれた。そして一緒に喜んでいる。それがとてもうれしかった。家族の中で、一人でもセミナーにつながっていることが、こんなに大きな喜びになるんだ、夫婦の喜びにつながっていくんだと思ったら、うれしくなりました。まずは、私がセミナーに参加できることを喜んで、喜びを積み重ねていこうと思いました。

私の中で「別れが喜びになるまで」が如何に大きいかという感じですが、異語が自分に少し変化を与えてくれたように思ったので書いてみました。

３日目の朗読資料、「私たちは喜びの別れと喜びの出会いを体験していくのです」が、やはり一番、心に残ってます。喜びの別れを体験できるように、信じて進んでいきたいと思います。

Group Photos

エルランティの光セミナーの終了が間近に迫ってくると、盛んに集合写真が撮られるようになってきました。ここには、田池先生を中心に、セミナー会場で撮られたいろいろな集合写真を掲載しております。もちろん全部とはいきませんが、亡くなった方々の顔も含め、当時の懐かしい顔、懐かしい雰囲気に出会えるよう、その一部を集めております。

最後のエルランティの光セミナー（第 235 回）／ 2002 年 6 月 25 日／下呂水明館

第 231 回エルランティの光セミナー／ 2002 年 4 月 21 日／琵琶湖グランドホテル

第 204 回エルランティの光セミナー／ 2000 年 12 月 12 日／琵琶湖グランドホテル

第 222 回エルランティの光セミナー／ 2001 年 12 月 9 日／琵琶湖グランドホテル

第 232 回エルランティの光セミナー／ 2001 年 5 月 14 日／福岡玄海ロイヤルホテル

第 228 回エルランティの光セミナー／ 2002 年 3 月 11 日／石川　ホテルながやま

第 219 回エルランティの光セミナー／ 2001 年 10 月 9 日／石川　ホテルながやま

第 219 回エルランティの光セミナー／ 2001 年 10 月 9 日／石川　ホテルながやま

第 223 回エルランティの光セミナー／ 2001 年 12 月 26 日／下呂水明館

第 217 回エルランティの光セミナー／ 2001 年 8 月 28 日／熱海つるやホテル

第 225 回エルランティの光セミナー／ 2002 年 1 月 21 日／霧島ロイヤルホテル

第 218 回エルランティの光セミナー／ 2001 年 9 月 17 日／静岡　遠鉄ホテルエンパイア

第 224 回エルランティの光セミナー／ 2002 年 1 月 7 日／静岡　遠鉄ホテルエンパイア

第 227 回エルランティの光セミナー／ 2002 年 2 月 25 日／愛知　三河三谷明山荘

閑話休題／いろいろな出会い

出会い1. 松阪市立図書館で

松阪市立図書館で、偶然手にした一冊、それが「エルランティの光」でした。それまでにもたくさん、精神世界の本を読み、「俺は何でも知っている」という思いと、「もっともっと知りたい、誰も知らないことを知りたい。そして自分が初めて提唱し、世の人々を教え導きたい。そんな人生が自分にはふさわしい」と思っていた心には、「あなたの心にすべてがあります。自分の心を見ていけば、すべてが分かります。神が分かります」という言葉は、とても魅力でした。「そうか、自分で分かるのか。ならば心を見るって、どうするんや？　それを教えてもらいにいこう」と、セミナーに参加しました。

ただ一度きりで済むと思っていたものが、まさかまさか、常連になるなどとは夢にも思えませんでした。神を思う自分になるとは夢にも思いませんでした。私は、ただすべてを知りたかっただけなんです。人の知りたいことを知り、人が驚き、感心するような理屈を知りたかっただけなんです。「神とは、こういうもの」と、説明できたらよかっただけなんです。まさかまさか、「神……」と思うそのことが幸せであったとは！　神を信じることがすべてであったとは！

「すべての人、物、出来事は、自分の心を見るための教材である」「自分の心だけを見る学びである」と、頭で理解して早5年、やっとやっと「そうなんだ」と心で思いはじめたところです。

「やっとやっとスタートラインが見えてきたな。いよいよ俺の心の学びが始まるんだな」という思いが何となくうれしい、今日この頃です。

出会い2. 娘と二人三脚で

この学びを知ったのは、昨年、夏、Hさんの所に治療に行ったときからでした。主人と不調和となり、身も心もズタズタでした。精神科へも通院して、抗うつ剤を服用していました。人と目を合わすことができなくなっていました。人と話すことが大嫌いとなり、暗いところへ、暗いところへ行っては、うずくまって泣き喚いていました。

よく教員として勤めていた……、あのときの子供たちには、とても悪いことをしていたと、今、つくづくと思います。

仕事は幼い娘を抱え、お金を稼ぐことだけでやっていました。当然、他の先生方との不調和があり、「いじめ」のような状態を受けていました。ただただ嵐が過ぎ去るのを待ち、自宅に戻ってうずくまっていました。すべて自業自得だったのです。

娘は、私が暗い母となっても、明るいままでした。住居も転々とし、まったく落ち着きませんでした。明るく、活発で、行動的、

意欲的と言われた私でしたが、その当時の私を見られた方々は、「まるで人が変わってしまった。同一人物と思えない！」と、呟いてみえました。

父と母は、ため息ばかりついていました。娘だけが、いつも笑っていました。すぐ泣いても、また、すぐ笑っていました。(その後、この娘がどうして笑っていたのか、この学びを通して、ハッキリと納得できました。)

娘は、学業不振児と言われ続けています。妊娠３ケ月のおり、大出血があり、心臓が停止し、産婦人科の先生から、「もう、ダメです」と言われ、中に残っている胎児は腐ってしまうので、手術して出そうと宣告され、その手術当日、心臓が再び動き出しました。しかし、喜びも束の間、先生から「90パーセント以上、脳障害児となる確率があるので、中絶したほうがよい」と言われました。私は、どうしても中絶する気になれませんでした。先生や親の反対を押し切って産みました。

産むまで、喉が切れる位のひどいつわりで、私は痩せていきました。娘は、標準よりずっと体重があり、元気な赤ちゃんでした。

今でも、生まれた娘を見たときの、涙があふれる位の感動を、はっきりと覚えています。障害児であっても……と、覚悟していたはずなのに、２才でやっと始歩、３歳でも片言の言葉がやっと……と、次々と遅れがはっきりしてくると、私は、「娘の幸せのため」という旗を振りかざし、訓練、訓練をやりました。仕事をしながら、どんどん追い詰められていき、ある日、車ごと川へダイビング……寸前までいったことがありました。

「さあ、一緒に死のうね」と娘に告げたとき、娘は、何とも言えない表情で「笑った！」のです。私は大泣きしているのに、この子は笑ったのです。

私は死ねませんでした。

しかし、その後も私は、娘に学習を強制し続けました。初めてセミナーに参加したときも、隣の娘に勉強を教えていました。すべて、常識にどっぷり浸かった姿でした。

この学びをしていっても、この夏、人生の大変換を迎えるまでは、娘に勉強を強制していました。まさしく手かせ、足かせの育児でした。怒鳴り散らし、泣きわめく母に、泣いても、泣いても、娘はまったく抵抗せずついてきました。そして、笑っていました。

私は「どうしては笑うのだろう」と、いつも思っていました。この夏の小林さんのチャネリング(和歌山ミニセミナー)で、すべて分かりました。ものすごい衝撃でした。

そして、大体験後の今、「この娘を生んで本当によかった！」と、つくづく思っています。

娘は、私にとって太陽です。神に心から感謝します。初めてのセミナー参加後、まったく、この学びから離れ、約４ヶ月、己高しの仕事三昧（ざんまい）の日々を過ごしました。そして、昨年の暮れ、父の死を迎え、骨を拾っているおりの体験を経て(岡山セミナーで紹

介させていただきました)、再び、この学びを始めました。しかし、今度は逆に、「セミナーに行きたい、行きたい」と思っても、なかなか行けませんでした。

今、思えば、それは仕事にかこつけて、行く機会を、闇の私が葬っていたのです。

この4月、心機一転、母子ともに、住居、学校、職場を変えました。私は車椅子の高校生を教える道を選びました。

娘は、すぐに新しい学校に慣れました。いろいろ問題を作っては、学校に走る機会が多かったのですが、新担任の先生は、今までにない姿で、あたたかく娘を包んでくれています。

さて、私はと言うと、今思えば、神をまったく信じていなかったのでしょう。職場でも、どんどん不調和の原因を、自分自身で作っていったのです。

夏休みを迎え、「よし、セミナーに行こう！」と、集中して参加しはじめました。チャネリング講習会では眠いばかりでした。娘連れで奈良セミナーに行ったとき、はじめに先生が、「夫婦不調和の方は、この会場から出ていってください」という内容から入られ、私は、我が身がピタリと合っていたので、頭が痛くなるばかりでした。

主人とは、大学時代に出会いました。1つ年下の後輩でした。私の父は3回結婚、母も2回結婚しており、私は当初、非嫡出子として誕生しました。すなわち、父はまだ、前の婚姻関係を結んでいました。

私は、家族旅行の経験がまったくありません。旅行どころか、家族そろっての食事の経験も、ほとんどなく育ちました。いつもいつも孤食でした。

その中で、「男なんて、あてにするものか。女でも、一生独立して生きてやる」と、中学・高校と、よき大学、よき仕事を求めて猛勉強しました。人を蹴落とし、少しでもよき成績をと、エゴの塊でした。

大学卒業時、オイルショック時と重なり、大変な就職難で、仕方なく岐阜県庁に入りました。お茶汲みの中で、すぐ転職を考え、教員をやってみよう……と、通信教育部の大学生と再びなり、仕事、通信教育、採用試験勉強と、またまた寝る間もなく、突っ走っていきました。

次年度の採用試験の倍率も、ものすごいもので、どんなに勉強しても足りないと焦っていました。私は数学が苦手で、主人は数学が得意でした。当時、主人は4回生として大学におりましたので、私は大垣から電話で、毎日のように数学の問題を伝え、主人に解いてもらうようになりました。

そして、合格の知らせを受けたとき、真っ先に主人に知らせると、「よかった！」と、我がことのように喜んでくれました。私は感謝の気持ちでいっぱいでした。

その後、主人は、「あなたと結婚できなければ死ぬ」といった

内容で、プロポーズしてきました。私は今まで、「男なんて！」と、恋愛感情を持ったことがない女でした。

「教員としてのあなたが妻になれば、僕は誇りに思う」とも言ってくれたとき、私は結婚を決意しました。共働きをして、夫婦、力を合わせて生きていけると思いました。何よりも、私が小さいときより、求めに求め続けていた「あたたかい家庭」が作れると思いました。

私の父母が「T」の姓に固執したため、主人のご両親との話し合いがうまくいかず、挙式当初からガタガタが始まりました。

しかし、私の仕事を理解し、やさしい主人でした。主人の帰宅が遅いことを文句を言う妻でした。いつもいつも自分中心で、自分の思うとおりに家庭生活が進まないと、主人を責め裁いていました。

娘が、お腹の中で、心臓停止し、復活しても障害児の可能性が高いと言われたとき、一番、私を応援してくれたのが主人でした。妊娠中は、言葉で言い表せないほど（仕事は産休まで続けていましたが、つわりとの闘いでした）、私をいたわってくれました。娘が生まれたとき、涙を流す位、喜んだ主人でした。私が大病しても、やさしく看病してくれました。

今、思うと、常に常に、主人は私を支えてくれていたのです。それが、ある理由で、私は主人を責め続け、悪魔の妻となっていたのです。あてつけに布団を勝手に別室へ移動し、もう片一方では、「どうして私の気持ちを分かってくれないの、あんなに私を愛している！　と言ったのに……」と喚き続けていました。

主人をどんどん追い詰めていったのは、まさしく私でした。別れるのは、すべて私の自作自演でした。主人が私に何と言おうと、その激しい言葉は、すべて、私の思いでした。

この学びを再スタートして、主人に使った私の思いを整理し、自分の非を素直に認めました。私の、主人への1ミリメートルの反省でした。

すると、こんな悪妻に会ってくれるようになったのです。電話をしても、ガチャンと切らず、聞いてくれるようになりました。どんどん、どんどん、主人の表情は穏やかになっていきました。３人で、楽しく食事ができるようになりました。娘は、はしゃぎまくりました。

私は、その娘の肉の姿に、もう一度やり直せたらと、どんどん、思いを募らせていきました。反面、主人と別れ、また再び母子2人の生活に戻ると、必ず娘は、何か問題行動を起こしました。警察の世話になったこともありました。すべて、娘の「気付いてください」というサインでした。

奈良セミナー後、主人に呼びかけると、いつもの如く、飛んで会いにきてくれました。私は、「どうか、一緒に住んでください」と、心からお願いしたつもりでした。主人の返事は、「まだ、今は住まない」でした。冷たく言い放されたと、とらえました。「今は」を、まったく見逃していました。会った場所から、どのように帰ったか

分からない位、私は動揺していました。主人と同居したいという、「もっと、もっと」という典型的な思いを出して、落ちた私がおりました。その日の夜から、闇の声が聞こえるようになったのです。私は、主人と不調和になってから、自殺願望が大変強くなっていきました。「死にたい、死にたい」と、暗い部屋にこもっては、つぶやいていました。主人の前で死のうと、包丁を持ったこともありました。「死んでやる！」と、メチャクチャな姿をさらけ出していました。

聞こえてきた闇の声は、「死ね！　死ね！」と冷たい命令調の言い方と、「死んだほうが楽になるぞ。ほら、飛び降りて……ほら、こっちだよ、思い切って、こっちへ飛び降りなさーい」といった、諭すような言い方の２種類でした。

どんどん、どんどん、ありとあらゆる修飾語を付けて、「死になさい」の内容で、闇の声が語ってくるようになりました。昼も夜もです。仕事先でも、闇の声ばかり聞こえました。賃貸のアパートである６階の自宅に戻ると、ベランダから手招きで、「おいで、おいで」と聞こえていました。

料理をしようと包丁を持つと、「手首を切れ」と聞こえました。たまらなくなって外に出ていくと、どうしようもない力が加わったかの如く、「おまえは死んだほうがいいんだ！　いいんだ！」と喚きながら徘徊しました。

近所の人が、私のその姿をじっと見ていました。

娘に、「おまえなんか、あっちへ行け！　おまえなんか、死んでしまえ！」と、怒鳴りまくりました。

夏でしたから、その声も、近所の人に丸聞こえでした。職場の先生方も、近所の方々も、皆、私が「気が変になった」「気が狂った」と受け止めるのに、そんなに日数は要りませんでした。近所の人の中で、娘に同情し、私に注射を打って、強制的に精神病院へ……と考えられた方も現れていました。

私は昼夜、眠れなくなり、数日後、息もフーフーと、まともにできない位、衰弱していきました。（ただし、今、思っても不思議なことに、自分はろくに食事をとらなかったのですが、娘にだけは、何か作って食べさせていました。）ふるえる手で、カセットテープをかけました。いつも、いつも、セミナーのカセットが入っていました。田池先生の声が聞こえても、ほとんど、耳に入りませんでした。

しかし、突然、本当に突然！　田池先生の「命がけ、命がけ……」の声が耳に入ってきたのです。「母親の反省」のビデオをかけました。肩を上下させながら、フーフーと言いながら、目を向けました。すると、しばらくして、これも突然、涙がドーッと出て止まらなくなりました。

泣いて、泣いて、泣きまくりました。

どのくらい泣いたか、今も分かりません。声がかれるぐらいに泣いた後、先生の「よし！　こもって、自分の心を見てみよう」と、ご自分の体験を話された一部分を思い出しました。

よろよろの体で、娘をある施設に預けに行き、私は一人、自宅にこもりました。ありったけの残された力で、声を出して本を読み上げました。ビデオを、とにかく、一生懸命、視聴しました。どの位の時間を経たか、今も分かりません。「神、エルランティ田池に心を合わせよう！」「私は神の子なんだ！」という思いが、どんどん強くなっていったとき、突然、再度、残された力を振り絞るかの如く、大声で、ワーワー泣きました。

娘の「お母さん、死なないでー」という声が聞こえた気がしました。泣いて、泣いて泣きまくり、「ごめんなさい、私が間違っていました」という思いでいっぱいになったとき、「死ね」という闇の声が、まったくなくなっていました。

本当になくなっていました。

新学期になり、職場では、私のポストがガラリと変わっていました。若い講師の先生方の下働きのような仕事ばかり回ってきました。若い先生から指示を受けて動くという状況で、生徒たちに、私が主体的に指導する場所は、まったく、なくなっていました。草むしりをしながら、ウォークマンで、セミナーのカセットテープばかり聞きました。不思議と、みじめであるといった感情は起こりませんでした。

やがて、突然、研究授業を当てられました。以前の私なら、事前研究を躍起にやり、とことん「私はできるんだ！」といった思いを出して、臨んだことでしょう。そのときは、「淡々と、すべてよしでやってみよう」と、自然に思いました。

「よい授業でした……」という評価を受けました。結果は、成功、失敗のいずれであっても、すべてよしという思いのはずでした。ところが、ほめられると、「できた！」という思いで、落ちた私が存在していました。常に、常に、原点に戻る私が、ここにもありました。

筋ジストロフィーという病気に冒されている生徒は、知能的にはまったく問題がないので、自分の病識をしっかりと持っています。30才前後で、大半が死を迎えるという現実と真向かいとなり、しかも年齢を負うごとに病気が進行していくことが、自分ではっきりと分かります。小学生の頃は、明るく過ごしていた子が、高校生ともなると、死の恐怖を強く持ち続けます。現実には、どんどん、どんどん、手先すらもマヒしていきます。私は、今、少しずつ、この学びを話しています。自然と、本を手渡している私があります。３年生は、もう卒業で会えなくなります。卒業式まで、この学びを話していこうと思っています。

初めての大狂いから、私はふと見ると、あらゆる自分の価値観、人生観が変わっていることに気付きました。己高しの自分を認めなさいのコースを何の疑いもなく、突っ走ってきた私でした。それがいかに間違っているか、はっきりと分かりました。そして、この学びは真実であり、命がけで取り組まなければならないことが、はっきりと分かりました。私は大バカ者でした。

主人は、昔は卓球選手であり、スラリとして顔も二枚目でした。

私みたいなブスをよく選んだナァと思いました。しかし、中年に入った今の主人は、お腹はポッコリと出て、本当に肉体の形は変わりました。それが、この今の主人が、とても、いとおしいのです。ただただ、いとおしい思いが出てきます。心から愛しています。

　そして、主人は、素直に、この学びのカセットテープや本を受け取ってくれています。私はうれしいです。ただただ、うれしいです。主人の真実の思いが、はっきりと、今、分かりました。彼は、私がやさしい人間に戻ることを、待って、待っていたのです。待って、待っていたのです。

　９月に行われた石川のセミナーのとき、田池先生は私に、「あんたは子供にかまいすぎる」「まだまだですよ」と言われました。それが、何ともやさしい言葉に聞こえたのです。ただただ、うれしかったです。帰りの電車の中で、大泣きでした。大転換後、私は、よく泣くようになりました。

「できた！」という思い、「もっと！」という思いを出すと、すぐ落ちる自分が今でもあります。何度も、何度も落ちては、「ごめんなさい」を繰り返し、原点に戻ってやり直しを繰(く)り返す私です。本当に、肉の強さを噛みしめています。ベランダから「バカッたれー」と叫んだりしています。私は大バカ者です。

　田池先生の講話は録音されている部分だけですが、暗記する位、聞きまくっています。車の中、休憩中、自宅にて、反省文作成以外は、家事中も、いつも何か、かかっています。

　職場で、見下されたという間違った思いを持って帰ると、特にかかってるテープは心にしみます。先生の講話どおりのことを、私は次々に体験させていただいています。この学びを知った頃の、昨年の夏のテープと、今のテープを比べると、わずか、この一年で、ものすごい勢いで変わっていることに気付きました。

　先生は、あるときはシビアに、あるときは諭すように、また、話し方、述べ方を、あらゆる方面から、突っ込んで話されていることが分かりました。すべて、「分かってほしい」という思いが流れています。何時間も、たとえ座っているとはいえ、話し続けることは、いかに大変か……、私もささやかですが、話す側の仕事をしていますから、よーく、分かります。あまりにもテープを聞きまくったためか、夢の中でも、先生の声が聞こえます。「私の肉は石ころでした」「霊道者がとらえた、田池先生の肉の意識」を一気に読みました。泣きっぱなしでした。先生が、神の道を歩めたのですから、私にもやれるのではないか……と思いました。いや、先生の方法に、たとえ細い絹糸でもしがみついて、ついていこうと思いました。

　気が狂ったあと、身体は不調であるはずなのに、６年間、止まっていた生理が、突然、復活しました。ただただ、感謝するのみです。

　私は、あまりにも、日々、心を見る教材だらけですので、家で書きまとめる前に、職場でも、どこへ行くときも、腰に紙をブラブラ下げて、すぐ書けるようにしています。あまり形としては、格好よ

くありませんが、反省の材料だらけの私には、これしかありません。
先日、夢を見ました。崖から落ちて、死んでも、死んでも、また崖から飛び降りるのです。ものすごい形相で、何度も、何度も、海へ向かう女の人の夢です。H さんにチャネリングしていただきました。「一緒に神の子の道を歩みましょう」と思いをかけると、「うれしいです。この場でやさしい思いをかけられ、うれしいです」という過去世がありました。私は、また一つ学ばせていただきました。私は幸せ者です。
肉の強さはピカ一の私です。すぐ落ちます。まったく、バカッたれそのものです。しかし、私は、田池先生を、どこまでも、どこまでも信じ、落ちても、落ちても、くっついて、しがみついていこうと思います。
今回の文中、おかしなところ、分かりにくいところが多々あると思います。私でも参考になるのでしたら、顔を見たおり、いつでも気軽にお聞きください。
娘は、「いつセミナーに行くの？」ばかり言います。そして、セミナーに来てみえる皆さんに、かわいがっていただいています。本当にありがとうございます。ありがとうございます。
（1994 年 12 月）

出会い3. もう1人のウォーリー

2020 年7月 25 日の UTA ブック連絡事項に「『ウォーリーを探せ！』ではなくて『田池先生を探せ！』」というタイトルで 1 枚の写真が掲載されました。田池先生が市岡高等学校に赴任された年に撮影された教職員の方々の集合写真。田池先生の教え子さんから提供されたという。
「えっ、神沢先生？」この写真を見て、私の目に真っ先に飛び込んできたのは田池先生ではなく、一番上段の右から 4 番目の気難しそうなお顔でした。苦しかった暗い暗い 20 代、何を目的に生きていけばいいのか、私にできることはあるのか、京都の夜の街でアルバイトをしながらもがいていたとき、この人に付いていけばこの泥沼から脱出できるかも知れないと必死に後を追いかけた神沢和夫という舞踊家、確かに私がお会いしたころは市岡高校の定時制で教えていらして、市岡高校出身のお弟子さんもいました。この写真の方があの神沢先生か確かめたいという思いが募りました。
田池先生の教え子の方は知っていました。何年か前、セミナー会場で私の後ろに座っていたその方に何かの拍子に「あんたは私が捨てた子や」と突然言われてびっくりしたことがありました。鈍感な私には“ 捨てられた ”という感覚はなく、その時はお互い笑い合ってあまり言葉も交わしていなかったのですが、多分あの人が提供した写真なんだろうなあと思いながらも、セミナーはないし個人情報なので UTA ブックさんに問い合わせるのも気が引けて、

いつか直接お会いできた時に聞いてみよう、もしこれからもセミナーがなければもうお会いすることもないだろうから、この疑問は解明されることなく私の中で永久にお蔵入りするんだろうなあと半ばあきらめていました。しかしそれから１年４か月あまり経った先日、偶然桐生敏明さんと直接電話でお話しする機会があり、思い切って「ウォーリーを探せ！」の写真のことを聞いてみました。「Ｎさんです」と桐生さんはあっさり言い連絡先も教えて下さいました。ずっとずっと私の中でもんもんと気になっていたことだっただけに、あまりのあっけなさに拍子抜けするほどでした。

早速Ｎさんに電話してみました。「神沢和夫ってご存じですか?」「知ってますよ。国語の先生で、洋舞をやってはった先生やね。市岡では有名でしたよ。そう、あの写真の人は神沢先生ですよ」私の中で何かがはじけました。ああ、奇跡ってほんとにあるんだという感覚です。実は私は田池先生がご存命中もセミナーで市岡という言葉をおっしゃるたびに、「神沢先生ってご存じですか」と聞きたい衝動にかられていました。でも意識のことがよくわかっていないのに、肉のことを聞くのはおこがましいと思い、とうとう聞けずじまいでした。やっぱり田池先生と神沢先生は肉で接点があったんだ！　なかなか仕上げられなかったジグソーパズルの最後のピースがようやく収まった感じでした。

この学びにつながった人にはお一人お一人それぞれ田池留吉との千載一遇の物語があると思いますが、私の場合は田池留吉に

出会いを掘り起こすことになった「Taike Tomekicihi Part.1」に掲載された写真

辿り着く前に大きな影響を受けた存在として神沢和夫という人がいました。神沢先生を必死に追いかけていなければ田池先生にもお会いできませんでした。

私は 1969 年、岩手県の女子高から1浪して京都の私立大学に入学しました。

折しも 70 年安保闘争と称する学生運動真っ盛りのころで、ヘルメットにゲバ棒姿の学生たちが大学をバリケード封鎖し、授業はまともに受けられませんでした。閉塞感のある田舎を飛び出して自由に勉強もアルバイトもがんばろうと張り切っていた私にはかなりのショックでした。文学の中にどう生きるべきか真実を見つけた

いと国文を選んだけれど、かろうじて受けられた授業では作家論や作品論など難しい言葉を使ってどうでもいいことを議論したりレポートにまとめるだけ。議論や論理的思考が苦手な私には苦痛でした。傍観者でいるのは卑怯だと学生運動にも少し関わったけれど、組織の中は裏切ったり裏切られたりの戦いの連続。ここにも真実はないと1年ほどでやめました。

当時怖いもの知らずの私は大学の外に生きていることの意味を見つけようといろいろなアルバイトに挑戦しました。家庭教師や喫茶店のウエイトレスも普通にやったけれど、もっともっと社会の裏側も知りたいとスナックでも働いてみました。小指の先のないヤーさん（暴力団の人）や祇園の芸妓さん、夜飲み歩く有名なお寺のお坊さんなど様々な人間模様を観察することができ、私にとっては大学の勉強よりもずっとずっと実りあるものでした。

もう一つ挑戦したのが演劇の世界。当時京都にはくるみ座という劇団があり、その養成所の門も叩いてみました。そこに身体訓練のレッスンの講師としていらしていたのが神沢先生でした。その当時は踊り手の奥さんとともに創作舞踊研究所を立ち上げて10年以上経っていましたが、舞踊だけでは食べていけないので、高校の定時制でも教えているとのこと。京大の文学部卒で国語の先生。それだけでも私には魅力的でした。そして発する言葉は「新しい舞踊、新しい芸術を創り上げるんだ」という気概に満ち満ちており、前衛的で哲学的、よくわからないけれど何となく引き込まれてしまいそうなカリスマ性がありました。さらに神沢先生の踊りは素人でもちゃんと踊れるようになっていて、体を動かす爽快感に私は夢中になりました。

大学を6年かかって卒業したあとも私は就職せず、相変わらずスナックでバイトをしながら奈良学園前の山奥にあった神沢先生の稽古場に通いました。学園前は高級住宅街で有名だったけれど、先生の自宅兼稽古場は、駅前から出るバスの終点からさらに10分ほど歩いた山の傾斜地にありました。その傾斜地をうまく利用してモダンな家を設計したのが後に世界的建築家となった安藤忠雄さんでした。当時まだ若手の建築家で、神沢先生はかわいがっていたのでしょう、自宅によく遊びに来ていました。ほかにも先生は学者さんや演出家、音楽関係の方など、お客さんをお呼びしては熱心に芸術談義をしていました。その時のお料理を作るのは稽古場に通うお弟子さんたち。ご家族の食事作りや掃除などもやっていました。10人くらいのメインスタッフも含めて全員、会社員や教師、トラック運転手など別に職業を持っていました。皆さんまずここに通うことが優先で、神沢先生のおっしゃるまま踊り、もろもろの雑用もこなしていました。先生の踊りの作り方は独特で、先生がインスピレーションで浮かんだ動きをするとそばにいるお弟子さんがその通り動き舞踊にしていくというやり方でした。今考えると神（沢）の御託宣を周りの巫女たちが下々の者に伝えるという構図。まさにカリスマ的教祖の周りに信者たちが集まる宗教団体

そのものでした。そして私もその信者の一人でした。

神沢舞踊研究所では年に何回か公演があり、そのチケットをさばくのが大変でした。バイト先のスナックでチケットを買ってくれそうな客に何人か声をかけましたが、唯一買ってくれたのがそのころ大阪でコピーライターをしていてのちに夫となる人でした。チケットを買っても興味がなかったのか公演は見に来てくれませんでしたが、それをきっかけに親しくなり結婚にまで至りました。その後「東京で自分の力を試したい」と東京行きを決意した夫とともに上京することになり、自然に神沢先生からは遠ざかることになりました。それはまた伊勢出身の夫との紆余曲折を経て田池留吉にまで辿り着く出発点でもありました。

思いがけなく「田池留吉を探せ！」の写真からもう1人のウォーリー「神沢和夫」を見つけたことで、必死で真実を求めてきた自分の青春を振り返ることができました。自分の20代のことは汚点として消し去りたいと思っていたほど、私は肉の常識からしても本当に馬鹿なこと、危ないことをたくさんしてきました。しかしあの時期があったからこそ今の自分がある。すべて自分で選択し、決断したことでした。今はあのころの自分を「がんばったね、すべてよしなんだよ」と温かく抱きしめてあげたいです。

また、なぜ私はこの時期岩手に生まれ京都まで行ったのか、すべて田池留吉に辿り着くためだったことも改めて確認できました。私を生み育ててくれた両親は京都に行くことも黙って許してくれました。私は本当に肉でも恵まれていました。無条件に両親に愛され信じられてきました。ありがとうお母さん！　ありがとうお父さん！

神沢先生は2003年、74歳で亡くなられていました。田池先生より4歳若かったのに随分早く肉を置いて行かれました。「葬儀・告別式は近親者のみで執り行われた」とネットで見た時、「えっ、あれだけお客さんを招くのが好きだった先生が？」とびっくりしました。コロナ禍の今でこそ家族葬が多いですが、あの当時は珍しかったのでは？　田池先生はセミナーの中でよく教師時代のエピソードで、京大や阪大出身の理屈っぽい先生方に突き上げられたお話をされていましたが、既存のものに批判的で革新派だった神沢先生は田池先生と対立する立場の人だったのではないかと思われます。でも肉の置き方は「葬式はいらない」とおっしゃった田池先生と同じだったことに何か感銘を覚えました。

田池先生が自分の中から「おまえが今まで説いてきた愛は偽物だ」と促され、母親の反省を通して真実に辿り着いた時期と私が神沢先生を追いかけていた時期は重なります。その当時田池先生と神沢先生はどういう関係だったのか、その後交流があったのかどうかはわかりませんが、あれから50年近く経って田池留吉の永遠の愛を知った今、田池留吉に心の針を合わせながら神沢和夫の意識に心を向けると、何か温かいものを感じます。神沢先生、あなたも必死に真実を求めていたんですね。あなたが追求してきた新しい舞踊も芸術も己れ偉しの心も田池留吉の愛の中にすっぽ

りと包まれています。田池留吉の世界の中に私たちはみんなひとつでした。うれしいです。

本物のウォーリー（田池留吉）に出会うために遭遇しなければならなかったもう1人のウォーリー（神沢和夫）、私の大事な大事な２人のウォーリーが写っている写真を提供して下さったＮさん、私は過去世であなたに捨てられた子かも知れませんが、ずっとずっと見守り続けてくれていたんですね。やっとやっと会えました、お母さん。あなたの温もりを感じます。ともにともに田池留吉に心の針を合わせながら次元移行への道を歩いて行きましょう。うれしいです。ありがとうございました。

出会い4. 自費出版した本が「エルランティの光」に！

平成２年12月中学卒業以来初めての同窓会を終え、40歳になった私は恩師に記念写真と手記「小さな天使の記録」を持って会いに行った。25年ぶりに先生や友人たちと懐かしくワイワイと歓談したその同窓会を欠席した先生を訪れた時、この「意識の世界」への門をたたくことになった。

その世界は、まさしく亡き子供の導きのように思えた。子供を亡くして10年、友人から育児日記をしたためていたのを本にしないかと勧められた。この子の生きた証に、そして供養になるならと、100部製本した。子供がお世話になった人や、縁のあった人に自費出版して配った。その一冊を恩師に渡すと、

「れい子さん、この本を読んでみて。亡くなったお母さんにも会えるから……。」

その言葉に驚いた。

「エッ！　お母さんに会える……？」

手渡されたその本は『エルランティの光』―― 宇宙に浮かぶ地球の姿が描かれた表紙の本だった。

子供たちを寝かせつけてから、夜遅くまで読みふけった。えっ？えっ？　こんなことが？……不思議なことに今まで生きてきて、全く反対のことが書かれていた。それなのに読むのをやめられない。ドンドンひきつけられて読んだ。

数日後、返しに行き、別の本、プリント、テープなど借りてきた。そして、その年の暮れ大阪市内に田池先生が来られるから、と講演に誘われた。大阪の府立高校の校長先生を退職して、この学び

を説くために各地を回っておられるという。

そして亡き子どもの祥月命日の3月10日、(これも不思議な日。田池先生とは12月以来の再会) 岐阜県の下呂で劇的な母との現象を見た。

母は生きている。母の意識は今も、生きている。ぜんそく発作で時々苦しんでいたが、その母だった。母の性格そのままに、私に語ってきた母。「サッサとやることを片付けなさい。お母さんもしなくちゃいけないことがたくさんあってね。グズグズ言ってるあんたにかまっておれないよ。お話も聞きに行かなくちゃ……」とそれ以外多くの言葉を発していた。私もいろいろ話していた。それは、母と、娘しか知り得ない内容だった。母は、私が幼いころは優しかった、成長するにつれ、口やかましく厳しくなった。家を新築し、子供を育て上げ、結婚の準備も一人でやり、仕事を続け全てひとりで成してきた。強くなるのも当たり前だった。ツルの一声で親戚中の皆を集める力を持っている。母は偉かった。頭が下がる思いだ。その分、私は不満だった。もっと老人らしいおばあちゃんでいたら、親孝行もしやすいのに……。

「苦労し続けてこんな性格になったのだから、仕方が無いよ。家で奥さんだけしてる身分じゃなかったからね。お酒もたばこも吸うじゃなし、帰って、疲れたと、デンとしているわけにはいかないから……。」

お給料は公務員だから男女一緒。親戚への援助も母だからこそ可能。母は、女大将だった。その母のお陰でみんなから愛されて大事にされた私だった。そんな母との現象だった……。

(中略)

この学びに縁を得て、30年。いろんなことがありました。本当に必要な物だけが残ってきたように思えます。

火山の爆発と崩壊のごとく、お金も消えて行きました。でも自然と整ってきている人生を感じます。

出会い5. 心が壊れた状態での出会い

私が、心を見るという学びに出会ったのは、17歳の時でした。心が壊れた状態で、母に手をひかれてセミナーに集った私でした。

物心がついた頃から、心が非常に敏感で、目にするもの、耳にするものから色々と強烈に感じて、自分の中から外から色々なエネルギーをもろに感じる状態でした。

自分であって、自分でないような思いが出てくる。どうして、自分の中から、自分ではないような思いが出てくるのか。自分は、おかしいのか。幼いころから自分の中にあった思いでした。

この学びに出会って、これまでの自分の中から伝わってくる苦しいエネルギーが、今世だけではなく、過去世から引きずってきた思いなのだと知りました。

苦しい苦しい人生でした。

人が年齢を重ねるにつれて、自然と精神的に成長していく過程が、自分には抜け落ちているように感じます。

肉の私という人格が出来ていく前に、中のエネルギーに振り回されて、そのエネルギーのままに肉を動かしてきた。操（あやつ）り人形のような状態でした。

自分の中の醜い思いを否定するために、正しい私、素晴らしい私を演じてきました。心にもない綺麗な言葉で武装して、でも、どんなに言葉で飾っても、心は正直でした。

飾っても偽っても、心は、ただただ苦しかったです。いつも、人の言葉をつかみ、人の心を思い通りにしようとしてきました。

自分を否定されること、嫌われることが受け入れられなかった。

自分に関わる全ての人に、受け入れられたかった。

どうでもいいことに囚われて、心が、がんじがらめの状態でした。

親には、歯向かう思いが強く、「我が正しい、お前が間違ってる」の思いで、何か言われると即座に反発する言葉を吐いていました。「何で素直に、ハイっと言えへんねん！」とよく注意されていました。

いつも怒っていました。自分の思い通りにならない事、自分が正しいと思う事をしていない人に対して、怒って、怒って、そんな自分が大嫌いで、そんな自分に対して一番苛立（いらだ）っていました。

そびえたった己の偉さは、10代の時からボンボンと出ていました。ある時は、母に対して「子どもの愛し方が分かっていない。」と言葉で追い詰め、母を泣かせた私でした。

自分が一番偉かった。後に、セミナーの場で、田池先生に「あんたが家で一番いばってるな」というようなことを言われました。本当にその通りでした。

母も父も弟も、みんなを従えて、あごで使ってきました。

田池留吉氏に出会うまでの苦しい苦しい人生。いよいよ田池留吉氏のその肉に出会う為の大きな現象が動き出したのは、16歳の時の留学の失敗でした。

自分の心の苦しみから逃げたくて、現実逃避から、南米アルゼンチンへの留学を決めたのが高校1年生の時。

高校も語学に力を入れている学科を選んで、何の迷いもなく留学する段取りを運んでいました。

今、思うとあまりにも無謀なことでした。感情の起伏が激しく、情緒不安な状態で、地球の反対側に行くとどうなるか……

しかも留学直前の失恋をきっかけに、ろくに語学の勉強もしないまま、スーツケースに荷物を詰めるのもやっとの状態でした。

今でもはっきりと覚えています。

渡米直前の空港で、「これから大変なことが起こる。」そう感じました。でも、もう引き返せない。

クラスメートたちから送別会を開いてもらい、1年の休学の手続きも終わっている。

行かない、という選択肢はありませんでした。

大きなうねりの中で、流れが一気に加速した、そんな感覚を覚

えました。
　案の定、アルゼンチンに着いたら、言葉が思うように出てこなくなり、一緒にアルゼンチンへ留学して現地で研修を受けていた仲間が、心配してくれる程でした。
　ブエノスアイレスでの研修を終えて、たった一人、現地の空港までバスに乗り、飛行機に乗り、ホストファミリーの待つビエドマという町へ着いたのが不思議なほどでした。
　ホストマザーが英語の教師だったので、幸い片言の英語は通じたものの、心がギュっと固くなって、言葉が出てこない状態は続きました。
　ホストファミリーの家に着いて、すぐ、国際電話で両親に電話をつないでくれて、母の声を聞いた時、心が叫びました。
「お母さんに会いたい。お母さんの元に帰りたい。」
　逃げ続けてきた日本での生活、でも、苦しい時に心が本当に求めていたのは、お母さんでした。
「日本に帰りたい。」そうホストマザーに訴えました。ですが、ただの一過性のホームシックだと受け取られ、まともに取り合ってもらえず、何日か時間が過ぎました。
　その間、スーパーへ買い物に連れて行ってもらい、シャンプーを買ってもらったり、靴屋さんでサンダルを買ってもらったり、元気が出るようにと、くまのぬいぐるみを買ってもらったり、ある時は、お米を炊いてくれたりと本当によくしてもらいました。

　それでも、言葉は出ず、心は固まった状態。自分がどんどんなくなっていく、私という肉の感覚が薄れていくようでした。
　ある日とうとう、鏡に映った自分を見ても、自分だと思えないような感覚になり、刃物で体を刺せば、感覚が戻るのではないかと、台所で包丁を手に、おなかに向けて刺そうとしたその瞬間、
「ハラキリーー!!」というホストマザーの叫び声で、我に返り、ギリギリのところで事なきを得ました。
　その後すぐ留学団体へ連絡がいき、スタッフの方の付き添いのもと、ブエノスアイレスへ飛び、現地の精神科のドクターの診察を受けることになりました。
「適応障害」という診断がくだり、ドクターに付き添われ日本へ戻る飛行機に乗りました。ドクターが心労で、嘔吐していたのを覚えています。
　日本に着いて、空港で両親を目にした時に、能面のようにかたまった顔から涙だけが流れ落ちていたそうです。
　安堵しました。自宅へ着き、しばらくは母が一つ布団でぴったりと寄り添って寝てくれました。
　固まった心がほぐれ、心がどんどんもとに戻っていくのを感じました。
　あとは高校に復学すれば、それで万事がＯＫだったのに、復学できませんでした。
　留学に失敗した自分が、クラスメートからどう見られるか、耐え

難い現実でした。
心の病気のふりをしていれば、高校へ行かなくて済む。
家庭の医学書を開いて、病気を装ってるうちに、そのままうつ状態となりました。
これはカウンセリングを受けないといけない。インターネットでカウンセラーを探しているうちに見つけたのが、Uさんでした。
その方が、「私ではなくて、この学びではないか。」と田池先生の存在を教えてくださいました。
帰国後、すぐに復学していれば、出会うことが出来なかった。
プライドの高い己偉いエネルギーが、この道に出会うよう働いてくれたのだと今はうれしく思っています。

1999年6月。初めてのセミナー参加で、田池先生と対面した時に、先生から「娘さんは、小学生の時に霊道が開いてる」と言われたそうです。
私には記憶はありませんが、後から母に聞かされました。
本当にそのとおりだったのだと、感じています。
そう思うと、自分の心の状態が、だから、ああだったんだな、とパズルのピースがピタっと収まるようにしっくりときました。
心が壊れた状態での出会いだったことから、折に触れて田池先生からお電話をいただき、お話する機会が多々ありました。
今でもはっきりと感覚的に覚えているのが、電話口の向こうにいるのは年齢を重ねた男性の肉を持つ先生なのに、話しているときに、年齢も性別も感じない、言葉にうまくできないけれど、ただ優しい思いだけが言葉に乗って伝わってくるようなことがありました。
その時の私としては、不思議な感覚でした。
心の目線が同じだったのです。ただ優しかった。
私の初めての入院が大きなきっかけで、2010年5月、父と母と三人（そして愛犬のポポ）雄琴で開催されたセミナーに参加しました。父のセミナー参加は、実に十年ぶりでした。
私は、親子3人（そして愛犬のポポ）とセミナーに来れたことがうれしくて、うれしくて、ホテルのお部屋で同室の人にも嬉々として、A病院での出来事を語っていました。

愛犬ポポもセミナーに

天変地異は喜びのエネルギーです

Natural cataclysms are the energy of joy

　これこそ、まさに波動の世界を心で感じられなければ、絶対に分からないことです。肉の次元では、なぜ天変地異が喜びなのかと思うだけです。肉の喜びと幸せを打ち砕く天変地異は恐怖そのものであり、人類にとってマイナスの要因だと位置づけられるだけです。

　しかし、アルバートの波動、アルバートの世界を広げていったとき、天変地異は喜びのエネルギーだとはっきりと分かります。天変地異はアルバート、すなわち、プラスのエネルギーであり、アルバートの中で起こるべき出来事ですと伝わってきます。立っている基盤が違えば、両極端です。

　全く無知なままに存在してきた人類に、最終的な救済の道が用意されています。このことを喜ばないで一体何を喜んでいくのでしょうか。自ら予定してきた道筋を辿っていける人類は、本当に幸せな存在であると言えるでしょう。

　無知とエゴと欲が作り上げた実在の世界は架空の世界でしたと知っていく手立ては、もう天変地異以外にはないことは明白です。すべての存在は喜びであることを、波動の世界は伝え続けてくれています。

　（「意識の流れ」より抜粋）

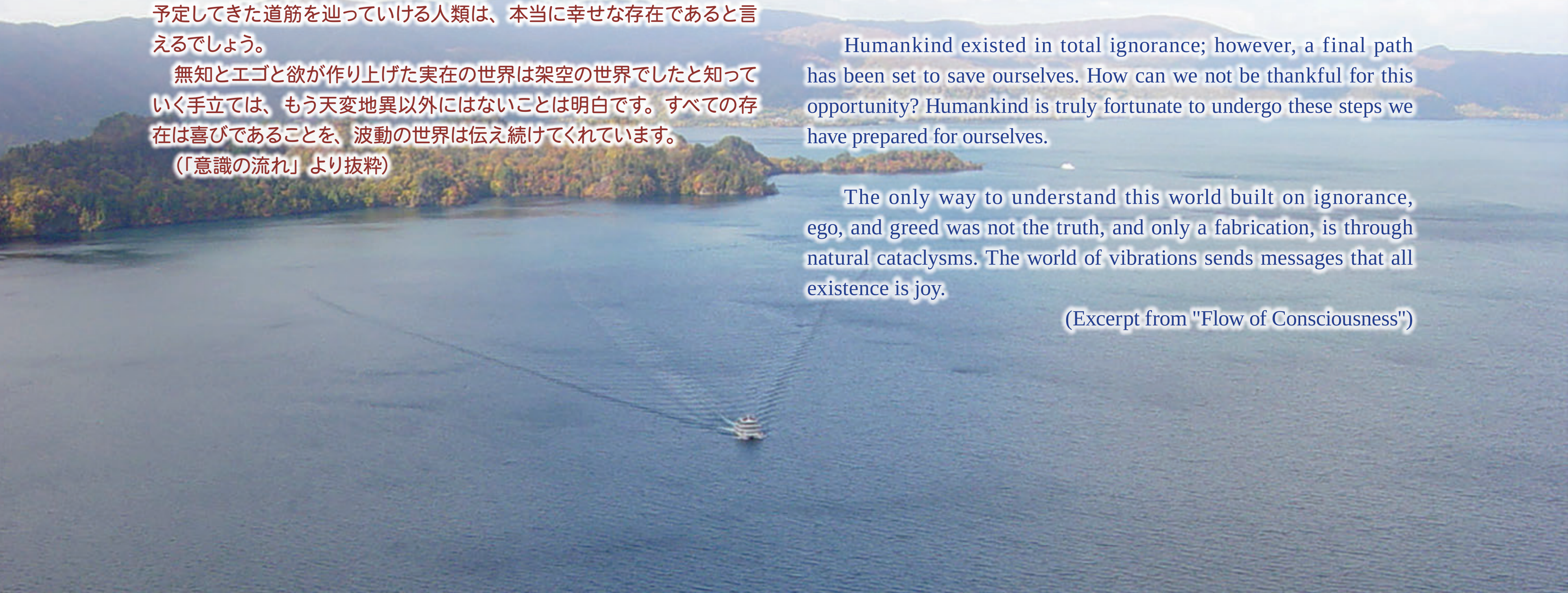
This can never be understood unless you can feel the world of vibration in your heart. From the physical perspective, people will only wonder how natural cataclysms can be joy. Cataclysms destroying physical happiness is fear itself, categorized negatively for humankind.

However, as you expand the world and vibrations of Albert, you will clearly understand natural cataclysms are the energy of joy. Natural cataclysm is Albert, positive energy, and events that are bound to happen within Albert. By switching the foundation, it gives us a completely reversed perspective.

Humankind existed in total ignorance; however, a final path has been set to save ourselves. How can we not be thankful for this opportunity? Humankind is truly fortunate to undergo these steps we have prepared for ourselves.

The only way to understand this world built on ignorance, ego, and greed was not the truth, and only a fabrication, is through natural cataclysms. The world of vibrations sends messages that all existence is joy.

(Excerpt from "Flow of Consciousness")



キーワード6. 天変地異

2022年が明けるなり、1月15日に南太平洋の島国・トンガの海底火山が大噴火しました。この本の冒頭にも、2010年から2020年にかけて世界で起こった天変地異の年表を掲げていますが、その中の2015年1月16日を見ていただくと、やはりトンガ王国の「首都ヌクアロファの沖約65キロの海上に、海底火山の噴火に伴い新しい島が出現した」という項目を見つけていただけると思います。この時も新しい島ができるほどの海底火山の大噴火だったわけですが、その新島・火山島フンガトンガ・フンガハアパイも7年後の海底火山の大噴火で跡形もなく消滅してしまいました。この最初の噴火の2か月前、2014年12月、「愛、心のふるさと」という塩川香世さんの出版物が発行されています。エルランティの光セミナー時代のことではないのですが、その文中に、なんと海底火山の意識が紹介されているのです。

以下、その一文を紹介させていただきます。

瞑想をしているとき、ふと海底火山という言葉が浮かんできたので、そちらのほうに意識を向けてみました。

◇

私達の思いを感じてください。私達の出番を、今か今かと待っています。喜びで、喜びで私達は自分達のエネルギーを噴き上げていきます。

私達のエネルギーは愛のエネルギーです。この地球上に肉を持った意識達、肉を持たない意識達、すべてに次元移行を伝えていきます。そのエネルギーを私達とともに感じていってほしい、感じていっていただきたいと思います。

いたずらに恐怖して、自分を落とし込めることがないようにしてください。私達は愛に帰る喜びの道筋をしっかりと歩いてまいりましょう。

心の中を見つめてください。私達は海底火山。あなた方と無縁のものではありません。

かつて私達とともにこの海の底に沈んだ意識達、たくさん、たくさんございます。そして、その意識達が再び肉を持ち、このように学びに集っている現実もお伝えしたいと思います。

私達、海底火山の思いをお伝えします。ともに、ともに愛に帰る道をただひたすら歩いてまいりましょう。間違ってきた道を歩き続けてきた意識達の目覚めを促していきたい、促していこうとしています。

意識は確実に流れています。愛のエネルギーは確実に流れています。厳然としてあります。この大きな広がりのもとで、ただただ一つ。

愛に目覚める道を、ただただひたすらに歩いていきましょう。

左は 2015 年 1 月 16 日のトンガ沖海底火山の噴火で出現した新島
火山島フンガトンガ・フンガハアパイ（現地オンラインニュース撮影）

右は2022 年 1 月 15 日のトンガ沖海底火山の噴火で消滅した新島。
（同じ場所を同じ角度からニュージーランド国防省が撮影）

この本には、続けてエボラウイルスの意識が紹介されています。

エボラ出血熱は、1976 年にアフリカ中央部スーダンで初めて私たち人類の前に出現し、以来 1990 年代にピークを迎えていますが、2019 年までに 30 回を超えるアウトブレーク（感染爆発）が報告されています。

では、以下に塩川香世さんの受けられた「エボラの意識」を紹介するとともに、天変地異とは何かについても言及されているので、あわせて紹介させていただきます。

私達、エボラウイルスの思いを聞いてください。

私達が、あなた方を苦しみの奥底に陥れるはずがございません。

私達の本質は愛なんです。人間達の心の中には、私達の思いが届かないようになってしまいました。私達は恐れる存在ではございません。確かに私達は人間の命を奪ってしまうでしょう。そんな威力があるかもしれません。

しかし、私達は警告を発しているのです。苦しい、苦しい心の中を見てくださいと。

エボラウイルスに思いを向けたときに、私達の思いを心から受け止めてくださる人が、いったいどれほどいるのでしょうか。

私達は、ただただ憎まれものです。厄介者です。私達を消し去ることしか考えていません。なぜ私達が存在しているのでしょうか。

私達は愛なんです。人間の心の中に届いてほしい。この波動を届けたい。エボラウイルスは、私達の思いを聞いてくださいという思いの表れなんです。そうなんです。私達の思いを聞いてください。私達はエボラウイルスという形となって、ただただ思いを伝えたかったんです。思いを感じていただきたかった。苦しい、苦しい

心の中を見てほしかった。ただただそれだけです。命を容赦なく奪っていくような存在、恐れられている存在ではありますが、私達の思いは全く違っています。

私達は愛でした。そのメッセージを伝えんがために、エボラウイルスという形になって、私達は警告を発しているんです。

心から、心からこの思いを受け取ってください。ああ、受け取ってください。エボラウイルスを恐れることなく、ただただ心を向けていただきたい。

優しい母のほうに心を向けていただきたい。苦しい中にあるのではなく、あなた方は愛なんですと、ただ私達はそのようにお伝えします。

◇

このように、海底火山と思えば、海底火山が語ってきます。エボラウイルスと思えば、エボラウイルスが語ってきます。

そして、それらは、私達人間に必要なメッセージを伝えてくれているんです。だから、決して興味本位で、あるいは恐怖心で思いを向けるのではなくて、意識の世界の真実を学んでいくために、その時、その時の色々な社会現象に思いを向けていくことは必要だと思っています。そうです。思いを向けるんです。一瞬思ってみるんです。

そうしたとき、目で見て、耳で聞いて集めた情報、それを分析したものと、色々な社会現象にストレートに思いを向けて自分の心に響き伝わってくるものとは、全く相容れないことが分かってくると思います。

特に、これからの私達にとって、天変地異というものが大きく関わってきます。天変地異、それは、自然現象だけではなく、それを含む自分の内外を大きく揺らす現象と思っていただいていいと思います。

そういう、いわゆる天変地異という現象は、果たしてどんな波動を伝えてくるのでしょうか。

その波動を正しく受信できれば、いいえ、受信できるように、そして、それらの現象によって、自分の意識の世界は転機を迎えることができるんだ、それらは自分を大きく変えていけるチャンスなんだと信じていければと思います。ただ恐怖の思いにおののくだけでは……と思います。

私は、意識の流れに思いを馳せるとき、キーワードとして、「次元移行」という四文字と「天変地異」という四文字が浮かんできます。そして、それに関連して、「日本沈没」という四文字が浮かんできます。

もちろん、天変地異は、世界各地でこれからも起こってきます。地球は生きているんです。地殻変動、海水温上昇等々で、陸地が沈み、また新たな陸地が現れていきます。その中の一つの現象が日本列島沈没という現象です。

地球も意識ですから、これからこの星はどういう状態になって

いくかを語ってきます。そして、そのことを通して、愛に帰ろうというメッセージを伝えてくれるんです。それは、形の上からは無残としか言いようがありませんが、すべては愛の中の出来事であり、決して、恐怖の坩堝に私達を陥れる出来事ではありません。

　今、例として挙げた海底火山とか、エボラウイルス、また地球にしても、そこから感じられる波動が優しいんです。

　はっきりと真実を伝えてきますが、根底にあるものは、喜びと温もりです。愛に目覚めよという毅然とした思いがしっかりと感じられます。

　地球上の小さな島国、日本に、田池留吉という意識が肉を持って、本当のことを伝えに来てくれて、そして、私達もまた肉を持って学ばせていただいたことから、この日本列島に思いを向け、喜びで沈んでいく日本列島の思いを受けていきましょう。

　その前兆現象は、もちろん、すでにあります。

　とりあえず、あなたが今、生活をしている場の意識を受けてみてください。そうしたとき、あなたの心の中にどんな思いが出てくるか、天変地異のエネルギーをもっと身近に感じ、意識の流れにしっかりと思いを馳せてください。

（塩川香世「愛、心のふるさと」）

　この第２部で扱う時期に「雲仙普賢岳の噴火」（1991 年 6 月 3 日）、「北海道西南沖地震」（1994 年 10 月／M 8.1）「阪神・淡路大震災」（1995 年 1 月 17 日／M 7.3）などが起こっていますが、何より阪神・淡路の衝撃が大きかったようです。ちなみに、「阪神・淡路大震災」は「兵庫県南部地震」とも呼ばれますが、地震の名称としては「兵庫県南部地震」となり、地震によって発生した大規模な災害については「阪神・淡路大震災」と呼ばれるということです。

　それはさておき、阪神・淡路大震災を、当時の学びの仲間はどうとらえていたのでしょうか？

地震でほんまに怖かった（大阪府）／1997 年 3 月 27 日～29 日

　昨日は地震でほんまに怖かった。スーパーは夕方の5時でちょうど満杯状態でパニックでした。じゃが芋や玉葱や人参や商品が落ちてそこらへんに転がってたわ。すごく揺れてローブロック状態で立ってた (みんな)。だけど一番ショックやったのはエルランティのエの字も心に浮かべへんやったことです。とにかく怖い、不安しかなかった。家に帰っても真っ暗で……、泣きそうになりました。天変地異の天の字も出てけえへんやったし、本当の天変地異になったらこんなんじゃすまないんやろうな、と思いました。その時が来て「神、ありがとう」なんて絶対に言えないと思った。前は「その時が来たら覚悟して喜んでいこう」て思っていたけど、いざ来たらやっぱり恐怖でした。「エルランティ田池」と、よう呼ばんかった。どんどん不安が広がってきたもん。あとで夫と「闇が出てきたなあ」と話を

していたけどやっぱりその瞬間は恐怖しかありませんでした。やっぱり肉が自分やと思ってるし痛いのが嫌やし死にたくないとか、etc……。

全然あかんかった。ちょっとショックを受けています。だけど一大イベントみたいで全然わかってないということだけこのイベント？ でわかりました。ちょっとほんまにショックでした。だけど、いずれ来たる大災害を喜びで少しでも受け入れられたらと思っています。反省しないとなあ。

○○ちゃんは「お前が原因やろう」と笑っていたけど、ほんまにそうかもしれんと思った……。夫婦喧嘩や自分のエネルギーでこんなんか？ と思ったら寒くなってきて発熱してしまいました……。

地震がようやく収まったと思ったら、今度は大雨です。山の方は交通規制が出ていて、高台の住宅地は水浸し……、道路は冠水してます。うちの家周辺はなんともないけれど……、このままあと３時間ぐらい大雨が続いたら川が危ないらしい……。次から次へと本当に気持がとってもブルーになるわ。うーん！「自分の出すエネルギーが地球を破壊する」という先生の話に納得している今日この頃です。だけど、地震のときも、この大雨も「止めたい」と思う心がたくさん出てきます。自分の力でなんとか止めたい、止めてやる、というエネルギーが出ているのがわかる。災いを自分のパワーで止めれる。神に祈る……。巫女の思いや、祈祷師の思い……。自分にはそれができると思う思い、すさまじい……。もうイヤになるわ。しんどくなります。やっても、やっても繰(く)り返し出てくる。自分のブラックパワーに自分がやられそうになる。あー三億六千年の重みはめっちゃ重たいです。一体いつになったらこのエネルギーを愛に変えられるのだろうか……。来世までかかるけど、ほんまにしんどくなってきます。はい。喜びで受け入れられる日が来るんやろうか……。自分のやってきた間違いに落ち込みます。「自分を責めたらいかん」と言われても、やっぱり「何てことしたんやろ」と思うと、自分が許されへんし、いくら神に許されてるとわかっていても、「そんな都合のいい話はない」とやっぱり責めてしまいます。が、しかし、自分でやっていかんといかんですね……ということで、大変暗ーい手紙になってしまいましたが……、いつも私の思いを受け入れて、聞いてくれる皆様に感謝してます。ありがとう。ほんまにありがとう。いつかこの恩を愛で返せるように、それでは……頑張るわ……。

私の天変地異・兵庫県南部地震（大阪府）／1995年２月

1月17日午前5時46分、まだ眠っているときに地震が来ました。部屋の暗いのが嫌で４枚のガラス戸にした襖が勝手に動いてガチャガチャとやかましく、地震のすごさを物語っていました。まるで家ごと何処かに飛んでいくような感じでした。学生時代から何度も避難訓練をしたはずなのに、どうしていいか分からずに、

ただ一緒に揺れていることしかできませんでした。心臓が高鳴りました。制止して立っていられない状態でした。あまりにもひどい揺れだったので、築 20 年以上もたっているこの建物は、ひょっとして崩壊してしまうのではないかと思いました。胸がキューッと締めつけられるような感じでした。

揺れている間中、早く終わってくれないかと、ただそればかり思っていました。頭は空っぽで、何かを考える余裕がありませんでした。ただなされるまま、大地と共に揺れていました。なす術(すべ)がないというのは、このことを言うんだなと思いました。余震が来ました。余震とも思えないような大きい揺れでした。私はとっさに逃げようと玄関のドアに手をかけました。そしてノブを回したときに私の天変地異が起こりました。かつてこんな経験を何度もしてきたと思いました。こんなに怖い地獄絵を何度も何度も体験して、その度に神を蔑み、呪いの思いだけを背負って死んでいったことを鮮明に思い出しました。過去世などではありませんでした。今でした。今、その思いを引き出すときを与えてもらったと思いました。揺れているその最中に、心の中から語りくるものがありました。

「今、お前に、神、エルランティ田池を信じる心があるか」「神、ありがとうと死ねる思いはあるか」と聞かれました。私は即座に「ノー」と答えていました。揺れはまだ治まりません。ノブに手をかけたまま、私は自分が出した答えに呆然となっていました。今まで学んできたものは何だったのか。これが肉の思いなのか。そうや、これが私の肉の思いなんや。神なんか今のこの心に何もない。あるのは死にたくないから早く地震が治まれという思いだけでした。足はガタガタ止まらないし、体は寒くて寒くて、もうあかん、神、エルランティ田池なんか何もないじゃないか。信じてないんや。自分が意識だということを信じてない。肉が本物だと思っている、そんな自分が見えました。やっぱりそう思っているのかと愕然となりました。今の私に「ありがとう」はありませんでした。心が震え出していました。急に生きていることが、ものすごく怖くなりました。

神、エルランティ田池を信じていないことに気付いて、ものすごく怖くなりました。信じていないまま普通に息を吸って、こうして生きているのが怖くて仕方がありませんでした。肉だと思っていたと、自分が今出している思いが分かれば分かる程、怖くて怖くて力が萎えていきました。生きていることに恐怖や怖さを感じたのは、今世初めての経験でした。そして地震で肉は何も出来なくても、心は語っているということを実感して戸惑いました。教えてもらった通りなのに、本当だと今頃知った私でした。

意識はいつも語られていました。思いは地震であろうが災害であろうが、人間が生きているかぎり、形があれば、思いとして流していました。それを実感しました。たとえどんな思いでも、今自分が出している心を見ることができました。地震のそのときも見ることができました。「いつでも、どこでも、心は見れます」と、教えてくださった田池先生の言葉が心地よく響いてきます。「神、

エルランティ田池だけは離したらあきません」という思いが込み上げてきます。日頃あんなに言い聞かせて学んできても、本当は何も学んでいなかったと思いました。死ぬときも、神、エルランティ田池を感じて帰れると思っていた肉の自分がかわいくて泣けそうでした。愚かな浅はかな自分に出会ったことがうれしく思いました。小さな子供が見栄張って「頑張っているんや」と吹聴しているような愚かさでした。自分自身を信じていないのが一番苦しいのに、それを見ずに素通りしていたようなものだと思いました。踏ん張って気負っていた私の心の何かが、ガサッという音を発して、あっけなく崩れていきました。
「アホやで、お前は……。日頃は大きな口たたいているくせに、こんなときに神の子を思い出さんかい！　これからはメソメソしている暇なんかないで。命がけや、命がけで心見ていくんや、それしかないということをお前の心で感じたんやから、この体験を決して忘れたらあかん。頑張るんや、そして共に光に変わっていこうやないか。」こんなやさしい闇の声をキャッチできました。
　ふと、1年半前に、意識を受ける仲間から「天変地異を起こしていこう」と言われていたのを思い出しました。かつて憧れていたチャネラーの方だったので、言われた内容よりも、なぜ私にそんなことを言ったのだろうかと、そちらのほうに心を向けて答えを出そうとしていました。天変地異とは外から起こるもの、被害をもたらすものと単純に思っていた私でした。だから起こしていこうと言われても、返事ができないまま今日まで来ていました。今度会えたらきっと「はい」という返事をしたいと思いました。それをこの地震が私に教えてくれたんです。天変地異は確実に自分の心で起こすものだと思いました。心を見ること、心が揺れること、心が変わること、心に信ができること、それには肉が必要だと思いました。外からの何かによって自分を見るということで、確実にその思いは変わると思いました。私の心が地震を起こし災害になり崩壊していました。それを知った貴重な体験でした。自分が感じ思ったことから出発したいと思います。
　逃げるときは、子供のことも犬のこともこの心になく、一人で逃げようとした私がおかしくて笑えました。あの地震で私が呼ばなかったから、最後まで寝ていたという子供に対して、私に最もふさわしい最高の相手だと感心してしまいました。本当にこの子やから私がいるんだなと思えた瞬間でした。「薄情な親や」とののしられながらも気持ちがなごんで、久しぶりに親子でよかったと思えました。私は周りにもこんなやさしい思いをもらっていることに気付けました。肉の思いということの本当の意味も分からずに過ごしていました。肉の生活の中でも、やさしさに包まれていることを素直に喜んでいけばいいんだと思えました。肉だ、肉だと言うばかりで、生かされていたことにも感謝しないで図々しく暮らしていました。原点がいつも今、自分の心の中に存在していることを忘れないように、また心を見つめていきます。

兵庫県南部地震の体験（兵庫県）／1995 年 2 月

ドーン、ズドドドトド……真っ暗闇の中、大きな地響きと共に、この部屋が大きく大きく揺れて、寝ていた僕はとっさに、妻に「布団をかぶれ」と叫び、僕もそうするのが精いっぱいだった。もう死ぬと思った。この天井が崩れたら「もう死ぬ」と思った。いったい、どうなるんや？　生まれて初めてのことやった。影響はなかったけど、あまりの怖さに、その直後に反省をノートに書きました。

こわい、こわい、こわい、こわい、こわいんや。

助けて、助けて、助けて。

逃げられない、逃げられない、もう逃げられない。寒い、寒いっ、寒い、寒い、冷たい、冷たい、冷たい。怖い、怖い、怖いっ。どういうことや、どういうことや、どういうことや？

頼む、治まってくれ、やんでくれ、このまま静かにしていてくれ、揺らさないでくれ、静かにさせてくれ。

今、地震が、強いのがあって、こうやって恐怖の心、冷たい心が出てきました。闇に光を差し込まれた。光が闇を照らした。

どうにも治まらない、この恐怖はどうだ、治まれ、治まれ、大丈夫だ。どうしてこんなことになる、何もしていないのに……。何もしていないとは言えない。

冷たい、冷たい、突き上げてくる、全身のこの冷たさ、何ともならないのか。厳しいのか、神の愛は厳しいのか。もっと優しくしてくれないのか、この肉を守ることはできないのか。この家を守ることはできないのか。妻も守れないのか。誰も守れない、自分すら守れない……。

天井が、この 11 階の建物が崩れてくる。コンクリートの下敷きになる、怖い、怖い、恐怖の町、恐怖の世界、どうしてこんなところに住んでいる？　地獄に住んでいる、ここは地獄だ……。

冷たい、冷たい、温もりはないのか。温もりがほしい、寒い、寒い、寒い、冷たい、冷たい……。神、エルランティ田池。地獄の顔、鬼の顔、冷たい、冷たい、恐ろしい顔をしていたぞ。俺の思う、神、エルランティ田池は何だ？　いったい何だ？　怖い、怖い。

僕自身にとって、この地震は最近の心の動きと大きく関係がありました。

僕にとって反省はいやなものでした。自分が神の子だというなら、反省しているうちに、その神の心に出会えるのだろう。その思いで反省していました。

いつも、いつも反省で出てくるものは闇ばかり、それがいやになってやめました。しかし、田池先生はセミナーで、いつも「反省です。心を見つめることです。実践です」と言います。それを聞くと、ああ、そうなんだなと、また反省を始めました。しばらく反省をすると、また闇ばかりの自分がいやになってやめる。その繰り返しでした。

地震の前々日、大阪研修センターでの瞑想会で、先生が「少しずつ、少しずつ信じていくように」と言っていました。僕はそれがいっぺんにできるものだと思っていました。それを聞いたとき、ハッとしました。「少しずつ」、僕には今までなかったことでした。「全部、いっぺんにやろう。あっという間に、全部コロっと変えたろう」、そんな思いでした。

その瞑想会の翌日、地震の前日ですが、ミニ・セミナーにも行きました。

最近、セミナーで恐怖の心をチャネリングに出て、さらけ出す人が多いなと思っていました。確かに聞いていると、全部自分の中にある思いのような気もするし、けれど僕は肉で頑張って抵抗してきました。肉が「頑張れ、頑張れ」と叫んでいます。その叫びが聞こえたとき、「何で頑張ってるんやろう」、そう思いました。

どうしてここまでこんなに頑張るんだろう。反省をし始めて以来、僕はずっと、ずっといつまでも頑張っていました。頑張らなければと、今振り返ると、いつもその思いでした。初めて「何で頑張ってるんやろう」、初めてそう思いました。そのときは僕は、その「頑張れ！」の心を初めて見つめていこうと思いました。いつも、いつも進まない反省でした。同じところを繰り返し、繰り返し回っていました。その中からこうやって、ほんのちょっと心を見つめてみようと思いました。

そして、地震が来たとき、心が大きく大きく揺れました。揺さぶられました。自分の中からゾクゾク冷たいものが噴き上げてきました。そのとき、田池先生の一言がよみがえってきました。前日のミニ・セミナーで見たビデオの中の「人間は闇です。その闇が光へ変えることはできません。光が闇を光へ導いていくのです。それには天変地異しかありません」

僕は初めてハッキリと心が、思いが浮き上がってきました。それが自分だと思いました。光に照らされて、闇の自分がクッキリと出てきました。それを自分で確認しました。

恐怖の思い、いっぺんに変えることはできません。僕は神の心を知りません。感じたこともありません。しかし、少しずつ少しずつ信じていけたらいいかな、そう思いました。少しずつでいいんだ。慌てず、ゆったりと。いつも慌てる僕ですが、少し、ほんのちょっと、そう思いました。そのほんのちょっと思えたことが喜びでした。うれしいとまではいきませんが、何か気が楽になりました。いや、やっぱり、うれしかったです。

その後、部屋の電気を消すと、またあのズドドド……という地響きが聞こえてきました。隣で寝ていた妻が宇宙人に思えました。

いつだったか、夢でUFOに探されて、つかまりそうになったことがありました。その恐怖が、そして朝の地震の恐怖が、いろいろな恐怖の思いがいっしょくたになって出てきました。恐ろしくて

寝るどころではありません。ゾクゾクっと、また体が冷えてきました。どうしようもないくらいでした。

そこで、声に従っている、思いが叫びたがっている、そう感じたのか（後でそう感じたのですが）妻にチャネリングをしてもらいました。

《妻が受けてくれた私の意識》胸が押しつぶされそうに苦しいのです。私の体を地震のように寒さが駆け抜けます。本当に苦しいのです。これは恐怖というよりは、この苦しみ、この苦しみに対する私の思いなのかもしれません。噴き上げてくるものを抑えることはできない。それが何かのキッカケで揺り動かされているような気がします。そうです。私の心は揺り動かされました。苦しみが襲ってきます。いえ、そこにあることを確認せざるを得ない状況です。燃えさかる炎のように、私はそれを目の当たりに突きつけられている、そんな思いです。

苦しいです、苦しいです。苦しいということが、やっと分かったような気がします。ええ、何度となく襲ってくる前兆を感じながら、私は苦しみを避けて通ってきました。苦しいことを見ずに、通り抜けてきたつもりでした。でも、私の心にハッキリと、その燃えさかる炎があることを、私は今、目の前に突きつけられ、映像として感じております。そう、心で苦しみを感じております。あの燃えさかる炎と同じように感じております。あれは私の心だったと感じております。その苦しみが私の心の中にあります。今もあります。それは過去世の思い。そんな気もします。私は思い出したくないのです。思い出したくない、思い出したくないのです。こんな苦しい思いを抱えていることを、私は思い出さずにいたかったんです。でも、しっかりと私の心の中に今、その苦しい思いがあることがハッキリと分かってきました。

私は波に飲まれて、そのまま死んだこともあります。何かに押しつぶされて死んだこともあります。火に飲まれて死んだこともあります。そして誰かに殺されていったこともあります。そんな記憶が私の中にたくさんたくさん埋まっているのです。死に対する恐怖、それは誰もが味わう恐怖です。一生に一度、一度だけ、本当に肉体を捨てるときにしか、味わえない思い、それを私は何度も味わってきました。それをまた思い出さなければならないのでしょうか。そうですね。その日がいつか来ると、私はそれを恐れていました。いつかはその日がやってくるのです。私が肉体を捨てる日はやってくるのです。それは歴然とした事実なんです。その事実を見ないように、見ないようにと生きることはできました。今まではできたんです。でも、それから、もう逃れられなくなりました。その真実に目を背けたまま、私はもう、一日たりとも生きてはいけないでしょう。そう、その次の瞬間死ぬかもしれません。その恐怖を私はこれからずっと抱えていかなければならないのです。私はそれを感じております。

突然に襲ってくる恐怖です。地震も突然でした。私にとって死というものは、常に突然でした。突然に私に襲ってくる恐怖です。

苦しくって、とても死を受け入れられるとは思えません。死ぬそのときに、私が恐怖なしに死ねるとは、とても思えません。ですから、ですから、私は死んでいく人を見たくはありませんでした。死んでいく人を見たくはなかったのです。死ぬなんて思いたくありませんでした。そんなことはあり得ないことだと言い聞かせてきたのです。自分すら、そんなことはあり得ないと言い聞かせてきたのです。

私にとって死とは、私にとって死とは大きな大きなテーマです。私の目の前で一人の人が生と死の間をまたぐ、その事実を私は、どう受け取ったらいいのでしようか。

私は怖いのです。それをまた突きつけられるのが怖いのです。私は自分の死以前に、目の前に突きつけられる人の死を恐れます。自分のことは今は考えられない。自分の死を思ったら、それはただ苦しみだけ。まさに奈落の底です。自分の死をどうやって受け止めたらいいのか。私には、まだ答えはありません。そのまま、その苦しみを抱えたまま、私はきっと死という事実を、ただ受け止めるだけに終わることでしょう。死という事実をいかに受け止めたらいいのか。私はただ苦しみの中で死んでいくことでしょう。だから苦しいです。その答えがないことが私の最大の苦しみです。私には、その苦しみに気付かずに逃げきれることができるのではないかと思い続けたこともありました。あまりに楽しく、何もかも忘れさせる、そんな時期もありました。でも、私はまた呼び戻されるのです。その恐怖に呼び戻されるのです。私はその恐怖から逃げきれないと、今切実に感じています。

私の目の前に突きつけられたこの大きな課題、私はこれから見ていかなければなりません。今、やっと一つ指針が現れたと思っています。それは、私のこの苦しみ、この苦しみを自分自身で供養していきたいということです。私にとっては長い間の念願であったような気がするのです。この思いを持ち続けて、どれだけ長い時間、さまよってきたか、そんな思いがあるのです。私はこの思いを大切にしていきたいと思っているのです。決して逃げずに、今確認できたことを喜んで、私はきっとこの恐怖を供養して、いつか肉体を捨てるとき、それを実践して、確認して死んでいきたいと、そう思います。

私は、人生の目的が何にあるのか、私がなぜ生まれてきたのか、それを知ることはありませんでした。でも、今この苦しみの中から一つ、死ぬときに答えは出る、そのときにいかなる答えを出すか、それが自分の人生の答えを出してくれるだろうと、そんな気がしております。

当たり前のようですか、私たちは死に向かって歩いています。それを知らずに押し隠してきたという気がします。刻一刻と近づく死への時間さえ気付かないように、毎日を送ってきたような気がしま

す。ですから私にとって、生きているということは死に向かっているということが、ハッキリと今、感じ取れました。ですから私は死への準備を今からしていくんだなということも感じています。死は突然に訪れるものではなくて、今、常に死に向かっているのだということが、何だか実感できたような気がします。

今そんな気がするのです。当たり前のことですが、私は忘れていました。死に向かっているんだということを忘れていました。いかにして死ぬか。私はそれに向かって、これから生きたいと思います。ありがとうございます。私にとって、本当に大きな計らいであったと今、感じております。いつそのチャンスが現れるのか、私はどこかで待っていたのです。「闇にはできない」と言われた意味が分かるような気がします。闇の私にチャンスはつくれませんでした。光によってチャンスは生まれたのです。それを感じています。私には何もできませんでした。そして私の光が、私に教えたのだと、そんな気がします。私は、その光を信じていきたいと思えるようになりました。確かに私は闇です。苦しい思いも分かります。ですが、きっとそれを光に変えるエネルギーが私の中にあると信じていけるような気がしました。そんな自分の力を信じていけるような出来事でもあったわけです。

私はその光に出会えてうれしいです。今まで、こんな光に出会えたと実感できたことがあったでしょうか。どんなにセミナーで光だと感じても、今日ほど光を信じられると思えたことがあったでしょうか。それが天変地異だったのです。私は実感したのです。光の存在を実感したのです。そんなふうに思えたことが、やはりうれしくてなりません。恨みや呪いで、それを受けたなら、私はまた苦しみをふくらませたでしょう。ですが、私の心の中に広がっているのは、今は喜びです。天変地異に出会えたことが、本当に自分が光に出会えたと、体験できたと喜ぶことができるのです。天変地異は神の愛、何度も聞いたその言葉。でも私はそれを心で実感することができました。こんなに神を信じたことがあったでしょうか。ありませんでした。その信じるというエネルギー、それが私の中に培われていたのだということを確認できたことは本当にうれしいことです。それは私がまた心というものを大切にし始めた結果だと、そんなふうに思えることも、またうれしいのです。

あせりの中で、肉の生活の中で、進まない反省の中で、培われない信の中で、私はまた自分を責めてきました。ですが、私は自分の中にあるものを、恐怖の心と共に、また培われた信を発見したのです。天変地異は光だと、そのときに思いました。恐怖の心がだんだん落ち着いて見えるようになってきました。私は心なんだと、少し思えるようになりました。でもまた何かが起こって、自分の体に痛みが走り、目の前で死んでいく人を見て、立ち上る炎を目の当たりにして、恐怖の心は噴き出してくるでしょう。でも、私はそのとき、きっと目を開けて、それを見ると思うのです。今度は背けずに、何度もあるチャンスかもしれません。何度も失敗する

かもしれません。ですが、きっといつか、それをしっかりと見つめられる自分になれるような気がします。恐怖の心を穏やかに包んでいける、優しく見守っていけるそんな日が、きっと来る気がするのです。それはまた、私の切なる願いでもあります。きっと優しく恐怖の心を見つめていける、そして死というものに巡り会っていける、穏やかな気持ちで肉体を捨てていける、そんな人生でありたいと願っております。

私の母はいかにして命をなくしたのかは知りません。でも、少なくとも、私のような恐怖心、それに飲まれて死んでいったのではないと思います。穏やかに死んだか、それは分かりません。ですが、彼女の死も、また自分の死を通して受け止めていけるのではないかと思いました。死ぬということを他人事に考えていたい自分がありました。自分は死にたくない、いえ、その恐怖を再び思い起こしたくないという思いが強かったのです。でも、やはり自分の死を通して、私はすべての死を受け入れていけるのではないかと、そう思います。誰もが迎える死を、自分の体験を通して喜びに変えたいと思います。（チャネラーは、この方の奥さん）

僕は少しずつ信じていこう、そう思いました。何というか、いい体験をしました。妻にチャネリングをしてもらっているとき、体験文を書こう、そう思いました。ありがとうございました。よかったです。

やはりというか、この地震で毎朝、駅から一緒に歩いた同僚が亡くなりました。まだ安否の分からない親戚もいます。この周囲の死を通しても、勉強していこう、そう思います。厳しいです。その厳しさの中から心を見ていこう、そう思いました。ありがとうございました。

阪神淡路大震災後の神戸市長田区の一帯

あなたの人生の目的は何ですか

What is the purpose of your life?

あなたの人生の目的は何ですか。何を成すために、あなたは今そこに存在しているのでしょうか。

一度きりの人生だから、我が人生を大いに楽しみます。世のため、人のため、家族のため、そして、会社のために骨身を削り、日夜努力しています。

もう、こんな人生やめにしませんか。自分の人生は自分のために生きるのです。それが本当の人生です。自分のために生きるというのは、先ほどもありましたように、自分の中に生きているたくさんの自分と出会っていくということです。あなたの中の意識達は、みんな助けを、救いを求めています。それはとりもなおさず地獄に沈み込んできた、たくさんのあなたに他ならないのです。その自分を救っていくことが、あなたが肉を持って、この世に生まれて、あなたが成していく唯一の仕事なのです。

お金を稼いだり、有名になったり、人生の成功者になるためではありません。先ほども申しましたように、過去よりあなたが作ってきた真っ黒なあなた自身と出会うために、人生という時間があるのです。そのためにあなたは会社を興していくかもしれません。坂道を転ぶように転落の人生を歩むかもしれません。それは、みんなそれぞれが決めてきたシナリオであって、この世に名を残したから立派、社会から脱落したからどうとかではありません。

いかに間違ってきた自分に気付いていけるか、苦しみのふちに沈んでいるたくさんの自分自身に真実を告げることができるか、というのが人生の目的です。そして、本当の人生を生きるということが心で分かっていけば、人生すべてが喜びであることが分かってきます。どんな状況にあろうとも、肉を持って真実に触れることができたならば、苦しみがみんなたちまちのうちに喜びへと変わっていき、人間本来の生き方、死に方が心で分かってくるからです。尽きることのない優しさと温もりの中にあなたは包まれています。そんなあなたが本当のあなた、その本当のあなたと出会うことが人生の目的です。(『意識の流れ』より抜粋)

What is the purpose of your life? What are you here to accomplish, and why do you currently exist?

To live your life to the fullest as you only have one life - working every day for society, people, family, or company.

Let's put an end to living life like this. You have to live your life for yourself. That is your true meaning of life. To live for yourself means to meet the many selves within you. Your many consciousnesses within you are pleading for help. They are all none other than your many selves who have sunk into a state of hell. The purpose of being born and having a physical form is to save these suffering selves.

The purpose of your life is not to gain money, be famous, or be successful. Life and this time exist to meet the dark selves you have created through your past. Your life may lead you to start a company, or it may end up being a downward spiral. Whatever the case, it is part of a pre-scripted scenario you've written for yourself. Neither leaving your name in society nor having a fallout means anything significant.

What matters is how much you realize you were wrong and send the message of truth to your many selves sunk in agony and pain. This is the purpose of your life. As you understand what living your true life means, you'll also come to know that all to life is joy. No matter the situation, if you can touch a glimpse of the truth through your physical form, any pain will transform into joy, and the realization of the true state of life and death as a human will emerge from your heart. Infinite kindness and warmth surround you. It is who you truly are, and your life's purpose is to meet this true self.

(Excerpt from "Flow of Consciousness")

キーワード 7. 本当の幸せと人生の目的

『ハートオブゴールド』（ＮＹ）／1997 年 2 月

真冬のマンハッタンの街を、私は仕事を求めて歩いていました。あまりにも寒いので、立ち寄ったコーヒーショップで流れていたのが、この曲「Heart of Gold」でした。英語の分からない私にも、この言葉は心に響き、わけもなく涙があふれて止まりませんでした。25 年前のことです。あれからの私は、自分のつくった肉地獄の中で傲然と居直って、闇を垂れ流しながら走り続け、気が付いたときには、身体がボロボロになっていました。

今、自分の歩いてきた人生を振り返っています。私はこの学びに出会うために生まれてきました。私はこの学びに出会うために肉の修行をして、そして生かされてきました。すべての辻褄（つじつま）が合います。ハートオブゴールドは、冷たくさびしい、私の心への温もりでした。

「ハート・オブ・ゴールド」が発表されヒットしたのは 1970 年代のことです。その歌詞の中には「I crossed the ocean for a heart of gold /I've been in my mind, it's such a fine line / That keeps me searchin' for a heart of gold / And I'm getting old / Keeps me searchin' for a heart of gold」――そこには黄金の心を求めて海を越え、自分の意識にも潜り込む果てなき心の旅路がうたわれています。そして 1990 年代にはいり、NY で EL RANTE セミナーが開かれる日が来ました。

新たな気持ちで一から…（大阪府）／1992 年 12 月

長年、人間はなんのために生まれ、生きているのだろうかという疑問がありながら、私の人生は、向上心という名のもとに努力し、己を高く置くことに躍起になっていました。でも、いつも空しかったのです。この学びに出会え、人生の目的を知ることができ、それまで疑問に思ってきたことが解明されました。

今、自分の心を見る中で、これが喜びだなと思えるときもありますが、なかなか闇を受け入れることができず、苦しいときも多々あります。しかし愚かな肉に「私は神の子です」と言い聞かせながら、また新たな気持ちで一から出直します。

本当の人生とは（神奈川県）／1993年1月

「本当の生き方とは何か」。いつも私の中にこの問いかけがありました。答は簡単でした。喜びで生きることでした。

それが分からないから苦しんで生きてきました。本当の自分が分からなかったからです。肉の私は、欲、エゴそのものでした。無知でした。それを知ることができました。しかし本当の私は愛でした。喜びでした。すべてを愛していくこと、それが本当の生き方でした。

喜んでいくこと、それが人生でした。すべては私の心の中にありました。

私は何者なのか（神奈川県）／2000年1月

小さい頃から、ずーっと不思議に思っていたことがあります。それは、なぜ自分が、1938年に、日本人として生まれて、今ここに存在するのか。なぜ、自分が、この広大な宇宙の中で主人公なのか。それでは一体自分が今見続けているこの壮大なドラマは、自分が死んだらどうなるのか。うーん、わからない。こんな疑問を四六時中、考えていたわけではありませんが、時折考え始めると、頭が何かおかしくなるような経験が何度もありました。

しかも、友達などに、この話をすると、ほとんどの人が「へえー、そんなこと考えたこともない」と、取り付く島もない。たまに、学のある人が「そんならデカルト読んでごらん」と勧めてくれて、読んでみたことがありますが、今いちピンとくるものがありませんでした。その後、パスカルにちょっと共鳴したことがありますが、結局はよくわかりませんでした。さりとて何とか答えを見つけようと宗教にのめり込むわけでもなく、中年以降は現実の生活の方が忙しく、そのような哲学的なことも、だんだん考えなくなってきていました。

そんな折、今から10年ほど前になりますが、妻がこの学びを始め出し、当初は「介添え役だ」などと、不純な動機でこのセミナーに参加するようになりました。

一番初めは、正直反発する気持ちもありましたが、先生の話にすぐに、例の眠っていた自己最大の疑問に答えてくれる何かを……感じはじめたのです。その後も今日まで、このことがこの勉強を続けているエネルギーの大きな柱になっていることは間違いありません。

しかし、学んでくるに従ってあることに気が付きました。それは、自分が今まで感じていた疑問は「自分は何者なんだ」という、いわばサスペンスで犯人を捜すようなものではありますが、実は、重要なことは、その「思い」が、一体、何につながっているかということです。そして、その「思い」は、結局「自分は宇宙で一番」「自分は絶対に間違っていない」ということを表しているのではないか……ということに気が付いたのです。

もちろん、確信を持ったとか、悟ったということではなく、何と

なく軽く思えてきたという程度ではありますが、自分では予想もしない展開で、何となくうれしく思えてきました。

そして同時に、今まで持ち続けた疑問に答える大きなヒントが、「母親の反省」や「5、4、3、2、1」の4の部分に含まれているのではないかということも、それとなく感じてきております。

この学びもマラソンで言えば、いよいよ最後の直線コースに入ってきているようです。私自身も、昨年の3月に、長いサラリーマン生活に終止符を打ち、夫婦で、この学び中心の生活を過ごせるようになってきました。今まで、何となくぼんやりとしていた人生の目的というピントが、だんだんとハッキリ合ってきているような感じもしてきており、残りの時間を自分なりに、一生懸命やっていきたいと考えております。

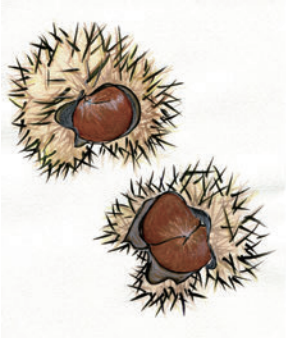
気付き（京都府）／1996 年 9 月

自分の力で何事かできないとき、いろんなところで神を、いろんな場所で、いろんな人を頼ってきた私。そして、その結果、自分の思うようにならないと、責め裁き、怒りでした。そんなときの心はさびしく、むなしく、冷たく、笑いがなかった。それでも肉の欲を満たし、「自分は責任感の強い人間だ、何事にも努力を惜しまないし、ちゃんと家族を守ってきた」という思いでした。

今、この学びに触れさせていただき、「私たちは神の子、喜びしかないんですよ」と聞かされ、私は愕然とした。「私の今までやってきたことは何だったのか」と、そう思いながら、その後も肉の思いで生きてきました。

それからだんだん心を見ていくうちに、「ああ、母が私を生んでくれたのは、私の心癖を見ていくためだった。そして、夫は教材になってくれていた」と思いました。苦悩の中から私は神に出会えた、そして虚弱な体も、自分の他力の心を修正する教材でした。すべて気付かせていただくための人生でした。無駄は一つもなかった。神、ありがとう。私が心から間違っていたと、気付かせてくださってうれしいです。

自作自演をやり、自己満足し、その結果、自業自得で苦しみました。今、岩場の陰で必死でしがみついている私です。早くここを通り抜け、暖かなそよ風の吹く草原に出られることを喜びに、心を見てまいります。



私の人生（神奈川）／1998 年 10 月4日

1998 年の 11 月 11 目、Ｆさんが亡くなられました。亡くなられる 1 週間ほど前でしょうか。奥さんから、「主人が自分の書いたものをエルへ送ってほしい……」と言っていますのでとの電話が入りました。以下の原稿はその時送られてきたものです。

私の人生はいったい何だったのだろう。他人と比較する必要はないけれど、世の常識と世間体にとらわれて、何とか人からよく見られたいと欲を出して毎日を送ってきた。だからとても苦しい日々であった。そしてなんと無駄な時間の浪費であったかと思って、くやしい気がしてしまう。人生はまことに短いが、その時間を有効に使って、一つの目標をもって、勉強して、その結果あるレベルに達して、何か他の人の生活に貢献して、さらに自信を得て、一生その目標を追求するというような人たちがいる。こんな人の生活を見ていると、一般の人々に比べて心に迷いなどあまりなくて、心に苦しいことがあってもかえって励みとなったりしているようだ。人は人、自分は自分なのだけれど、この大きな差はいったいどうして生じるのだろう。

私はありがたいことに、今は自分の肉体からくる欲望が以前よりずっと小さくなった。肉での欲はいくら追い求めても限度がなく、そして、はかなくむなしいものだということがやっと少しわかってきた。肉的なことは、欲を出さなくても必要なことはおのずと用意されるのだから、自分がやりたいと思うことはすべて自然（神）にまかせるべきであって、あくせく動き回る必要はないのだ。しかしそう思いながらも気が付いてみると神を差し置いたことをしてしまっている。それにしても我々が生きている世の中の人々は、まったく欲にかられて動いている。それを見ていると何とも滑稽なことだ。若い人は肉体が活発だから、いつまでもどんなことでもできるものと思ってしまう。しかし肉が無理ができるのは、ほんの 10 年か 15 年に過ぎず、何か欲を満たそうとすれば、時間はアッという間に経過してしまう。小さい子供の頃は別として、大人になってからの自分を考えただけで、なんと日時の経つのは早いものかと痛感する。そして人々は少しでも毎日を欲を満たせるようにあくせくと動き回って年をとっていく。私もその中の一人であった。ただし、この勉強と出会うことができた。それは神の愛に違いない。だからこれから私の残された時間に、私は可能なかぎり自分の心を見て反省し、また自己供養して他力にすがることのないようにしなければならない。実は言うべくしてとても簡単なことではないが、私は促されているのを感じる。

学びの喜び（神奈川県）／1996 年 12 月

自分の意識が、こんなにも苦しんでいること、狂っていることを分かっていませんでした。ただ、ただ、がむしゃらに肉の自分を信じて生きてきた愚かな自分に気付きはじめております。こうして

気付きはじめた今も、日常の生活では絶えず肉の虜になっている自分があります。しかし、苦しんでいる自分があることに気付けただけでもうれしいです。何か、やっと、やっと本当のことに気付ける機会を頂いたことに感謝しております。自分のことを何も分かっていないことに気付けたことがうれしいのです。
「己が、己が」と自分を表し続けた人生が間違っていたと思いはじめております。「生かされている」という思いは、これまでこれっぽっちもありませんでした。ただ、ただ己が一番、己が偉いという思いでばく進してきた人生でした。
「神の子の道」を勉強できる機会を頂けたことに感謝しております。苦しい思いがどんどん出る中でも、うれしい思いも出ます。人はすべて神の子と思いながらも「神の子の道」を勉強している皆さんに親近感をおぼえます。ありがとうございました。

これが俺の人生なんだ（岐阜県）／1999年4月11日

　この肉が、この「何某（なにがし）」という肉が自分だと、これが私なんだと、他事を思う余地もなく生きていました。これが人生なんだ、これが俺の人生なんだ、俺はこうして生きていくんだ、俺の人生は苦しみだけだ、楽しみ喜びなんてほんのほんの少しの人生だった。この先何があるかもしれない、せめて楽な死に方で人生を終えたい……そして、死後の世界が安楽であることを願う。そんな人生を生きてきました……でも、ある時フッと「俺は何のために生きているんだろう、人生ってなんだろう」って思いが出ました。でも、「そんなこと考えたって駄目だ……」って、その思いに蓋をしてしまいました。
　本当のこと……絶対的な真実があるに違いないという思いはありました。でも、このぼんくらな頭ではわかりっこない……そして、それは外に向けてそれを教え、指し示してくれる何かを求めることとなりました。その根本は肉の幸せ、肉の安泰でした。それを勝ち取る何か……それが本当のことだと思って生きてきました。そして、この学びに出会う前にたどり着いた「教祖B」……彼の中に本当のことがあると信じました。この私の心の苦しみを無くし、幸せな心をもたらしてくれる何かがあるはずだと信じて彼の説く他力の神へと心を向けていきました。
　彼の言葉……「金のかかる宗教は本物の宗教ではない」ということをしっかりと心に入れました。彼の説くことは本物に違いないと信じました。でも、何年かするといろんなほころびが見えてきました。この心の苦しさもあまり変わりなく続いていました。金のかからない宗教は……と言っていた彼も多額の金を浄霊除霊と称して取るようになった頃から、私の心の中で「これは違う」……私の進む道は違う、私の求める本当のこととは違うかもしれない……そんな思いが膨らんでいきました。そんな時にこの学びに出会いました。知識を得、セミナーに何回か参加するうちに、私の中でだんだんと「やっと本当のことに巡り会えた」という喜びが増えて

いきました。でも、段々とだったのです……疑い、迷い、信じられない思いが遥かに大きなパーセンテージを占めていました。チャネリング中心の時代はまだまだ肉肉肉に向いていた自分であったと、今感じます。その時は、向いている、少しはこの学び、神の子の道を歩んでいると思いました。でも、やはりそう思っていただけでした。現実は、神の子の道に少しは近づいた……その程度でした（今だからそう思うのです）その後闇出し現象が始まり、椅子シリーズ、座布団シリーズ、バトルシリーズへと進むにつれて私の中に多くの意識があることがわかりました。私とはそのような意識の集合体なんだと気付いていくようになりました。そして、次は他力の神々に向けての瞑想、宇宙に向けての瞑想と進むにつれて少しずつ、少しずつ過去の、未来の自分たちの叫び声が聞こえてくるようになりました。

肉体は無くなっても意識はしっかりとはっきりと100パーセント残っている、苦しんでいることを確認してゆけるようになりました。そして、今回のセミナーのテーマ……。

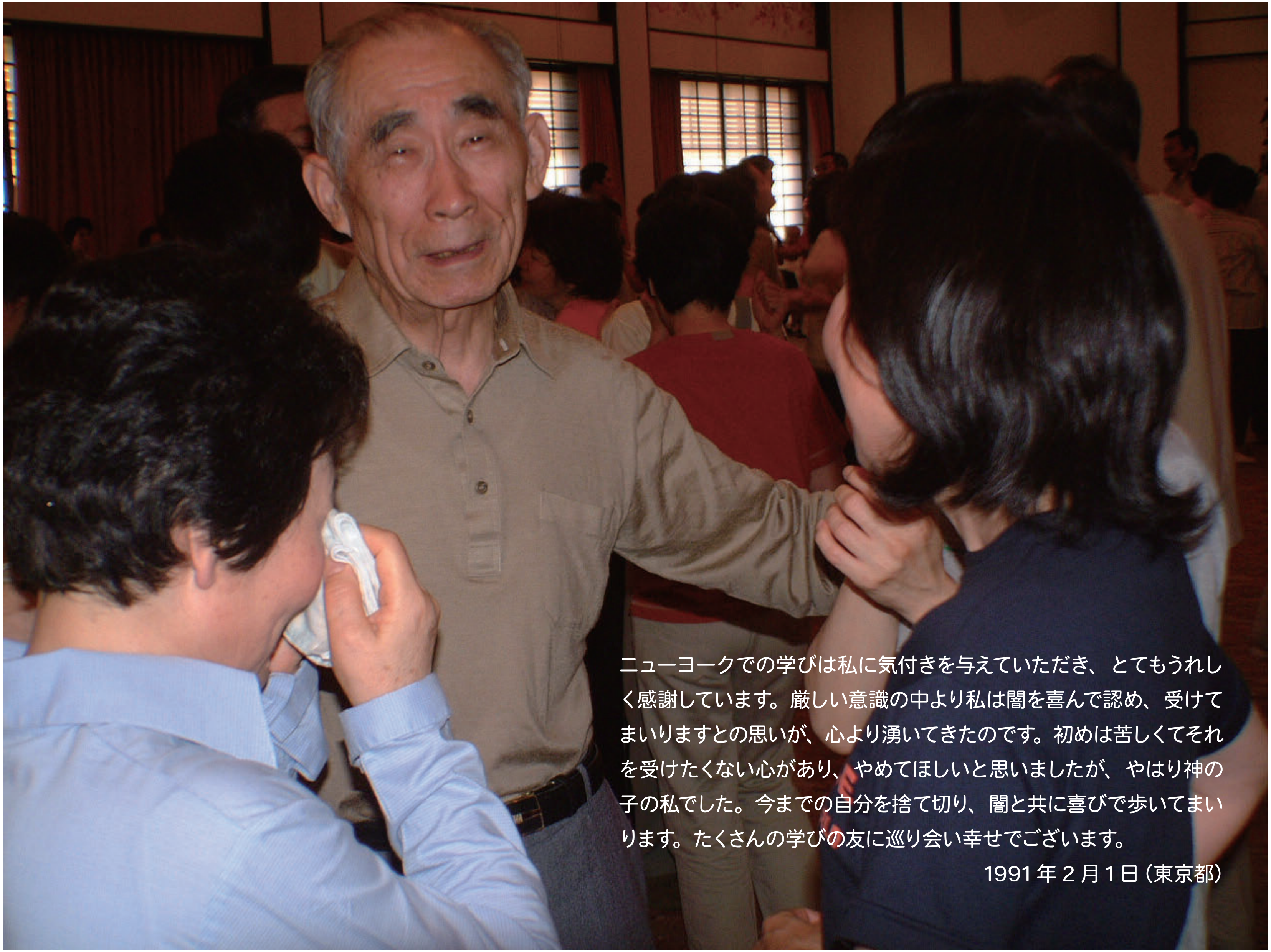
今の心の中に過去の心があります。今の心の中に未来の心があります。……今の今使うその心をしっかりと命懸けで見てゆけばそれが自己供養となり、過去の自分たち、未来の自分たちを光へと帰してゆけることを知りました。光へと帰らなければいつまでも闇の心、苦しい心はエネルギーとして存在し続けることを確認できるようになりました。まだまだこの私にとって本当のこと……私は意識、神の子、神です……が心からわかりません。フッと未来に心が向くと……また苦しい人生、またあの過去よりもっとすさまじい苦しい人生を歩まねばならぬのか……と、肉しか信じていない自分が見えてきます。意識のコペルニクス的転回の必要と難しさを実感しています。その鍵が「ゴメン、ありがとう」だと知りました。その先にあるのが「よろこび」だと知りました。田池留吉の波動を道標として進むのがよろこびです。それしかありません。

本当の人生とは（岩手県）／2000年3月

生きる目的がわからなかったから、生きることが苦しくて、死の世界がわからなかったから、死ぬことが恐怖で、右往左往し続けていた私でした。

田池先生の講話が幼い頃からの疑問を解いてくださいました。講話、セミナーのすべてが納得できることばかり、「本当の人生の目的、本当の人生とは」を教えていただき、私の苦しい心が随分と晴れました。

実践の場では、気が付けば濁流に流されている私です。本当に真剣にハンドル修正をしなければと言い聞かせる繰（く）り返しです。「本当の人生の目的とは」を知った私の心は喜びと感謝でいっぱいです。まずは肉ある限り、「ハイ」と「実践」を心がけ、本当の人生歩めるようにします。



ニューヨークでの学びは私に気付きを与えていただき、とてもうれしく感謝しています。厳しい意識の中より私は闇を喜んで認め、受けてまいりますとの思いが、心より湧いてきたのです。初めは苦しくてそれを受けたくない心があり、やめてほしいと思いましたが、やはり神の子の私でした。今までの自分を捨て切り、闇と共に喜びで歩いてまいります。たくさんの学びの友に巡り会い幸せでございます。

1991年2月1日（東京都）

お金（滋賀県）／2000 年 4 月 20 日

幸せになりたかった。すべてを自分の思うように、欲しい物が手に入り、皆が私の言う通りにして、行きたい所に行って、食べたい物を食べて、言いたいこと言って、誰に遠慮することなく気楽にして、自分は何もしなくても皆がしてくれて、私の好きなようにしていられる。そして、周りの皆が私に気を遣い機嫌を取って、私を怒らせないようにいつもピリピリと神経を遣い、私に至れり尽くせりの気遣いをして、いつも私中心に物事を運び、私のことだけを一生懸命に世話をしろと、そしてこの私に従えと、いつも先頭に立って指揮を取りたかった。

そのためにパワーが欲しかった。パワーのためにはお金やと、金金行進曲をはじめた。寝ても覚めても金金金、何でもすべてが当たり前。周りのやさしさなんかに気も付かず、お金のためならなりふり構わず、意地汚い心を使って、そしてやせ我慢を張って、いつも相手の機嫌を取って、いつも相手に合わせる。「このガキ、アホか」と「ええ加減にさらさんかい、調子に乗りやがって、私を誰だと思っているんや……おとなしくしていればつけあがりやがって」と、心の中は張り裂けんばかりに叫んでいる。

でもその心に蓋をしてきた。決して本心を出さず、いつも上辺ばかりをきれいに飾り、その中身は決して見せてはこなかった。そして、人はどうでもいい、自分さえよかったらそれでいいんやと、親切ごときにいろいろしても、結局は金のため、いつも下心が潜んでいる。

金さえあれば神をも支配してやると、私の思い通りにしろ、私の思う通りにしてくれるのならお金をやろうやないかと。金さえあれば人の心も買える、病気も治る……すべてお金やと、お金を自分の支配下に置いて己がすべての上に君臨したかった。私は特別、己一番と己を表すために金金金と金に走った。金さえあばいいんや、金さえあれば宇宙すべてが自分の意のまま、周りすべてを利用して自分だけが甘い汁を吸いたい。

金、金、金と明けても暮れても、ただガムシャラに根性根性と掛け声かけて、挫けそうになる自分に叱陀激励して、頑張って頑張ってやってきた。

欲というエネルギーが作り出したお金という形にとらわれて、人間すべてが金金金と戦い続けている。もちろん、私もその一人である。お金に対して出す心のエネルギーで、人類すべてが金信仰の渦巻きになって、ものすごいスピードで回っている。その渦巻きから抜け出さそうと、今、愛が天変地異として起こってきて、「お金があってもどうにもならないよ、幸せにならないよ、あなたは意識、神の子、神ですよ、ただあなたの中に存在するやさしい温もりの波動を心に感じていくことが幸せなんですよ」とメッセージを送ってくれている。その神の愛に「アリガトウ」と感謝していきたい。

いつも周りの皆が、やさしい波動を送ってくれているのに、いつも心は金金金で、そのやさしさに気付かず、無視してきた。でも周りのすべては、「いいよ、いいよ、あなたの気のすむまで金金

金と思う存分やりなさい。でもあなたの心で少しでもお金じゃなかったな、お金お金と思ってきたけど、結局はお金によって崩れていくんやなあ、お金お金と頑張ってきたけど、お金に振りまわされて、お金のためにあくせくしてきただけやった。お金に対して出している自分のエネルギーで、自分が破滅の道を歩んでいることに気付いたら、もうやめていこう。お金、に対する心のエネルギーを弱めていこう。そして、私たちのやさしい語りかけに心向けてくださいね」と、いつもエールを送ってくれている。そのやさしく待ち続けてくれている暖かい温もりの中に、私の心をゆだねていきたい。神、母の温もりの中に帰っていきたい。

　タイケトメキチの波動（使っている心を神の心へ、神の心へと促していく波動）を信じて信じて、使う心に責任を持ってどんな心が出てきても「私の心です」と素直に認め、許し受け入れ、「アリガトウ、よく出てきてくれたね」と感謝して喜んでいきたい。

　頑張って頑張って、どんなことがあっても決して挫けない、負けるもんかとやりまくってきた。その頑張る心は、自分を肉だと思い、その肉を表し誇るためでしかなかった。

「やさしくて広くて暖かくて、すべていいよ、いいよ」といつも両手を広げて待ち続けてくれている本当の自分、タイケトメキチに帰りたい。

　私たちが気付くまで肉体を存在させて、「こっちやで、こっちやで」と手を差し伸べて、ただやさしい気付きの波動を送ってくださっている田池先生に、心からありがとうございます。感謝です。

　頭で理解しても心で感じられない状態ですが、私をいとおしく、そして張り裂けんばかりのやさしさを投げかけ、どんなことをしても、この子を包み込んでやりたいと必死に必死に見守ってくれたお母さんに、そして泣いている私を「どうしたの、大丈夫、お母さんが悪かった」と「ごめんね、ごめんね」とやさしくやさしく語りかけてくれたお母さん、そして私を抱き上げ、頬ずりをして微笑みかけてくれたお母さん、だだをこねようがわめこうが、ただ「どうしてほしいの、どうしてほしいの」とやさしく私を見つめてくれたお母さん、やさしく私の機嫌が直るまで待ってくれたお母さん、「アリガトウ」。このお母さんの温もりが、私の心の中にも宿っている。その温もりを思い出していきたい。私がすべてのものを許し、受け入れ、安らぎの心が広がればと思っております。ありがとうございました。

本当の自分（神奈川県）／1998 年 3 月 28 日

　僕の心の中に、本当の自分があるのではないかと思いはじめています。僕は本当の自分があるなら、出会いたいと思っています。「僕の人生の目的は何だった」と問えば、「本当の自分に出会うこと」と答えたいのです。この本当の自分に出会いたいと思うことは、エルの本で読んだどこかの一節かも知れません。しかし、今は、本当の自分に出会うことができたら本望だと思っています。

うれしいです。本当の自分が神だと、この学びに集うまでは自分がそんな存在だと思ってもいませんでした。しかし、本当の自分がいるならば、出会ってみたいと思っていました。

神の子の勉強を続ける中で、「自分とは何か」を問う中で、うれしいと感じる時があります。それと見守ってくれているのではないかと思う時があります。お母さんに肉体を生んでもらったのも、その後の肉の生活を続ける中で、本当の自分が見守ってくれているのではないかと感じる時があります。

また、「本当の自分はこんな感じかなあ」と思い出す時があります。見守られている影の自分を見てうれしく思う時、本当の自分に愛されていると感じます。いつもいつも本当の自分に見守られていることが愛されていることだと、思う時があります。「愛されている」と感じるのは、心を見て気付けて、うれしいと思う時です。「愛されているんだなあ」と、愛されていると感じて、本当の自分の存在をぼんやり感じます。

本当の自分に出会うこと、本当の自分に愛されていること、これからも心を見て気付いていこうと思っております。また、苦しいと思う時も本当の自分に見守られていると思う時です。晴れても曇っても雨が降っても、本当の自分がいつも存在して、愛している、見守ってくれているのだなあと思いはじめています。

こうして感じるようになったことが幸せだと思っています。うれしいです。ありがとうございました。

きっと、やさしくなります（愛知県）／1998年1月

私の闇の心は頑なで、大変ごう慢です。本当に、大バカ者です。しかし、許され、神の愛によって生を受けました。学びを始めて８年になりますが、未だ失敗の連続です。「５、３、２」の実践を、あきらめずにやっていくしかありません。

「自分の基準」も強いです。「自分の基準」で学びを続けてきました。田池先生の言葉は、たくさん頭に詰まっていますが、私の心は「田池留吉」に向いていなかったのです。それゆえ、セミナーでの人間関係においても、多くの人たちから怒られ、たしなめられ、悲しませたり、苦しませたりしてしまいました。すべての現象に対し、弁解する思いはありません。全部、自分です。すべては、私の心に愛がなかったことによります。申し訳ありませんでした。

「自己供養」こそが人生の目的でした。現象を受け入れていきます。そして、きっとやさしくなっていきます。いつの日か、結果として、自分も周囲も明るくなる時を夢見て、心の叫びを、苦しみを受け入れ、己の出してきた闇の回収に努めてまいります。

これが幸せの道でした（大阪府）／1997年9月

肉の愛が本物と思い、一生懸命生きてきました。自分の愚かさに、なかなか気付けませんでした。自分が愚劣の極みであるということを認めていくことが恐怖でした。今までの自分が消えてなくなる恐

怖、自分の存在価値がなくなることの恐怖、恐怖の塊でした。

人とは違う自分を表そうと、躍起になって頑張ってきた今世。本当の神を知らぬ無知ゆえに、神から離れていくことも知らず、闇街道をばく進してきました。でも気付かせていただきました。人間は意識、心が本当だということ。肉でいくら頑張っても真実は何も見えてこなかった。ただ心を神に合わせて自分の間違いに気付くこと、これだけでよかったんですね。これが幸せの道でした。このことに気付かせていただくことに長い年月かかりました。今世生まれてきて、田池先生、皆様に出会えたことが感謝です。田池先生にいつも言っていただいたこと、太平洋のように広い心になれるよう、心を見つめていきます。

今が幸せです（福岡県）／1998 年 9 月

私を生み育ててくれた、両親が歓喜している姿、それがまた私の喜びであるかのような、自分本位の生活をしていた。その大切な父親を失った痛みの時、友人が勇気を持って誘い語りかけてくれたことが動機で「神の子の道」、ＥＬ、この学びに出会い、今秋で９年となる。

最初の講話で田池先生が、この学びは一言で云うならば「自己確立」と「愛の実践」であり……しっかりと明るく「心を見なはれや」と語られたことが、心深く留っている。すごい学びに巡り会えた。と同時に「偉いもの（たいへんな）を知った」が、偽らざる実感であった。

私の人生 60 数年は、まさに「無知」「エゴ」で「欲ったれ」でした。生半可ながらやっと、真実に気付きかけ、生かされていることを感じ、喜び感謝しつつあるも、未だ高慢心が強い「心癖」、肉肉の大バカ者です。皆さん、ごめんなさい。ありがとうございます。今、この与えられた環境の中で、日々反省し、それなりに自分の心と対話できることなど、この学びに出会えたことがうれしい。時々唱歌、「故郷」を口ずさむ。何がなくても、少し苦しくても、今が本当に幸せだ。ありがとうございました。

第４章「エルランティの光セミナー」が伝えたこと

エルランティの光セミナーが終了するちょうど１年前の 2000 年６月、この学びを紹介するパンフレットが発行されました。1998 年５月の初版から２年ぶりの発行で、エルランティの光セミナーが、ひいては田池留吉が何を伝えようとしたか、その知識の部分が要約されています。この章では、そのパンフレットの主要部分をそのまま掲載させていただきます。

この学びの３つの柱

1 反省	自分が使う思いを見る	母の反省	生んでくれたお母さんに使ってきた自分の心を見ましょう	心を見る
		他力の反省	他力信仰に集った動機、使ってきた自分の心を見ましょう	
		日々の反省	夫、妻、子供、嫁、姑、職場、友人に使う自分の心を見ましょう	↓
2 瞑想	一時間瞑想	母を思う、神を思う	すべてを受け入れ、すべてを許し、すべてを包み込む、広い広い、やさしい、暖かい心に向けてください	気付く
		タイケトメキチ（本当の自分）のメッセージを受ける	タイケトメキチのメッセージを300回受けてください。タイケトメキチの内在を信じられるようになるでしょう	↓
3 現象参加	セミナーの現象に出る	自分の出している波動に気付く（闇出し）	現象参加し、自分の常に使っている暗い思い（波動）に気付き、それを反省につなげていきましょう	心が変わる
		タイケトメキチの波動を知る	どんなに苦しんでいる自分でも、タイケトメキチの波動を心で感じたならば、本当の喜びに出会えることでしょう	

この学びの知識

この学びで使われている主な言葉のいくつかをご紹介します

意識と肉

あなたの本当の姿は意識（ 心）です。 肉体はなくなっても意識はなくなりません。

意　識

真実の世界

広い広い心

穏やかな心

あたたかい心

すべてを許し、
すべてを受け入れる心

頭で理解できない
心で感じる、心でわかる世界

永遠の生命

タイケトメキチ
田池留吉
本当の自分
神

肉

影の世界

不安

心配

偽善

憎む

怒り

責める

さびしい

恐怖

好き嫌い

五感で感じることができる世界
が肉の世界です

肉はいずれ消えて
なくなります

闇

神とは？

神はあなたの中に存在します。 外に神を求めることはないのです。

神とは？

神とは、祈ったり、すがったりするものではなく、
人間の本質そのものが神です。
本当のあなたは、肉体ではなく、
すべてを許し、受け入れる広い心です。
それが神です。

タイケトメキチ・田池留吉

この学びでは、神に心を向ける時、
「タイケトメキチに心を合わせてください」と言います。
これは、肉の田池先生のことではありません。
田池先生も、私たちと同じ肉の存在です。
しかし、その本質は神であり、
それをただ「タイケトメキチ」と呼んでいるだけです。

本当のあなたは「タイケトメキチ」です。

あなたは意識・神の子・神です

あなたも、あなたの周りの人も、すべて神です。
あなたが好きな人も、嫌いでたまらない人も神です。
あなたの本当の存在は、消えていく肉ではありません。
永遠に消えることのない意識です。

意識は一つです。

私はあなた、あなたは私です。

皆、神の子、神です。

過去世と自己供養

過去、現在、未来は別々のものではありません。 今あなたが使っている思いは、過去使ったものであり、 そして未来も使う思いです。 苦しい思いは供養されないかぎり、いつまでも苦しいままです。

かこせ 過去世

私たちは今だけの人生を生きているのではありません。たくさんの過去世を引きずって生きてきています。
過去世は思いです。すべての過去世が苦しい思いを抱えたまま、私たちと共に、心の中に生きています。

てんしょう 転生

私たちは、過去世の苦しい思いを供養するために、何度も肉体を持って生まれてきます。「もう一度、やり直したい」と、お母さんにお願いして、生まれてくるのです。

じこくよう 自己供養

供養とは何でしょう？ お経を唱えたり、祈ることでしょうか。過去世の苦しい思いは、まさに今の自分の苦しい思いでもあります。苦しみは神から外れた心の歪みです。「あなたは間違っていますよ」という、本当の自分からの合図です。苦しみを受け入れてあげてください。「ああ、出てきてよかったね」と喜んでください。全部、自分が使ってきた思いです。それを拾い上げることができるのも、あなただけです。ほんの一つ、苦しみを受け止めてあげるだけで、多くの過去世が救われます。今のあなたが救われます。それが本当の供養です。他の誰でもなく、ご自分を供養していってください。

自業自得

何をしてもかまわないのです。この学びは道徳ではありません。しかし使った思いの結果もあなたが受けるのです。間違った思いには間違った結果しか出ません。

苦しみの原因

人はいつも苦しみを抱えています。
自分の思い通りに物事がいかない、
人が自分のことを認めてくれない、
誰も自分のことを理解してくれない……
苦しい思いは、人を責める思いです。
「私が苦しいのはお前のせいだ」と叫ぶ心です。
しかし、苦しいのは本当に人のせいでしょうか？

自作自演

この学びは、ハッキリと言います、「苦しんでいる人が間違っているのです」と。苦しみの原因はあなたの中にあります。
相手がああしたから、こう言ったから、そんなことは問題ではないのです。
相手は、あなたが心を見るための教材です。肉を自分だと思い、肉の喜びを求めているかぎり、あなたの心は満足することはありません。本当の自分が何かを知らないかぎり、苦しみがなくなることはありません。

苦しみは神の愛

すべては愛です。
あなたが苦しんできたのも、
あなたの心に愛があるから、
苦しみとなって現象化したのです。
受け入れればいいのです。
苦しみは神の愛です。

波動

波動とは言葉ではありません。波動は意識です。あなたが出している思いそのものです。暗い思いなら暗い波動が、明るい思いなら明るい波動が伝わります。あなたが意識を信じれば信じるほど、お母さんの波動が、タイケトメキチの波動が感じられます。ただ喜びの波動です。人は本来、喜びの波動だけなのです。肉の世界にどっぷり浸かっているうちに、喜びの波動を忘れてしまったのです。しかし、それはあなたの中にあります。消えることのない喜びです。

あなたは **意識** だと信じてください

あなたは **神** だと信じてください

タイケトメキチの **波動** を信じてください

この学びは自分で自分を救う学びです。神仏にすがっても、何もしてくれません。なぜなら、あなたは神なのです。神がどうして他に救いを求めるのですか。自分を信じてください。反省、瞑想を続けていくことで、必ず何かが変わってきます。あせらず、たゆまず、淡々と、ただ、ご自分の心を見ていってください。

5・3・2について

5つの励行

1 早く寝る

2 丹田呼吸をする

まず、息をすべて吐き切ります。そして息を大きく一気に吸い込み、おへその下にポッと入れます。そして数秒間、息をそのまま止めます。そしてまたハアーと吐いて吐いて、吐き切ります。このような要領で数回行ってください。
朝、庭に出た時、また気付いた時に励行してみてください。

3 食事は腹6分にして食べ過ぎない

4 頭寒足熱（半身浴、靴下の重ね履き）を心がける

文字通り、頭を冷たくし、足下を暖かくすることです。
その方法として2つご紹介します。

5つの励行は、肉体を健康に維持するためのものです。一般の健康法と重なる部分があるかもしれません。そして何より欠かせないのが瞑想です。一日一時間、目を閉じ、五感と切り離して、心だけを感じる時間を持ってください。

① 半身浴……

38、9度くらいのぬるいお湯に、おへその下くらいまで浸かります。二の腕に汗が出るくらい、約30分浸かり、入浴後、すぐに靴下を履き、足を冷やさないようにします。

② 靴下の重ね履き……

心臓と足の温度差を縮めます。冷えは万病の元です。冷え取りと排毒のために、絹の靴下を重ねて着用します。肌につけるものはできるだけ自然のものにします。
（靴下については商品案内にも説明があります）

5 タイケトメキチに心を合わせる

まず、丹田呼吸を数回して、静かに、自分の中の広い広い心、すべてを許し、受け入れる心を思ってみます。最初はわからなくても、想像してみるだけでも結構です。それがお母さんの温もり、本当の自分、タイケトメキチへと通じていきます。
あくびが出たり、寝てしまったり、集中できず、雑念、妄想が浮かんだりと、そのような状態が続きますが、それにとらわれず、常に自分の中の広い心を思うようにしていきます。最初は二十分、三十分と、やがて一時間できるように、淡々と、あせらず、たゆまずに積み重ねていってください。

3つの実践

1 母親の温もりを思い出そう

1. 母親にしてもらったことを思い出してみる。
2. 母親にしてあげたことを思い出してみる。
3. 母親に対して使ってきた思いを思い出してみる。
4. 現在、母親をどう思っているかノートに書いてみる。
5. 母親に生んでもらったことをどう思っているか、ノートに書いてみる。
6. 幼い時、母親にどのようにしてもらったか、その時どんなふうに母親を思ったかノートに書いてみる。
7. 母親の子宮に思いを向けてみる。
8. 十月十日、母親に子宮内で育てられたことをどのように思っているか、ノートに書いてみる。
9. 肉の母親を語ってみる。
10. 目を閉じて肉の母親を思ってみる。
11. 目を閉じて、母親はどんな思いを使ってあなたを育んだか、思い出してみる。
12. 丹田呼吸をしてから、瞑想「母を思う」をする。
13. 瞑想を楽しむ、はじめは10分、雑念、妄想など気にしない。途中居眠りしても瞑想を続ける。
14. セミナーに参加し、現象の輪の中に進んで入る。
15. 母親の温もりを感じるまで1～14を繰り返す。他力の反省、日々の反省はそれからです。

3つの実践の中で最も基本となる反省が、母親の反省です。
母親の温もりがわからなければ、この学びはわかりません。まずは肉の母親の反省を中心に、反省を始めてください。続けていく中で、本当の温もりに気付いていくはずです。

2 他力信仰の反省

私たちは肉を自分だと思い、肉を満足させるため、肉の不安を解消するために神ならぬ神をつくり出し、手を合わせ、祈り、拝んできました。その心が他力です。どうぞ手を合わせる時の自分の心を見てください。宗教に救いを求める心を見てください。「他力の反省」とは、どこかの宗教団体に属したから間違っているとか、誰かの本を読んだから悪いとかではなく、その時の自分の心がどうであるかを見ていくことです。（相手を見るのではなく、その教団や指導者に使った自分の心を見るのがポイントです）

3 日々の反省

夫、妻、舅、姑、嫁、職場の仲間、友達……周りの人たちに対してどんな心を使ってきたか、今、どんな心を使っているか、一瞬一瞬に動く心を見ていってください。たとえば、あなたが夫に対して怒りが出たとします。それは夫のせいではなく、元々怒りの原因があなたの中にあり、夫がその怒りを引き出してくれたのです。その怒りの原因を見ていくのです。（相手は自分の心を見るための鏡であり、教材です）

2つの確認

最後に2つの確認は、いつも自分に問いかけるのです。素直に「ハイ」と言えるかどうか、自分に聞いてください。

1 心は明るいか　暗いか

明るい心	暗い心
穏やかな心	責め裁く心
あたたかな心	恨み、憎む心
広い広い心	呪う心
やさしい心	心配・不安の心
うれしい心	自慢する心・己を誇る心
喜びの心	人を見下げる心・バカにする心
すべてを受け入れる心	恐怖する心
すべてを許す心	卑下する心・落ち込む心
すべてを包む心	悲しい心
素直な心	さびしい心
さわやかな心	妬み、嫉妬する心
こだわらない心	支配、思い通りにする心
	自己中心の心
	自分を守る心

2 タイケトメキチ（本当の自分）を信じているか？

5・3・2と4・1

この学びは実践する学びです。淡々と、あせらず、たゆまずやっていくしか他に道はありません。自分が「できた」と思った瞬間、落ちていきます。5・3・2と4・1に立ち戻って、また最初からやり直しです。終わりはありません。一緒にやっていきましょう。

5つの励行

1．早く寝る。
2．丹田呼吸をする。
3．腹6分、食べ過ぎない。
4．頭寒足熱。（半身浴、靴下の重ね履き）
5．瞑想、タイケトメキチに心を合わせる。（1時間瞑想）

3つの実践

1．母親の反省をする。
2．他力信仰の反省をする。
3．日々の反省をする。

2つの確認

1．心は明るいか、暗いか。
2．タイケトメキチを信じているか。

4つの知識

1．あなたは何者ですか？
2．神は存在するでしょうか？
3．死後の世界はあると思いますか？
4．あなたはなぜ、生まれてきたのですか？

そして、1とは

「あなたは意識、神の子、神です」ということです。

4つの問いかけ そして1とは

あなたは何者ですか？

本当のあなたはすべてを受け入れ、すべてを許す広い、広い心です。
あたたかく、穏やかな、やさしい心です。

自分の本質

死後の世界はあると思いますか？

肉体はなくなっても、心、つまり意識はなくなりません。今苦しんでいる人は、肉体のなくなった後も、苦しい心のまま生き続けます。その苦しい思いを供養するために、また肉体を持って生まれてきます。

転　生

あなたは意識、　神の子、　神です

神は存在するでしょうか？

神はあなたです。あなたの心の中にある温もり、それが神です。
タイケトメキチです、本当のあなたです。

神の存在

あなたは、なぜ、生まれてきたのですか？

あなたは、あなたの心の中にある本当の自分タイケトメキチに出会うために生まれてきたのです。

人生の目的

エルランティの光 セミナーについて

エルランティの光セミナーは会員制でも組織でもありません。希望される方はどなたでも参加できます。一度参加したからといって、次も参加する義務はありません。全くの自由です。セミナー会場がホテルであるため、宿泊費用、会場費用等の実費を頂いていますが、それ以外の費用はかかりません。この学びを進めていく上で、セミナーに参加することはとても大切です。もしできるならセミナーに来て、現象に参加してください。しかし田池先生はこうも言われます。「借金したり、家族が反対するのにセミナーに来てはいけません」。セミナーに参加する動機をしっかりと見ていただきたいのです。なぜ、セミナーに参加したいのか、何をセミナーに求めているのか、それを見ていった時に、ふと「自分が間違っていた」と気付く時があるはずです。

セミナーでは主に3つのことを行っています

田池先生の**講話**、**現象**、そして**反省**と**瞑想**です。

特に、今大切なのは現象（闇出し）です。闇出しでは、日常の生活ではなかなか出てこない苦しい思いを、思い切り吐き出しています。その姿は人から見れば狂っていると思われるかもしれません。しかし、私たちの意識はまさに狂っています。それを認めるために闇出しがあるのです。

そして反省、瞑想です。闇を出しっぱなしにするのではなく、自分が狂っていたことを認め「出てきてよかったね」と受け入れてあげる、そうすることで、闇は供養されていきます。それが本当のやさしさに繋がっていきます。

闇出しが終われば、肉に戻り、また普段の生活に帰っていきます。しかし、闇出しをすればするほど、夫に、妻に、子供に「やさしくなったね」と言われる人が多いのです。

田池留吉先生について

この学びを始められたのが田池先生です。先生はいつもおっしゃられます。「肉の私は石ころです」、「私と皆さんがただ一つ違うのは、私は神を信じていて、皆さんは信じていないということです」。現象で、田池先生が指差をすると、参加者が苦しみ出す場面があります。先生に超能力があるわけではありません。本当の神と向かい合った時、自分の苦しみが浮き彫りになるのです。田池先生の中にも、そして私たちの中にも本当の神（それをタイケトメキチと呼んでいます）が存在します。田池先生はその神を心から信じ、私たちは信じ切れないでいるのです。田池先生は救い主でも何でもありません。肉の田池先生に救いを求めたら、それは宗教であり、他力です。苦しみはそこから始まります。ただ自分の中のタイケトメキチを信じていくこと、それを田池先生は、いつもセミナーで私たちに伝えてくれます。

終 章　エルランティの光セミナー と 塩川香世さん

塩川香世さんがこの学びに最初に集われたのは、1992 年 12 月 28 日、大阪研修センターで開かれた臨時のチャネリング講習会のときでした。そして、その 4 か月後の熱海の南明ホテルで開かれた「第 62 回エルランティの光セミナー」（1993 年 4 月 25 日～ 26 日）に初めて宿泊参加され、塩川香世さんの学びがスタートすることになりました。この章では、エルランティの光セミナー時代に、塩川香世さんが書かれたいくつかの反省文を時系列で紹介させていただきます。

熱海・南明ホテルでのセミナーの模様
1993 年 11 月 14 日（第 72 回セミナー）

1. 死と私について／ 1996 年 8 月 10 日

私が「死」ということについて、ふっと思いを寄せれば、私がこの学びにやっと来れたきっかけ、私にとって絶対なくてはならない現実がありました。一人の人の死を通して、私はやっと本当の私にちょっとだけ素直になれました。その出来事の随分前から私の前をこの学びは通り過ぎていました。母の言うことにいつも反発していました。

「お母さんのひとりよがり、そんなことがあるはずがない、私にはとても信じられないし、わからないし、第一にそれって宗教じゃないか、宗教なんて、どうせグズグズ煮えきらない人が、何かにすがって、それで何とか解答を引き出してほしいっていう、自分では何の努力もしないで楽していこうっていう考えの人の集まりじゃないのか」って思ってきました。

私は今まで自分が何とか頑張れば、道は開けると、少し自分の思っていたこととは違う結果になっても、それはそれ自分がしてきた結果だから納得できると思ってきましたし、一応自分の思い通りにことは運んでいきました。だから母から聞くことは適当に右から左へと流していました。

だけど人の死というものが、まさかこんなに早く自分に関わってくるなんて考えられないことでした。どうしてもこれが今現実に起こっていることとは信じられませんでした。どうしても動かせない現実がそこにあると思いました。どうしていいかわかりませんでした。自分にこんなに大変なことが起こっているというのに、世間はいつもと変わらずに動いていました。そして悲しみのどん底に落ちた私もまた、時間が来ればお腹もすき、普段と変わらない生活をしているのが不思議でした。

（主人が）ガン告知されたときに、我が耳を疑い、何てひどいことだ、信じられない、まだまだやりたいこともいっぱいあるだろうし、行きたいところもいっぱいあるだろうし、とってもとっても残念で悔しくて、夢なら覚めてほしいと何度も何度も思いました。

そして少し冷静になってくると、「惜しいことをした、あのときあの生命保険、転換しておけばよかった。だけどガン保険に入っていたから、たとえ付き添いにお金がかかるとしても、そんなに負担にならない、助かった、早く保険請求しなくては」と、すぐに金、金、金の現実に戻っていました。

何で私たちがこんな目に遭わなければならないのか、私たちが

一体何をした、世の中にはどうでもいいような人いっぱいいるやんか。年寄りでヨボヨボしている人、毎日ブラブラしているような人、そんな人を見るにつけ、できるなら替わってほしいとも思いました。そんな思いを出しているにもかかわらず私は、何とかならないのか、何とか命だけは助けてほしいという強い思いはあまりありませんでした。それは、もうすでに末期症状だからと告げられて、もうそこで私の心は、「ダメなものはダメなんだから」と素早く彼を切り捨てた冷たい心だったのかもしれませんし、この学びについての知識がうっすらと私の中にあったからかもしれません。

今現在では、彼に対して出してきた私の苦しい思い、自分の出してきたすさまじいエネルギーがそういう形になって返ってきたんだと、あのときどこか心の中で納得できていたんだと思っています。

ガン告知から死までの約３カ月間は、私にとって長いようで短い時間でした。担当医に対しては、この人だって毎日採取する血液の数値からしか判断できないと見下げ、でもただ淡々と病状を説明する先生に対して、今の現実を受け止めてくれる人が私以外にいるんだということに励まされました。毎日の世話をしてくれる看護婦さんに対しては、私を哀れんでくれなくていい、私はみじめだと思われたくない、「まだ若いのにこんなことになってあなたも大変ね」って言われるたびに、反発の思いを投げつけていました。

かわいそうだと思われるのが一番イヤでした。また、彼のお母さんが石切神社へ行って祈祷してもらった下着を身に着けさせるようにと言われたときに、こんなもので治るなら誰も苦労はしないと一瞥もしませんでした。息子を思う母親の気持ちに思いが及ぶほど私には余裕はありませんでした。

私が一番イライラしたことは、本人がどれだけ自分の病気を把握しているかわからないことでした。自分の心の中で、もしやと疑い、いやいやとまた否定したくなるその思いを、一番受け入れてもらいたいだろうその相手に対して、私はただ自分の思いこそ受け入れてくれと、私のこの苦しいつらい思いがあなたにはわからないのかと、自分のことでいっぱいでした。いつも自分を最優先させていました。いつも自分の思いを相手に押しつけてきました。自分の思い通りに生活してきました。だから自分の意に反するこの事実を受け入れていくことがイヤでした。私にとって敗北を意味していました。とっても悔しいことでした。

そして、また何で一番大事なことをこのときになっても、私たちはお互いに正面から向き合えないのかと悲しくなりました。でも口をつぐんで心を開かなかったのは私でした。私こそが本当は「死」ということが一番怖かったのです。

死んでどんな世界に行くのかわからない。ただそこは恐怖の思いしかない世界でした。思うだけでゾッとする世界でした。考えたくもありませんでした。もし私があと少しで死ぬんだよって告げられたら、どうしていいかわからないぐらいに混乱し、きっと「まだ死にたくない、死にたくない」ってそんな思いの中をただグルグル

回っているだけだろうって思います。
　相手にガンだと告げられなかったのは、自分がただ「死」というものに恐怖し、そこから逃げていたかった、避けて通りたかったそんな自分本位な思いでしかありませんでした。相手なんてどうでもよかった、ただ自分の思いに向き合うのが怖かった、ただそれだけでした。
　私たちは本音で関わっておりませんでした。そして、お互いがお互いを受け入れることをしていませんでした。何が幸せかなんてわかりませんでした。本当にやさしいということがどういうことかわかりませんでした。自分のその怖いという思いが、彼に対するいらつき、不満となって私は母にぶつけていきました。
　お母さんは何でも聞いてくれました。ただ受け入れてもらっていました。病院での様子を母に話すだけで、私の心は落ちついていきました。自分の言うことを認めてくれているときは、お母さんがいてくれてよかったって、やっぱりお母さんしかいない、もし、これでこの状態でお母さんがいなかったら、私は自分の苦しい心をどこにぶつけていったらいいのかわからなかったって何度も思いました。
　その一方で何か諭されるようなことを言われたら、「お母さんになんか私の思いがわかるはずがない、私と同じ状況になってみないとわからない、誰も私の思いなんかわかるはずがない」って簡単にその心を出していました。

　田池先生からも、その間にワンポイントのメッセージを頂きました。
「あなたは喜びの心が少ないですね。どうぞ、小さいことから喜んでいってください。」
　そのときは、こんな状態のときに、何で喜べるんやって反発していたけれど、それは私の本当にすべてをその一言で表してくれているなあって、今つくづく思います。すべてが当たり前の世界でした。何でもそんなこと当然だって、やり過ごしてきました。人から聞かされていた看病の大変さも経験することなく、亡くなった後の葬送、その他一切のわずらわしいことはすべて向こうの家が引き受けてくれたこと、そしてこの学びにスッと入ってこれたこと、セミナーに行かせてもらえる職場の環境が整っていることなどについて、大して気にも留めませんでした。
　今回のことで、私が自分で何をどうしたらいいのかわからない、いや、何もできないということがあるんだということを知りました。そして確実につかんだと思ったものが、実は何もなかったということに気付きました。でも肉の思いの強い私は、やはり自分の肉がなくなるということに対して、言いようのない恐怖を感じています。

2. 私が選んだ人生について／1996 年 8 月 31 日〜 9 月 1 日

私が、この私が選んでいこうとした人生、それはこの自分を立派にすること、みんなから認められ、ここに我ありと声高らかに示したい、自分の人生を有意義にしたい、誰からも左右されずに、そして自分を高め、自分を表していく、そうすることが、私がこの世に生まれてきた目的だと思ってきた。

グズグズする人、怠ける人、無能な人、すべて私のこの心から抹殺してきた。どっちでもいいような人、生きてても別段どうってことのないような人、そんな人間にはなりたくはなかった。きっちりと自分の存在を示していきたかった。だから私を見下すような人はこちらから切り捨てていった。私を認めてくれない者には用はなかった。だから頑張ってきた。頑張って頑張って自分を認めさせるよう頑張ってきた。自分の力を見せつけたかった。私の周りに示していたかった。肉の自分を立派にすることがすばらしいことだと思ってきた。一つの目標に向かって突き進んでいくのは、すばらしいことだと思ってきた。誰でもができることではないと思った。それができる人はすばらしいと思った。そういう人に私もなりたいと思った。

自分を表していくということは、自分に自信を持ってやり通す、すべてのハードルを越えてそれでも自分の思いを通していくという、そういう精神力、そういうものを自分にも養っていくということが、すなわち自分を鍛えるということがすばらしいことだと思ってきた。

心、心なんてどっちでもよかった。弱音を吐く人は軽蔑の対象だった。ただ前進あるのみ、キラキラ輝いているように見えた。でも、あんなにこれが私の今の目標だといって、いろいろなものの中から最優先させてきたことが、実際その目標に到達してみると、何の感動もなかった。不思議だった。ずっとこの心から離すことができなかったこと、やっとそこから解放できる、さてその次は何をしたらいいの、何も浮かばない。

私のしたいことって何。私は何のために生きているのか、何のためにこうやって生活しているのか。毎日毎日同じことを繰（く）り返して、そして老いていくのか。わからなかった。何も見えなかった。自分の心に対してこれだと叫ぶものが私には見当たらなかった。どれもこれも中途半端で、ただイライラがつのるばかりだった。

さびしい心をひた隠しに隠してきました。誰にも悟られないようにしてきました。そんなこと、素直に言い出せるほど、私は誰の心にも踏み込めなかった。自分の心が拒否しています。自分の心が後ろ向きなのです。自分の心に蓋をして、自分の心を誰にも覗かれないようにしてやってきました。自分の心を覗かれるのが一番いやです。

さびしい、さびしいってこの心が訴えています。私がさびしいって、大きな声で言えたら、自分の心を少し解放したことになるのですか。さびしい心を抱（かか）えて、膝抱えてうずくまっているのが私の

心です。誰にも心許しません。いつも裏切られてきたから、いつも私の思い通りにはいかなかったから、いつも私がつらい思いをするのです。

私が何かを望んだら、それは苦しみしかないのです。苦しみです。自分の心を、自分を、また暗い底へと突き落としていく、私の心に安らぎはありませんでした。いつも何かに追われて、戦ってきました。引き下がることなどできませんでした。苦しいとわかりつつ、どうしても譲ることなどできませんでした。さびしいなんて私には言えませんでした。そんなこと悟られたら、私の負けでした。

苦しいなんて言えなかった。自分の心に嘘をついて、それでも私はこんなに立派でしょうと、肉を表してきました。いつも誰かと戦ってきました。誰かと競いあってきました。自分の心の悲鳴を私は無視し続けて、自分の心からすべてを抹殺してきました。

そんなものは私には似合わない、私はもっと堂々としていなければと心を縛ってきました。（1996 年 8 月 31 日）

高橋信次さんに対する思い

形の立派なものにあこがれていきました。堂々としているものにひかれていきました。すばらしい力、すべてを任せきれるあの力に私はひかれていきました。

あんなに一生懸命訴えているあの姿、私はあの力強さにひかれていきました。頼りになるもの、強いもの、守っていただけるもの、人間らしからぬ内在する不思議な力に私は強くひかれていきました。「私は正しい、私は間違っていない、私の言うことに真実がある、私に任せなさい」

どうしてあんなに堂々と言ってのけられるのか不思議でした。力強く言いきる姿に、私は絶対間違いないと思いました。自分もあんなふうになりたかったから。自分を堂々としていたかったから。自分を立派にしていたかったから。みんなに自分の存在を認めさせたかったから。私はこんなに立派なんですとみんなに認めさせたかったから。すべてを乗り越えていける力が欲しい。すべてを牛耳っていく力が欲しい。自分を表していきたい。

でも己を表しているとは思えなかった。真実の方向へとみんなを導いてくれる心正しき人と思ってきた。正しい、正しい、これだけの使命感に燃えて、ただ一生懸命に真実を伝えてくれている人だと思ってきた。

肉を見ていました。姿形、声、そういうものでしか私には判断することができませんでした。自分がそうだったからです。すべて形で判断してきました。自分の心の中に自分の思いを向けるということをしませんでした。

私の心の中は、いつも不安と恐怖でいっぱいでした。何も確かなものはありませんでした。さびしい思いでいっぱいでした。でも、そういうものを認めていくことができませんでした。ただ自分を高めることに思いを向けていました。自分を高めていけば、そういう

思いがすべて、だんだんと小さくなっていくと思ってきました。
だから私にも何をも越えられる力が欲しかったのです。どうしたらあんなに自分に自信を持ってすべてに接しられるのか、何か確かなものをこの手につかめば、そういうものを頼りにやっていけるのではないかと思いました。
探していました。探しても探してもわからなかったから、とりあえず目の前に掛かっている一つの目標に向かって私は突き進んでいきました。自分のするべきことが、本当にしたいことがわからなかったから、だけどこの目標としているものがクリアできたら、また私の前に道は開けると思ってきました。
心、心なんてすべて抑え込んできました。自分の肉の思いに忠実に、自分の肉を高めることしか私の頭にはありませんでした。自分の心が苦しいのは、みんな周りのせいにしてきました。相手が悪いからだと思ってきました。私はこれだけ一生懸命真面目にやっているんだからと、自分は絶対正しかったのです。
自分を正当化してきました。それで私は満足していました。こうやってちゃんと評価されるのも、私がこれだけ頑張ってきたから、私は誰にも批判されることはない、ほめられることはあっても、けなされることはないと思ってきました。

自分に、あなたに心を向けてください。私はいつも苦しいって、苦しいってあなたに訴えています。あなたが肉で頑張れば頑張るほど、私は苦しいのです。私に心向けてくれたことがありますか。私はいつもあなたの心の中で叫んでいます。さびしいんだよって、苦しくて苦しくて私に気付いてくださいと、いつもあなたに訴えています。
だけど、あなたは、いつもそんなことおかまいなしで、そ知らぬ顔で通り過ぎていきます。
あなたはその肉があなたじゃないんですよ、私はあなたなんですよ、あなたが今苦しい、苦しいって、これだけわめき散らしているのに、どうしてそんなに平気な顔をしていられるのですか。どうしてもっと自分の心にその思いを向けてくれないのですか。
肉を守らないでください。肉をかばわないでください。もう、ここらへんで私に心を向けてください。私を出してください。私はもう限界です。私はもう自由になりたいのです。自由に羽ばたきたいのです。でも、あなたが私に心を向けてくれなければ、私は永久にここから抜け出せないのです。
肉はあなたじゃないんです。自分の思いにもっと素直になってください。自分がかわいそうじゃないですか。何のための肉体ですか。何のためのあなたの今世ですか。あなたはどうして今世肉体を持っているんですか。自分を、私を、この苦しさから解放するために自分の苦しい心から、自分のさびしい心から自分を解放するために、あなたはこの学びで本当にあなたが望んでいたことに出会っているのではないですか。そのためにいろいろなことがあったんじゃない

ですか。どうしていつまでも肉にこだわっているんですか。
　今しかないんです。自分の心にもっと真正面から対面する勇気を持ってください。

　頭ではわかっています。自分の心が苦しいこともずっと前から感じていました。何をもってしても、私のこの心の底からの思いは癒せないと思ってきました。本当のことが知りたいとも思ってきました。肉にまつわるもの何一つとして失いたくない、だから意識の世界にすべてをゆだねていくことができませんという思いと、もういい、この失いたくないとする心が苦しいから、もっと楽にいきたい、何もないじゃないか、そんなに頑張ってどうするんだと自分に問いかける思いが交錯していました。
　みじめなものはいらないんです。汚いものはいらないんです。そんなもの私には似合わない、私は誰にも負けたくない、誰にも何も言われたくない、そんな思いでずっとずっとやってきました。

　苦しいと、苦しかったと認めていくことがそんなに悔しいですか。どうしてそんなに悔しいのですか。あなたの心ですよ。あなたなんですよ。自分を拒否して何で幸せがあるのですか。どこに幸せがあるのですか。むなしい心を広げていくだけのことじゃないのですか。どこまで行ってもどこまで行ってもたどりつかない暗闇の中で、あなたはまた恨みの思いで、呪いの思いで心を閉ざしていくのですか。素直になりなさい。

　素直ということはどういうことですか。素直になるということは幸せにつながることなのですか。私は幸せになりたいと、ずっとずっと思ってきました。何を求めても、どこを探しても、幸せなんかどこにもなかった。自分の心を、自分をだまして、それでも私は平然と生きていました。それが普通だと思ってきました。どれだけ頑張ろうが、どれだけ自分のことだけ一生懸命やろうが、満足感と一緒に、いつもいつもむなしい心と、不安な思いと、さびしい思いがこの心にありました。
　何でだろう、どうしてだろうか、欲しい物を手に入れて、自分の思うように生活していてもどこか満たされない、何かイライラする、何でだ、何か物足りない、そんな思いの中でずっと過ごしてきました。私は自分が望んできたことを忘れていました。どこでどうなったのか正反対の方向へとこの身を一生懸命動かしていました。自分の人生だからと、一度きりの人生だからと、釈迦力（しゃかりき）になっていました。形を成すためにそのほうにばかり心を使っていました。
　苦しかった、さびしかった、つらかった。自分の心を振り返って、そしてその思いを出していくこと、認めていくことが、どれほど自分自身が望んできたのかということを忘れていました。
　それが私の人生でした。自分の思いと出会うことが私が望んできたことでした。父も母もすべてのことが私の望み通りに教えてく

れていました。

苦しい心でよかったんです。苦しい心を苦しいと認められなかったから苦しかったんです。苦しい私に気付きなさいとみんなが教えてくれていました。苦しい自分に出会いなさいと、今、私はそのチャンスを与えられています。

今世、肉持ててよかった。この学びに集えてよかった。お父さん、ありがとう、お母さん、ありがとう。（1996 年 9 月 1 日）

3. 人生と喜びについて／ 1998 年 10 月 12 日

今まで、私が人生を生きていく中で、どれだけ幸せを、喜びを求めてきたかわからない。幸せになりたい。喜びの中でいたい。なのに、私の心は何でこんなに苦しいのかと自分の心を嫌ってきました。自分の心をうっとうしく思ってきました。心というものが、本当の自分の心というものがわかっていないからでした。私の心の中には、たくさんの私がいます。

神に反逆して、母に反逆の思いを向けて、どこまでも逆らって戦いの心でいる私、そしていつも戦いの思いですべてを敵と見てきた私です。それでも私の心は、本当の思いは、お母さんの温もりに帰りたいと叫んでいるのです。神に帰りたい、神に帰りたいと叫んでいる私の心をどれだけ踏み散らかしてきたか。どうせ、人生はこんなもの、ここらで手を打って、ここらで妥協して私の心の苦しみすべてを押さえ込んできました。

苦しい私の心をすべて押さえ込んできました。出してやることがなかった。出してやることができなかった。苦しいと叫んでいる私の心を私はいつも中に中に押し殺してきました。苦しい中でのたうち回っている自分を切り捨て、見捨てていくことしかしてこなかった。お母さんの温もりに帰ることが喜びだったのでした。神に帰ることがすべてでした。苦しい意識と共に私は神に帰ることができるのです。

心の苦しみをすべてすべて神の前にさらけ出し、いかに愚かな人生を送ってきたかということを認めて、受け入れていくことが喜びだったのです。お母さんの温もりの心に戻っていくこと、それがお母さんのお腹の中でお母さんから伝えてもらったことです。どれだけの闇を抱えても、いつも許してもらい抱きしめてもらってきた私の心を、今度は私自身が支えていくことを学びました。

人生を生きる。肉の人生ではありませんでした。形の世界のことではなかった。私の心の人生、私の今まで生きてきた人生をすべて自分の心の中から覆していく、そんな転回を自分の中で起こしていかなければならないと思います。

神に帰りたい、神の心に帰りたい、私の心の中の叫びです。神に帰ることが私の喜びだったのです。それ以外は何もありませんでした。間違い続けてきた人生を生きてまいりました。形にとらわれ、影の世界を本物とするすさまじいエネルギーの中で、私は存在し

続けてきました。苦しいことすら自分の中で認めず、決して私は苦しくないとやってまいりました。すばらしい肉の形を整えることばかりに心使ってまいりました。

お母さんの心は、私を何一つ責めてはいませんでした。お母さんの思いは私を何一つ咎めてはいませんでした。ただ許し、受け入れの心で私を待っていてくれたのでした。苦しい、苦しい意識の中で、私が唯一信じていくのは、お母さんの心だと思います。どれだけ自分の闇に翻弄され続けても、どれだけ自分のつくり続けてきたエネルギーに翻弄され続けても、お母さんの思いは、私をいつもいつも受け入れてくれているのでした。お母さんの思いを、私は信じきることがなかった。他力の神、私が神を思い、つくり続けてきた神に心を売っておりました。

神に帰る道の途中であることを忘れないで、いつもいつも心を見ていくのです。何が基準ですか。何を基準として心を見ていますか。あなたは何が基準ですか。暖かい思いを信じていますか。神は温もりです。神は温もりなのです。ただただ、淡々とその方向へと心を合わせていくのです。指し示す方向、それをあなたの心で確認していくのです。あなたの心の温もりに心を合わせていくのです。必ずその心に届きます。なぜなら、あなたは神の心を持つ神だからです。そのことを忘れないでください。

4. 本当のこと……／ 1999 年3月 23 日

本当のこと、真実を知りたい。本当のことはどこかにある。私の心の中でずっと探していたものです。本当のこと、それは自分の本当の姿が肉ではなく、苦しみではなく、喜び、神の子だということだったのです。私の心の中には温もりが溢れている。

私の心の中にはやさしさが溢れている。なのにどうしてそれを信じられない。どうして信じていけない。くだらないものばかりを心に詰め込んできた。私は、私の心の中は苦しみしかないと思ってきた。苦しい心が私の心だと思ってきた。私は私の力を信じてきた。力で幸せになれると思ってきた。

本当のこと、お母さんが私に教えてくれた。苦しい心ではないということをいつも私に伝えてくれていた。温もりが、やさしさが本当の姿であると伝えてくれていた。私はそんなこと信じなかった。誰が信じてやるものか。私は私の力を信じてきた。私の心の中には温もりが、素直な思いが溢れている。それを忘れ去った私の心が苦しかった。形の世界にとらわれてゆく心が苦しかった。形の世界に真実を求める心が苦しかった。本当のことを忘れ去った私の心の中に残るものは、偽者の私だけ。私が私だと思っているものは偽者。形だけを信じてきた。実体のないものを信じてきた。そしてそれを守ろうとしてきた。

そこには闘いの心しかない。破壊の心しかない。

私は私の何を信じてきたのだろうか。私は私自身を信じてきたはずだ。自分のために自分の幸せを求めてこの手に入れたいから、いつも一生懸命に生きてきたつもりだ。だけどそれは全く違っていた。私の思いは母を切り捨て、母を見下していった。そして我こそはの思いを、いつもいつもこの心の中にため込んできた。形で判断する心癖で、私はいつも己の肉を上に置いてきた。私の心は苦しみだけだった。でも表面では、形の上では私は幸せを演じていかなければならなかった。私の心の苦しみを押さえ込んで、私は私の幸せをつくっていかなければならなかった。苦しいだけの人生でした。闘いだけの人生でした。勝つか負けるかの世界でした。勝負で全てが決まる人生でした。勝利者が幸せをこの手の中につかめるのでした。勝負が人生を左右するのでした。勝ち負けの世界に生きてきました。勝ち負けだけの世界に生き続けました。お母さんの思いを私が捨てたのでした。温もりなんか、やさしさなんか、それよりも実感のある、形で示された幸せを求めていきました。私の心に苦しみが大きく大きく広がりました。自分の心を閉ざしていきました。苦しい心でした。さびしい心でした。

お母さん、お母さん、お母さん、お母さんの温もりが、私の心の中には温もりが溢れている。この思いを心の中に押し込んで、私は肉の思いばかりを膨らませ続けてきた。私の握っていたものは何だったのか。すべてが消えゆく泡でした。お母さんのお腹の中で私が教えてもらった思いに、私は帰らなければなりません。お母さんがそのことを何度も何度も伝えてくれました。苦しい心の中に埋もれていく私を一度も放り投げずに、私をいつも信じているよと待ち続けているのでした。苦しい自分の心を嫌うのではなく、そして切り捨てるのではなく、私の心の中で受け止めていくんですよといつも教えてくれていました。

5. 父の遺文／ 2001 年1月 20 日

夜中に病院に駆けつけ、ひっそりと静まり返った廊下を通り、父の病室のドアを開けました。看護婦さんが一人、父の側についていてくれていました。「お父さん、ありがとう。ここまでよく頑張ったね。お父さん、ありがとう」その思いしか出ませんでした。まだ生暖かい父の口元に触れ、髪を撫でながら「これからも一緒に学んでいこう」と、そっと告げました。

父が死ぬその瞬間を私たちは立ち会うことができず、それが良かったのかどうかはわかりません。その場に居合わせたら、私の心の中にもっと違う思いが出ていたかもしれません。

入院して、わずか 12 日目。あまりにも呆気ない父の死でした。遺体を引き取りに来てくれる間、母と荷物を片付けたりしている私の心は不思議なくらい落ち着いていました。白い布をかぶせられた父がそこにいるのに、それはもはや抜け殻に過ぎず、何か私の側にいるような感覚でした。

田池先生のお手伝いにより、父の意識を語ることができました。肉体を脱ぎ捨て、わずか数時間の後に語ってくれた父の思いを聞くことによって、いかに私がこの学びを甘くとらえていたかということを感じました。肉体を脱ぎ捨て、初めて自分のいる世界がわかる、肉の思いがどんなに苦しいかということを語っていました。「だから今、田池留吉に心を合わせ、心をしっかりと見ていってください」と伝えてくれていました。

私は今世、父を通し、たくさんのことを学ばせてもらいました。そして、特にガンという病を得てから、父は私たちと一緒に学んでいるということをハッキリと感じていました。

母と私と、弟の家族の、本当に近親者だけで丸1日を過ごしました。そして「来世、またアルバートのもとでお会いしましょう」の思いを添えて、一筋の涙と共に父の棺は消えていきました。

シンちゃん（犬）が両親のもとにやってきたのは、去年の1月15日、そして、1年後の1月15日に父は亡くなりました。

父の死により、私の意識の世界が大きく転回されたように思います。ありがとうございました。

追伸

以下の文章は、父がその日から痛み止めの少しきつい薬を飲むので、頭がハッキリしているうちに今の自分の心境を書くと言って、食卓の上でサラサラと書いたものです。この1ケ月後に父は入院しました。

「後何日間で、入院生活、そして来世への『旅立ち』を控えたこの時期に、先の『遺言状』とは別様の「遺文」を一文、草します。

過去四十年間を回想して、まったく不良な夫であり、父親であったことを反省して、それを『バネ』とじて、残りの今世の生活を、人間としで純粋な思いで、家族と接することのできることは幸福です。

人間は総合的な『愛』に見守られて生きているということを認識することができ、そういう心境で、静かに『死期』を迎えられることは自分という人間が、何という幸せだろうと、つくづく感じ、この思いをしっかりと最後のある時間まで持続したいというのが、ただ一つの願望です。

自分という人間の所有している『業』の深さ、大きさを、一片でも除去できるように精進したいという思いで生活していきます。

来世に家族（もちろんシンを含めて）に再会する歓びを味わいたいとも思っています。

私が去った後の人生は、くれぐれも細心の注意を払って、自分の『学びの世界』に進んでいってください。

喜びの意味を深く込めて、『ありがとう、さようなら』で一文を結びます」。

1.

あと何日間で、入院生活、そして来世への「旅立ち」を控えたこの時期に、先の『遺言状』とは別様の「遺文」を一文起草します。

過去四十年間を回想して全く不良な夫であり、父親であったことを反省して、それをベースとして、残りの今世の生活を、人間として純粋な思いで、家族と接することの出来ることは幸福です。

人間は、総合的な「愛」に見守られて生きているということを認識することができ、そういう心境で、静かに『死期』を迎えられることは自分という人間がなんという幸せだろうとつくづく感じ、この思いをしっかりと最後のある時間まで持続したいというのが、ただ一つの願望です。

2.

自分という人間の所有している「業」の深さ、大きさを、一片でも除去できるように精進したいという思いで生活していきます。

来世に家族（もちろん「今シン」を含めて）再会する歓びを味わりたいとも思ってります。

私が去ったあとの人生は、くれぐれも細心の注意を払って、自分の『学びの世界』に進んで行ってください。

喜びの意味を深く込めて、「ありがとう」「さようなら」で一文を結びます。

平成十二年十二月四日午前十一時五十分。

おわりにかえて

このたび、UTAブックさんから、学び始めた頃の私の思いを綴った文章を5通手渡され、読み返して今の思いを添えてくださいという依頼を受けました。5通とは、以下の通り、「死と私について　1996/8/10」、「あなたが選んだ人生について　1996/9/1」、「人生と喜びについて　1998/10/12」、「本当のこと　1999/3/23」、「父の遺文　2001/1/20」です。時の流れを感じました。自分の学びの進捗度を思いました。

振り返れば、1993年2月に39歳でこの世を去った夫の死をきっかけに、その年の4月から私の宿泊を伴うセミナー参加が始まりました。肉、肉で生きてきた私にとって、心で分かる心で学ぶという学びは大変難しいものでした。学びを頭で理解しようとしていたから、心の叫びが肉の表面に届くというか響いてくるのに時間を要しました。

それでも、学び始めセミナー参加の回数を重ねていくうちに、段々といわゆる鈍感から敏感へ変化していき、丁度それにタイミングを合わすかのように、2000年1月に愛犬シンちゃんがやってきて、その子犬から波動の世界を身近に教えてもらいました。それからはセミナーの現象の時間を通して自分の中の凄まじいエネルギーを学ぶということ、その頃に田池先生が立ち上げてくれたホームページとともに学ばせていただいたこと、そして実生活では、2001年1月の父の死が私の学びの歩みを大きくしてくれたことを振り返っています。

その後は、『意識の流れ』などの本の出版を通して、自己確立の道を歩む中で、またひとつの転機、2012年7月の田池先生の病気、手術、そして愛犬シンちゃんの急死がありました。このように今、再度自分の学びの軌跡を振り返る機会をいただきながら、自分の中で、意識の流れは粛々として流れているという実感を持たせていただいています。そして、学びの大きな転換期、2015年12月の田池先生の死を迎え、「学びのみんなとともにセミナーを通して学んでいきや。」の指示通りになっていきました。

残念ながら2020年2月のセミナー以後、今はコロナの関係でセミナー会場に集まって学ぶということはできない状態ですが、Zoomを活用してそれぞれ自己確立の道に勤しんでおられるのではと思います。

セミナー開催に関しては、まだまだ先行きが見えないけれど、今世、田池留吉の意識の世界をその肉を通して、ともに学ばせていただいたという実績が、私達の心の中に宝物としてあります。互いにそれを決して無駄にしないで、自分の来し方、行く末にしっか

りと活用していきましょう。
　ここまで書いて、もう一度、自分の学びの進捗度を思います。
　学びに繋がったきっかけが夫の死。そしてその学びの方向を大きく変えたのが父の死。それから、愛犬の急死があって、学びを伝えてくれた田池先生の死からまた学びの方向を確認して、昨年12月の母の死を私なりに受け止めました。夫の死から約30年経った今、自分の学びの進捗度を確認して、さらなる歩みを続けていこう、ともに続けていこうと思える今が、ただただ嬉しい、ありがたいです。ありがとうしかありません。

2022年1月　塩川香世

資料提供（敬称略）

浅尾宣子／荒木紘美／石橋章子／板倉充宏／市川明子／梅本清子／大槻明子／大平佳子／奥出康子／片山由紀子／金子恵／後藤糸恵／小林荘一／佐藤延生／ Jennie Lai ／田中美穂／谷村美智子／中島一二／中田和子／中村康一／東野治／穂積徳造／牧村市太郎／松村謙三／満尾保子／三ツ矢照雄／脇本佳子／渡辺久記／柳生三千子／山之口全

※このほか、たくさんの方から情報をいただいたり、原稿をいただいたりしましたが、紙面の関係もあり、そのすべてを収録することはできませんでした。ご容赦ください。

出典図書・冊子

出版物　「意識の流れ」（2012 年）／「続 意識の流れ」（2007 年）／「意識の転回」（2011 年）／「ありがとう」（2016 年）／「愛、心のふるさと」（2014 年）／「愛、あなたは愛です」（2013 年）／「宇宙の風―私たち人間は、死んで終わりでしょうか」（2017 年）／意識の旅路 Our Essential Nature」（2012 年）／「時を超えて伝えたいこと」（2007 年）／

冊子類　月刊エルニュース「エルランティの光」（1990 年 11 月～ 2002 年 7 月）／体験集「母を思う神を思う」（1995 年 1 月～ 2000 年 12 月）／「エル・メッセージ」（1995 年 8 月～ 2000 年 7 月）／心を学ぶために Q ＆ A（1991 年）／エルランティの光セミナーパンフレット（1998 年 5 月／ 2000 年 6 月）

Taike Tomekichi　vol.2

初版発行　2022 年3月 31 日

編　　者　UTAブック編集部
監　　修　塩川香世
発　　行　一般社団法人ＵＴＡブック
　奈良県北葛城郡広陵町三吉 345-14
発 行 者　桐生敏明
英語監修　大槻明子・大槻洋三
装　　丁　**Studio Miz**
制作協力　小東めぐみ・牧華江
営　　業　桐生紘次

印刷・製本　モリモト印刷株式会社

◎ UTA-BOOK, Printed in Japan 2022